

周志驛著

中國重要商品

上海華通書局發行



中國重要商舘

周志驥著

海上華通書局發行

中國重要商品

實價大洋一元二角 ■

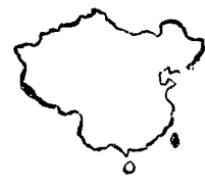
著者周志驥

印發
刷行兼

總發行所

華通書局

上海四馬路望平街口



究必印翻有所權版

中華民國二十年十月初版

發行此書之主要目的在使
各界得一中國貿易商品之
教科書此項書籍之需要早
經感覺周君志驛悉心編纂
此書余冀其出版後中外人
士能得一有用之參考書也

梅樂和

P R E F A T O R Y N O T E.

In issuing this book to the public, the primary object is to provide a textbook on articles of Chinese commerce, the need for which has long been felt, and it is hoped that the book, which has been carefully compiled by Mr. Teen Tse-war will be found useful to all concerned, and that it will moreover form a useful book of reference for both Chinese and foreign merchants.



Inspector General of Customs.

Shanghai Office of the
Inspectorate General of Customs,
Shanghai, 20th Oct. 1927.

例 言

- 一 本書目的，乃將中國各種物品而在商業上佔重要之位置者，爲系統的研究，明其種類、用途、產地、銷路，加以簡要之說明。
- 一 本書內容，計分纖維及其製品、農林產品、動物產品、水產品、礦產、製造品與雜項，之六編。共一百章，章之下更分節，務使秩然不紊。
- 一 第一編之纖維及其製品，以舊日之眼光，其性質本分屬於農林產品以及製造品之二編，今從較新之趨勢，擇纖維類及其製品，另爲一編，並置之首列，所以示其位置之重要也。
- 一 本書第一特色之處，即爲統計表之新穎與確實，而爲他書所不及者。
- 一 編者學識欠陋，疏誤之處，在所不免，海內博雅之士，幸教正之，謹當隨時更正，以副盛意。

「附註」本書關於貿易統計一類，可參照中國海關華洋貿易總冊。

自序

吾國歷年輸出貿易，據海關貿易冊報告，向以絲、茶二項，最佔大宗。而蠶絲一端，其所居之地位，與內國經濟，尤關密切。長江沿岸各省與廣東一帶，久視為重要業之一業也。每年輸出國外者，光緒初年，約值關平銀二、三千萬兩。民國而後，最初七年之平均輸出額，年有七千萬兩，八年達一萬一千萬兩。嗣後逐年增加，近數年間，已有一萬五千萬兩之鉅。然與豆及產品之輸出額相較，已居第二位。而最近出口之絲經，因受日絲之競爭，歐美市場華絲之銷路，漸次減退，幾有不能立足之勢矣。茶，本為出口貨物之第二大宗，近爭印度、錫蘭、爪哇，巨量茶葉暢銷以後，華茶銷路，遂為所奪。如民國十六年出口之茶，祇值關平銀三千餘萬兩，較棉花、糧食、皮貨、蛋及產品等，反見減少，實由於製造之不精，甚或摻雜偽質。因之信用漸失，大有江河日下之概。所幸豆及產品，近以外市銷路發達，輸出極多。最近達一萬八千六百萬兩，與其他各種出口土貨相較，高居第一位。此外如棉花、皮貨、毛類等，皆有極大之進展。棉花之輸出，初不過數十萬兩，光緒二十一年日本大購華棉出口，增至一千一百餘萬兩。及民國十六年，又達四千八百萬兩。豆及產品、蠶絲而外，居出口土質第三位。惟人採我棉以製紗布，還以售我，吸收我脂膏，兼可概也。

吾國出口土貨，在歐美市場上，除一二項稍有發展外，餘頗多不振之現象；尤以絲、茶為甚。上已述及，致吾國

土貨輸出之失敗，要其大端，約有關稅不自主、庶政欠修明、經營少完備、與夫金融苦紊亂之四項。關稅爲保護本國工商業之唯一利器，近世各國，咸以輸入稅爲主要，輸出稅則以不課爲原則，因課稅後足以阻礙自國生產品之銷路。間或有之，亦必爲該項物品有專賣性質者。重要原料之出口，亦頗多征以輸出稅，恐國內原料之感缺乏，而有害於製造事業也。總之，工業幼稚之國家，通常採用保護關稅政策，爲防外貨之侵入也，課以重稅，獎土產之輸出也，征以輕稅，或竟免稅之。惟中國則不然，自南京條約而後，稅則易國定爲協定，受其約束，諸不能自由。外人復利用子口半稅，而使外貨通行各處，一無阻礙。甲午之後，日本人民得在中國從事各種製造事業，其他各國，持利益均沾說，援例照行。既可利用我之低廉原料與勞力，又復避免關稅，成本自然減輕也。庶政欠修明包括交通運輸，不正當稅則、獎勵制度等。一國運輸事業之發達與否，產業之盛衰係之，如四川爲重要產米區之一，惟以運輸之不便，所產米穀，無由運出，以致該地米價跌落，使農民減少稻作種植之興趣。同時東部諸省，復感米糧之缺乏，雖明知四川產米過剩，終以運費昂貴，反不若舶來品之價廉，此理之明也。而內國不正當之稅則，名目繁多，尤爲輸出土貨之阻礙。政府方面，對於人民發明品之專賣特許，賦稅減免，航業補助金，生產與輸出之獎勵金等，間雖訂有明文，等於虛設。至於製造者自身經營方面，亦頗多待乎改善之處，蓋自產業革命以還，皆從事大量之生產，資本集中，自爲必然之事。如工廠之合併，同業之聯合，既可使成本減輕，又能免去同業之競爭。但組織一道，極宜完備。工場管理之得法，會計制度之完密，生產技術之精良，販賣機關與其方法之便利，皆所以完成產物價廉。

物美之目的也。欲戰勝於市場，而行銷於各國，商業道德，亦頗重要。中國商人每多損人利己，欺騙顧客，爲其常技。而土貨之輸出外國者，爲貪圖微利，甚或羼入僞質，損失信用，阻礙銷路，咎皆自取也。惟一國產業之發展，終必須有巨大之金融勢力，商品之販賣及所以擴成之者，悉利賴之。我國近日之金融制度，可謂紊亂極矣。幣制之不良，掀起勞資之爭執，國外匯兌，每多損失，銀行制度，又有改善之必要。其唯一之目的，祇知謀利，紙幣發行，毫無限制，至於金融之調劑，工商發展之輔助，非所計及，可慨言夫。

際此土產輸出之日見衰落，而最近國民政府工商部頗有從事工商之合作，內而工商法規之修定，凡有發明，並予以獎勵及保障，以資提倡，外而協同主管機關，修正商約，使關稅之自主，以期本國工商業得有相當之進步，圖謀國外市場之發展，然又需乎吾國人之研究。惟茲事體大，必也羣策羣力，合全國之心志爲一，而對於各種商品之內容及其產銷狀況，尤宜瞭然於胸。但關於商品之專書，坊間出版者，極爲罕見，間或有之，亦僅記其大略，於實際上無關重要。志驛有見於此，平時對於該項材料，以志趣所好，搜集甚多，積久盈篋，爰理其端緒，詮次成書，而爲有系統之記述，明其種類，詳其產地，述其用途，以及其他之詳細情形，靡不加以調查，歷年來各商品之輸出外國，亦詳爲表出，足資發展或衰落之真情，使國人周知，而喚起研究宣傳之同情，盡力提倡改良之能事，則尤著者所深望也。

中國重要商品目錄

第一篇 纖維及其製品

第一章 棉花 (Cotton Raw)	[一]
第一節 世界棉產概況.....	[一]
第二節 中國棉產地.....	[一]
第三節 棉產額.....	[一〇]
第四節 貿易.....	[一一]
第五節 中國棉產之改良.....	[一三]
第二章 棉紗 (Yarn Cotton)	[六]
第一節 中國紡織業之沿革與現狀.....	[六]
第二節 棉紗紡織工程.....	[九]
第三節 貿易.....	[一〇]

第二章 棉布 (Piece Goods Cotton) 11四

第一節 全國棉布之消費額 11四

第二節 棉布出產品 11五

第三節 貿易 11七

第四章 蟻絲 (Silk) 11〇

第一節 蟻絲產地 11〇

第二節 蘭 11五

第三節 生絲 11九

第四節 貿易 11三

第五節 中國蠶絲之改良問題 五二

第五章 絲織物 (Silk Fabrics) 五六

第一節 絲織物之種類 五六

第二節 絲織物之產地 五七

第三節 貿易 五六

第六章 羊毛 (wool).....

第一節 羊毛之產地.....	六四
第二節 羊毛之種類.....	六五
第三節 採毛.....	六七
第四節 交易習慣.....	六八
第五節 產額.....	六九
第六節 貿易.....	七五
第七節 羊毛業之改良.....	七六
第七章 地毯 (Carpet).....	
第一節 原料與織造.....	七八
第二節 貿易.....	七九
第八章 蓼麻 (Ramie).....	八一
第一節 蓼麻之種類.....	八一
第二節 蓼麻之產地.....	八二

第三節 莓麻之用途.....	八三
第四節 貿易.....	八三
第九章 火麻 (Hemp)	八六
第一節 火麻之產地.....	八六
第二節 貿易.....	八七
第十章 黃麻 (Jute)	八九
第一節 黃麻之產地.....	八九
第二節 貿易.....	八九
第十一章 夏布 (Grass cloth)	九一
第一節 各省夏布業之狀況.....	九一
第二節 夏布之種類.....	九三
第三節 貿易.....	九四
第十二章 紙 (Paper)	六
第一節 紙之產地.....	九六

第一篇 農林產品

第二節 紙之種類.....	九七
第三節 製紙原料.....	一〇一
第四節 製紙法與今日之現狀.....	一〇二
第五節 貿易.....	一〇三

第一章 米 (Rice).....	一〇七
第一節 米之重要.....	一〇七
第二節 米之產地.....	一〇八
第三節 米之產額.....	一一一
第四節 米之種類品質與市價.....	一一一
第五節 貿易.....	一一一
第二章 麥 (Wheat Barley).....	一一四
第一節 麥之種類.....	一一四

第二章 麥之產地.....	一四
第三節 麥之產額.....	一五
第四節 麥之用途.....	一六
第五節 貿易.....	一七
第三章 粟 (Millet)	一八
第一節 粟之產地與用途.....	一八
第二節 貿易.....	一八
第四章 高粱 Kaoliang (Sorg Chum)	一〇
第一節 高粱之產地與產額.....	一〇
第二節 高粱之用途.....	一一
第三節 貿易.....	一一
第五章 玉蜀黍 (Maize)	一一一
第一節 玉蜀黍之產地與產額.....	一一一
第二節 貿易.....	一一四

第六章 大豆豌豆 (Beans & Peas)

大豆之種類.....

[115]

大豆之產地.....

[116]

大豆之產額.....

[117]

大豆之用途.....

[118]

貿易.....

[119]

第七章 茶 (Tea)

茶之種類.....

[115]

茶之產地.....

[116]

製茶.....

[117]

茶之產額與品質.....

[118]

貿易.....

[119]

第八章 菸葉 (Tobacco)

菸葉之種類.....

[141]

第二十一章 菸葉 (Coca Leaf)	[四三]
第三十一節 菸葉之產地.....	[四五]
第九章 藥草 (Indigo)	[四六]
第一節 藥草之產地與產額.....	[四六]
第二節 貿易.....	[四八]
第十章 落花生 (Groundnut)	[四九]
第一節 落花生之產地.....	[四九]
第二節 落花生之產額.....	[五〇]
第三節 落花生之用途.....	[五〇]
第四節 貿易.....	[五一]
第十一章 芝麻 (Sesamum Seed)	[五五]
第一節 芝麻之產地與產額.....	[五五]
第二節 貿易.....	[五五]
第十二章 胡麻子 (Linseed)	[五八]

第一節 胡麻子產地.....	[五八]
第二節 貿易.....	[五八]
第十一章 菜子 (Rapeseed)	[六〇]
第一節 菜子產地與種類.....	[六〇]
第二節 貿易.....	[六一]
第十四章 瓜子 (Water Melon Seed)	[KIII]
第一節 瓜子產地.....	[KIII]
第二節 貿易.....	[六三]
第十五章 杏仁 Apricot Seed (Almond)	[六六]
第一節 杏仁產地與種類.....	[六六]
第二節 貿易.....	[六六]
第十六章 棉子 (Cotton Seed)	[六八]
第一節 棉子產地與產額.....	[六八]
第二節 貿易.....	[六八]

第十七章 桐油 (Wood oil).....	[40
第一節 桐油之產地與種類.....	[40
第二節 貿易.....	[71
第十八章 花生油與花生餅 (Groundnut oil, Groundnut cake) [74	
第十九章 麻油 (Sesamum Seed oil).....	[74
第二十章 菜油與菜餅 (Rapeseed oil, Rapeseed cake).....	[77
第二十一章 棉子油與棉子餅 (Cotton seed oil, Cotton seed cake)	
第一節 用途.....	[78
第二節 貿易.....	[78
第二十二章 茶油 (Tea oil).....	[80
第一節 茶油之產地.....	[80
第二節 茶油之用途.....	[81
第三節 貿易.....	[81
第二十三章 糟油 (Tallow, Vegetable).....	[83

第一節 榴油之產地與種類	[八三]
第二節 貿易	[八三]
第二十四章 生漆 Varnish (Lacquer, Crude)	
第一節 生漆之產地	[八五]
第二節 生漆之種類	[八五]
第三節 貿易	[八六]
第二十五章 人參 (Ginseng)	
第一節 人參之產地與種類	[八八]
第二節 貿易	[八八]
第二十六章 甘草 (Liquorice)	
第一節 甘草之產地與用途	[九〇]
第二節 貿易	[九〇]
第二十七章 茯苓 (China Root)	
第一節 茯苓之產地與品質	[九二]

第二十一章 貿易.....	[九二]
第二十二章 大黃 (Rhubarb)	[九三]
第一節 大黃之產地.....	[九四]
第二節 大黃之種類.....	[九四]
第三節 貿易.....	[九五]
第二十三章 桂皮 (Cassia Lignea)	[九六]
第二十四章 五倍子 (Nuttgall)	[九八]
第一節 五倍子之產地與種類.....	[九八]
第二節 貿易.....	[九九]
第二十五章 樟腦 (Camphor)	[一〇一]
第一節 樟腦之產地.....	[一〇一]
第二節 樟腦之製造事業.....	[一〇三]
第三節 貿易.....	[一〇四]
第二十六章 麝香 (Musk)	[一〇六]

第一節 麋鹿之性狀.....	105
第二節 麋鹿之捕捉.....	106
第三節 麋香之種類.....	107
第四節 麋香之用途.....	108
第五節 貿易.....	108
第三十二章 香菌 (Moushrooms)	110
第一節 香菌之種類與產地.....	110
第二節 貿易.....	110
第三十四章 木耳 (Fungus)	111
第一節 木耳之種類與產地.....	111
第二節 貿易.....	111
第三十五章 金針菜 (Lily Flower dried)	114
第三十六章 筍 (Bamboo Shoot)	116
第一節 筍之產地.....	116

第二節 箍之種類與市價.....	111六
第三節 貿易.....	111七
第三十七章 薑 (Ginger)	111九
第一節 薑之種類與產地.....	111九
第二節 貿易.....	111〇
第三十八章 蒜頭 (Garlic)	111一
第一節 蒜頭之產地.....	111一
第二節 貿易.....	111一
第三十九章 菓實 (Fruits; Fresh, dried & Preserved)	111m
第一節 菓實之種類.....	111m
第二節 菓實之產地.....	111m
第三節 貿易.....	111五
第四十章 木材 (Timber)	111八
第一節 木材之產地.....	111八

第二節 貿易.....1111九

第四十一章 竹及竹製品 (Bamboo & Bamboo ware)111111

第一節 竹之產地.....111111

第二節 貿易.....111111

第四十二章 篦 (Rattan)111111五

第四十三章 炭 (Charcoal)1111七

第二篇 動物產品

第一章 皮貨 (Skins)1111九

第一節 皮貨之種類與產地.....1111九

第二節 貿易.....1111四五

第二章 牛與牛皮 (Cattle and its Hides)1151

第一節 牛產地.....1151

第二節 牛皮之種類與散集市場.....1151

第三章	生馬驥驢皮 (Hides; Horse, Mule & Ass)	11五五
第一節	產地.....	11五五
第二節	貿易.....	11五六
第四章	豬與其產品 (Pig & its Sroducts)	11五七
第一節	豬之產地與種類.....	11五七
第二節	豬之產品.....	11五七
第三節	貿易.....	11五八
第五章	獸骨 (Eones)	11六一
第一節	獸骨之產地.....	11六一
第二節	獸骨之品質及散集額.....	11六一
第三節	獸骨之用途.....	11六二
第四節	貿易.....	11六三
第六章	角 (Horns)	11六五

第一節 角之種類與其產地.....	1六五
第二節 貿易.....	1六五
第七章 馬鬃 (Horse hair)	
第一節 馬鬃之產地.....	1六七
第二節 貿易.....	1六七
第八章 猪鬃 (Bristles)	
第一節 猪之產地與分類.....	1六九
第二節 貿易.....	1六九
第九章 牛油 (Tallow, Animal)	
第一節 牛油之產地.....	1七四
第二節 貿易.....	1七四
第十章 鮮蛋皮蛋鹹蛋(Eggs; Fresh, Preserved & Salted).....	1七六
第一節 蛋之產地.....	1七六
第二節 貿易.....	1七六

第十一章 蛋白蛋黃(Eggs; Alkumen & Yolk)..... 11七九

第一節 蛋白蛋黃之製造地 11七九

第二節 貿易..... 11八〇

第十二章 毛羽(Feathers)..... 11八一

第一節 毛羽之產地..... 11八二

第二節 貿易..... 11八二

第四篇 水產品

第一章 中國水產業概況 11八五

第一節 水產之產地與種類 11八五

第二節 貿易..... 11八五

第二章 海參(Bilco-de-mar)..... 11八八

第一節 海參之種類 11八八

第二節 海參之產地..... 11八八

第三章 魚翅 (Sharks' fin)	一九〇
第四章 海蜇 (Sea Blu ber)	一九一
第五章 鹽 (Salt)	一九二
第一節 製鹽之原料	一九二
第二節 各省製鹽之概況	一九三
第三節 貿易	一九七
第五篇 鑛產	
第一章 煤 (Coal)	一九九
第一節 煤之分佈區域	二九九
第二節 煤之儲量	三〇八
第三節 煤之產額	三一一
第四節 貿易	三一一
第二章 鐵 (Iron)	三一四

第一章 鋼 (Steel)	一
第一節 鋼之重要及其分類	一
第二節 鐵之分佈區域	一
第三節 鐵之儲量	一
第四節 貿易	一
第二章 鋅 (Antimony)	一
第一節 鋅之產地	一
第二節 貿易	一
第三章 錫 (Tin)	一
第一節 錫之產地	一
第二節 貿易	一
第四章 鋅 (Tin)	一
第一節 鋅之產地	一
第二節 貿易	一
第五章 銅 (Copper)	一
第一節 銅之產地	一
第二節 貿易	一
第六章 鉛 (Lead)	一

第一節 鉛之產地	三八
第二節 貿易	三九
第七章 鋅 (Zinc)	三四一
第一節 鋅之產地	三四一
第二節 貿易	三四一
第八章 鐻 (Tungsten)	三四三
第一節 鐻之用途	三四三
第二節 鐻之產地	三四三
第三節 貿易	三四三
第九章 水銀 (Mercury)	三四五
第十章 石膏 (Gypsum)	三四七
第一節 石膏之種類	三四七
第二節 石膏之產地	三四七
第三節 貿易	三四八

第六篇 製造品與雜項

第一章 豆油豆餅 (Bean oil, Bean cake)	11四九
第一節 豆油豆餅製造分佈區域.....	11四九
第二節 交易習慣.....	11五一
第三節 貿易.....	11五一
第二章 麵粉附麸皮 (Wheat flour)	11五七
第一節 麵粉業現狀.....	11五七
第二節 麵粉廠之組織.....	11五八
第三節 貿易.....	11五八
第三章 糖 (Sugar)	11六三
第一節 糖之產地.....	11六三
第二節 製糖業.....	11六四
第三節 貿易.....	11六四

第四章 粉絲・通心粉 (Vermicelli, Macaroni)	[[六六
第一節 粉絲與通心粉之產地.....	[[六六
第二節 貿易.....	[[六六
第五章 紙煙 (Cigarettes)	[[六九
第一節 製煙業之現狀.....	[[六九
第二節 紙煙製造之手續.....	[[七〇
第三節 貿易.....	[[七一
第六章 水泥 (Cement)	[[七四
第一節 水泥之用途.....	[[七四
第二節 水泥製造業之現狀.....	[[七四
第三節 貿易.....	[[七五
第七章 陶磁器 (Earthen ware & china ware)	[[七八
第一節 陶磁業發展之沿革.....	[[七八
第二節 產地.....	[[七八

第三節 貿易.....	三七九
第八章 漆器 (Lacquer ware)	三八一
第一節 漆器之產地	三八一
第二節 種類.....	三八一
第九章 草帽綫附草帽 (Straw Braid)	三八三
第一節 草帽綫之產地.....	三八三
第二節 草帽綫之種類.....	三八四
第三節 草帽綫之品質及用途.....	三八五
第四節 貿易.....	三八六
第十章 蓆·地蓆 (Mats, Matting)	三八九
第一節 蓆與地蓆之產地.....	三八九
第二節 貿易.....	三九一
第十一章 紙傘 Paper Umbrella, (Kittysols)	三九五
第一節 紙傘產地.....	三九五

第二節 貿易.....三九六

第十一章 鎏空花邊 (Lace)

第一節 產地.....三九八

第二節 貿易.....三九八

第十二章 髮網附頭髮 (Hair net)

第一節 髮網業之起源與其現狀.....四〇一

第二節 髮網之品質與分類.....四〇一

第三節 貿易.....四〇一

第十四章 火柴 (Matches)

第一節 火柴之種類.....四〇五

第二節 火柴製造現狀.....四〇五

第三節 貿易.....四〇六

第十五章 肥皂 (Soap)

第十六章 瓦・瓦 (Tiles & Bricks)

四〇八

四一〇

第一節 甌瓦之產地.....四一〇

第二節 貿易.....四一一

第十七章 神香 (Joss Sticks)

四一一

第十八章 爆竹·焰火 (Firecrackers & Fireworks)

四一四

第一節 產地.....四一四

第二節 貿易.....四一七

附錄

中國對外貿易表.....四一七

中國重要商品

第一篇 纖維及其製品

第一章 棉花 (Cotton, Raw)

第一節 世界棉產概況

棉花爲最主要農產品之一。在人生上，國民經濟上與國力上，均佔非常重要之位置；以是世界各國，對於棉花之栽培，極加注意，良有以也。

世界上號稱爲最大之三產棉國，美國、印度與中國，是也。就中尤以美國爲重要，產額佔世界總數一半以上，

如一九二四年世界棉花總產額為二四、七〇〇〇〇〇包，（每包淨重四七八磅。）而產於美國者有一三、六一七、九三六包；近更發達，一九二五年有一六、一〇七、六七九包，一九二六年復增加至一七、九七七、三七四包。棉作栽培區域分佈於密士必西（Mississippi），阿拉巴瑪（Alabama），路易斯安納（Louisiana），得克撒斯（Texas），俄克拉何馬（Oklahoma），阿肯色（Arkansas），田納西（Tennessee），北客羅來納（N. Carolina），南客羅來納（S. Carolina），佐治亞（Georgia），佛羅理達（Florida）等地。全境可以植棉之地，共有四五〇、〇〇〇、〇〇〇英畝；最近棉作栽培面積，以一九二六年之調查，祇四七、六五三、〇〇〇英畝，不過十之一而已。故將來之擴充機會，更屬無限也。印度之棉產，佔世界第二位。一九二六年之出產，有六〇三八、〇〇〇包，棉田面積為二七、九六〇、〇〇〇英畝，惟年來印棉之品質過劣，較之昔日，大為退化，實由於印度農民，每行混作制度，對於棉種以及栽培方法，復不加講求，宜其然也。自經英人實施改良之計劃後，輸種美棉，已見成績，並設置獨立機關，以供給良種於農民，總期日漸推廣，效乃大著，至於中國之棉產情形，詳於下述數節，茲不再贅。除此以外，埃及，巴西，墨西哥，祕魯，阿根廷等，產棉亦盛。

第一節 中國棉產地

中國為世界第三產棉國，故國內棉花產區極廣，自北緯二十度至四十二度之間，皆宜於棉花之栽培；惟主

要之產地，則在北緯二十八度至四十度一帶，黃河流域之燕、魯、豫、晉、秦、隴六省，長江流域之吳、越、皖、贛、湘、鄂、蜀七省是也。此外則雲南、貴州、廣東、廣西及遼寧等省亦盛，黃河流域一帶，雖灌溉不十分便利，氣候較寒，惟最近以紡織業之發達，交通機關之漸備，遂逐步發展。如河北之南部，山東之西部，河南、陝西中南部，晉山西之南部，對於美國棉花之移植，極為相宜。故倘能以適合之方法，改植大宗之美棉，則成為中國將來之主要棉產地，亦屬意中事。以現在之情形而論，尚推長江流域為盛，尤以江蘇省為最，與浙江省合稱為蘇浙棉作區域。湖南與湖北，素有兩湖棉作區域之名，故產棉亦極發達。

江蘇省居長江之下游，南北二岸，以潮汐之浸潤，地味極為沃腴，又有運河之迂迴，湖沼之散佈，水陸運輸非常便利，故最為植棉相宜之區，兼之附近上海、紡織一業，極為發達，江北墾植事業，方興未艾，以是棉作業更多所發展。由其品質而論，可分為二大區，長江以北，所產棉花，稱通州棉，尤為江蘇第一產棉之地域，東西三百里，南北一百五十里，包括南通、海門、崇明在內，各產地所栽培之棉花，雖總名通州棉，惟細別之，則又有上沙棉、中沙棉、與下沙棉三種；就中自稱上沙棉為最優，以通州城為中心，連同白蒲、米家、塘家閘、經家港、石港等，其主要之產地也。塘家閘地方，自大生紗廠創辦以來，對於棉花之栽培，頗多進步，所有農作地，大半種植棉花、米、豆等作物，幾致絕跡。其產品多數為該廠收買，餘則輸出至上海。中沙棉產區，自通州至長江邊，東西相距一百十里，南北三十里，天捕鎮、中興鎮、長興鎮、塘頭鎮、麒麟鎮、鳳凰鎮、十二堤、聚興鎮、久龍鎮、江家鎮、老虎鎮等，為主要產地；皆由宋季港

與登向港運往上海。下沙棉則以崇明縣屬爲限，東西百里，南北五十里，棉作地有一百二十萬畝，櫂沙灘、東洋圩等地較盛。此長江以北之棉作情形也。至於長江以南，棉作發達之區，推常熟、太倉、嘉定、江陰及上海附近等處，常熟棉產地，全境共有四十萬畝，老英市、小吳市、張家市、紓家市、周經口、歸家市、梅李鎮等地是也。太倉棉作區，在舊時鎮洋縣漢涇浮橋至南方沙溪、新塘市、毛家市一帶，與常熟同稱爲常陰沙棉區，所出之常陰沙棉，品質極爲優良。嘉定北部之婁塘、澄塘、陳家行，暨上海寶山、川沙、南匯、奉賢、松江、金山、青浦，則又稱爲白子棉區矣。黃浦江以東者，另名浦東白子棉，奉賢產者較良，惟與通州棉以及常陰沙棉相較，則遠不及焉。

浙江省本爲全國著名蠶桑之區，以是植棉事業並不十分普及，惟在最近數年來，以趨勢所向，頗有發展之可言。錢塘江口南岸如蕭山、紹興、上虞、餘姚、慈谿、甯波、鎮海等，其主產地也。所植棉花有南陽、大苞二種，南陽較優，其纖維與蘇省太倉之棉相若。餘姚近雖爲全省產棉之首區，惟品質極劣，主產地推小路鎮、三山、平王廟、廟山、沙塗等地方。小路鎮尤爲第一，全縣出產額佔全省總額七分之二。棉市以周巷爲中心，大都轉運甯波，而向上海輸出。慈谿縣屬之觀海衛、鎮海縣屬之長山橋地方，亦爲著名之棉產地。蕭山棉田，當十餘年以前，不下百萬畝，產額較今之餘姚猶盛，近以江地之坍沒，祇存三分之一矣。

安徽省多山脈，本非植棉之區，以最近棉價之日昂，農民始逐漸栽種，進步頗速。長江流域一帶，如廬江、桐城、懷寧、東流、貴池、銅陵、南陵、和宣城、甯國等地，頗多棉花之栽培，尤以東流縣爲植棉最繁盛之區，境內張家灘地方，

其中心也。貴池之殷家匯地方，南陵之青弋江流域，銅陵之懷安地方，和縣之烏江地方，植棉皆甚發達。而北部淮水流域之渦陽、懷遠、定遠、合肥諸縣亦盛。合肥有棉田七十二萬畝，產額達十二萬擔，尤為全省各縣之冠。產出之棉，大部分經懷遠而輸出至他省焉。

江西省植棉之區，以九江、湖口、彭澤、孔壠（德化）四處為盛。境內氣候亦頗宜於棉作之栽培。惟以可耕地面積有限，一般農家以向來習慣，均喜植稻米，故全省產棉區祇限於長江沿岸地方。鄱陽湖附近之都昌、鄱陽、餘干，亦有棉之栽培。產種多繭籽、綠絨、親子花等，親子花較良，纖維長八分左右。

湖北省之氣候與地味，極宜於棉花之栽培。雲夢平原一帶，江河縱橫，湖沼散佈，蓋當極旱時期，已與江蘇、河
北二省同為全國主要棉產地矣。外，棉絲布未輸入以前，全國人民之衣被原料，大部分均仰給於該三省之出產也。鄂省所產與江蘇相較，自多不及；惟近以上海附近紡織業之勃興，原料之消費日增，棉花每擔價格，初不過十七八兩，大戰以後，頓增至四十兩以上，加以官廳之獎勵，於是境內棉花之栽培，極多發展。棉田之擴張，舉凡雜穀、胡麻、鴉片等栽培面積，大半改植棉花，而趨向較有利之途。現全省六十九縣中，產棉者佔四十餘縣，惟本省產棉情形，與江蘇稍有不同，蓋湖北產棉區並非集中一處，乃隨地散植者也。以言長江流域，自九江對岸溯江至宜昌附近，凡一千五百里，漢口以上產棉區為江陵、監利、枝江三處，多散集於沙市、江口、朱河及董市。漢口以下者，有麻城、黃岡、蘄水、廣濟四處，均屬府河，東河、西河流域，宋埠、中館驛、武穴、龍洋、新州、陽羅、歧亭、巴河等，其散集地也。漢口

之對岸，又爲大治、武昌、嘉魚三縣，散集於葛店、黃石港、牌州、龍口一帶。自漢口溯漢水至老河口沿岸，約一千一百里，其上流之棗陽與襄陽產棉頗盛，襄陽更爲發達。樊城附近之棉田，約有六十萬畝，年產額達十三萬擔。黃陂、漢陽、孝感、漢川、沔陽五縣，則爲漢水下流之產棉地，皆散集於田二河、豚旺司、分水嘴、仙桃鎮、彭家場、長璫口、通海口、下查埠、蔡甸、方家集、許家矯、三叉埠、涂家河等地。涓水與縣河一帶，產棉亦多。安陸、雲夢、應城、天門四處，其主產地也。雲夢一縣，尤爲發達。言其品種，可分本地種與美國種，即土花與洋花是也。以各處氣候之不同，土花之種類，非常複雜，由莖之長短，可分高腳棉與矮腳棉；由莖之顏色，有青皮蘇與紫樹繭；由種子之顏色及纖毛之有無，有鐵子棉（黑子棉光子棉）與白子棉（毛子棉綠子棉）；由一房內種子之多少，有九子繭與十子繭；由纖維之顏色，有白棉與紫棉；由纖維之粗細，有長絨棉與短絨棉；惟此種稱別，並無十分關係，與江蘇產者相較，自然不及。清光緒三十四年湖廣總督張之洞氏有鑒於此，購入大宗美國棉種，試植後，成績頗好，此洋花之起源也。嗣後逐漸推廣，氣候地味，又極適宜，將來之希望，實無限量也。

湖南省極富水利，全國中推爲第一，即南部一帶，雖多山嶺之地，然仍有湘江、資江、沅江三大流之宛延其間，故土地肥沃，灌溉便利。北部洞庭湖沿岸地方，所謂雲夢平原之一部，尤爲重要之農產地，棉花之栽種，遍於各處；惟產額並不太多，祇備境內之需要，未足言輸出也。主要產地，在北部洞庭湖沿岸如澧縣、石門、桃源、常德、漢封、沅江、岳陽、華陽等。在湘水本支流域者，爲湘鄉、衡山、永明、來陽、茶陵、攸諸縣。全省自以舊常德府所屬之產額爲最多。

四川省在中國之西部，面積極廣，而物產之豐富，全國各省，無出其右者。其東南部所謂巴昌盆地，岷江，沱江，嘉陵江等本支流之縱橫，南北二百哩，東西三百哩，面積之廣，約六萬平方哩，地味甚富饒，各種農產物所由出也。自罌粟之栽種禁止以後，農作物如甘蔗，麥，茶等，更多發展，日益隆盛，惟棉花一項，則尚未普及。今所目爲棉產地者，祇嘉陵道之射洪，遂甯，西川道之簡陽，永甯道之資陽等數縣而已。較之生絲出產遠遜，以是遊歷該省境內者，往往見絲織品較棉織物爲通行也。

陝西省本爲著名之罌粟種植區域，故棉花之栽培極少。自罌粟禁止以後，頗多改植有用之農作物。當時以棉花之價格漸高，於是棉作之栽培，遂日以發展。其品種均爲美國種，主產地可分黃河沿岸，渭水流域與漢水流域三區。黃河沿岸如延川，延安，宜川，鄜州，韓城，郃陽，中部洛州地方等，產量並不。渭水流域其西安以東之臨潼，華陰，西安以西之咸陽，醴泉，郿，岐山，鳳翔，郿諸縣，與渭水以北涇陽，三原，高陵，富平諸縣，皆爲著名之棉產地。尤以臨潼，涇陽，三原等處之產額爲盛。漢水流域則以沔縣至固城，洋縣一帶爲發達，東西延長凡三百餘里，稱漢中平野，氣候地味，頗適於棉花之栽培，惜尚未十分普及，僅南鄭，洋縣爲主產地而已。

河南省所產之棉花，自平漢鐵路開車以後，始大宗出見於漢口市場，初不過彰德與武安產耳，今則黃河沿岸所產之棉，亦運往漢口矣。元來本省之主要農作地，在平漢鐵路以東，就中淮河本支流域平原，最稱富饒之區。黃河沿岸及洛水流域並唐河，白河等流次之。而棉花之栽培，初並不發達，後官廳方面，加以獎勵，始逐漸進步，全

省一百零八縣，植棉者已佔九十縣之多。如黃河以北及衛河流域之新鄉、獲嘉、原武、陽武、臨漳諸縣，黃河及洛水流域之偃師、靈寶、閩鄉、汜水、陝州、澠池、洛陽諸縣是也。偃師、靈寶、閩鄉三處，較為發達；汜水、陝州次之。黃河以北之新鄉與臨漳，亦頗負盛名。鄭州地濱黃河，又居平漢與汴洛兩鐵路之交點，故為全省產棉最大之散集市場。大部分運往漢口，而輸出至上海與天津市場者，數量並不多。

山西省境內多丘陵，耕地之開拓者不多，而當初罌粟之栽種極盛，植棉事業，雖南部汾河流域，北部大同平野，以及黃河沿岸一帶，以氣候適宜，亦不能有所發展也。後罌粟之栽種嚴加禁止，省當道復設法獎勵，棉花之栽種，始漸有起色。河東道汾水流域之稷山、新絳、臨汾、洪桐、涑水流域之永濟、虞鄉、臨晉、猗氏、安邑、夏平陸、聞喜、曲沃、黃河沿岸之河津、榮河等，皆為植棉之區。其他雁門道與冀甯道，在民國七年以前，未見棉田也。當道有鑒於此，特懸賞格，舉凡該道內農人能植棉得有圓滿之成績者，獎三千元。行之數年，成效頗佳，農人亦漸知種棉之利益。太谷、文水、定襄與高平，分設種棉試驗場四所。各縣種棉者，遂風湧一時，當民國十三年終之際，二道內棉田總面積，有三百萬畝。每畝產量，自四十斤至一百五十斤不等。平均產量，約八九十斤。棉種則中國種、美國種皆備。中國種之最普通者，推紅莖與綠莖為多。美棉中之T字棉及J字棉，係最近試種者，成效頗良。由氣候上之推測，美棉之栽種，似較良於中國種也。全省產量，以解州、榮河，及臨汾三處，為最大之散集中心；取道河南鄭州而赴天津市場者，佔十分之一，運往漢口市場有十分之九。

河北省多平野之地，在白河及黃河之下流，氣候地味，頗適棉花之種植，自鐵路建築以來，棉作物更為發展，每年產量，總在一百五六十萬擔左右。其主要棉產地，可分東河及西河二大流域言之。所稱東河流域者，本名甯河，亦稱北塘河，即灤河，海河與北塘河等流域所產棉花之總稱也。豐潤、唐山、玉田、甯河諸縣為其中心，而豐潤縣屬之宣莊、小集、玉田縣屬之楊村、窩落沽等處，尤為其中之著名者。西河為天津市場西部諸川之總稱，有上西河與下西河之分。上西河係指大清河，而下西河即滹沱河、子牙河、漳河等。其主要產地，上西河推高陽、蠡完初諸縣，下西河流域如位伯、小黑樵、舊城、晉州、正定、石家莊、深澤、冀城與灤城、梅花、趙州、換馬店、元化、甯晉、臨洛關、邯鄲、武安、南宮等是。美國棉種，係自光緒季年試植者，成績優良，結實數雖較美國為少，惟與本國土花相較，則殊有差別也。纖維之細長柔軟，頗適上等紡織用，本地種以西河流域所產之毛子棉為優良，即俗所稱雙白或片花者，是究其原來，蓋即河南之白子棉也。

山東省之東南部與山東半島地方，所謂山嶽地帶，高山太嶺、丘陵重疊，極少耕地，惟西部一帶，與河北、河南平野相接，黃河二岸，又屬沖積土，為沃野之原，而本省重要之農作地也。棉花之栽種，雖遍於各地，然以地理上之便利起見，得分為黃河流域附近，運河流域與曹州附近三區。黃河流域之棉花主產地，包括利津、濱縣、蒲台、商河、惠民、濰化、樂陵諸縣，其間水利極便，有馬頰河、沙河、徒駁河等縱橫其間，出產量雖亦有運赴天津市場者，惟大部分則均藉黃河之水運而販售於濟南市場焉。運河流域產棉區，跨河北省之東南部與山東省之西北隅，清和、威

南宮，吳橋，臨清，館陶，冠，夏津，高唐，武城，邱，清平，堂邑，恩博，平等是也。臨清一地，尤爲各產地最大棉花散集之中心地。南宮之棉花，通常習慣，悉以驛車載往濟南市場。其餘所產者，皆由運河之便，馳赴天津市場。山東西南隅曹州附近如定陶，城武，單，鉅野，鄆城諸縣，亦爲產棉名區，產量不及運河流域，而以天津爲主要之市場。境內棉花品質，大抵以本地種之長絨種，短絨種，白棉，紫棉，白子種，黑子種爲多。白棉之質地，尤爲優良，可紡二十支以上之細紗，惟產量不多耳。

以上所述，爲中國有名之產棉區；他如滿洲之遼寧，西南部之廣東，廣西，雲南諸省，亦有棉花之栽種。遼寧省植棉地，祇限於鐵嶺至康平一線以南之地，即蓋平，海城，遼陽，鐵嶺，康平，義錦，錦西等地是也。遼陽與錦縣所產者，數量較多，除供本地之消費，年有餘額，運往他埠。其他則雖本地之需要，亦時虞不足，蓋亦限於氣候地味之關係也。廣西省之南甯一帶，雲南省之怒江及麗江沿岸，皆不過少量棉花之種植而已。

第三節 棉產額

中國棉花之栽種，遍於全國各部，每年總產量，爲數極鉅，與世界各產棉國相較，佔第三位，其重要可知。惟調查統計一項，以政局之混亂，交通機關之不便，棉田之變遷等，等關係，甚難得有真確之數。內地一般之農民，以智識之固陋，尚在手工業時代，以所生產之棉花，即用土法填絮紡紗，爲額亦屬不小。設有餘量，運輸不便，難望移出。

而裁種之法，一特諸天然與地利，棉種之惡劣，水利之不講，設備之欠全，在在皆足以使棉花之生產，年無定律，參差甚鉅，以致棉產額之推算，極感困難。於是遂有一般學者，各據己見，任情推斷，有說五百萬擔者，有說八百萬擔者，其推算之基礎，不外以紡織等之消費額與輸出額而求出之；或以出現於上海、漢口、天津三大市場之數量為準則，而參以己意。如以棉價最低之民國四年而論，各產地棉花之會集於三大市場，總數為二、三六七、一五七擔，上海市場佔一〇六二〇〇〇擔，漢口市場八一〇九〇〇擔，天津市擔四九四、二五七擔，今設假定內地之消費為一倍，則全國之產棉量，當在四百七十三萬擔以上。惟據最近可靠棉業家之推算，大有出入，僅三大市場已有六、一一四、〇〇〇擔，上海三〇三四、〇〇〇擔，漢口二〇三〇〇〇〇擔，天津一〇五〇〇〇〇擔。民國七年華商紗廠聯合會曾將各省之棉產加以調查，總產額達一〇九六八、五三二擔，江蘇省之產額最鉅，佔四、一二八、六九六擔，湖北省二、三三五、一七〇擔次之，河北省居第三位，產棉量有二〇九九、三八一擔，山東省之七二〇、七八七擔，山西省之三〇四、三三二擔，河南省之二六八、一六一擔，浙江省之二二四、〇〇〇〇擔，江西省之一三、二五〇擔等，又次之。嗣後年有報告，據該會民國十七年調查之棉產額，為六、六一、七七三擔，江蘇省二、五四二、三四五擔，第一湖北省一、五九一、六八八擔，第二河北省六、五三、一二〇擔，第三各省重要產區年在十萬擔以上者，如江蘇之南通、海門、崇明、如皋、南匯、安徽之合肥、湖北省之黃岡、隨縣、襄陽、河北省之趙城、正定、藁城、晉縣、束鹿、山東省之清平、等是也。而南通之產額，年達一百萬擔，尤為全國之冠。茲將最近十年來各省之棉產額列如第一表。

第四節 貿易

中國棉花之輸出，在五十年以前，不過三四萬擔而已，後逐漸發展，當同治三年（一八六四），以美國戰爭後，世界棉花之產量，頗感缺乏。該年中國棉花之輸往歐洲各國者，達三十九萬擔，然亦不過一時之變態現象，嗣後以市價之高低，年歲之豐歉，輸出量歷有進退。最近十數年來，總在七八十萬擔間，而以日本為最大之市場。如民國二年輸出棉花總量為七三八、八一二擔，而運往日本者佔五二七、二八二擔。在民國七年，更為增加，輸出至日本之棉花有「一二二、五五四」擔，受美棉、埃及棉禁止出口之影響也。近數年來，以我國紡織業之日漸發展，而日商又喜用印棉，故中國棉花輸出至日本頗有減少之傾向。惟民國十六年不然，棉花出口總數，達「一四四六、九五〇」擔，值關平銀四七、三〇六、六九九兩，即較之民國七年，亦復高出不少，蓋由於日本方面銷路之激增，而英美之棉市華棉亦有良好趨勢也。該年出口至日本者，值三七、二八、一七四一兩，較之民七之三五六〇、三二〇兩，猶增加一六七八、五一兩，推為歷年來最高紀錄。輸出至美國者，為七七八八、七六八兩次之，其他如德國之一、一六四、一七七兩，英國之四〇二、九〇七兩，朝鮮之二五九、九四六兩，法國之一六六、一八四兩等又次之。第二表，即為最近十五年來中國棉花輸出之情形。

我國棉花之輸出口岸，自以揚子江海岸各埠為發達，漢口尤為其中之特出者。沙市與上海次之，而天津一

時 期	本 英	國 美	香 港	其 他	合 計
民國二年	五二七、二八二	二、八〇一	六一、三八一	五、七一	三七、三七八
民國三年	四二八、五九六	一一、三四八	八五、八九三	一九、三七八	二七、〇五八
民國四年	五一、三三二	二一、〇九五	一〇九、三五四	一八、三三五	五、〇九一
民國五年	六五六、九七七	二七、二〇三	一二六、六五八	二四、七六九	六、五一五
民國六年	六一六、一八〇	三五、一七五	一四七、四一〇	四、三六六	七、八四五
民國七年	一、二一二、五五四	一、八一二	五八、三三一	四六	五、九四六
民國八年	九一、二、八九七	二五、九九六	一一二、〇五〇	一二六	三、〇〇八
民國九年	三二〇、三一二	二一、〇五三	一一九、六四九	七九九	三、四一四
民國十年	五六一、一〇六	一	三四、〇六五	七九三	二、四七四
民國十一年	六四四、三八五	二一、九三五	一三八、五四〇	四八一	三、一九八
民國十二年	八〇三、五〇五	九、三五二	一一二、八二六	一三五	三、九二九
民國十三年	八九〇、〇三九	六、七五八	一四四、二四〇	……	一、〇八〇、〇一九
民國十四年	六一〇、五七三	九、三〇四	一四三、〇一七	三三	四〇、四二〇、四一四
民國十五年	七九二、九五四	四、三八九	五八、八八八	一二	二、五八五
民國十六年	一、一四六、六四九	一二、〇九八	二三一、三六八	一二六	八七八、五一二
民國十七年	九八五、八三〇	三二六、〇八二	一五八、七四八	二、二八一	二九、三九九、三八一
民國十八年	一六一、九一九	五三〇、八八一	六六、〇〇九	一、四四六、九五〇	四七、三〇六、六九九
民國九年	四一九、四三九	二五八、五六八	一三五、九九九	三一、四二一	一、五一五、四〇七
民國十年	六四四、八九六	四五四、八九八	一八四、七四〇	四六、一三八	九、五七七
民國十一年	九七二、四五六	五四八、九七三	一七三、二七七	四六、一三八	一、五一五、四〇七
民國十二年	一、一二一、三三一	五六五、一〇五	二〇七、二六六	一〇、七五三	八七一、五五六
民國十三年	六四四、四六六	四五五、五四一	四九、一一六	三三、二八	二一、三四二
民國十四年	一、〇七三、八八五	五五〇、〇四四	一四五、七四〇	七二、一三三	三、〇三二、〇九三
民國十五年	一、六〇九、五一七	六二七、五一〇	一三三、六〇八	一〇三、九九六	九、六一七
民國十六年	九一〇、一二九	八一〇、六五九	二一三、四一二	一九三、四六五	一、四三九、八四三

第二表 (單位摺)

埠則爲北部之最大輸出口岸，歷年來各重要輸出口岸棉花之輸出數，可如第三表。

(中國棉花之纖維極短，欲紡細紗，頗感困難，故不能不用輸入之棉花，以補其缺。遇國產棉花歉收，或國外匯兌有利之時，棉花之輸入，亦隨以增加。然初不過二三十萬擔而已，後以內國紡織業之勃興，外棉進口，因而大旺，如民國十年輸入之棉花有一六九〇、一三八擔，民國十一年爲一七八〇、六一九擔，其中以印棉佔大部，嗣後亦極多發展，民國十五年之二七四五〇一七擔，三九七五〇五四〇兩，尤稱傑出。十六年頗有降落，共爲二四一五、四八二擔，值七九八一二六五三兩。

第五節 中國棉產之改良

中國棉產應行改良之點，千端萬緒，然究其要，不過產額之如何可以增加，與夫品質之應行設法改良而已。當清光緒二十四年，湖廣總督張之洞氏，曾以巨款購入美國棉種，試植於湖北等處，同時朝野有識之士，亦盛倡棉花之改良，實爲要圖。中國棉花品質，遂得漸次良好，及民國成立，銳意劃策，尤多進展。農商部總長張謇，又有棉鐵主義之鼓吹，民國三年一月，復公佈公司保息條例，且提倡公債票二十萬元，以充補給基金。同年四月，植棉獎勵條例亦以佈行，惟感於政治根本之未經確立，財政困乏，收效殊鮮。民國四年三月，聘請美國棉業技師H.Jopson爲顧問，而於河北省之正定，江蘇省之南通，及湖北省之武昌三處，設立棉業試驗場，開辦資十萬元，對於棉

種之選擇，分給收獲，病虫害之驅除與豫防，等一切事項，皆極有研究。民國六年九月，復補助上海之中華植棉改良社及南通農學校等，成效頗良。民國七年，又設立棉業整理處。江蘇、河南、山西、廣西等各省當局，皆以振興棉業為己任。山西省於民國八年，樹立棉業逐年進行計劃，以資實行。輸入美國棉種，分配各棉產地。除此上海有華商紗廠聯合會，企劃刷新官民合作，銳意振興。於是棉花之栽種區域日廣，實由於近年來棉貨需要之步趨，價格高昂，各地農民，自樂於棉作之耕種也。果能注意於種子之選擇，運用機械，則產量之增加，品質之優良，而農民植棉之興味，愈加濃矣。

在此尚有一點而值得紀述者，則為棉花檢查處之設立也。當光緒二十七年四月，上海會有防止棉花攏水公會之創設，惟不久即停止。際斯之時，上海道台亦出示曉諭，禁止棉花攏水。蓋不特於華棉之發展，大有阻害，廠家所受損失，茲實大也。其辦法為一，於適當地址，設官廳檢查機關。二，檢查委員，由官廳任命，如遇棉花攏水等情，即付以懲罰之權。三，道台得指揮棉花公會，推定幹練檢查員，會同西人檢驗。四，罰款概交道台，聽其支配。五，道台任命之檢查官吏，隨時隨地，皆有要求檢查之權。六，檢查條例，得道台與領事間之同意，可以提出修正。當於光緒二十八年開始檢查，惟為時不久，又告停止。宣統三年三月，滬上重要西商，鑒於棉花檢查一事之必要，曾一度討論辦法，提出六人組織委員會，是即今日上海棉花檢查處成立之由來也。檢查之法，乃自大包棉花中，揀取一定單位，秤其重量，然後用火烘乾，而求出相差之較，即得百分數之標準。現該會之組織，為怡和紗廠、怡和洋行、寶隆

洋行，東興洋行，茂新洋行，茂根洋行，三井洋行，上海紡織公司，日本棉花株式會社與東方紡織公司等處長則爲怡和洋行之密位列高爾，除此以外，天津一埠，亦設有棉花烤潮所，成績尚稱良好云。

第一章 棉紗 (Yarn, Cotton)

第一節 中國紡織業之沿革與現狀

吾國紡織工廠之創辦，遠在清光緒之十六年，時北洋大臣李鴻章，鑒於歷年來外洋輸入棉貨類之鉅，爲挽回利權計，始設立機器織布局於上海，資本四十萬兩，是即中國紡織工業之嚆矢也。後紡織新局繼告成立，而機器織布局，以各種關係，屢經改組，遂易名三新紗廠，紡織新局亦改爲恆豐紗廠焉。光緒二十年，湖廣總督張之洞氏設紡紗局於武昌，（近歸楚興公司租辦）同年上海創辦裕源紗廠。光緒二十一年，上海之大純廠，無錫之業勤廠，甯波之通久源，次第設立。外人亦於該年最初創設紡織工場，美商之鴻源，德商之瑞記與英商之怡和，老公茂是。光緒二十三年，杭州設立通益公，蘇綸設於蘇州。光緒二十四年，裕通設於上海。光緒二十五年，大生設於南通。日俄戰後，上海之振華廠，無錫之振新廠，常熟之裕泰廠，甯波之和豐廠，太倉之濟泰廠，崇明之大生第二廠，蕭山之通惠公廠，上海之九成廠，江陰之利用廠等以次成立。宣統二年，英商之公益，宣統三年，日商之內外第三廠，民國元年，日商之內外第四廠，民國三年，華商之德大，英商之楊樹浦，日商之內外第五廠，復先後創立於上海。（

英商之公益與楊樹浦二廠，近已併入怡和紗廠。同年八月一日，歐戰勃發，吾國紡織業，亦因此而大為一振，蓋素以紡織業稱雄於世界者，以戰事關係，頗感挫折，吾國受此影響後，棉貨價值日昂，於是本國紡織商，遂乘時而大有進益。至民國五年末，全中國紗廠數有四十一所，紗錠一、一四五、一三六枚。及民國九年，紗廠數增加至六十三所，紗錠總數為一、六五〇、六四一枚。民國十三年八月末，則又增加至一百二十九所，計有紗錠三、五三七、四〇五枚。民國十四年稍有減少。據民國十六年上海華商紗廠聯合會第七次編印之中國紗廠一覽，全國紗廠數，共為一百十九所，紗錠數計三、五四一、五八四枚，線錠數一四三、一〇二枚。其中華商佔七十三廠，紗錠二〇三三、五八八枚，布機一三、四五九架。日商次之，紗廠四十二所，紗錠一、三〇二、六七六枚，布機一三、〇八一架。英商四廠，紗錠二〇五、三二〇枚，布機二、三四八架，又次之。華商紗廠，以上海為中心。恆豐紡織新局，振華利記紡織有限公司，申新紡織公司第一廠第二廠第五廠，鴻裕紡織公司，溥益紡織公司第一廠第二廠，厚生滋記紡織染有限公司，緯通紡織有限公司，三新紡織有限公司，統益紡織有限公司，恆大紗廠，永安紡織公司第一廠第二廠，大豐慶記紡織有限公司，振泰紡織有限公司，鴻章紡織染廠，同昌公司，永豫紗廠，華豐紡織公司，崇信紡織公司，民生紗廠與經緯紡織廠，計佔二十四廠。江蘇其他各城鎮，猶有大生第一，第一副辦，第二，第三，大通紡織有限公司，業勤紗廠，振新紡織公司，廣勤紡織公司，慶豐紡織公司，豫康紡織公司，申新第三紗廠，蘇綸紗廠，源記紡織公司，太倉紡織公司，常州紡織公司，大綸久記紡織公司，利用紡織公司，廣新紡織廠與通成紡織公司，之十九廠。河北省為華

新津廠，唐廠，裕元，恆原，北洋，裕大，寶成，新集，大興九廠。湖北省有湖北紡織官局，漢口第一，裕華，震寰，申新第四，五廠。其餘廣益，豫平，成興，華新衛廠，通益公，和豐通惠公，魯豐華新青廠，裕中第一，湖南第一，晉華，奉天，久興，泰豐大益成十六廠，分佈於山東，東三省，浙江，安徽，江西，湖南，山西，陝西諸省。大略之情形，可如左表：參照民國十六年華商紗廠聯合會第七次編印之中國紗廠一覽表。

產品	省別	上		海		江		蘇		他		合計
		工廠	二四	工廠	一九	工廠	九	工廠	五	工廠	一六	
紗錠(千枚)		七二一		四三四		二七八		二五六		三五一		二〇三二
線錠(千枚)		四三		六		七		三		五		六四
布機(架)		五、九一六		二、四五八		一、六一〇		二、六五〇		八二五		一三、四五九
工人		四九、九〇八		二八、五六三		二〇、八二三		一六、七二六		二二、五五四		一三八、五七四
用花(千擔)		一、六一五		八二八		六六二		七五四		六六三		四、五二二
出紗(千包)		四四八		二三二		一八四		一九三		二一二		一、二五九
出布(千疋)		二、二一九		六九七		七二九		五七一		四一		四、二五七

華商紗廠當歐戰告終之際，頗多利益之可圖；惟至最近數年，棉價日昂，紗價反見跌落，加以交通阻滯，捐稅繁苛，紡織一業，大有岌岌可危之勢。以故自民國十年以來，華商紗廠之倒閉或易主者，如大中華，寶成，裕大，華豐，

德大，大豐，常州，大綸，裕泰，蘇綸，厚生，振華，太倉，恆大，福成，鼎新等是也。其他各廠，亦捉襟見肘，而工潮膨脹，時局不靖，在在足以使銷路停滯。故今日中國之紡織業，有需乎救濟，未可忽略視之也。

第二節 棉紗紡織工程

棉紗為經過梳紗工作之製品，工程頗為繁瑣。棉花自產地運入紗廠，其第一步之手續，即為設法使棉柔軟，將不純物除去，復經混棉，開棉，打棉，梳棉，練條，粗紡，精紡，燃合，揚框等工程而成。粗紡祇以條棉延長之而成紗狀，通常用始紡機，間紡機與練紡機，施燃於已經粗紡工程之粗紗，即成細紗。燃合本為合股之義，為單紗二股或二股以上引出而依反對之方向燃之；普通合股紗，多二股三股者，四股以上極少，以棉紗卷於周圍一碼半之框上，卷五百六十回，長可八百四十碼，約合二百四十丈，是為一支，重可一磅，所稱揚框工程也。支數標準計算法，以商業上買賣之習慣，通行英制，有八支，十支，十四支，十六支，二十支，三十二支，四十二支，六十支，八十支等。以二十支為一磅者，名二十支；四十二支為一磅者，名四十二支；在二十支以下，皆稱粗紗，自三十支至五十支，稱為中紗；五十支以上則名細紗。通常市場之貨品，最高者為六十支，八十支；最低為八支，十支。據調查貨價處十四年統計，標準牌號，本色單股不過十七支者，每擔之平均價格，合規元五、五、二七九兩；不過二十五支者，值五八、五〇兩；不過三十五支者，為七七、三三兩；不過四十五支者，值七九、四五兩；不過六十支者，為一一〇、七七兩；不過八十五支

者，一八八、五五兩；本色合股紗不過十七支者，值六〇、三九兩；不過二十五支者，六三、九一兩；不過三十五支者，八四、七九兩；不過四十五支者，八六、七九兩；不過六十五支者，一二一〇二兩；不過八十五支者，二〇六兩。惟我國廠家所紡之紗，大半爲粗紗，以八支，十支，十二支，十六支爲多，二十支，三十二支，四十二支者極少。

第三節 貿易

棉紗一項，當民國二三年間，對外輸出額，年不過千餘擔，值三四萬兩而已。民國四年之輸出額，值二二三、九九三兩；民國七年又達一〇〇〇、四九七兩；由於內國紡紗業之逐漸進步也。民八、民九，皆在二六〇〇〇〇〇兩以上，民十三有七、五一三、一二六兩，十四年降落不少，十五年則頗多發達，全年出口總數，值一〇八一、六〇〇兩，至十六年更盛，輸出量計凡三三九、五七五擔，值一九、七六〇、四九九兩。就中輸出至香港者，佔一九七、二三九擔，值一一、二〇八、八七四兩；印度之九三、六〇〇〇擔，五六〇七、四九〇兩，次之；日本台灣之二、一七九擔，一二九六〇七六兩，又次之；其他如爪哇之一六〇三五擔，九六二、一〇〇兩；土耳其，波斯，埃及五三一八擔，三一九〇八〇兩；暹羅四六一八擔，二七六、四八〇兩，更次之。

國內紗廠所出棉紗之輸出數，自各地之情形觀察之，更可得一較詳確之記載。全國各埠輸出之棉紗，其發展之程度，自以當地紡紗業之盛衰爲準則，如上海，膠州，天津，漢口，蘇州，杭州，甯波等地，紗廠之設立者較多，故輸

出之棉紗，亦以該地一帶爲盛。其中尤以上海一埠，尤推第一，其棉紗出額，當民國二年時，已有一千三百萬兩之鉅，民十四年增加至九千五六百萬兩，十五年則有一萬三千一百七十萬兩，與全國各埠原貨出口數一五五〇三六〇一六兩相較，佔百分之八十以上。民國十六年稍減，然亦有二〇八八、三六六擔，值一二五、三〇一、九六〇兩。膠州二三一〇五三擔，值一〇八九三、一〇〇兩；漢口一一八七五擔，值六四八八、七五〇兩；甯波三六九九四擔，值二三一七、四八〇兩，次之。他如大連之二五五、一二五兩，蘇州之八二七、六四三兩，蕪湖之一七三、五八〇兩，天津之九三、六二〇兩，杭州之四六〇五三兩等，又次之。

本色棉紗輸出數量及價額表

時 期		數 量	價 額
民 國 二 年		一、二七七擔	一六、七二一兩
民 國 三 年		四六、九七九
民 國 四 年		二二三、九九三
民 國 五 年		一八一、〇一六
民 國 六 年		四五〇、二〇四
民 國 七 年	二七、七四五	一、〇〇〇、四九七	
民 國 八 年	六七、二〇三	二、六九五、八六三	

民國九年	六九、六五四	二、九〇一、八七六
民國十年	二五、八一七	一、一七五、七九六
民國十一年	三八、七六〇	一、六六八、七九四
民國十二年	八九、〇〇一	四、三六九、八六〇
民國十三年	一四七、〇三一	七、五二三、一二六
民國十四年	六四、九二八	三、七五七、四五一
民國十五年	一九二、二三六	一〇、八一一、六〇〇
民國十六年	三三九、五七五	一九、七六〇、四九九

本色棉紗輸出國別表(單位關平銀兩)

時 期	香 港	印 度	日 本	臺 灣	其 他	合 計
民國二年	一、六九一	二、八一一	一六、七二一		
民國七年	五三五、四一六	一九二、〇〇九	二〇一、七七九	一、〇〇〇、四九七		
民國八年	三〇一、一六九	二、一四五、七六三	二、六九五、八六三		
民國九年	一、七〇八、三二三	六二八、九三一	三四〇、五一九	二、九〇一、八七六		
民國十四年	三、〇六八、二五一	一〇〇、九六八	二〇五、二五二	三、七五七、四五一		
民國十五年	一〇、一〇四、四七二	二〇七、九八八	三三一、〇三〇	一〇、八一一、六〇〇		
民國十六年	一一、二〇八、八七四	五、六〇七、四九〇	一、二九六、〇七六	一九、七六〇、四九九		

第四表(十六年英印日三國棉紗輸入之消長)

時 期	英	國 度	日	本	其 他	合	計
民國元年	二一九、〇〇四兩	三六、三九七、三四六兩	三三、五五〇、八九七兩	二、六八五、三六三摺	七一、〇六〇、〇八九兩		
民國二年	四六四、七〇九	三五、七六二、九五八	二三、七五六、七四六	二、二九八、四七九	六一、四四五、五九三		
民國三年	二〇一、七三三	二九、六三一、九三一	三三、三八八、五〇〇	二、五四一、六一一	六五、七二六、七九五		
民國四年	一五、八三一	二八、七九三、七一五	三六、四五五、六二七	二、六八五、五二八	六七、一〇七、五三三		
民國五年	三五、六三八、五一七	三四、〇二三、三八三	二、四三九、一〇二	六〇、一八〇、〇九一		
民國六年	一、八六三	三〇、五五六、二七八	二九、〇八六、九四四	二、〇三五、三三一	六〇、一四三、八〇六		
民國七年	一六、三九六、〇三六	三五、三五八、八八四	一、一一四、六一八	五二、〇七一、五九六		
民國八年	六、一九九	四一、六一五、五〇一	三〇、五二五、二〇七	一、三八五、三三八	七二、九二八、八一四		
民國九年	一、二五八、八六七	三九、二三七、三三四	三四、六二五、二一七	一、三〇一、一三二	七六、二三二、七五二		
民國十年	一、〇六九、六一六	二四、九九五、七三九	三七、七三三、九六〇	一、二四九、五二〇	六四、七〇三、四七四		
民國十一年	三、二六五、二二二	三、五一九、六一六	三七、五五〇、五五四	一、一九三、〇三〇	六四、一八八、四七八		
民國十二年	一、二〇、五九七	二、〇七二、一七七	二三、四七〇、四二七	七五三、〇〇二	三九、六一七、五九三		
民國十三年	一五五、七四四	一、七五二、六八五	一八、六五四、三八四	六六三、八八一	三一、八二九、八八六		
民國十四年	五八、六二三	二、六〇一、二一	三四、〇三八、〇一	四五九、三五七	二八、一五四、七八四		
民國十五年	四六九、九七六	一、五八四、四〇三	一三、八五〇、二九三	四一四、八三三	二四、九六七、一八一		
民國十六年	廿七、八九九	廿一、一九四、七八五	廿四、二九〇、〇六三	廿	一七二、八六四		

(廿)十六年各國進口僅詳一六十四〇支之數字

棉紗爲吾人衣著之重要原料，除一部分之粗紗，能由本國紗廠生產外，其他細紗之部，仍必外貨之是賴。歐戰以前，各種棉紗之輸入量，有六千餘萬兩，約二百萬擔上下，近則減落甚鉅，尤以粗紗爲最。細紗之輸入尚多，以內國紗廠能力之不及也。來源以日本、印度、英國三國爲盛，歷年來該三國輸出至中國棉紗之消長，可如第四表。

第三章 棉布 (Siece Goods, Cotton)

第一節 全國棉布之消費額

全國各紗廠所出棉布，據民國十六年華商紗廠聯合會第七次調查者，計共有八、九九九、三七〇疋；外商佔四、七三九、七〇四疋，華商四、二五九、六六九疋。惟全國國人棉布之總消費額，以國定稅則委員會之推算，值銀七萬一千一百九十九萬兩，其推算法如左：

「據紗廠聯合會最近統計，國內紗廠，年產紗二百十三萬包，合六百四十萬擔，（自用織布者在外。）查十五年輸出為十九萬擔，輸入為四十萬擔，計總消費額為六百六十萬擔，是國內製造之布疋，（廠布在外）其中百分之七為洋紗製品。

國內棉紗之總消費額為六百六十萬擔，約計其中半數為十六支以下之粗紗，十之三為二十支紗，十之二為三十支以下之細紗，分別計算各種布疋之價格如左：

十六支以下之粗紗，得三三一〇、〇〇〇〇擔，織成粗布，按加重一成計算，得三百六十萬擔，以輸入品日本仿

土布之價格估計之，每擔爲十一兩二錢，當值銀一萬八千七百三十九萬兩。

又二十支紗得二百萬擔，織成細布條格布，以輸入之十二磅本色細布價格每擔銀六十九兩計之，加染色工資一成，合每擔七十三兩，當值一萬四千六百萬兩。

又三十支以上之細紗得一百三十萬擔，織成愛國布線呢等布疋，按輸入貨之線呢哩噸之價格估計之，每擔銀一百三十七兩五錢，當值一六九、五〇〇、〇〇〇兩。

以上三項合計，加紗廠廠布五七、一〇〇、〇〇〇兩，及輸入品一六七、五九〇、〇〇〇兩，更減去出口布疋一、〇六〇、〇〇〇兩，得國人棉布之總消費額七一、一九〇、〇〇〇兩。

按前條之數字分析之，國人所用棉布中，百分之二十三賴國外直接輸入，又百分之五用輸入洋紗織成，又百分之三十三用國內洋廠之紗線織成。其完全由華人紡織者，祇佔百分之三十九，其中用洋棉者，猶未計及也。」（見國定稅則草案第一稿；棉及棉製品說明書）

第二節 棉布出產品

內國各紡織廠之棉布出品，不乏精良者，牌號極多，如申新之人鐘，雙鐘，三鐘，四鐘，五鐘，六鐘，恆豐之五鶴，雲鶴，老人，牡丹，喂馬，三羊，牧羊，雙鷹，魚槍，地球，團龍，雙塔，鴻章之賓，五蝠，獅球，雙鳳，三羊，快馬，雙馬球，萬象，鷹球，大

豐之鸚鵡，大發嬉發，童子軍，三新之馬狗，雙馬，三馬，四馬，五馬，僧塔，人塔，天字，猴馬，草牛，虎印，五元寶，永安之金城，金錢，厚生滋記之紅蝶，藍獅，歡喜，紅鶲，三虎，大生之石榴，劉海，和合財神，壽星，魁星，三星，孔雀，單鹿，雙鹿，龍鳳，雙龍，團龍，青龍，雲龍，飛龍，獅子，廣勤之織女，慶豐之雙魚，牧童，大綸久記之蝶球，英雄，雙兔，貓蝶，裕元之二飛虎，三飛虎，松鶴，恆源之駁車，大興之雙鹿，八卦，三鹿，湖北紡織官局之九星，漢口第一紡織之五福，綠字，金鼎，中山，裕華之天壇，雙鷄，萬年青，賽馬，豫豐之五老，麟書，奉天之雙鶴，人星，雙星等，皆屬國產，大都爲自十磅至十六磅者。日商在華所出棉布，以資力之雄厚，管理之得法，技術之精良，華商每不能與之抗。各廠棉布出品牌號，如上海紡織會社之三馬頭，五馬頭，三元寶，五元寶，春牛，單牛頭，日華紡織會社之丹鳳，內外棉株式會社之彩球，水月，同興之陽鶴，獵人，三人槍，福鹿，曰軍人，電扇，軍隊，六象，公大之玉雙魚，豐田之跳童，喇叭童，鐘淵之雙飛童，大康之五福集祥，滿洲之遼塔等是。

華商各廠棉布之出產額，以民國十六年調查，當推永安紡織公司第一廠之五二〇、〇〇〇疋爲第一，恆豐紡織新局五〇、二九五四疋第二，申新紡織公司第一廠四七三、二九〇疋第三，天津裕元紡織有限公司四一四〇八八疋第四，武昌裕華紡織有限公司三一二、五〇〇疋第五，武昌漢口第一紡織有限公司二五九、二〇〇疋第六，上海三新紡織有限公司二五三、七二八疋第七，上海厚生滋記紡織染有限公司二五一、二五〇疋第八，南通大生第一紡織有限公司二二四、〇〇〇疋第九，無錫申新第三廠二一〇、〇〇〇疋第十，其他如天津恆源紡

織有限公司，海門大生第三紡織公司，河北石家莊大興紡織有限公司，上海大豐慶記紡織有限公司，等又次之。

第三節 貿易

自內國紡織業逐漸發達以後，國外棉布品之輸入，逐步步減少。即以本色棉布而論，最初英國之粗布，頗佔勢力，後美之花旗布起而代之，未幾又受日貨之排擠。最近數年來，本廠貨出品精良，銷路達各方，乃獨佔霸權。如民國十五年本色粗布之輸入量，祇為三五〇、〇〇〇疋，以視民九之二、四〇〇、〇〇〇疋，民二之五、〇〇〇、〇〇〇疋，大有江河日下之概。而本國棉布之輸出，民國初年祇值二三百萬兩，十二年有一千萬兩，十五年達一千二百萬兩，十六年出口之本色粗布市布有二、五九二、五八六疋，值一二、九九六、五〇七兩，土布三八、七六一擔，值二、五〇七、五一〇兩，粗細斜紋布九五、六四九疋，四六九、九七九兩，其他為染色織土布，花土布，成疋染土布等，亦不在少數。

各種棉布輸出價額表(單位關平銀兩)(×布色市布粗布之合併數，+內包括細斜紋布)

時期	本色市布	粗布	粗斜紋布	土布	花土布
民國二年	二、一一九	一、七九〇	二、三五八、五五一	二一五、一一九
民國三年	一〇〇	三四八	八五五	一、八一四、〇一三	一四九、八三三

民國四年	一、〇四〇	一〇、〇三三	一三、九七六	二、二七〇、四六〇	六六〇、五四九
民國五年	四五〇	一四六、西四一	八三、五一七	二、八八八、四五四	五三八、六六六
民國六年	九九、六八六	一九三、二九二	一八一、二二七	二、九一二、三七一	一、〇七九、三八〇
民國七年	八五、四八六	二〇〇、七九七	一一五、二六八	二、七一四、七〇五	一、二六八、六八六
民國八年	一〇一、六六一	一二三、五五〇	一四六、〇一三	二、九六五、三七二	一、六二五、八五〇
民國九年	九八、二二三	三二二、八一九	六七、七七九	四、二一七、一四六	三四三、七六七
民國十四年	×七、八二八、五四六	十一四七、九七三	二、八三四、五一二	四〇、八二三
民國十五年	×九、〇六四、二九九	十八〇、七九六	二、七四九、六〇一	三三、二五一
民國十六年	×一二、九九六、五〇七	十四六九、九七九	二、五〇七、五一〇	五、六七五

本色市布粗布之輸出，十四年爲「二八九、四四〇疋，值七、八二八、五四六兩；十六年自十五年之「五三六、一二八疋，九〇六四、二九九兩，增至二、五九二、五八六疋，「二、九九六、五〇七兩。銷於土耳其、波斯、埃及一帶者，年值甚鉅。十四年爲六四三、五七一疋，值四〇〇九、四一九兩；十六年則有一、六九六、六四五疋，值八、四九、「二五〇兩；較十五年之「一〇〇七、〇三〇疋，五九七八、七六三兩，猶增加六八九、六一五疋，二五一、四七八兩，約佔出口總數百分之六十五。香港、爪哇、斐律賓與印度，年來本色市布粗布之銷路，亦頗多發展。十五年銷於香港者，爲一五、二七八疋，值八七六、八七六兩；爪哇等處一二三、九九〇疋，七一九、一二七兩；斐律賓一〇六、四一〇疋，六一

六、三一二兩，印度七一、七八〇疋，四一五、七二四兩。十六年輸出至香港，有二〇二、五〇八疋，值一〇一、五九二六兩；兩爪哇等處二六五、一六〇疋，一三二七、一七五兩，印度爲二一三、四八五疋，一〇六八、四一七兩；斐律賓稍有增加，計共一二三、九七〇疋，值六二二、四一三兩。

土布之銷路，次於本色市布粗布，而以香港與新加坡等處爲最盛。民國九年輸出往香港者，有四、三六七擔，值二七〇四、四四三兩；新加坡爲一六、四一〇擔，值一〇六六、五一一兩。最近數年，香港之市場，極少活動，新加坡一帶，尚有極緩之進展。十四年達一四三〇、〇四六兩，香港爲一九三八〇三兩。及民國十五年，新加坡之銷路激增，土布之輸出往該地者，有二五、七七四擔，值一七一五、七六八兩，香港祇一〇、四五一擔，值六七四、三四五兩。十六年仍以新加坡爲盛，有二〇、六二〇擔，一三六三、四〇〇兩，香港爲一五〇〇七擔，九三六、七三一兩，次之。斐律賓之銷路，雖不及十五年二一九、三四九兩之盛，亦有一九七五擔，值一二四、一一二兩也。

一年來各紡織廠對於粗細斜紋布之出品，頗爲注意，銷路漸盛。如最近十六年之出口數量，有九五、六四九疋，值四六九、九七九兩，蓋由於香港以及俄國太平洋各口採辦數量之高漲也。十五年香港之華粗細斜紋布銷路爲八、一九二疋，值四四、一七八兩，俄國太平洋各口又祇三六七疋，二五六九兩。十六年輸出往香港者，有五七、五一疋，二六七、一八七兩。俄國太平洋各口亦增加至二、七九一四疋，值一四八、二七五兩，斐律賓、爪哇、印度等地次之。

第四章 蠶絲 (Silk)

第一節 蠶絲產地

中國蠶絲一業，發軼於遠古，黃帝元妃西陵氏之女名螺祖者，始教民育蠶治絲之術，以供衣服之用，此吾國育蠶之最初紀載也。歷代以來，皆甚重視，各君主均獎勵育蠶，相繼弗衰，蠶絲之出產，乃普遍於全國。尤有長江流域與珠江流域附近為發達，實由於氣候之溫和，地氣之高燥，而適合於蠶體之養育也。現時長江流域之蠶絲產地，縣及於江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、四川七省；珠江流域則以廣東省為最發達；福建省最近對於蠶絲改進一道，不遺餘力，最初因絲質不佳，當然不能行銷國外，近數年來，亦有大宗輸出矣。

我國蠶絲出產地，以地理上之便利，得分為中部、南部、西部與北部之四區。

中部區

浙江省之蠶絲，以浙西為盛，太湖附近，錢塘江流域與曹娥江流域，所稱為浙江省之三大蠶絲產區是也。曹娥江流域起自三江流域至嵊縣、新昌縣一帶，所產蠶絲，頗為發達。錢塘江流域包括海甯、杭州、蕭山、浦陽江上之諸

暨東苕漢上之餘杭，臨安等。太湖附近區以湖州南潯爲中心，長興，嘉興，嘉善，烏鎮，雙林，新市，德清，峽石鎮，長安等，皆在其內。所植桑葉有十餘種之多，統名之曰湖桑。如荷葉桑，鷄腳桑，白皮桑，木竹青桑，杜桑，黃頭桑，火種桑，大桑，葉尖桑，山桑，晚青桑等是也。荷葉桑以錢塘道之富陽爲最盛，故又名富陽桑。葉形圓，多津液，佳種也。木竹青桑因眼眼發青故名，幹頗堅實，爲湖桑中最佳之種，故殊精貴，價亦特昂。杜桑爲木竹青桑之一種，多產於嘉興縣屬之新篁里一帶。黃頭桑之異於他桑者，因其發葉顏色較黃也。火種桑近年多產於錢塘道之崇德，石門灣等地，浙屬飼養蠶蟻，均用此桑，因發葉特早之故也。

江蘇蠶絲產地遍於大江南北，但江北不如江南遠甚，並非氣候土質之不若，江北黃河舊槽一帶，亦頗宜於植桑，特發達遲耳。茲因地位上之關係，得分爲三區，即太湖西北區，太湖東北區，與江北區（南京與鎮江在內）。其中包括三十九縣，蘇常道之無錫，吳江，江陰，武進，吳縣，宜興，常熟，崑山，南通，如皋，滬海道之海門，崇明，松江，金山，太倉，上海，嘉定，南匯，寶山，奉賢，金陵道之南京，溧陽，溧水，丹徒，丹陽，金壇，六合，句容，淮陽道之江都，高郵，儀徵，寶應，漣水，東台，淮安，徐海道之銅山，沐陽，蕭縣，宿遷等是。

皖省蠶絲產區有三：由蕪湖至南境南陵縣，涇縣至三漢浦涇法績涇爲第一區。大通，青陽一帶爲第二區。第三區則在六安之英山，即接近河南附境。是其中如天長縣龍岡鎮，閔家橋，當塗縣小冊陽，貴池縣芽垣鎮，青陽縣城外及木竹潭，廣德縣城內，境內，朗溪，涇縣，宣城等地，則尤較著者也。

北部區

山西省因氣候之不良，土質之不宜於桑，故蠶絲一業，並不十分發達，但據最近數年來之報告，確已大有進步，蓋官廳方面鼓勵得法，有以致之也。現太原設有蠶業促進局，分局五十有二，遍設各鄉，一般主持者，皆係蠶業專家，其最重要之目的，即在於指導農人養蠶織絲之正當方法，使勿入歧途。蓋山西除北部一帶，因氣候過寒，其他如冀甯道之長治、普城，高平、陽城諸縣，河東道之曲沃、汾城、臨晉、虞鄉等地，皆適於蠶之攝養，尤以冀甯道為最。據民國十一年山西當局發表之統計，冀甯道是年所植桑樹，凡三八〇〇〇〇〇株，養蠶者有一五六九八九戶，佔全省總養蠶戶百分之八十七；河東道次之，有桑樹四六〇〇〇〇〇株，養蠶戶二〇五八三戶；北部之雁門道，對於養蠶一事，近亦頗有成績，養蠶者已達二〇二一戶，佔全省總數百分之一強。

山東省氣候良好，為北部各省之冠，故頗宜於蠶桑，尤以鐵路沿線，最為繁盛。臨朐紙房莊、朱封莊、益都南鄉閔家莊、博山大嵐峯、長山周村、東馬尚槐行及城關附近，萊蕪、蒙陰、新春東鄉、桓台、南鄉、曹村、沂水、荷澤西鄉遷善，永平、呂陵、東鄉趙王河沿岸及南鄉各村莊，春光三官廟、釣魚台、屯漢台、安家莊、昌樂張家廊廠鄉廠，滋陽何莊，顏莊店、新嘉驛、故鄉村、鄒縣黃甫莊、橫河村、小疃村、保安莊、灰埠、棗塔、睦縣、鄒平城關附近、淄川、臨淄、淄河店、姚旺莊，廣曉朱家營、戚家口、稻莊等地是也。所植桑葉，以椹桑、荆桑、魯桑三種居多。全境養蠶戶總數，計有一六八〇〇〇戶。膠東道之益都、臨朐、濟南道之周村、張店、淄川、博山、大汶口、泰安、萊蕪、濟寧道之蒙陰、魯台一帶，較為發達。

河北省以氣候關係，養蠶業不甚發達，全省桑田畝數，祇二萬有餘，其中以津海道之海豐、慶雲、南皮、泊鎮、靜海、新鎮、遷安、大名道之東明、濮陽、南樂、清豐、邯鄲、唐山、柏鄉、保定道之定興、徐水、安國、博野、安新等稍盛。

東三省所產之蠶絲，以柞蠶絲為主要，遼寧之蓋平、柞蠶一業，傳稱已在百年以上，後逐漸發展。安東、鳳凰城、寬甸、海城、岫巖、復州等地，皆已為今日柞蠶絲之中心矣。南部近山林處較為興盛，吉林省長白山一帶，亦有少量之出產，惟不若遼寧遠甚。

西部區

湖北省氣候，對於蠶之養育，甚為適宜，故蠶區極廣。最發達者，則推沔陽之仙桃鎮、彭家場、天門之岳家冢、乾子驛、彭市河、麻洋潭、漢川之脈旺嘴、楊池口、田二河、楊林溝、分子嘴、通海口、當陽之河洛、荊門之建陽驛、江陵之沙市、枝江之江口、羅田之塍家堡、平湖、宜都、京山、黃坡、麻城及黃岡等地。桑林遍野，大都皆毛桑與湖桑二種。毛桑即土著之桑，湖桑係傳自浙江之湖州，故名。一屆春季養蠶之期，家中婦孺莫不興高彩烈，尤以沔陽彭家場地方，麻洋潭、岳家口、羅田、平湖地方，塍家堡、仙桃鎮地方等為盛。養蠶戶佔總居戶百分之七八十，麻洋潭一帶，甚至佔百分之九十以上，幾家家戶，皆精於養蠶之術，而賴以生活焉。

四川省蠶絲主要產地，以西川道成都府屬之成都、雙流、溫江、新繁、新津、新都、彭縣、什邡、廣漢、德陽、崇甯、崇慶、灌縣；龍安府屬之平武縣；永甯道敘州府屬之宜賓、慶符、長甯、高縣、洪縣、奧文、古宋、筠連；建昌道嘉定府屬之樂山，

峨嵋，青神，眉山，洪雅，夾江，犍爲，榮縣，威遠，峨邊，雅州府屬之清漢，名山，甯遠府屬之西昌，念理，冕寧，越雋，嘉陵道順廣府屬之西充，蓬安，營山，儀隴，岳池，廣安，蓬漢，潼州府屬之三名，射洪，中江，鹽亭，保甯府屬之閬中，蒼漢，南部，巴中，劍閣，東川道重慶府屬之綦江，合川，璧山，江津，榮昌，夔州府屬之雲陽，萬縣，綏定府屬之達縣，東鄉，太平等地為最盛。境內所植桑種，可分土種與外種二類，川桑與拓桑為土種中最發達者，川桑中亦有多種，盛行於嘉定，潼川一帶，產額佔全省百分之三十，每年每株收獲量，達七十斤或八十斤不等。拓桑多在四川西部敘州瀘州以及南部附近，產額不多，佔全省百分之五。所謂外種，即由他省傳入者，推湖桑為最著名。湖桑在清季末年始行傳入，大都黃皮種，現產於各部，成都，保甯，順慶，合州等地較盛，產額佔全省總額百分之四十。魯桑係三十年前由山東省傳入者，勢力頗屬不小，約佔全省百分之二十。荆桑亦為外種之一，傳入最早，但因收獲量不豐，種者甚少，祇佔百分之五而已。

湖南省所有桑田，總計九萬八千餘畝，魯桑，荆桑居多。近數年來，湖桑亦頗盛行，養蠶戶以辰沅道沿沅水一帶與湘江道之七星湖附近為發達，桃源，慈利，大庸，常德，漢壽，沅江，益陽，津市，安鄉，南縣，湘潭，岳陽等地是也。

江西農產，尚稱發達，蠶絲一業，則並不重視之，由於附近鄱陽湖一帶地味雖稱肥沃，惟一般居民，視米穀穀器，較為重要，故養蠶戶不多，不過視為農工餘興而已。

南部區

育蠶之法，傳入廣東，遠在漢代，至今已二千餘年矣，故頗發達，素推爲農產物之大宗。每年分春夏秋冬四造，間亦有六七造者，能否豐收，則全恃天時如何而定。最著名之中心，當推順德、香山、南海、新會、三水、廣東與鶴山等。其餘如東江流域之增城、東莞、寶安、博羅；西江之高要、高明、茂名、電白、德慶、雲浮、封川；北江之清遠、花縣、英德，亦盛。廣西農產不豐，養蠶一業，除沿江一帶外，其餘各地，實不足道也。全省桑田面積，共九萬二千餘畝，土種桑葉，最佔勢力。養桑區自推蒼梧道之蒼梧、藤縣、桂平、平南、岑溪、信都、柳江道之遷江、天河南甯道之永浦、南甯、北安、果德、武緣、賓陽等地爲盛。蒼梧、藤縣、桂平附近，養蠶戶佔總居戶百分之七十五以上。

福建省養蠶一事，不過五十年來之歷史。福州設立棉絲局，蓋其濫觴也。局內附設學校一所，專在指示教導棉作之裁種，與夫養蠶之技術。養蠶部教師，大半來自浙江省之養蠶專家，但因風氣所尚，不過千年前之舊法而已。後棉作部停辦，志在專心於蠶絲之發展，爲謀擴充起見，合併附近之農業學校，而爲大規模事業。養蠶之術，循法日本，一以科學爲基礎，但結果並不佳良。後官廳方面，加以獎勵，一般紳商，復從而倡和之，始稍有成績。惟範圍祇限於福州附近地處僻偏者，未得與也。但據最近之報告，閩省蠶絲業，發展頗多，甘蔗、竹崎、蘆辨等地，亦漸次盛行，養蠶戶佔總居戶百分之八十五以上云。

第二節 蘭

蠶由蠶卵孵化而爲黑色之小毛蟲，是爲蟻，以後漸次發育，長成後，始得稱蠶，現老熟之徵候，即可上簇，而結繭矣。大約蟻量一錢，可有萬頭，其中因除沙，分箔，疾病，斃命等外，結繭後總可得八千之數。每繭一枚之平均重量爲四分，計有三百二十兩，或二十斤，此上等之收成也。中等收成爲十八斤之譜，十六斤以下者爲下等矣。

繭之種類，普通可分爲家蠶繭與野蠶繭二類。家蠶繭以孵化回數，色澤等關係，得分爲一化蠶，多化蠶，白繭，金光繭，黃繭，玉繭，殼繭，屑繭之別；日本之春繭，即屬於一化蠶。三化蠶甚稀少，四化蠶較多，六化蠶以廣東一帶爲盛，至於七回，八回，至十回者，則祇遲遲等地方而已。亞洲東部所產者，多白色繭，如中國，日本，朝鮮，印度是也；意大利，法國以及其他歐洲諸國，盛產金光繭，黃繭亦爲東亞一帶之產品。惟細加以觀察，則白繭中又有雪白，淡白，及銀白之分；黃者有金黃，綠黃，及卵黃之別；蓋風土使然耳。

繭之品質，須由各方面鑑定，如色澤之良否，形狀之完否，大小，絲量之多寡，展舒之適否，乾燥之程度，絲質之良否等是也。繭之色澤，以優麗者爲上品，呈微褐色，或光澤已失，而有其他之污色者，爲劣等。繭之形狀，各有不同，於是絲縷亦殊，大者絲量多，而纖度亦大，合於織粗絲之用；反是則絲量少，而宜織爲細絲，總以圓形爲最良。繭層之厚薄，亦頗有關係，繭層厚者，絲量多，薄則絲量少，惟過於厚者，反因能舒不易，而多生類節也。繭之輕重，全由種類之大小，以及收繭期之早晚而定。蛹體之輕重，極關重要，如歐洲之蠶蛹最大，我國稍小，未可一概論也。所設繭之纖度者，即指絲縷之粗細而言，平均約自二但尼爾乃至三但尼爾，纖度大，織絲易，然品質劣，反之則優。繭絲伸

縮力之強弱，與纖度絲質有密切之關係，凡纖度大而絲質密者，比小而疏者為強，通常之強力為十五瓦，伸度為十分之二以上者，其為良品也無疑。

中國蠶繭之產額，據前農商部之統計，民國三年為一、四、九三五、二六五擔。民國四年、五、八〇六、二三〇擔。民國五年又降至二、五六五、三七八擔。民國六年頗多發展，繭之出產，有九〇五、三五一擔。民國七年復降落至二〇八九、三九〇擔。民國八年祇一八九四、三七三擔，至民九更多衰落，共一、二九〇、九三九擔。各省生產情形，今採錄民國七年者，列之如左，以該年之產額，與其他專家估計者，尚不失正確也。

省名	參照中國年鑑第一回 (單位擔)				合計
	春蠶繭	夏蠶繭	秋蠶繭	桂蠶繭	
浙江省	六〇九、四一二	一四七、九八八	一六、〇五八	三、三〇三	三
江蘇省	四三二、二七八	九〇、〇八八	二一、七六五	七七六、七六四
安徽者	一三二、六五七	一〇、〇三五	三一五	一、九五三	五三四、一三一
江西省	四、九七九	二二一	一四四、九六〇
湖北省	一四八、八三五	二八、三三四	三八	一五三	五、二〇〇
湖南省	一、〇五四	一八八	一	四〇	一七七、八七八
					一、二九三

四川省民	二三二、三一五	六、四〇三	九〇八	一九七	二三九、八二三
廣東省民	二九、七〇四	六七、七四二	五八、一二四	二、七五〇	一五四	一五八、四六四
廣西省民	四、七一六	一一、六一三	七、六四四	七八六	二〇一	二四、九六〇
福建省	四三〇	二七七	三一三	一三四	一八二	一、三三六
山東省	七六、七五七	八、二七九	三一〇	一二、七八八	四五	九八、一七九
河北省	四、一五九	一八〇	七一	一〇	一二〇	四、五四〇
河南省	六五、一四七	二、七五三	一七一	一、五三九	二、八二八	七二、四三八
山西省	一一、七四四	一、二一四	二四	七	三	一二、九九二
遼寧省	八、一三八	四、九六九	一、二二八	一四、三三五
陝西省	二三一、〇七一	四、二三〇	四二六	二三五、七一七
甘肅省	一〇	五	一五
新疆省	二四	八、一九九	三五四	八、五七七
熱河省	一〇〇	九六一	一、二五四	二、三二五	二、〇八九、三七七
合計	一、七一五、七四一	三〇二、七四九	四四、八一九	二一、一一五	四、九四三	二、〇八九、三七七

以上所述，係照農商部之統計；惟據吉爾帛曼氏之調查為一七〇、〇〇〇、〇〇〇格蘭姆，換算之，約合二、八三三、〇〇〇；日本農商部技師明石弘氏之推定額，亦為二、九九三、八八一擔。但皆於本國之消費額計數，未免

中國乾繭之主要散集市場，以廣東省之順德與佛山，四川省之成都與重慶，浙江省之杭州與湖州，江蘇省之蘇州與無錫等，爲最重要。每屆鮮繭上市，各地繭行林立，江蘇省有七八二所，遍於三十九縣，浙江省三三〇所，安徽省一一六所，無錫與武進，皆在一〇〇所以上，江陰四八所，宜興三〇所，溧陽，金壇，丹陽，靖江，常熟，松江，金山各二〇所，海門二十四所，南通，丹徒各二三所，此江蘇省各重要產繭地之繭行數也。浙江省之繭行，以嵊縣五九所爲最多，蕭山三六所，諸暨二十四所，新昌二一所，吳興，紹興各一四所，長興，嘉興各一所，杭縣與海甯各一二所，安微省則以青陽與涇縣爲盛，各一八所，天長縣一四所次之，貴地一三所，朗溪一一所，又次之。

第三節 生絲

絲之出產，自以浙江一省爲全國之冠，各地所產出者，名稱極多。然大別之有肥絲與細絲二種。細絲中之最負盛名者，莫如湖屬之七里絲。因地近太湖，水質非常清美，居民蠶戶，皆用以繅絲，一經洗滌，光彩奪目，潔白無瑕。

有清同治時，甚爲有名，每年輸出外洋，爲額極鉅，於是七里絲名大噪，而附近之菱湖，雙林，烏鎮，德清等地所產者，皆充爲七里絲，七里二字，竟爲湖屬絲之代表矣。但自廠絲興盛後，七里絲之銷路，逐年降落，由於絲質不甚勻淨，其受擯斥，勢所然也。除七里以外，浙屬細絲，推杭州細絲，包括杭屬各鄉以及餘杭一帶之產品而言，因均集中於杭城之艮山門故也。海甯細絲，皆集峽石鎮，長安，斜橋，以及附近亦包括在內，再次之則爲德清之細絲，蕭山塢絲，諸暨白絲等。若嘉興，平湖，海鹽諸縣，同產肥絲，又有所稱爲中乾者，蓋界於肥細絲之間者也。南潯鎮附近，年產絲三萬數千包至四萬包，其他菱湖，雙林，新市，烏鎮等處，約共產二萬包以上。杭州，餘杭，海甯，一萬數千包，峽石鎮約一萬包，嘉興各地一萬包，紹興及其他杭湖所屬各縣，亦有一萬包，故浙西及紹屬之產絲額，每年共達十萬包左右。其以蠶絲爲營業者，以前祇有絲行，內可分洋莊與本莊而言，本莊者，收集絲繭以後，而專銷於本國之綢莊以及機戶之用也；而所謂洋莊者，營業較本莊爲大，多代洋商收買，或預行拋賣，至絲汎時收貨繳歸洋商是也；每年之營業大者達百餘萬元以上焉。

江蘇省製絲一業，以境內蠶繭出產豐富，近又盛行新式縷絲之法，出品頗爲精良，其中白絲佔大部分，而上海一埠，尤爲縷絲業之中心。全省縷絲廠數，據最近之調查，共有一百三十九家，絲車數達三四、二〇〇部，上海幾及一百家，如瑞綸，祥和，錦雲，同豐，永通，緯裕，經元，豐天昌，統益，物華第一，第二，錦章，雲成東廠，雲成西廠，長源，尤，振興，九經，德興，恆隆，裕豐，大綸，永泰，瑞和，永豐，美慶，恆鑫，緒興，綸祥，九豐，競豐，裕康，慎，鑫利，大順，順豐，震大，錦豐，瑞

豐，緒昌永，百司福，協安，源順，百司，恆太公，連益，駿益，協豐，恆昌，緒昌福，緒昌仁，泰來，元昌，大來，天來，東大，緯豐，鼎記，泰康，豐泰，慎興，怡和，信昌等是也。次之即推無錫去春全邑之絲廠祇二十一家，去歲絲商又在各市鄉及城區集資建設新絲廠十家，均於今夏新織上市後先後開工，故絲廠數已增加至三十一家，絲車九千八百五十部，其他如蘇州，鎮江等地又次之。

粵省爲中國四大產絲地之一，最近之新式織絲廠，雖已逐漸增加，然大部分仍用舊法，織機係以竹木製，而用人工織成之，故絲質每有不勻，顏色暗淡之弊，祇可作夏日衣料之用，每年出口者甚少。最良之粵絲，性極柔軟，色澤光彩，易於吸收染料，便於織造柔薄綢綢絲絨等，其精緻柔滑，實爲他處之絲所不及，非虛語也。生絲之用土法織成者，名曰土絲，關於此種土絲之買賣，常有特別之市集，所稱絲市是也。每當生絲上市之際，著名產絲地，競設絲市，以利交易，大約每月有九次，十次，不等。如順德有十一處，南海六處，香山一處，共十八處，此種市集之組織，有經紀人一助手二，一屆賣主買主價目言定以後，即托秤重者權以輕重，如此交易，年竟達二三百萬元之譜焉。至於洋絲，則輸出海外之生絲也。係用新式織機織成者，織絲廠例托廣東一般之經理人，再由經理人轉售於出口商，以得利益，此種經理人，即名絲莊，資本甚大，通常總在五萬元與十萬元之間，而每年成交，常達二三百萬元，其內部之組織，有司理一人專管一切交易，視市場情形如何，金融之緩急，而定營業之方針，有水客一人，通常爲絲廠主與絲莊之中間人，有經紀一人，專司銷貨事，銷貨員須習熟外國語，並於絲業稍有經驗，方稱合格焉。

川省繅絲業，在最近數年來，頗多發展。新式繅絲廠之設立甚多。重慶、潼川、保甯、成都尤盛。全省新式絲廠，共三十六家，車數計五千餘輛。蜀、極東、又興、懋源、謙吉祥等，其較著者也。每年產絲額，連同舊式手工繅絲在內，達一八八〇〇擔。絲行以沔陽幫最佔勢力，大都集於漢口市場，間亦有直接運赴上海，而出口至歐美各國焉。

湖北省所產之絲，大都運赴上海。一部分手工繅成之土絲，則皆在漢口市場上交易。所設立之絲行，以各地之舊習慣，例有幫派之別，故亦有沔陽幫與黃州幫之分。沔陽以及四川省內一帶之營業，皆屬沔陽幫；德和、德昌、德記、宏泰、宏茂、元茂、永森、森泰、森昌、泰昌等，其著名者也。黃州幫之範圍，則並不十分發達，祇限於黃州以及河南商城之出品而已。

河南省繅絲業，大半均用舊法。用機器繅絲者，全省祇有二家，以白絲爲最佔勢力，年達一二八七〇〇〇斤。黃絲次之，年約七〇〇〇〇〇斤。野蠶絲亦有一〇〇〇〇〇斤。其重要之產地，爲汝陽道之南召、鎮平，開封道之汝州，與河洛道之魯山等地。每年出口者，有三四千擔。普通先集於許州，運赴漢口，再行出口焉。

山西省所產之生絲，以白絲、黃絲，爲最普通。磧口鎮、夏縣、與高平，乃全省最重要之三大生絲散集市場也。東南部一帶所產者，則以高平爲中心。西部歸磧口鎮、南部蒲縣、解縣、絳縣等地，集中夏縣。高平之生絲市場，長年無間；餘則祇一二月之期而已。一般採辦生絲者，或先收買絲繭，而自行繅製，間亦有直接收集生絲者。高平附近之生絲鋪，約有十餘家，義順、玉和、義隆等，其較著名者也。

山東省之製絲業。可分小樞絲，大樞絲，與機器絲，三種。尤以大樞絲爲盛行。惟其品貨，不甚佳良。其法用木製大樞，一周圍長一丈六尺許，共用二人，一人專管繅絲，以足踏運車，又一人專注意繭索緒，每次添緒，自一二棵至七八棵不等，不結頭亦不留緒；絲縷之配合，更無一定之成數。繭數普通在三十棵左右。繅時復不換湯。因而所繅之絲，色澤不顯，纖度不勻。所謂小樞絲者，亦係山東舊有繭絲法，惟較之大樞絲，則良好足多，絲價亦六倍之。臨朐，周村，益都等地皆盛其繅時裝置之法，稍有不同。同時有織絲鍋六七具，列爲一排，左端安置極大之煮繭鍋，鍋下有大管，通於煮繭灶。絲樞周圍長一米達半下有管道，所以傳達熱氣，而使絲片易於乾燥也。此種織絲法，仍不失粗笨；然較之大樞絲，進步多矣。絲縷配合，皆有定數。繅成之絲，潔白光彩，直與廠絲無二。所售價格，亦與廠絲相仿。以上海幫之銷路爲大。山東省之機器絲，近以各地提倡甚力，故頗有發展。周村之裕厚堂絲廠，同豐公司，青島之鈴木廠，益都之蠶絲勸業廠等，皆有大宗廠絲之出品。

第四節 貿易

絲與茶同，爲我國出口貿易之大宗。但以墨守舊法，不思改進，竟有一落千丈之勢，殊可惜也。查民國元年各種絲類之輸出國外者，達三二〇。一九六擔。民國二年稍減，計三一七、三八四擔。民國三年歐戰勃發，歐洲一方面之銷路中斷，兼以絲價之跌落，出口數大爲減少，祇二二六。一九三擔。民國四年，以美國方面銷場之頓漲，出口擔

數，仍恢復至三三七、二八四擔。民五、民六，無大進出，總在三〇〇、〇〇〇擔以上。價額亦值關平銀八八、〇〇〇〇〇〇兩上下。民國七年，絲類出口總數，共爲三三九、五五七擔。其中除白絲、黃絲、廠絲，各有減少，餘頗發達。是年灰絲收成，雖屬不佳，但因美國市場需要甚旺，出口額達二八、五八八擔；較之上年之一八、二三六擔，增加一〇、三五二擔。其他如亂絲敗繭，亦較上年增加不少。至民國八年，歐戰已經告終，絲類出口數，頗多發展，共爲三四五、六〇八擔，貿易額計關平銀一一三、九五七、九五八兩。民國九年，以日本生絲在國際市場之活動，我國絲類貿易，受其影響不少，出口額降落甚多，祇二二九、七七九擔。絲經減少尤甚，實爲元年來所未有。白絲自四、四六八擔減至三、四八二擔。黃絲自一八、六六九擔降至一三、四一〇擔。廠絲亦自九〇〇、三八擔落至五六〇、四三擔。灰絲減少百分之三十七。蠶繭一項，則衰落百分之五十以上。亂絲敗繭亦減少甚多。及民國十年，以外商購買踴躍，價格陸續大漲，絲類貿易爲之一振。惟以存貨缺少，供不應求，出口量祇增加至二七五、七八九擔。貿易額則達一二、二八七、一二七兩。較之民國八年，尙多出七、三二九、二一九兩。由於絲價之繼漲也。十一、十二年貿易尙稱平穩，絲價步趨向上。民國十三年略爲減少，十四年復大爲發展，絲繭出口額計值一五三、〇一二、八六五兩，各種絲經出口數，達一六八〇一七擔；較之民八之最高數一六五、一八七擔，尙多二、八三〇擔。然一攷其中情形，以廠絲最爲活動，較民國十年增加二二、二四二擔。經絲與灰絲，亦高出不少。惟白絲與黃絲，則呈減少現象。至民國十五年，絲類貿易，更復發達。計值關平銀一五九、〇二四、七六六兩。民國十六年，則情勢稍有不同，全年各種絲繭出口貿易，值一

原书缺页

原书缺页

原书缺页

原书缺页

黃經絲輸出國別表

(單位擔)

	印度	法國	美國	其他合計
民國九年	六九三	三八七	一〇六	一、二五三 擔
民國十年	五六五	二五四	一五五	一、〇五一
民國十一年	四二一	二三九	五四	七五二
民國十二年	六七四	五二二	六	四七八、二三四
民國十三年	七一二	四五一	一、四三六	九八〇、〇四二
民國十四年	六一八	五三三	六八	一、三三三
民國十五年	一、二六一	一三九	四〇	一、七二三
民國十六年	四九八	一九	三一	一、一六二、七八四
			六五一	二五九、一二三

黃廠絲輸出國別表

(單位擔)

	法國	印度	日本	美國	其他合計
民國九年	一、八二九	二七	二三六	一六三	二、二八七 擔
民國十年	六、七一七	五八	六〇一	八二〇	八二二五
民國十一年	四、五三六	六三	三七〇	一四三	五、一三八
					四、一七〇、七五八

灰絲輸出國別表

(單位擔)

	香港	法國	日本	其他合計
民國九年	九四	六九七	二、二四九	四、九一 一擔
民國十年	八五	一、二九一	二、四四〇	五、六七三 一、七三四、九二八
民國十一年	六七	一、一八六	四九八	二、九四九 一、一八八、九〇六
民國十二年	九六	七九六	七四〇	一、八三九 六九四、三八一
民國十三年	二八	一、三八〇	六九三	二、五〇七 七一九、七七三
民國十四年	八	一、一三八	二六四	一、五八〇 四〇一、二七九
民國十五年	四三五	二三六	八八二	二四一、八六八
民國十六年	四三	一〇五	一二	二三一 六九、七四七

原书缺页

原书缺页

原书缺页

原书缺页

原书缺页

原书缺页

而織之也。漢書與服志及古今註並云，合單紡爲一系，紡與單對舉，紡非單絲可知。繪帛之屬先紡後織者，共有二種，卽紬、紗與縠。是故古人稱紗縠亦曰紡，與今之專指紡綢者，自有不同也。紡綢大都作爲衣料，其質薄而輕者，一名素紬，作衣裏用，以杭縣所出者最爲有名，所稱杭紡者是。吳江盛澤鎮之盛紡，四川省之川紡等，亦頗有名。錦爲雜色織文之稱。古人以厚繪爲地，別以五彩線織之。素地曰素錦，朱地曰朱錦。漢時產於陳留，三國以來，蜀錦最著。宋時織造又精，故別稱宋錦。近則以四川省之成都以及建陽一帶所產者爲佳。絨乃機織物之厚而緩者，福州之建絨，金銀絲絨，等其特出之品也。

蘭綢亦爲絲織物之一，以柞葉飼養之野絲蠶所織成者也。山東製者最有名，昌邑縣出品更優，棲霞及牟平次之。河南省之汝州、魯山、南召、鎮平產者，品質較魯省尤佳。皆散集於汝州，四川、廣東、遼寧等省又次之。其主要之用途，以製爲衣服者較多。

第二節 絲織物之產地

絲織物之著名出產地，以江蘇、浙江、四川、與廣東四省爲最。江蘇之蘇州與南京、浙江之杭州與湖州、四川之成都，廣東之南海與順德等，尤其著名者也。

杭州爲浙江省重要絲織品出產之中心。其出品以舊日之情形論之，可分爲二種，卽所稱爲生貨爲熟貨是也。

生貨者，如大綢（春綢）紗、羅、綢、絹等，先以生絲織成，下機後再爲練染，故稱生貨。熟貨則先以絲練熟，而始行機織者，如甯綢、貢綷是熟貨中之綷類，舊有羅紋、金絲、大雲、摹本、陰陽閃、綵、錦綷等諸名，最佳者自推貢綷。綢有大綢、紡綢、裏綢，綢有湖綢、平綢、線綢，羅有生羅、熟羅、春羅、金銀羅，紗有官紗、庫紗、實地芝麻亮紗，絹有大絹、生絹、熟絹等之區別。惟自最近洋機電機盛行以來，舊日之甯綢、線綢、春羅、庫紗，以及寬幅之庫綷等，皆漸次減少。紡綢、線春、熟羅、裏綢、官紗等之出產尚多。現杭州之絲織品，生貨中以線春爲盛，約佔總分百分之五十五；紡綢百分之二十；熟羅與官紗亦佔百分之二十五。熟貨自推廠綷，居百分之四十。莊家料機綷佔百分之二十五。新出之綷品，如巴黎綷、佛蘭綷、西旦綷、電絲綷、縮緬綷等，竟盛行一時。紗之新出品，有喬其紗、克羅紗、玻璃紗、文華紗等。而著名各廠家之出品，每以廠名冠之，緯成、虎林、慶成、大新、龍章等是。除上述新出品外，又有花素華絨葛、華絲葛、文華綢、純緯葛、毛葛、花紡、素紡、絨哩、噃哩、花素喬其、白勞夫、花香繡、花香媚、花絲綸、帛羅佳、塔天綢、印度綢等之名稱。或係仿製舶來品，而另以華名名之；或則直譯西文。於是絲織物之名目，遂繁不勝舉。

杭州之絲織業，大約可分爲三種，即稱綢廠、綢莊與綢廠局者是也。綢廠爲最近鐵機織綢法至中國後而組織者，規模宏大，亦有稱爲公司者。內部組織完備，有分經處、撚絲工場、染煉工場、絡絲合絲工場、整經工場、搖經搖緯工場、手組力織工場等。綢莊即係舊式絲綢業工廠，有客莊與收貨莊之別。客莊組織較收貨莊爲完備，三曰綢殿局，亦名零剪店，以城內三元坊一帶爲多，保佑坊等處亦有之。至於各綢廠、綢莊之重要者，如緯成公司、虎林公

可，悅昌文廠，天章廠，慶成廠，出豐廠，九成廠，振新廠，新昌泰廠，高元泰廠，競新廠，日新廠，大新廠，大成廠，變章廠，蔣廣昌廠，瑞雲公莊，春源復莊，致和祥莊，豫豐泰莊，豫昌祥莊，全源泰莊，福興恆莊，錦雲成莊，瑞昌祥莊，永裕莊，永和莊，袁震和廠，立興源元記廠，怡章鴻莊，清泰莊，陶桂記莊，裕興文莊，聚和祥莊，恆義吉莊，廣隆昌莊，裕泰公莊，義泰莊，裕豐永莊，恆昌祥莊，金源昶莊，悅昌隆記莊，徐烈記莊，裕祥泰莊，福安莊，錦昌閑莊，裕盛永莊，升大莊，源隆泰莊，元吉莊，聚義祥莊，德泰和莊，泰源祥莊，錦綸祥莊，六吉昌莊，裕祥源莊，鼎新永莊，錦元莊，義興公莊，鼎豐恆莊，義和莊，鼎源泰莊，老瑞生和莊，錦昌祥莊等。其他尚有九十餘家，納緝局約四五十家。

浙江省絲織品，除杭州爲大宗外，而湖州產品之重要，未可忽略視之也。每年產額，由稅捐上推算之，約有四十七八萬疋，價值在二千萬元以上。綢廠之較大者，有麗生，大豐，達昌，德豐，麗和，麗華，祥華，義成，悅來，惠通，慶餘，陳錦成，通益，永昌，信成等，皆有鐵木織機一二百張，其他小規模者，不下三十餘家。出品以綢及紗爲有名，普通皆稱三織。就中有足尖，廣衣，杭衣，輕長，杭六九，衣尖六九，尖六九，加闊，緊線，順紗，二織花件料，獨物件料等之別。足尖爲一種平常之絲織品，所需生絲原料，實非上等者，多用次等貨織成之。廣衣品質較足尖爲良好，銷路以南部諸省，如廣東，廣西，雲南，貴州一帶爲大分量極輕。杭衣爲上好原料織成，密度與廣衣相仿，因多銷於杭州，故名。輕長本備爲昔日北平宮廷用之一種織物，名曰備貢。品質非常優良，推爲湖南所出各種絲織品中最上等者。杭六九，花尖六九，尖六九，三種質地尚稱良好，杭六九較佳，花尖六九次之，尖六九又次之，皆供普通人士之著用。加闊分三種，

以門面之闊窄，而有二尺二寸、二尺、一尺九寸之別。二尺二寸者市面上不甚流行，二尺者多銷於長江一帶，廣東方面，又盛行一尺九寸者。緊線與順紗，絲縷極為嚴密，表面上有繡紋甚多。二織花件料，獨花件料，均屬定織之品。式樣尺寸，皆可任便。而二織花件料最多花紋，獨花件料則祇一種花紋也。又素綢與華絲葛二種，亦為湖州著名之絲織物。素綢有花尺八素，六尺八素，七尺八素，順紗素，花樣素，一二五生素等名稱。花尺八素之質地，較緊線與順紗為輕。六尺八素，七尺八素，多輸出外洋。順行素為素質無花，花樣素品質並不良好，而一二五生素又次之。華絲葛本係仿造日本之一種有花紋絲綢品。其名野鷄葛，係用麻紗及生紗相雜織成。惟華絲葛則純用生絲，故為一種花緞絲綢；以襯底似綢，而花紋則有如緞品也。通常可分為索直羅，花直羅，雙絲葛，物華葛等數種。素直羅與羅紡頗多相似之處，但無花紋。花直羅品質與素直羅相同，其異點不過織有花紋也。雙絲葛較重於華絲葛，門面極寬，頗流行於各地。物華葛為物華廠織造而得名，花紋最為新式，光彩燦爛，尤其特色也。

蘇州自昔稱為絲織物之中心。當其最盛時代，織機達一三〇〇〇部之多，近稍有衰落之象。惟自新式織機流行後，絲織業乃漸行擴充；如新式織機織成之鐵機緞，品質極為優良，式樣新穎，種類繁多，是其特色。通常有綺雲緞，雲光緞，月華緞等名稱，最為市上流行。又所產薄綢，頗為精美，銷路甚大。其南吳江縣屬之盛澤鎮，所出絲綢織品，亦頗為聞名。有稱四八紡者，係仿自日本，近國人皆稱之為東綢。其有花紋者，謂之四八花紡。四八花紡又有廣花及提尖二種，尚有小紡者，品質較四八紡為次，係用木機織成。

南京之絲織業，本極發達，惟以蘇杭之競爭，頗受其影響，無形中遂日以衰落。據最近之調查，全城所有織機業僅數百家，織機約一萬部。出品自貢以綵最為著名，多用作禮服料。蓋為一種素綵染成黑色者，色澤鮮美，永不轉黃。其經線多來自浙江省之峽石鎮及塘灣一帶，緯線為本地產，質地極為精良，用愈久而光彩益顯，是其特色，實非其他織品所可比擬者。又有一種花綵，種類複雜，花彩齊備，而三色花綵，於民三四年間，極為流行。普通有藍地白花，四周襯以淺藍色；惟其質料遠不及貢綵，即花彩亦較杭綵為遜。

第三節 貿易

絲織物對外輸出貿易，以綢綵與繭綢為最盛。其他如絲繡貨、絲類雜貨等項次之。

綢綵一項，為綢織物中最佔重要之位置。每年輸出國外者，為額甚鉅。民國二年有一千三百萬兩。民七以後，總在一千五百萬兩左右。民國十五年有二千一百萬兩，銷於香港者，作七、一三一擔，值八、一三七、四七〇兩；安南三、八二二擔，四五〇、七七兩次之；新加坡等處，二、七三三擔，三〇四八、二七一兩，第三印度二、五九三擔，二、八四〇、六三〇兩，第四暹羅一、五七擔，一、三八一、四四七兩，第五美國五九三擔，六五二、四九三兩，第六斐律賓之二二六、四二九兩，日本台灣之二〇六、一二二兩，爪哇之一、三三、三二二兩等，又次之。至民國十六年，除香港有極大之進步外，餘皆呈衰落之象。香港為一〇、六〇七擔，值一、一〇八、七六五兩；安南祇一、七四六擔，一、九一四二

九七兩；印度爲一七三六擔，一九〇九、〇四三兩；新加坡一、四七六擔，一六二四、三二九兩；暹羅四一、一擔，四五〇、五〇一兩；美國亦減至二七〇擔，二九五、九三六兩，以言綢緞輸出口岸，自推上海爲最鉅；十五年有二、八二〇擔，值二四〇〇二、〇〇〇兩；十六年爲一九、六九八擔，二、六六七八〇〇兩；廣東省之廣州次之；十六年爲七、二九二擔，七、五一四、一二二兩。其他如浙江省之杭州，甯波；江蘇省之蘇州，南京；湖北省之漢口；山東省之膠州亦盛。十六年之輸出數：杭州有一、六五二擔，一六九三、三〇〇兩；甯波四四四擔，五一〇、六〇〇兩；南京二、三六三擔，一八七八、五八五兩；蘇州一、二七二擔，一七三二、四六四兩；漢口二、二九擔，二五六、四八〇兩；膠州一〇二擔，一二二、四〇〇兩，是也。總之，我國綢緞，在海外市場，進步極少，年來每有衰落之象；惟以社會風俗日趨奢華，則該項貿易，宜隨時俱進，極爲明顯。今若此，其非我方之泥古守舊乎？不觀夫意日等國，染織彩色之明鮮，花樣時尚，每能投銷費者之所好。我國長此以往，必至絕跡於國際市場也無疑。願有心人極力提倡之。

繭綢之輸出，除綢緞外，即推爲絲織物第二，每年運往歐美市場者，極爲重要，大都裁製爲衣料用，尤以山東綢，甯海綢與河南綢之銷路爲盛。白繭綢次之銷行之方法，先售於大都市之巨商，巨商再銷於裁縫鋪，製成各種衣服，貨美價廉，堅固耐久，極爲歐美人士所歡迎。惟頗多缺點，如尺幅過窄，品質不甚整潔，每塗米漿，以冀加增重量。日人有見於此，遂苦心盡力，備機仿製，總以合外人之需要爲目的。果也會不數年，而根基已固，暢銷於歐美市場矣。華人繭綢輸出業，大受打擊，頗有不振之象。據最近之調查，除甯海雙絲綢外，其他繭綢，已不能立足於國際

繭綢輸出國別表

(单位摺)

蘭綢輸出國別表						
	香港	印度	土、波、埃及等	英國	法國	澳洲
民國二年	四、〇七九	一、五七二	一、八四三	一、八四七	五、一八〇	一八八
民國七年	三、八八一	二、〇三〇	一、一七八	六、〇九〇	九四五	一、三〇一
民國八年	三、三四二	五、〇七一	一、九七九	三、五三三	二、八一六	八三七
民國九年	五、一五四	三、四五九	二、三五三	二、九四九	一、四七八	二一、七四五
民國十年	六、三三六	二、八五六	三、六三八	四、一九四	一、五一五	七、五一五、六四五
民國十一年	三、六一八	一、一一四	一、九八九	三、二六七	一、五四〇	二〇、六〇二
民國十四年	四、一六三	四、〇八四	二、二四五	二、一二一	一、〇二九	八、五一五、六六四
民國十五年	四、六七一	三、七六六	一、六七六	二、三九三	二六、七一六	二六、七一六
民國十六年	三、一六三	三、九八七	一、四七四	一、四三〇	二、五二四	二三、一七七、二一七
					一〇五	一七、六七六
					一〇九	八、七二六、八六六
					一九一	七、七四七、七五三
					〇九、九四八	七、七四七、七五三
					九、九四八	六、六三八、〇六九
					一五、九〇六	六、六三八、〇六九
					七、〇五五、七四〇	七、〇五五、七四〇
						其他合計

地鐵輸出國別表

(單位關平銀兩)

其他合計

	美國	英國	日本台灣	印度	香港	
民國二年	五五、四六三	一八、二〇八	六、二六八	七、〇八八	一二、三九六 蘇
民國七年	一三四、〇五七	二三、一六一	一七、七六九
民國八年	二九四、八三三	二七、七五八	六九、六二五	一〇〇、四二九	五一、二〇五
民國九年	一、〇三三、〇六七	一一四、九九九	一七二、六七五	二六、四二一	二八、八〇八	七四、七二五
民國十年	六四八、一八二	九三、三三三	八七、三六六	二四、九四〇	三九、三一四	九〇、四五九
民國十一年	二、六九七、一七五	一〇四、七六四	三三三、二八四	一六、〇四六	四三、六三〇
民國十二年	四、〇一六、八二〇	一一八、五八〇	三七七、一七〇	二八、八三七	三四、八四六
民國十三年	五、三三六、六三三	二四三、七九一	一九〇、一七八	三八、八五五	三〇、四四四
民國十四年	五、二四五、九四三	二四〇、四一〇	六三一、三六六	二八、八八七	三六、八一四	一七九、〇八一
民國十五年	五、二一六、三五九	二〇七、五二六	四七八、六三七	三一、八九四	三二、四八九	一八〇、〇九四
民國十六年	四、八五〇、八二二	四四二、八八七	九〇八、四七七	四五、六七三	六六、六五二	一七六、五四三
						六、五二五、六四六

原书缺页

毛類採取後，先須加以剔選，而毛類原有之脂肪，必須洗盡，蓋有妨於將來之染色工作也。洗脂之法，或用石灰，或用肥皂，或用鹹水，通常以用鹹水者為多。既洗之後，曝之使乾，再設法彈鬆之，先前用鐵鉤分析之，後以長織維之易於折斷，故皆改用木弓，一如彈棉之法，自此可預備織成地毯矣。

地毯織造之法，純恃手工所織之花樣，雖不及新式機械之巧妙，亦有足觀處。惟一花一鳥，地毯皆然，不思翻新，是其缺點。普通為八結、雲鈎、蝴蝶、牡丹、福壽等式樣，其顏色總以黃藍二色為多。黃色之毯，以昔日宮廷中皆用之，故最富經驗，出品亦較良。猩紅色地毯，以甘肅省甯夏道一帶所出者為佳。

第二節 貿易

地毯之品質，極難言之，不特於毯之顏色，質料，織法，加以注意，蓋非老於斯業，頗覺困難。宣統年間，北津最良之地毯，每尺祇值五角左右，至民國四年，每尺頓增加至六七元。實由於原料之缺乏，與夫需要之激增也。尤以美國一帶之銷路為盛，當一九一二年，美國某商人旅行中國時，增採辦中國之時式地毯數件，運赴北美，供彼等店肆之陳列，是為中國地毯運美之權輿。最初輸出總額，不過十數萬兩，後乃自數十萬兩增至百萬兩以上。如民國二年之對外輸出總額，為一二、三九六條，值關平銀九九、八六三兩；民國七年為一七、七六九條，值三六七、九四五；民國九年增加至七四、七二五條，值一四二四、二三七兩。其中運往美國，佔二、四七八條，值一〇三三、〇六七

兩日本台灣二、四〇一條值一七二、六七五兩；香港二、二〇九條，值二八、八〇八兩；英國一、七〇四條，值一一四、九九九兩；澳洲、新西蘭等處，九七五條，值三、七五四兩；安南九三三條，值一三九一兩；加拿大五九七條，二三、五九五兩；朝鮮、五二二條，值二、六七六兩；新加坡等處，三七五條，值五〇六兩；此大略之情形也。最近數年來，美國方面之銷路，更形活動。民國十一年，運銷美國市場者，值二、六九七、一七五兩；民國十二年，達四、〇一六、八二〇兩；民國十三年，為五、三三六、六三三兩，與輸出總額五、九八九、八〇八兩相較，約佔百分之八十九兩。民國十五年，更達五、六一六、三五九兩，十六年稍減，計值四、八五〇、八二二兩。其他日本、英國等，亦有相當之進展，而佔次要之位置焉。

第八章 莖麻 (Ramie)

第一節 莖麻之種類

苧麻爲多年生草，幹長三尺至八尺，歐西人士謂之支那草。種類極多，可分收穫之順序，產地，形狀與品質而言。自收穫上之順序觀之，有春麻、月麻、嫩麻、頭麻，二麻與三麻之別，究其實則同屬一種品質也。大概月麻與二麻爲白色，纖維最長，富光澤。嫩麻與三麻之纖維較短，呈純白色，以產地之不同，又得區之爲川麻、沅江麻與武穴麻等。沅江麻產於湖南省，品質最爲良好，色淡褐，纖維強韌，幹長可六尺，每年出現於漢口市場者，達十萬斤內外。自形狀上觀之，有片麻、線麻（絲麻）、青麻等。而品質上則又有標品，花色、頭莊、二莊、三莊、粗莊、腳莊、白麻、毛把之別。毛把與白麻爲最普通者，白麻以湖北省以及其他江南各地爲盛，而集散於武穴。其中自以興國州太平塘產爲最良，大冶縣牛湖、西湖，江西省瑞昌產者次之。交易上之習慣，每區別爲頭莊、二莊、三莊、粗莊、腳莊，標六種。頭莊品質粗硬，長三尺八寸以上，二莊爲三尺內外者，三尺以下稱三莊，粗莊最長，短而粗者爲腳莊，最短者爲標。以言毛把，長三尺以上者稱頭字，三尺以下爲二字，下莊則爲品質最粗者。至於麻類纖維品位之鑑定，通常以纖維之長

短，夾雜物之多少，分裂之多少，纖維之粗細，色澤，彈力，吸溫性等，為視察之標準。

苧麻之收穫，於雨水平均之地，年有三次。武昌一帶，第一次收穫之苧麻，長自二十五英寸至四十英寸，第二次收穫者與第一次相仿，第三次則較少，總在二十英寸與四十英寸之間。沅江，蒲圻，九江附近，大致相同，無甚差別。

第二節 莵麻之產地

近數年來，國內苧麻之消費量日增，輸出數年益旺盛。以是需要激增，各地栽培者甚多。重要各產地，推湖北，湖南，四川，貴州，廣東，江西諸省。湖北省陽新，大冶，咸甯，蒲圻，通山，嘉魚，武昌，廣濟，黃岡，黃石港，安陸，施南。湖南省平江，辰州，瀏陽，沅江，常德，長沙，永定，新化，慈利，靖州，安化，甯遠，桑植，芷江，龍陽，荳山，乾州，臨澧，醴陵，宜章，興甯，甯鄉，祁陽，嘉禾。四川省雙流，灌縣，崇慶，新津，洪雅，慶和，高縣，綏化，達縣，東縣，重慶，白馬鎮，百子頭，申家灘，羊肚溪，涪州，合州，隣水，中江，隆昌，內江，大竹，三匯場。江西省萬載，上高，宜黃，崇仁，樂安，建昌，武甯，若溪，廣信，南昌，饒州，撫州，臨江，吉安，贛州，甯都，德安，德化，宜春，瑞州。廣東省廉州，瓊州，番禺，潮州，雷州府下等是也。其他如廣西省南甯，梧州；福建省泉州，興化，延平，福清，建甯，南安，安溪，永春，龍岩；江蘇省蘇州，揚州，松江，各府下；山東省泰安，新泰，萊蕪，曲埠，睦，萊陽，濟南，臨清；河南省開封，汝甯，光州，永定；陝西省西安，平利，鎮安，安河，摩西；東三省黑山，北鎮，盤山，烏丹城宣

化、順德、吉林、盤石、樺甸、濱江、敦化、額穆、龍王廟、沙河子、新民屯、小北河、海龍、本溪、騰堡等地亦盛。

第三節 荸麻之用途

苧麻當夏秋之間，剝取後，浸入水中，俟其綠質腐敗脫落，劈之成絲，製線及布，各省皆盛，尤為夏布之重要原料。

第四節 貿易

苧麻自產地至輸出口岸，手續極繁，先由地方經紀人，雇用本地商人，向種植苧麻之農民預定貨物，而付貨價三分之一為定錢，並訂有契約，以資遵行。一屆收穫之期，農民即以貨物交與本地商人，其餘三分之二之貨價，自可結清。本地商人收到貨物後，轉交地方經紀人，回扣自百分之二至百分之五不定。又有苧麻行者，以收買地方經紀人之貨物為業。漢口一帶，此種設立之機關甚多，幾成為全國苧麻行之中心，其性質與通常之公會相仿。至於西商之採辦苧麻者，與苧麻行並非直接交易，每有買辦為之介紹，成交後，買辦亦可得佣金百分之二三焉。重要輸出口岸，自推漢口為最盛，九江、岳州次之。每年對外輸出額，頗佔大宗，年有二三百萬兩之鉅。如民國十四年達三、六六九、二七四兩，十五年增加至三、七一六、三六二兩，十六年稍減，全年出口總數為三、六四一、八六六兩。

銷路以東洋莊探辦為最多，十六年有一四八、八二九擔，值二、五七五、六七三兩；比利士三八、三六六擔，值六六四、三九一兩次；香港七、七八八擔，一三五、五二三兩；英國六、七八二擔，一一八、七三七兩；法國六、四八七擔，一一六、五二七兩，又次之。

苧麻輸出數量與價額表

民國二年	一七一、一二六擔	二、四八八、八七四兩	民國十年	一九七、二四二擔	二、七九三、七五四兩
民國三年	一二九、七九五	一、六六四、四六三	民國十一年	一八七、二八〇	二、九四三、四二九
民國四年	一六一、七〇〇	二、二九七、一一八	民國十二年	一五五、三四六	二、七七五、九一七
民國五年	二一〇、九三一	二、八二一、二〇八	民國十三年	二七七、六二五	四、九三五、〇三〇
民國六年	二七六、九三一	三、五八二、四〇九	民國十四年	二〇一、四九五	三、六六九、二七四
民國七年	二七四、六二九	三、五四二、六二〇	民國十五年	二一〇、五八三	三、七一六、三六二
民國八年	二一〇、九四一	二、七三二、八四七	民國十六年	二〇九、九七五	三、六四一、八六六
民國九年	一八七、〇二〇	二、八八四、二〇一			

附苧麻線輸出數量及價額表

民國二年	一一、五四八擔	三四〇、一二九兩	民國十年	一一、四一四擔	三六六、二九四兩
民國三年	一〇、四三四	三〇六、六二六	民國十一年	一〇、七一二	三三〇、六三四

民國四年	一一、一一一	三二七、九四二	民國十二年	一二、一四二	三五四、八一六
民國五年	八、三三四	二五九、五四三	民國十三年	八、七四一	二四七、一四八
民國六年	七、九四一	二四三、三〇五	民國十四年	九、五八一	二六五、六三八
民國七年	五、七四七	一六三、四二七	民國十五年	一一、二七二	二九五、六七五
民國八年	九、二二三	二五二、九五三	民國十六年	一〇、九八一	二八五、〇一六
民國九年	一〇、八一〇	三三八、〇三五			

第九章 火麻 (Hemp)

第一節 火麻之產地

火麻屬桑科(Moraceae)為一年生植物，印度及波斯地方，蓋其原產地也。高可六尺，長成後則有十五六尺，一稱大麻，而普通即以麻名之。將外皮與幹除去，而留其內皮，即得帶黃褐色之纖維，為麻類中纖維較細者，有光澤，而具強性，供麻布、帆布、包皮等之織造，極為相宜。而撚索及繩等原料，亦多用之。

世界各國火麻之產額，總數約有二十五萬噸，俄國與美國其主要之產出國也。據一九二六年之統計，俄國火麻栽培地為二二一五六〇〇英畝。其他如日本、法國、意大利等產品亦佳。日本之榜木、鹿沼地方所產者，俗稱鹿沼麻，與榜木羣馬產皆為良好之品。北海道、宮崎、島根、長野、廣島、富山等地次之。以言中國火麻產地，則西北兩部地方為主要。四川省之東部、湖北省、河南省之南與東南部、山東省之濟南與袁州府間一帶、河北省之中南部地方、山西省之南部地方是也。最近廣西省對於火麻之栽培，頗多發展，梧州一帶尤為發達。滿洲產之火麻品質稍劣，惟遼陽出品，尚差強人意耳。

第二節 貿易

火麻之輸出國外者，初不過數十萬兩，民國五年達一百六十萬兩，民國十三年增加至二百萬兩以上，最近十六年之出口總數，幾有三百萬兩，多銷於日本、台灣、香港、英法、比德等地。十四年輸出向日本、台灣者，有五三、八三七擔，值六八七、一五一兩，佔第一位。比利士二四、六九六擔，值四二六〇六〇兩，居第二位。香港二、一五〇擔，值三七〇、八三五兩；法國二〇、六七九擔，三四六、二一八兩；德國一三、〇五一擔，二三、一八五六兩；美國一、一〇六三擔，二〇、四九七八兩；又次之十五年日本方面之銷路，有七、一七〇一擔，值九八四、七八三兩。比利士三九八〇二二兩，香港三一、一九三二兩；法國二八、五六二〇兩；德國一五六、七六二兩；英國一二六、〇八四兩；美國八三、〇二〇兩，等次之。惟在十六年，日銷降落頗甚，全年輸出至該地者，祇三五、九六五擔，值五一、二二六三兩，較十五年減少四七、二五二一兩。而比利士市場華麻之需要，極為良好，故輸出至比利士者，有五五、九三二擔，值一、一二三、九二一兩。香港方面亦增加至四六二、五九三兩；法國有三二六、九二〇兩；英國為二四九、二八九兩。

火麻輸出數量與價額表

民國二年	八〇、九一三擔	六二六、〇三三兩	民國十年	一二三、六六四擔
民國三年	七五、三二〇	七〇〇、八九七	民國十一年	一三〇、六四〇

一一、五四一、八二七

民國四年	七四、九九〇	八五〇、八二二	民國十二年	一二九、二三四	一、六〇六、五七三
民國五年	一四三、七九九	一、六九九、三七一	民國十三年	一五八、一二八	二、二三一、九四三
民國六年	一四八、六九一	一、六四五、二八六	民國十四年	一六三、六三三	二、五八四、三五〇
民國七年	一四八、六三四	一、八一七、七七一	民國十五年	一五五、五九四	二、四六七、五四三
民國八年	一〇一、一九六	一、〇四一、〇二五	民國十六年	一六二、三四六	二、九〇八、〇九九
民國九年	一一二、七五八	一、三五六、五〇三			

第十章 黃麻 (Jute)

第一節 黃麻之產地

黃麻一名繖麻，屬田麻科 (*Tiliaceae*)，其上等品纖維呈黃白色，或銀灰色，有光澤，富強力，印度及附近島嶼，乃世界主要之黃麻產地也。一九二六年之栽培面積為三一五〇〇〇英畝，產額有一〇八八八七〇〇包，其高自五英尺至十二英尺不等。日本產者為一年生植物，高祇二三英尺或三四英尺而已。至於中國出產之黃麻，大抵以北部地方為主要，河北省尤其著名者也，佔全國總產額四成乃至六成。山東與山西二省亦盛。南部一帶，則尚推廣東與福建，稍有微額之麻出耳。其他滿洲一帶，如遼河、嫩江、松花江、圖們江等地，每年產額約三一〇〇〇磅。

黃麻之纖維極粗，其下等者多半供繩索麻袋等之製造，而窗紗、地毯之織造，則需優良之纖維。

第二節 貿易

黃麻之輸出，以天津、漢口與汕頭三港為盛。天津方面輸出時之包裝法，約有三種。普通每捆三百八十磅，此外尚有四百二十六磅，與四百九十三磅二種。漢口市場交易者，連包皮在內，共六百零一磅。上海市場普通為五百十七磅。輸出目的地，當民國二年時，以法國日本與英國三國為最多。法國二七、四二八擔，值關平銀一九三、八五七兩；日本一六、二七四擔，值一一九〇三一兩；英國一六、一六七擔，值一一五七五七兩。至民國七年時，輸出至日本者，頓形發達，全年總輸出額為八四、七〇二擔，值四五九、八三九兩。而出口至日本者，佔六五、四七一擔，值三五八、九一三兩。英法各國不過一二千擔而已。民國八年無大上落，自民九以後，黃麻之輸出，頗形不振，較前衰落甚多。至十四年形勢忽變，久為沉悶之黃麻銷路，頓覺光明，並開歷年來最新之紀錄，全年輸出數有一八三、二二擔，值一三四一、二七一兩。由於日銷之發達也，佔六八、一八九〇兩；法國二二九、八七六兩，次之；英國一二四、五五九兩，又次之。十五年並無特出之情形，受英法市場之打擊，較十四年減少三六四、一四〇兩。十六年東銷極事發展，全年內輸出者，有一〇〇六、三七八兩；法銷亦多恢復，又在二十萬兩以上；美國方面之增加至一〇一、二五五兩，又為最近之事。英銷雖較前年為良祇六九、八三二兩；其他如德國之五七、八八一兩；荷蘭之五〇、八四八兩；安南之二七、六六八兩；南美洲之一九、二二六兩；爪哇等處之九、二八四兩；暹羅之八〇〇三兩；新加坡等處之七、七五〇兩；西班牙之五、九一〇兩；比利時三五、八九〇兩；意大利之三四二〇兩；香港之一、六八三兩；朝鮮之三七二兩等又次之。

黃麻輸出數量與價額表

民國二年	一〇五、四〇四 據	七一五、三〇六 兩	民國十年	二八、〇一八 據	一六八、八七四 兩
民國三年	六一、〇七三	三四七、〇四四	民國十一年	四二、八八一	二〇五、七二〇
民國四年	一〇三、八三八	四八二、三二六	民國十二年	四〇、〇三三	一九七、二一五
民國五年	一〇一、三九〇	四九三、九七〇	民國十三年	二九 四四四	一六〇、七八〇
民國六年	八五、〇四五	四五一、九三五	民國十四年	一八三、二一二	一、三四一、二七一
民國七年	八四、七〇二	四五九、八三九	民國十五年	一一五、二〇六	九七七、一三一
民國八年	七九、五一二	四五一、二一〇	民國十六年	一七一、九二〇	一、五九九、四四五
民國九年	三〇、〇五三	一五九、九四〇			

第十一章 夏布(Grass Cloth)

第一節 各省夏布業之狀況

夏布之原料，以火麻之纖維為主，苧麻黃麻或波羅之纖維亦可，乃中國重要工業之一也。尤以福建、廣東、江西、湖北、湖南、四川、江蘇等省為發達，出品極為精良，中外人士咸樂購之。

廣東省夏布之出產，以東部潮循道較為發達，汕頭附近一帶以及舊潮州府下各地皆是，揭陽一縣尤為全省重要夏布織造之中心也。品質之精良，推為全國第一。產品除供本地人民之衣料外，每年移出他省者甚多，大都散集於汕頭，再由此出口。

福建省廈門道之南安、安溪、永春三縣，本為火麻苧麻出產最盛之區，以是全省夏布織造工業，亦以該地附近一帶為發達。原料以苧麻為多，惟以境內之產額有限，每不能應供廠家之需要，故年來由湖南、陝西、河南、湖北、江西、廣東等省輸入之麻類，數量極鉅。間亦由台灣香港等地輸入，每年所出夏布，大約總在十五萬擔左右，值銀一百五十萬元以上。本地消費者，多為質地低劣之品，上好細潔之產，皆裝運至廈門、上海、汕頭，而輸出至國外焉。

江西省麻類出產地，以東部與北部為發達，散集於九江者，為額甚鉅。夏布之織造，則省內各地皆盛，惟以舊撫州府屬臨江、崇仁、宜黃、廣昌、萬載等地為出產之中心。宜黃地方以細麻布並巾物（一尺二寸）之織造為多，萬載地方盛廣巾物（一尺五寸）之織製，故市場上每有萬載夏布、宜黃麻布之稱，其盛名可知。

湖南省所產之夏布，以麻類纖維之堅韌細潔，故出品甚佳良。重要產地，如沅江、湘江、資江三流域均是也。每年全省產額達五十萬擔，湘江道之瀏陽、醴陵，長沙、衡陽道之衡州、常德等地，其主要之市場也。

四川省之夏布業，以川麻為主要之原料。鄰水、重慶、內江、大足、江津、榮昌、隆昌等地方，皆為重要之產地。其品大都自重慶往漢口，而運至上海，再輸出於北部諸省或海外各國。

除上述以外，其他如北部山東、河北兩省之織製，亦稍有成績之可言，輸出時，每取道烟台、青島、天津等地。

第二節 夏布之種類

夏布之種類，普通可分為粗夏布、細夏布與漂白夏布三種。設以質地與布疋之長闊而區分之，則有萬載、甯都、瀏陽、宜黃、波羅、外安、無錫貨等之別。萬載夏布產於江西省之萬載，闊一尺七寸，長短時有不同，原料以苧麻為主。甯都產江西省之甯都，闊一尺四寸，長九丈，質輕而白，是其特色。瀏陽夏布，係湖南省瀏陽縣所產，質地精細。宜黃夏布以亞麻織成，故細潔如綢，闊一尺，長二丈八尺。廣州潮州之夏布，係波羅樹皮之纖維製成，稱波羅麻，為黃

色。闊可一尺二寸，長度無定。外安夏布爲產於江蘇省之太倉者，闊一尺二寸，長四丈四尺。無錫貨或稱洋莊，產於蘇州一帶，闊一尺四寸，長五丈二尺。

第三節 貿易

夏布之輸出貿易，在民七以前，祇值一、五〇〇、〇〇〇兩左右。自民八以降，竟增加至二、五〇〇、〇〇〇兩以上，其最大之消費國，自推朝鮮爲第一。如民國二年出口總數一、五、五五〇擔，值關平銀一、五六六、三〇五兩，其中往朝鮮者，佔一〇、七四三擔，值一〇四〇九四〇兩；香港二、一二〇擔，值三一九、五四八兩；日本台灣一七〇〇擔，值一六九、九五〇兩；往朝鮮者，概屬四川、福建、廣東、江西所產優良之夏布。近數年來，自一萬擔增加至二萬擔以上。民國十六年粗細夏布之輸出總數爲二五、七六〇擔，值五、三五四、七四四兩，銷路自以朝鮮爲最發達。所銷之細夏布，有一八、三一二擔，值四、四六六、三〇三兩；粗夏布四五三三擔，值三六〇、九五六兩。日本一五二七擔，值二六一、六〇三兩，居第二位，內細夏布佔八七八擔，值二〇七、四四二兩。香港、英國、新加坡等處又次之。

細夏布之輸出口岸，以四川重慶爲最佔重要，江西九江次之。民國十六年由重慶輸出之細夏布，有一、六三七擔，值六〇四三、六一七兩；九江一二、四四三擔，值二一八三、七四七兩；其他如汕頭之八二、三三二兩，上海之四二七、〇〇〇兩，漢口之三〇八、一七六兩等次之。至於粗夏布，則以九江爲大宗，十六年達七、三一八擔，值五

三、六、二、九、兩、上海九、二、一、四、〇、兩、汕頭八、六、七、三、〇、兩、漢口五、三、〇、四、〇、兩、廈門一、八、八、七、六、兩、蕪湖一、五、八、四

○兩等次之。

夏布輸出國別表

(單位: 擠)

年 次	香港	新嘉坡	朝鮮	日本台灣	其他合計	關平銀
民國二年	二、一二〇	八八五	一〇、七四三	一、七〇〇	一五、五五〇	一、五六六、三〇五兩
民國七年	一、二三三	九一三	一〇、六〇八	一、五〇五	一四、二九二	一、九一五、八一二
民國八年	一、二三六	八四八	二三、〇七八	二、〇三一	二六、二七七	三、一三八、〇八二
民國九年	一、七〇七	一、二四一	二〇、八二九	一、九七六	二五、九〇〇	三、五九三、六三四
民國十年	一、三七一	五九三	二四、二四八	二、一七九	二九、一五五	三、六二六、三三四
民國十一年	九七七	九九〇	三三、一八六	一、三〇二	三六、五八五	三、八一二、〇二七
民國十二年	一、〇七九	一、七九五	一四、六八八	三、四四三	二一、一九七	二、五三九、七〇六
民國十三年	九七〇	一、〇五六	一九、六五三	二、七七九	二四、六一四	三、五四三、九三二
民國十四年	五一三	七四	一八、六八四	一、二九六	二〇、七二六	三、四六八、八〇八
民國十五年	三二〇	九六	二四、二三七	一、八七〇	二六、六五九	五、四八七、八八五
民國十六年	七四八	三八	二三、八四五	一、五二七	二五、七六〇	五、三五四、七四四

第十一章 紙 (Paper)

第一節 紙之產地

中國造紙術之發明，遠在後漢和帝時，有蔡倫者，桂陽人，官中常侍，曾以楮皮及破布之類爲原料，造成紙張，天下咸稱蔡侯紙。今萊陽縣北有蔡倫宅，其造紙處也。後東傳於高麗與日本，八世紀時，阿刺伯人在中國學得造紙術，漸及於西方，十一世紀阿刺伯人侵入歐洲，造紙術始傳於各國，此其略史也。惟吾國以習慣所尚，每事固守不易，遂鮮致進步，而歐美各國而以科學之發達，日新月異，反多發展，殊可慨也。

考中國紙之出產地，以福建、江西、浙江、安徽、湖南、廣東等省爲盛。福建省建安道之將樂、洋口、汀漳道之長汀，連城，上杭；江西省廬陵道之泰和；贛南道之石城；豫章道之鉛山；浙江省錢塘道之富陽、餘杭、臨安、於潛；會稽道之蕭山、甯波、奉化；安徽省蕪湖道之宣城、甯國、涇州；安慶道之安慶；湖南省湘江道之益陽；四川省建昌道之吳江，東川道之梁山；陝西省之白河；河北省之遷安；江蘇省之蘇州等地是也。就中福建、江西與浙江爲有名。

第二節 紙之種類

紙之種類極多，通常可分爲竹紙、皮紙、草紙、反古紙、顏色紙與加工紙六項。毛邊紙，連史紙，貢川紙，大汀，玉扣，玉版，夾臘光，川連，元書紙，昌山紙，海放紙，大羅地，時則紙，頂炮紙，夾川紙，鉤邊紙，蓬紙，毛六，毛泰，表芯紙，黃燒紙，表黃，竹燒紙，白關紙等皆屬竹紙類。桃花紙，桑皮紙，銀皮紙，參皮紙，純皮紙，奉化皮，宣紙，安慶皮，芸皮紙，雲皮紙，棉紙，皮紙，毛頭紙，高麗紙，油於紙等則爲皮紙類。草紙包括坑邊草與草紙二種。顏色紙有牋紙，廠黃，紅裱，綠裱，梅紅紙，丹紅紙，巨紅紙，浣紅，京紅，廣紅，葵紅，明皂等名目。玉版，海月，砸箋，印花紙，油紙，表古，嵩紙，則屬加工紙之一類。此外尚有新式機器仿造紙類等。名目繁多，不勝概述。

毛邊紙，爲吾國普通紙張中用途最廣者。其製造原料，全屬竹類。質地細嫩平滑，爲書畫家所樂用。每年全國產額，計值四百萬元之譜。以江西省之泰和，橫江，興，福建省之洋口，將樂地方，爲有名。江西省多用孟宗竹爲原料，閩省則用麻竹。其尺寸通常爲縱二十二英寸，橫五十一英寸，每一九五張稱一刀，但因產地槽戶之不同，亦稍有差別。交易上六刀爲稱一件，故有六五毛邊之特名。重量每件總在四十五六斤左右。價格一項，則以牌號與尺寸大小，頗有上下。大約縱二十二英寸闊五十英寸者，每件計值規元十二兩。

連史紙較毛邊紙爲白，係用碱水蒸煮，再漂洗清淨者，永不變黃，此爲其特長處，初名連四轉傳連泗，今又名

連史。相傳爲福建有連氏兄弟，咸精於造紙之術，因其行三，行四，故名，惟連三之名，今不傳矣。其出產地，自推福建省爲第一。洋口一縣，尤爲發達。江西省之鉛山縣屬陳坊地方，亦頗有遐邇名。現今所用之連史紙，蓋皆產於該二處也。總產額計值一百萬元以上。普通之尺寸，爲二十五英寸與四十四英寸。每刀九十五張，每件十五刀。市場上連史之牌號，有和茂本莊，文康京莊，本連史，復原甡加蓋，樹大加魁，祥興本建，周文盛扇料連史，興華連史，好連史怡怡京莊連史等。怡怡京莊連史爲江西河口產，周文盛扇料連史爲福建出品。該二種牌號，尤爲傑出者。

元書紙以產於浙江省富陽之大嶺小嶺以及蕭山等地者爲最優良之品。其原料以石竹爲主，呈蛋黃色，質地較毛邊爲劣。有六千元書與五千元書二種，六千元書爲縱十九又三英寸闊十八又三英寸，每刀九十張，每五十二刀稱一件；五千元書爲十七又五與十六又五英寸，每刀九十張，每件四十六刀，此其通例也。書寫賬簿以及記錄包裹等均用之。

毛六，一稱毛鹿，爲福建產。色白而質簿，尺寸爲十九與三十一又三英寸，每件十二刀，每刀一百五十五張。市場上有天字毛六，與改良毛六二種，亦不過尺寸大小之異，用途頗廣。

毛泰，色稍黑，極柔軟，乃福建之特產品也。尺寸爲二十又二與三十八又三英寸，每刀一百九十六張。每件十二刀，有松柏長春等之別。最近上海中華書局所用之仿宋紙，即毛泰紙之變名也。

白關紙產於福建省之關山地方，故亦有關山紙之稱。顏色純白，用途極廣。賬簿，記錄，稿紙，書寫，均用之。尺寸

十九與三十一又二英寸，每刀一百五十五張，每件十二刀，時價計值九元。

川省爲我國古時有名之產紙地，夾江一縣，尤推爲中心地。所產之紙稱夾川紙，係以水竹、夾竹、氣竹等原料製成。尺寸十六又五與七又二英寸，每刀七十張，每件一百六十五刀，用途頗廣。

貢川紙，大汀，玉扣，玉版，夾蜡光，川連，大羅地等，皆產於福建省昌山紙，海放紙，表黃，黃燒紙，竹燒紙等，則爲浙江產。表芯紙與蓬紙，產於江西省。四川省梁山縣產鉤邊紙。時則紙與頂炮紙又爲湖南省之出品。

宣紙產於安徽省之涇縣地方。據胡侍珍珠船云，永徽中，宣州僧欲寫華嚴經，先以沈香種楮樹，取以造紙，故其名稱，當始於明代初年也。伊始之時，宣城，甯國，太平，涇縣，皆爲宣紙之出產地。近則惟涇縣稍盛耳。所稱涇縣紙，卽此故也。市場上宣紙之尺寸，有四尺五尺，六尺之分，又有單宣，夾宣，皮單，皮夾，草單，草灰，接半，長扇，短扇，羅紋等稱。價格之規定，以四尺草單爲本位，五尺草單較四尺草單增百分之五十，而六尺草單又較五尺者增加百分之五十。

安慶皮產於安徽省之安慶，一稱安慶雙參，芸皮紙爲貴池出品，皆爲張龜用。

桃花紙，銀皮紙，桑皮紙，參皮紙，純皮紙，奉化皮等，皆爲浙江省之出產品。桃花紙產於潛縣，桑皮紙產餘杭，富陽，爲張龜之要品。銀皮紙取百脚樹皮製成，通常作包銀元用。包於茶葉多用參皮紙，其原料爲桑皮，皮腳料，反古紙腳等，有六印參皮，市參皮，參頂，後尖皮，四連大參皮，毛邊參，茶箱參，白料參，灰參皮等名稱。純皮紙以富陽縣之

出品爲多，塗以桐油，即成油紙，爲防水之要用品。

毛頭紙，係桑皮以及舊麻繩等廢物製成。河北省遷安縣一帶所出之毛頭紙，即完全以桑皮爲之。東三省各處，則均屬舊麻繩等廢物。以尺寸大小，有三五毛頭紙，三六毛頭紙，三八毛頭紙，四二毛頭紙四種。此外尚有呈文毛頭紙與雙抄毛頭紙二種。奉天產品，由牛莊運出者，另稱牛莊皮紙。

高麗紙，與油彩紙，產於河北省，皆爲一種仿造高麗紙，通常以之爲糊窗用，雖極寒之天，亦可免冷風之侵入，以是華北一帶之用途極廣。

皮紙以產於陝西省之白河縣者爲有名，係以楮皮製成，尺寸縱二十二寸，橫十六寸，每刀九十五張，積三十刀爲一簍，多運赴漢口市場。

雲皮紙，產於湖北省鄖陽縣，用途極廣，糊窗，賬簿，文書等皆用之。而書類契約之需永久保存者，尤以此紙爲宜。與貴州省所出之棉紙，有同一之功用焉。

坑邊紙，俗名毛紙，產於浙江省富陽蕭山附近，係稻草製成。質地粗劣，有雙官牌，萬字牌，三元牌，與蘇坡四種。每刀九十張，每塊十二刀，尺寸爲八又五與七又五英寸，重量以萬字牌爲大，價亦最高。吾人日常如廁皆用之。草紙則爲南貨茶食店包裹之要品，尺寸縱十三又五英寸，橫十一又五英寸，每戶四張，十四戶半爲一刀。八刀半爲一塊，重可七斤五兩，價約二角五分左右。

顏色紙，以白紙染成者爲多，染色手續，先用拖膠，待其乾後，再施顏色，雖各地皆有出產，而以蘇州爲有名。版紙多產於蘇州，故稱蘇屏。係用宣紙爲原紙，先行加裱，而施以顏色，或洒金箔而成者也。普通以珠砂牋珊瑚牋居多，尺寸各地不同，惟其習慣，均照蘇州裁尺九折，爲書畫家之必需品也。

加工紙係指紙張裱厚，研光，以及施彩，加紋等而言。玉版及海月，爲選上等連史製成，用爲屏聯極宜。硯箋則爲研光之宣紙，多供名人書寫以及上等信箋用。窩紙即爲模樣紙，亦稱壁紙，屋內裱貼用之。印花紙，咸產於廣東省，花色甚繁，種類極雜，惟多爲美術裝璜及供神佛之用。油紙亦爲加工紙之一，產量極盛，每年計值三十萬元。市場上每百張爲一刀，五刀爲一捆。

第三節 製紙原料

造紙原料，舉凡各種植物纖維，皆可製造，大都總以蘿蔔皮，三棱竹，木材，破布，廢紙，蘆葦及其他爲之。蘿蔔，有麥蘿蔔與稻蘿蔔二種，裸麥小麥之蘿蔔，較爲良好，稻蘿蔔須擇其莖幹之細長者，方爲合格。

楮皮，爲我國製紙固有之原料，溫暖地帶皆產之，剝其皮而曬乾之，即可爲造紙之原料。

竹之纖維甚佳，極適於上等印刷紙之製造，浙江，福建，湖南，江西，貴州等省，皆爲竹類豐富之出產地，故原料可不必憂慮，惟對於其中之澱粉量等，需加以研究，方能有所發展也。

木材爲製紙之重要原料，松、檜、白楊等，纖維細長，品質優美，生育又易，以是歐美各大森林國家如瑞典、加拿大等，紙之出產，非常豐富。

廢紙，以製紙廠所出之紙屑，印刷所切下之白色紙屑等爲佳。印刷紙類，纖維極短，須另與其他原料品混合後，始能製得良好之出品也。

河北工業試驗所，曾以蘆葦，試驗造紙，成績頗佳。其他如桑皮、楮樹等，亦可供製紙原料用。

第四節 製紙法與今日之現狀

中國造紙之法，類以手工製之，各地情形，稍有不同，然總不出蒸煮、漂洗、搗叩等手續而已。設備極爲幼稚，此蓋爲中國造紙無進步之最大阻礙。今以吾國宣紙之製造法，略述之於左。

宣紙製造之主要原料，以稻藁與櫟皮等爲多，蒸煮時概用石灰，蒸煮次數，稻藁與櫟皮微有不同，通常稻藁祇煮二次，而櫟皮則非三四次不可。既煮之後，復洗淨之，曝於日光中，用臼搗爛之，遂成紙料。其調和之分量，爲藁七分與櫟皮三分，即可行撈紙之手續矣。其器具爲竹絲編成之簾，置於木樁上，而紙料則儲入長七尺寬六尺深四尺之桶內，撈時須工人一或二人，以木樁之一端，浸入桶內，撈取紙料，鋪張於樁上去其水分，而乾燥之，然後切成一定大小，或爲四尺與二尺，或爲六尺與二尺八寸者，並無一定也。

上等紙輸出國別表

(單位擔)

次等紙輸出國別表
（單位擔）

	香港	澳門	安南	暹羅	新加坡	朝鮮	日本台灣	其他合計
民國二年	五九、五六八	一〇、五三三	一一、六七二	五、九六四	一一、五四七	一、五七四	三、一〇一	一〇六、六〇三 擔
民國七年	三二、二七九	七、八〇七	二、四七七	五、八四七	八、四九一	七六四	八三五	五九、五〇四 五二五、九三六
民國八年	五三、九九一	八、六一六	二、二九七	八、四〇〇	八、五六〇	二、〇三一	一、〇九三	八六、四六三 七二八、四二一
民國九年	六二、二二九	八、二三一	四、〇三七	四、七五九	七、七七七	一、五〇六	一、六八九	九二、三一六 七三一、七四二
民國十年	五〇、一五〇	八、八五八	四、三六九	七、九五八	八、二七二	二、五七九	四、九七六	八九、八九二 八一三、八八九
民國十一年	四三、六二八	六、九九四	三、六〇八	六、三九八	七、五一七	二、七二九	五九三	七四、一二二 六五九、六六一
民國十四年	四一、三六一	五、七四五	七、三八〇	四、九一九	九、七六五	三、〇九一	一、七一一	七六、〇一二 一、〇八四、〇二三
民國十五年	二四、〇四六	二、八八一	六、四七九	五、〇五二	一七、〇七三	二、九六四	四、八三六	六八、一八〇 一、〇八四、〇二三
民國十六年	五一、三四九	二、二〇〇	一、九七四	四、一三三	一〇、〇九三	三、三四八	一、四二一	七六、四六六 九〇三、二五八

下等紙輸出國別表

(單位擔)

	香港	安南	澳門	暹羅	新加坡	俄國	朝鮮	其他合計
民國十四年	一九、八四八	一一、八六	三六一	二八一	九〇	九六	二六	三二、九〇八 擔 一九一、八五五 兩
民國十五年	三二、五二九	二〇、二六〇	二八三	二三一	五三八	一八五	四四二	四九、六八九 二八五、九一六
民國十六年	三〇、一〇七	一〇、七三七	二一〇	一〇〇	三九七	一七二	一八九	四二、一〇四 二三四、二七四

紙箔輸出國別表

(單位擔)

	紙箱輸出國別表	(單位: 擔)							
	香港	澳門	安南	暹羅	新加坡	爪哇	印度	日本	其他合計
民國九年	二二、三二七	二、三一二	八、七二五	七、九一八	二九、二一九	六三二	六九〇	七六三	七二、六一六 擔
民國十年	二三、四二三	二、九九七	八、八五三	一〇、六二〇	三一、一六六	一、〇七五	六八二	二、六二一	八一、五七二
民國十一年	二七、三五七	二、五五〇	一一、六一一	八、一〇〇	二六、三二四	一、一七二	八七一	一、六一四	七九、六四〇
民國十四年	一六、九八八	二、〇三五	一四、八九三	八、六六三	三九、五四三	一、五〇二	一、三五〇	二八九	八五、三五〇
民國十五年	一二、八二四	八三一	二〇、九五二	九、六四一	四九、〇三五	一、四七七	一、三七一	四八四	九六、七四三
民國十六年	二七、〇九三	一、二〇八	一五、七四一	九、九四二	三六、八一七	二、〇二一	一、六二六	八	九四、五四八

舊式製造法，在今日現狀輸入品源源而來時代，已無立足餘地，故一般設廠製造者，亦不繁其絕。大小計有二十餘所，上海之寶源紙廠，龍章造紙廠，中國機器造紙公司，恆裕機器造紙公司，江南造紙廠，竟成造紙有限公司，漢口之財政部造紙廠，武昌之白沙洲造紙廠，蘇州之華興紙板公司，崑山之中國第一造紙廠，嘉興之嘉禾造紙廠，大中造紙公司，禾豐造紙廠，丹徒之鎮江機器造紙公司，杭州之武林造紙廠，濟南之華興紙廠，成業造紙公司，江門之江門製紙廠，鹽步之廣東官紙印刷局，成都之樂利造紙公司，吉林省城之興林造紙公司，天津鹽水沽之振華機器造紙公司是也。出品有包裝紙，報紙，用紙，有光紙，連紙，毛邊紙，鈔票紙，印刷紙，板紙，紙箔等數種。然其中或因資本不充足，組織不完備，管理欠得法，營業少發展，而中途停止者，時有所聞。製紙原料之木漿，供給缺乏，又無水力之便利，此皆妨礙紙類生產之主要原因也。

第五節 貿易

中國紙張之輸出外國，多供華僑日常需用，通例以其品質之不同，可分上、中、下三等。上等紙輸出口岸，推廣東之汕頭，與福建之福州為盛。十六年汕頭一埠輸出之上等紙，達八四四一二擔，值二一〇三〇〇兩。福州四二一四擔，值一二〇〇六七一兩，九江之六二二九五〇兩，蕪湖之二七七三一三兩，廈門之二五九六八七兩，廣州之一五五二〇六兩次之；對外輸出自以安南，香港一帶為發達。民國十五年輸出往安南者，有三一九七六

擔值八〇三、二七二兩，香港二八三〇一六兩，次之；新加坡等處之二五、八二三兩，日本台灣一五八、一〇二兩，又次之。民國十六年出口往安南者，頗見減少，祇爲六三八、五二八兩，香港則增加至四二九、一四二兩，新加坡，日本，台灣等處，皆略有減落，此年來上等紙輸出貿易之情形也。

次等紙來自九江與漢口爲多。福州亦不在少數，十六年九江出口之次等紙，計有八二、〇五五擔值一、八五、六九四兩。漢口六八、六〇二擔值一、一四五、六五三兩。福州爲六六、五三八擔值七一八、六一〇兩。他如九龍之六二〇、六二五兩，汕頭之三〇三、三二〇兩，杭州之二八二、七六〇兩，長沙之一七一〇六七兩，廣州之八四、三五五兩，三水之四六〇八〇八兩，梧州之三四、八七〇兩，拱北之三二、八六一兩，廈門之三二、四九〇兩，鎮江之一八〇四六兩，膠州之一五、二九一兩，煙台之二、七八二兩，等是也。全國各地原貨出口額，有三六四、八〇九擔值四、八三三、八二〇兩，就中輸出往國外者，佔七六、四六六擔值一〇五六、六〇五兩。香港方面之銷路，達六九〇、六七四兩。新加坡等處一四八、四六七兩。暹羅、朝鮮、日本等國又次之。

下等紙多產自萬縣，漢口、九江、杭州、甯波、溫州、汕頭一帶。民國十五年各埠原貨出口額，達三七二、六九〇擔，值二、三八四、八二一兩。十六年稍減，計爲三〇六、七九六擔值二〇一三、四五九兩。萬縣移出者，有五九七、五一二兩，九江二六六〇八六兩。杭州二三五、三三六兩，溫州一九二、七六六兩，汕頭一七四、二二二兩，甯波一三一八六兩，漢口一二四、八二一兩，等是也。國外銷路，以香港爲最發達，安南居第二位，新加坡等處，暹羅、朝鮮，一帶。

亦盛。民國十六年輸出往香港者，值一六、三七三兩，安南六四、三五、一兩，新加坡等處二、三八二兩。俄國太平洋口各二〇七五兩，朝鮮一三一一兩。

又紙箔一項，亦稱錫箔，係以錫鎔成薄片，敷於紙上，用爲楮錢，俗於祭喪焚之，設亡者得之，可代錢幣。每年輸出國外，大都供華僑之需用，如新加坡，暹羅，安南，香港等處是也。輸出總額，年在一百萬兩以上。民國十六年達二、一八二、六七九兩，銷於新加坡等處者，值八四九、三六九兩，香港五一六、七三四兩，安南四四二、四一二兩，暹羅二八一、五七七兩，其他印度，爪哇，朝鮮，菲列賓，一帶次之。

紙箔之輸出口岸，以廣東省之汕頭一埠為最盛，輸出數量，年達二百萬兩左右。民國十四年有八五、四九一擔，值一九九一八六三兩。民國十五年為九二、五五六擔，值二、五七五、九三五兩。十六年稍減，有九〇、九〇九擔，而價額則有二、五八一八一六兩。其他如九龍，廈門，甯波，三埠亦盛。十六年由九龍輸出之紙箔，計凡一八、五二六擔，值二七九、一八七兩，廈門有六二八、〇八九兩，甯波為五〇九、二三〇兩。

第二篇 農林產品

第一章 米 (Rice)

第一節 米之重要

諺云：「國以民爲本，民以食爲天。」國家與糧食，其相互之關係，有如唇齒，而不可須臾離者。換言之，卽民食問題，乃一國最重要之問題也。以是世界列強各國，不論其工業之如何發達，然一方面農業之提倡，而圖食量之充足，意至善也。

吾國自古以農爲立國之本，當神農之世，農業已粗具規模，嗣後歷代帝王，亦皆以重農爲急務，明清二代，尤多進步，惟最近二十餘年來，以庶政之黑暗，軍閥之專橫，連年兵戈不息，致人民流離失所，農園荒蕪，而軍閥之強迫農民種植罂粟，爲其唯一財源，破壞地利最甚。於是號稱世界之農業國者，其重要之糧食，反仰給於外國，其中

尤以米一項佔最多數。如民國十五年輸入者，值關平銀八九、三一二、九四二兩，十六年又達一〇七、三三三、三四四兩之鉅，實國家經濟前途莫大之隱憂也。

米爲糧食中最重要者，以吾國長江流域及粵江流域之人民，皆以米爲主要之糧食品也。而米之產量，與其他穀物相較，實多豐富。故爲解決食少人多之唯一辦法。吾國每年米糧輸入若是之鉅，倘能極力提倡稻米之生產，如關於品質之改良，水利之講求，農具之改進，病蟲害之預防與治療，皆能一一研究無遺，實今日重要之急務也。

第二節 米之產地

全國產米區域，以長江流域之江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、四川、七省爲最著。湖南一省尤盛，南部兩廣福建等地，每年有二熟。東三省一帶，近以朝鮮人民移住墾種者日多，產米區逐漸發展，而遍於南滿各地。其他如蒙古之東部、南部，以及新疆、甘肅、陝西等地，亦產之。

江蘇省各縣除澠水、淮陰、睢甯、蕭、碣山、豐沛、邳之八縣外，皆爲產米區域。其中自以蘇常道爲最，淮陽道次之。金陵道、滻海道與徐海道，又次之。常熟吳江、吳縣、無錫、宜興、武進、崑山、江都、高郵、寶應、東台、江甯、溧陽、青浦等，則尤蘇省產米之首區也。全省稻田面積，達一〇、一八五、〇〇〇畝，與已墾田畝面積五八、四八〇、〇〇〇畝相較，佔百

分之十七又五

浙江省產米區域，多在東部平原，如杭縣，紹興，鄞縣，臨海，吳興，嘉善，永嘉一帶是也。嘉興附近，膏腴沃壤，氣候適宜，雨量充足，以是產米最盛。李唐之世，李瀚已有「嘉禾穰，江淮爲之康；嘉禾歉，江淮爲之儉」之語，其重要可知。

安徽省全境已墾田畝面積爲七、四、八一、〇〇〇〇畝，其中稻田面積佔二、四、四三、〇〇〇畝，以百分數計之，約爲百分之三十。長江兩岸以及巢湖附近，皆爲產米要區。安慶道之合肥，巢縣，廬江，安慶，無爲運漕地方，與蕪湖道之青陽，太平等地是也。

江西省產米之地，以北部鄱陽湖附近與主要江河流域所及之地爲盛。稻田總面積，共有一三、一九二、〇〇〇畝，與本省已墾田畝面積八、七、九四、〇〇〇〇畝比較，約佔百分之十五。強九江地方，星子，都昌，鄱陽，餘干，南昌，樂化，永修等，乃贛省產米最盛之區也。

湖北省產米區域極廣，各縣皆盛，惟沿江一帶如鄆水，鄂城，咸甯，武漢，嘉魚，山坡，紙坊，沙湖，沔陽，新堤，監利，塔市，隴頭，沙市，江陵，松滋，枝江，宜都等地，尤爲發達。漢水沿途亦多，全境稻田面積，據最近之調查，達二二、八五八、〇〇〇畝，佔總面積百分之四弱，與全省已墾田畝面積九、一四三、〇〇〇〇畝相較，則佔百分之二十五云。

湖南省爲吾國產米最盛之區，全省面積凡六二二、八五三、〇〇〇畝，已墾田畝爲八、七、九四四、〇〇〇畝，內

稻田面積約佔百分之三十弱，計二六、三五七、〇〇〇畝。著名出產地，以洞庭湖沿岸之岳陽、湘陰、沅江、漢壽、常德、澧、津、安鄉、南等地為最。長沙、湘潭、衡陽、來陽、常甯、永興，以及附近各區亦盛。而湘江流域地方所產者，品質尤為良好，每年多者有三熟，通常祇為二熟。

四川省本為產米極盛區之一，稻田面積有四、八八五、〇〇〇畝。東川道之萬縣地方，重慶地方，西川道之成都一帶，尤為發達。

廣東米之出產，亦為農業出品之大宗，三角洲地方尤為著名，實由於土地之肥沃，氣候雨量之適宜所致。每年稻作可收穫二次，間亦有三次者，惟普通情形，均為二熟。第一熟於三月播種，七月收穫，第二熟即於第一熟之收穫後行之，一屆十一月末或十二月初旬，便可收穫矣。廣西省則以境內大半屬山岳地帶，產米區域，祇西江及其支流一帶而已。

福建省之稻米，山地平原，每年皆有二熟，惟產區不廣。

東三省稻米一項，在昔本以旱稻為盛，最近十數年來，以朝鮮人之從事於水稻者日多，產區遂逐漸擴充，據最近日人官廳方面所發表，東三省米之生產狀況，水旱稻耕種面積，計合一〇、一四〇七四〇畝，水稻佔五、二〇八、四二〇畝，旱稻四、九三二、三二〇畝。三省分配之情形，則以奉天省氣候較良，稻田面積共有七〇一五、三二〇畝，遼瀋道之遼陽附近各地，產米最盛之區也。吉林省之松花江平原亦盛，全省計有三、一二四、六二〇畝。黑龍江

參照上海特別市農工商局所擬之整頓民食問題意見書

省八〇〇畝又次之。

陝西省之渭水溪谷地方，甘肅省之甯夏包頭鎮地方等，亦爲產米區域，惟產額不多耳。

第三節 米之產額

第四節 米之種類品質與市價

米之種類，極爲繁多，依據印度加爾各答博物館所陳列者，則有一千一百餘種。惟以吾國之情形而論，約分之，可得粳米與糯米二種。其有冠以產地之名，而表示其不同，如常河頂梗，上中北梗，普更北梗，宿次北梗，吳江白梗，同里白梗，車坊白梗，扒坎白梗，黎里白梗，北沙白梗，周莊白梗，平望白梗，陶莊白梗，六澤白梗等是也。其品質，普

通以粒形整齊，硬度大，腹白小，蛋白質脂肪之含量多者，為最上等。其所以能養成如此佳質，則與稻之栽培，有極大之關係。吾國米之品質，以農民之不思改進，又無提倡，關加以督促，遂致米質，每況愈下，與世界各產米國相較，實多不及。是以品質之必需改良，亦為急務。最要之法，莫若育種，育成純粹優良之種，而推廣開拓之，其效始見。

米之價格，以年來國內各產米區產額之銳減，較前已增加不少，尤以民國十五年為最高，十月份每常河下白米一擔，平均值規元十三兩六錢九分七釐，由於東南各省大旱，來源稀少，價格激漲。雖新穀登場，亦未能低減，及後大批洋米輸入，始漸次降落，然仍在十二兩以上也。民國十六年九月前，米價亦在十一二兩間。十月份新穀上市，遂跌至十兩九錢七分八釐，自十一月至最近，大約總在規元八兩與九兩間。茲以民國二年二月高常河下白米一擔之價格為一百，而與最近數年間之價格比較之。（單位規元釐）

第五節 貿易

我國為世界有名農業國之一，穀類生產，向極發達，故雖有四萬萬之人口，類可供給，無虞缺乏，間或年歲荒歉，亦不過屬部問題。河東荒，可以河西之穀賑濟之，此歷來之習慣也。惟自近世以來，以政潮不穩，戰事頻仍，民食大為減少，乃不得已而恃國外之輸入。當民國初年，祇不過四五百萬擔，價值一千七八百萬兩。後如民三之六八、一四〇〇三，擔值二二〇九四、七八八；民四之八四七六〇五八擔，值二五三三六、三二八；民五之一二八

四〇二三擔，值三三、七八九、〇四五兩；民十一之一九、一五六、一八二擔，值七九、八七四、七八八兩；民十二年之二二、三四、九六二擔，值九八、一九八、五九一兩等，增加甚鉅。十六年更盛，輸入之外米價額值一〇、七、三、二、三四、九六二擔，值九八、一九八、五九一兩等，增加甚鉅。十六年更盛，輸入之外米價額值一〇、七、三、二、四兩，佔進口洋貨總額百分之十又六，除棉貨一三六、八五六、一九三兩外，即推爲第二位。輸入來源自以香港最佔大宗，安南、暹羅、印度次之。輸入口岸，則尤以南部廣東省之廣州、九龍，拱北與北部之天津爲盛。廣州九龍各佔百分之二十，拱北天津各百分之十，此大略之情形也。

第十一章 麥(Wheat, Barley)

第一節 麥之種類

麥之種類甚多，有小麥、大麥、裸麥、燕麥、蕎麥、黑麥六種，其中尤以小麥一項，最為世界各國所重視，因佔各種麥類之首位，細區之，則又有一粒小麥、波蘭小麥、斯不爾太小麥、二粒小麥、硬粒小麥、軟粒小麥、密穗小麥、普通小麥之別。我國北部一帶，小麥之出產頗盛，大麥、裸麥次之，燕麥亦有少量之出產，為額不多，蕎麥又次之，至於黑麥，乃歐美所植者。

第二節 麥之產地

中國各省小麥產地，推河南、山東二省為最盛，河北、山西、陝西、湖北、四川、江蘇等次之，北滿之甯安、哈爾濱、松花江右岸一帶，以及綏化附近，南滿之西豐、海龍、遼河以西地，亦為著名小麥產區。

北自寒帶，南至熱帶，均宜於大麥、裸麥之栽培，故範圍極廣，惟產量不及小麥遠甚。著名產地，以江蘇省為最

發達湖北省次之，河南、安徽、山西、浙江、山東、福建、河北、黑龍江等省又次之。

第三節 麥之產額

小麥播種之時期，以各地氣候之不同而有異。吾國北部地方，九十月間，即行播種；中部地方，則總在十月，十一月之交。至翌年五六月，已達黃熟之期，即可收穫。此中國之情形也。惟澳大利亞、新西蘭、智利之小麥收穫期，則在每年之正月份；東印度與上埃及在二三月之交；埃及南部、敘利亞、波斯、小亞細亞、印度、墨西哥與古巴，為四月份；阿爾及利亞、中亞細亞、日本、摩洛哥、得克撒斯(Texas)、佛羅理達(Florida)等地，與吾國相同，收穫期亦在五月。土耳其、希臘、意大利、西班牙、葡萄牙、法國南部、加利福尼亞(California)、路易斯安納(Louisiana)、密士必(Mississippi)、阿拉巴瑪(Alobama)、佐治亞(Georgia)、南北喀羅來納(S. & N. Carolina)、田納西(Tennessee)、維吉尼亞(Virginia)、凱塔啓(Kentucky)、阿肯色(Arkansas)、猶他(Utah)、密蘇里(Missouri)等，又在六月；羅馬尼亞、保加利亞、奧地利、匈牙利、俄羅斯南部、德國、瑞士、法國、英國南部、俄勒岡(Oregon)、內布拉斯加(Nebraska)、明尼蘇達(Minnesota)、威斯康星(Wisconsin)、科羅拉多(Colorado)、華盛頓(Washington)、衣阿華(Iowa)、伊利諾斯(Illinois)、印第安納(Indiana)、密歇根(Michigan)、俄亥俄(Ohio)、紐約(New York)、新英蘭(New England)與加拿大北部，皆在七月；比利時、荷蘭、英國、丹麥、波蘭、加拿大南部、哥倫比亞、曼

尼托巴 (Manitoba) 南達科他 (S.Dakota) 北達科他 (N.Dakota) 等又在八月；蘇格蘭、瑞典、挪威、俄國北部，則為九十月間。祕魯、南非、阿根廷，皆在十一月；緬甸與阿根廷亦於十二月期收穫。此實氣候之不同也。

世界大麥之產量，較之燕麥與黑麥，不如遠甚。如一九二五年各國所產燕麥，有三、九八、三八九、〇〇〇噸；黑麥一、七三六、八一三、〇〇〇噸，而大麥祇一、四〇五、四四〇、〇〇〇噸也。著名大麥出產各國，自以俄國佔最多，達五、八七九、〇〇〇米噸，約合三、二三、三四五、〇〇〇噸；美國二、一六、五五四、〇〇〇噸，居第二位；德國二、三二九、九一〇米噸，第三；日本、西班牙、奧地利、匈牙利、英國、愛爾蘭、加拿大、法國又次之。吾國產額，亦屬不少。據民國七年之調查，有五四、一七〇、八九四擔。

第四節 麥之用途

麥之爲用極廣，尤以小麥爲最重要，麵粉一項，製爲麵包。歐美各國，視爲主要常食品，麵與饅頭，則爲吾國北方

年 次	進			出			入			趨		
	數	量	價	額	數	量	價	額	數	量	價	額
民國元年	二、五六四增	七、四八九兩	一、三七六、六八九增	三、八三瓦、四五二兩	出超	三、八三〇、九六三兩						
民國二年	二、〇三三	六、一四四	一、八四八、〇七一	四、七六一、五〇五	"	四、七五五、三六一						
民國三年	九九八	三、一九〇	一、九六九、〇四八	三、八五〇、一七九	"	三、八四六、九八九						
民國四年	二、五八六	一〇、三三八	一、五一四、五三六	四、〇六一、五八八	"	四、〇五一、二五〇						
民國五年	五九、五五五	一三一、〇〇六	一、一五五、一七九	二、二三三、一三三	"	二、〇九二、一二七						
民國六年	三六、一六九	七九、九三三	一、五五七、六〇一	三、二七六、八〇五	"	三、一九六、八七二						
民國七年	一六	八四	一、八一五、四六一	四、〇二一、六五二	"	四、〇二一、五六八						
民國八年	二〇	八八	四、四五三、四七一	一〇、〇七五、二八一	"	一〇、〇七五、一九三						
民國九年	五、四二五	三二、二九七	八、四三一、五二〇	二五、三九四、八〇四	"	二五、三六一、五六七						
民國十年	八一、三四六	三〇一、八〇五	五、一九四、〇三三	一六、八八六、〇九〇	"	一六、五八四、二八五						
民國十一年	八七三、一四二	三、〇五七、八〇七	一、一五一、〇一四	四、二三五、四八七	"	一、一七七、六七四						
民國十二年	二、五九五、一九〇	九、〇九六、〇六五	六三九、九一九	二、一七三、一六六	入超	六、九二二、八九九						
民國十三年	五、一四五、三六七	一七、六八九、七四九	一四〇、一八五	五四一、〇八九	"	一七、一四八、六六〇						
民國十四年	七〇〇、一一七	二、六五四、七四七	二〇七、四〇三	八三四、八三九	"	一、八二九、九一八						
民國十五年	四、一五六、三七八	一七、九六五、一九四	四、九七一	二〇、四六七	"	一七、九四四、七二七						
民國十六年	一、六九〇、一五五	七、〇五五、六六七	四五五、九八二	二、一八一、二四八	"	四、八七四、四一九						

方人民之重要食品。麥桿可編爲草帽綫，又可供葺屋、燃料、肥料等用。而大麥、黑麥與燕麥，皆釀酒原料；所設麥酒是也，歐美等國極盛。大麥與燕麥，歐北諸國，亦有視爲食料品者。黑麥麵包，以北歐、俄、德諸國爲盛行。

第五節 貿易

吾國本爲麥類輸出國，每年小麥大麥燕麥之運銷於俄、太平洋沿岸各口，朝鮮、日本、台灣、安南等地者，爲額極鉅，此民國十一年以前之情形也。惟自十二年以後，竟一變出超而爲入超，其中自以小麥最佔大宗，歷年來小麥進出口數量與價額，參看下表。

小麥之出口，始見宣統三年關冊，當歐戰期間，輸出之小麥，更見旺盛。後以國內連年歉收，戰事頻繁，而近來麵粉業之發達，亦爲小麥大宗輸入之原因，上海爲全國麵粉業之中心，以是小麥之輸入獨多。民國十二年進口者，有二、二一二、九三五擔，值七、六三八、五九一兩。民國十三年增加至四、六六三、二二二擔，計一、五、九二六、五四四兩；十六年降落甚鉅，祇一、六四六、四五一擔，值六、八九五、六三〇兩。

第三章 粟(Millet)

第一節 粟之產地與用途

粟又名穀子，包括黃米、小米而言，其主要之用途，爲北地一帶人民主要之食糧品，而釀爲黃酒，尤爲國人之飲品，其幹又可供生畜飼料。

中國粟之出產，除南方兩粵、雲、貴、贛、四川外，皆耕種粟類。全國出產總額，據民七調查，爲一七六、七二七、六二三擔，其中自以河南一省最爲發達。作物面積，達九四、八一九、二〇〇畝，每畝收穫量，平均總在一擔一斗左右，全省收穫量共有一〇四、三〇一、一一〇擔，次之即推山西省，作物面積爲四〇〇五、七三二八畝，每畝收穫量，平均數不及河南省，通常爲一擔，全省計四二、八六一、三四一擔。他如東三省、山東省、河北省、熱河南省等地，所產亦多。

第二節 貿易

安東一埠，爲全國輸出粟米最多者，十四年出口數量，計爲三、八七〇、五二一擔，值關平銀一八、一、八、四八

八兩；十五年較盛，有四、四〇、六、九一三擔，值二、一二二、〇六二兩；十六年更增加至五、六五二、六三四擔，值二八、二〇八、五二五兩。自大連出口者，亦有二五二、二七六擔，值一〇八四、七八七兩。牛莊九一、二五三擔，值三九六、〇三八兩，又次之。而北滿由哈爾濱一帶輸出者，計爲四九三、八〇五擔，值一、四四六、八四八兩。龍井村之三一七、一五四擔，六三四、三〇八兩；亦頗佔重要。合計全國各地出口之粟米，十六年爲六、八三二、八〇四擔，值三一八三四、三八五兩。國外銷路，自推朝鮮爲第一。朝鮮本爲產米之國，但大量之出產，朝鮮政府每予以交易上及運輸上之便利。遂大半輸向日本商場。朝鮮農夫既售其稻米，乃另購吾國東三省粟米爲食糧。此年來安東、大連、龍井村，粟米大宗輸出之原因也。十四年朝鮮由中國輸入之粟米，有三、九〇一、二一二擔，值一八、一六、五八四八兩；十五年爲四、八二、九、四九四擔，值二、一九七、四八三八兩；十六年復多增加，計有六、〇六四、〇二三擔，值二九、二〇、三三八九兩；與出洋總數六、六九六、二四六擔，三一、二七二、七九六兩相較，佔百分之九十三以上。此外則俄國太平洋各口亦盛，多來自哈爾濱。十六年有四七五、七七五擔，值一、三九四、〇二〇兩。

第四章 高粱 KaoLiang (Sorghum)

第一節 高粱之產地與產額

吾國高粱之產地，以北部各省為盛，如東三省、河北、熱河、山西、山東、河南等是也。中部長江流域之江蘇、安徽、湖北三省亦產之。惟產量不若北部諸省而已。

河南一省，為吾國出產高粱最多者，作物面積，據中國年鑑所載，為一三二、八五六、七一〇畝，每畝收穫量，平均有一擔四斗，全省產額，共一八五、九九九、三九四擔。

東三省之高粱產地，在大豆一業未十分發達以前，本佔全耕地面積之半數，今則情勢大變，以南滿而論，高粱耕地佔百分之二十六又六，北滿約百分之二十，全滿洲高粱收穫量，在民國七年之調查，奉天省為二六、四〇三、七〇〇擔，吉林省四、一四一、五三九擔，黑龍江省二、三九八、一四九擔；惟最近日人方面發表者，則東三省之高粱產額，共有六、一八二、〇〇〇噸，每噸以十六又八擔計算，計合一〇、三、八五七、六〇〇擔，奉天省佔百分之五十四又二九，合五六、三八〇、八〇〇擔；吉林省佔百分之三十四又七四，計三八、〇八六、四〇〇擔；黑龍江省為一、

三五〇、四〇〇擔，又次之。

河南與東三省而外，全國高粱產地，即推山西與山東。山西在民七之調查，高粱耕種面積有一、五、二、一、三、八四一畝，收穫量為一、四、一、四、八、八、七、二擔，平均每畝收穫量得九斗二升。近以官廳方面之提攜，境內兵戈少興，農民安業，故產量大為增加。山東省本較山西為發達，惟年來以水旱連逢，戰患頻仍，農民流離失守，自然不能安心耕作，農產品大都無望，為可惜耳。

第二節 高粱之用途

高粱為北方居民之食料品，而供牲畜之飼料，為用尤較普通，釀造為酒，通常稱高粱酒者，名聞全國。不特此也，其稈之為用，亦頗重要，如圍籬，造屋，燃料，造紙原料等是也。

第三節 貿易

高粱一項，年來輸出至海外各國，總在二三百萬兩以上，十五年有一、八、三、一、七、三、〇擔，值三、〇八、四、六、七、九兩；就中輸出至俄國太平洋各口，為一、四、八、七、五、六、八擔，值二、二、六、一、〇三兩；日本台灣二、一、五、四、八、七擔，五〇七、二、五、三兩；次之朝鮮一二二、八〇一擔，三〇二、五、七、九兩，又次之。十六年較為衰落，輸出至俄國太平洋各口祇

「一〇〇、一六七擔，「七一六、二六一兩與十五年相比，降落三八七、四〇一擔，五四四、八四二兩。日本台灣與朝鮮，稍有進展，全年合計出洋總數，為一、四九九、〇九八擔，值二、六九九、五九一兩。

第五章 玉蜀黍(Maize)

第一節 玉蜀黍之產地與產額

玉蜀黍之出產，以河南、河北、東三省為有名。江蘇省之北部，暨新疆省，亦有多量之出產。

河南省對於玉蜀黍之耕作，雖不及高粱、粟、麥、豆等之發達，然與其他各省相比較，則頗佔重要之位置。全省玉蜀黍之耕作面積，為二、一、三八五、六九〇畝，產額達二七八〇、三〇七擔，平均每畝收穫量，為一擔三斗。

河北於玉蜀黍之出產，以氣候與地質之適宜，故農家栽培者頗盛，境內耕作面積，有八、六三、一八七畝，收穫量共計四、八四九、三八〇擔，每畝收穫量，平均計之，約得六斗，附近北平一帶稍盛，每畝有六斗八升之收成。

東三省之玉蜀黍耕種地，據民七之調查，祇一二、一〇三、四三〇畝，最近則已增加至七七、一七二、〇八〇畝，生產量亦自七〇三七、一一六擔增至二八、一四〇、〇〇〇擔；奉天省佔三〇、六九七、二〇〇畝，產量有一八、三六二、四〇〇擔；吉林省二八、三三九、二四〇畝，計七、一九〇、四〇〇擔；黑龍江省一八、一四五、六四〇畝，而生產量祇二、五八七、二〇〇擔。

新疆省雖僻居西北，而玉蜀黍之出產除河南、東三省、河北外，即推新疆為第四。境內玉蜀黍之耕作面積，計有三、四〇九、八六四畝，生產量達五、三二七、七二九擔。每畝平均得一擔五斗。較國內任何各省為優良，而西南部溫宿一帶，則每畝之產量，間有二擔以上者。

江蘇省雖為米糧之出產要地，而對於玉蜀黍之生產，亦頗發達。江北附近尤為重要。江南則以氣候關係，農家栽培者不多。全省耕種玉蜀黍之面積，共有四、四六七、六八〇畝，產額為四、六二七、七二七擔。

第一節 貿易

玉蜀黍之出洋數量，雖不及粟與高粱之鉅，然年亦有四五十萬兩。俄國太平洋各口，與日本台灣之銷路，尤為發達。十六年輸出至俄國太平洋各口者，有一四八、九六一擔，值二五六、二一二兩；日本台灣四七、〇七七擔，一二、四一三兩次之。兩者合計，與出口總數二〇五、七六二擔，三九九、七九六兩相較，佔百分之九十四。

第六章 大豆豌豆(Beans and Peas)

第一節 大豆之種類

大豆之種類極多，本部各省分黑豆，青豆，赤豆，小綠豆，白豆，黃豆等；而東三省所產者，則祇黃豆，青豆，與烏豆三類。

黃豆，又可分三種，即白眉豆，金元豆，與黑臍豆，是也。白眉一名大白眉，又稱白斑，臍作白色，粒形甚大，外皮爲白黃色。金黃豆一稱金元豆，含油量極豐富，作圓玉形，有色澤，呈黃金色。黑臍豆亦名黑腹豆，有大小黑臍二種，大黑臍粒較大，圓形，臍作黑色，頗似貓眼，故俗名貓眼，外皮甚厚，含油量甚少，爲黃豆中最劣之品。但生育力頗強，雖地味礲礪以及山地，亦適於栽培。

青豆，或稱綠豆，可分爲二種，一爲表皮青色，內部呈黃色；其他一種，則內外皆現青色，含油量並不多く，惟富於蛋白質，極宜供豆腐製造之原料。

烏豆，亦稱黑豆，有大烏豆，小烏豆，與扁烏豆三種；大烏豆外皮呈烏黑色，內部則爲青色，含油脂甚多，土民每

與高粱等混合而供爲食用品；小烏豆形稍小，內部呈黃色；扁烏豆與小烏豆略同，惟粒形稍扁耳。

白豆，大如綠豆而稍長，色白，亦有土黃色者，葉嫩時可食，亦稱飯豆。

豌豆之種類，可分青豌豆與白豌豆二類，而白豌豆又有漢口白豌豆、蕪湖白豌豆、浦口白豌豆與天津白豌豆四種。

上述大豆之種類，不過略具大綱，同一豆也，以栽種地氣候地勢與土質既不相同，於是所得之種實亦異，南部與北部固不相同，即在同一之生產地，栽種之子種品類不齊，因亦異焉。俄國某科學專家，謂中國大豆之種類，極爲複雜，即以滿洲而論，已祇少有五十餘種云。

第二節 大豆之產地

大豆之出產，以東三省爲最盛，揚子江流域諸省，以及河南、山西、山東、河北等地亦多。

東三省大豆之生產區域，極爲廣大，奉天省之東南部，自黃海岸邊起，至長白山麓一帶，則以青豆之出產爲盛。莊河、岫巖、鳳凰城、安東、寬甸等地，其中心也，烏豆盛產於遼陽之四周，如瀋陽、新民、鎮安、遼中、遼陽、海城、本溪湖、撫順等，產額極盛。金元豆產於奉天之北，展長至松花江上流，以及吉林、海龍、柳河、西安、西豐、開原、鐵嶺、東平、寬城、子等是也。法庫門西一帶，如康平、昌圖、奉化、遼源、懷德等，則爲白眉豆之產地，品質極佳，呼倫流域以北，地土甚良，

對於大豆之生產，頗為發達，惟品質略遜耳。

豌豆主要產地，推江蘇省、四川東部，以及其他揚子江流域各省、山西、陝西、河南，亦產之。

第三節 大豆之產額

東三省大豆之產額，當一九〇九年時，南滿鐵道株式會社曾加以詳細之研究，其估計額共一九九九、一〇○噸。合之擔數，約為三二五八四、八八〇擔，其中奉天省佔一〇九二、三五〇噸，吉林省六二六、五〇〇噸，黑龍江省二八〇、二五〇噸。奉天省各地生產情形，興京佔一六、四〇〇噸，柳河五、四〇〇噸，懷九、五〇〇噸，輯安三、五五〇噸，通化五六〇〇噸，臨江六〇〇噸，復州三七、九五〇噸，蓋平一六、〇五〇噸，海城二五、〇五〇噸，遼陽七〇、八〇〇噸，遼中四〇、二〇〇噸，本溪湖一三、七〇〇噸，奉天一〇、九八〇〇噸，鎮安二八、九〇〇噸，彰武一七、五五〇噸，新民一七、四〇〇噸，盤山三、五五〇噸，綏中九、〇〇〇〇噸，錦中四二、二〇〇噸，錦西七、七五〇噸，義州二〇、〇〇〇噸，寧遠二二、〇〇〇〇噸，廣寧一二、五五〇噸，寬甸四五〇〇噸，鳳凰城一一〇〇噸，安東八、四五〇〇噸，岫巖六、七〇〇噸，莊河二八〇、五〇〇噸，鐵嶺五四、三〇〇〇噸，開原二四、三〇〇〇噸，西豐六九、九五〇噸，西安二、九〇〇噸，海龍三六、〇〇〇噸，東平一六、八〇〇〇噸，昌圖五六、〇〇〇〇噸，法庫門六六、六〇〇〇噸，康平一三、七〇〇〇噸，奉化一〇六、四五〇噸，遼源一八五〇噸，懷德一三、九〇〇〇噸，開通一〇〇〇〇噸，洮南三六五〇噸，安廣二五〇噸，靖安

三〇〇噸。吉林省各縣，以吉林與長春二地為最發達，長春所產大豆，有一一五、二〇〇噸，吉林一一〇、〇〇〇噸，伊東三九、五〇〇噸，農安九〇、二〇〇噸，新城三七、〇五〇噸，榆樹四五、一〇〇噸，雙城四八、六〇〇噸，五常一三、〇五〇噸，賓州六〇、四〇〇噸，長春八、九〇〇噸，依蘭四、八〇〇噸，綏芬一、九〇〇噸，琿春一二、〇〇〇噸，大同七、七〇〇噸，湯原一、九〇〇噸，臨江一〇、二〇〇噸。黑龍江省則以海倫為最多，有二三二、〇〇〇噸，巴彥三六、四〇〇噸次之，呼蘭三〇、〇〇〇〇噸，佔第三位，其他如餘慶之二七、二〇〇噸，綏化二四、〇〇〇噸，木蘭一四〇〇〇噸，蘭西一一、二五〇噸，青岡三、五〇〇噸等又次之。以上所述，皆一九〇九年之情形也。今則不然，較前已發達不少，即以奉天省而論，最近大豆出產額，已達一、七七七、五〇〇噸，計合二九、八六二、〇〇〇噸，吉林省亦增加至一、一三五、〇〇〇噸，或一九、〇六八、〇〇〇噸，黑龍江為五五、一〇〇〇噸，約九、二五六、八〇〇噸。三省總出產額，連同小豆三〇、四、二〇〇噸在內，共三、七六七、七〇〇噸，或六三、二九六、三六〇噸。

湖北省盛產蠶豆與豌豆，監利、沔陽、松滋、公安等地，年產一〇、〇〇〇、〇〇〇噸。襄陽、武昌、安陸，則以黃豆為著名，每年達二、三〇〇、〇〇〇噸左右。綠豆產額不多年，一三〇、〇〇〇噸，以沿江各縣所產為盛。

第四節 大豆之用途

大豆內含蛋白質極為豐富，即以東三省所產者而論，各種成分，據大連中央試驗所歷次試驗之結果，以黃

豆所含之蛋白質爲最富，佔百分之三十九又九，脂肪百分之十七又五九；青豆之蛋白質爲百分之三十六又四七，脂肪百分之十六又二三；烏豆又次之，內含蛋白質祇百分之三十五又三二，脂肪百分之十五又八。職是之故，豆類之用途極爲普遍，其主要者，可分食料用、工業用、二大類，製爲豆腐、豆腐乾、豆腐片、豆腐皮、豆腐漿、豆渣、豆醬、醬油、豆粉、豆鼓等，皆屬於食料用者，豆餅與豆油，則有專章討論之，茲不贅述。

豆腐造法，據天祿識餘傳爲漢淮南王劉安所造，名爲黎祁。其法先以豆浸於水內，磨之成漿，再入釜內煎之，濾去渣，而澱以鹽鹵汁，亦有入缸內以石膏末收者。總之，使其易於收斂耳。凝結後，包於布中，壓之成塊，即成豆腐矣，味極鮮美，滋養過於肉類，內含蛋白質與磷質甚富，以是爲吾人日常慣食品。

豆腐乾，又稱腐乳，係製豆腐時用壓力較重而得，內含水份較少，故名。廣州、九龍、二地，爲全國最發達者，上海、甯波、杭州，次之。每年輸出數量，在三萬擔以上，值關平銀三十萬兩，甯波與廣州，二大輸出港也。

豆腐皮，爲凝結於豆腐之面上，揭取晒乾者。

製豆腐時所濾取之渣滓，即名豆渣，內含養料甚富，普通以供牲畜之飼料爲多，間亦有曬乾磨細製各種點心而充食用者。

豆漿亦由黃豆製成，滋養之效，與牛乳相同，內含蛋白質百分之三又一六，脂肪百分之三又一，糖份百分之三，水份百分之八十九又二五，灰份百分之零又四五，其他雜質百分之一又零二。

豆芽可分二種，用黃豆製成者稱黃豆芽，用綠豆製成者稱綠豆芽。造法極簡便，以水發芽即成，稱蔬中美品，以肥而白故也。

豆粉係大豆製成之粉，可供菜蔬與湯料用，而日本一帶亦作餅乾、糖果等原料。

醬油爲赤褐色不透明液體，有芳香味，乃調理食物必需之品也。專以大豆製成者，稱豆製醬油，其法用大豆十擔，鹽二擔，二斗五升，水四擔，五斗。三者主要之原料也。先將大豆浸入水內，再入飯蒸之，取出搗碎，因團合之如拳大小，覆以席，時時移動，約三四日後，即發生菌絲，及變爲黃色，其麴乃成，取出置入鹽水缸內，凡七八月始成。醬之原料，亦爲大豆，先蒸熟之，加以鹽水及麴，使之發酵而成。

第五節 貿易

豆類輸出貿易，在最近數年來，以國外銷路之進展，極多成績之可言。際此各種商品之日見衰落，豆類一項，反能若此之發達，實非吾人所能料及。就中尤以黃豆爲最重要，其輸出量，當民國二年時，祇值一千六百萬兩，民國八年有二千九百萬兩，民國十一年增加至三千八百萬兩，民十三有六千五百萬兩，十四，十五，二年稍減，至十六年又極多發展，全年出口量，達八千三百萬兩，而爲歷年來之最高紀錄。同時其他各種豆類之輸出，亦頗進步，如蠶豆爲一、二五八、五二九擔，值四、二八七、〇六二兩；赤豆一、〇三四、五八九擔，值三、六六七、二六七兩；小綠豆二

九四、八九八擔，值「五一三、三二二兩；青豆三三、三七一擔，值一、二三七、三三〇兩；黑豆二〇六、二七八擔，值七、五九、五〇九兩；白豆二五八、九七六擔，值八七九、八二七兩；他類豆爲二九七、三六三擔，值八九一、九四七兩是也。十六年輸出數量，共有二九、一一〇、九二四擔，值九六、一八三、八三九兩。倘與豌豆連合在內，則有二九、五三四、一七〇擔，值九七、七七八、八九五兩。

黃豆之銷路，近數年來，每以俄國太平洋各江爲最盛，如十四年爲八〇〇、「四八九擔，值二五、四四四、七三五兩；十六年又自十五年之九、五三八、三七四擔，二九、二八二、八〇八兩增加至一、四六〇、七九二擔，三四、六一、五九一兩。日本台灣次之。十四年有五、三七二〇六〇擔，一九、八八五、二二九兩；十五年稍減；十六年爲三、七六六、九一一擔，一三、九五五、五五一兩。土耳其、波斯、埃及、荷蘭、朝鮮、爪哇、印度、意大利、香港等依次而下。然一攷其輸出口岸，則十六年大連之一四、九四二、九五二擔，五、五二八八、九二三兩爲第一；哈爾濱及其附近各地一、一四六一、〇五五擔，三四、六一二、三八六兩第二；漢口八九六、五五六擔，四、三〇三、四六九兩，第三；龍井村一、五七九〇八九擔，三、一五八、一七八兩，第四；牛莊七〇三、九二七擔，二、九四二、四一四兩第五。安東四九八、五〇〇擔，二〇八一、九〇七兩第六；天津二三五、七五八擔，九四三〇三二兩第七；埠春二五「九一九擔，五〇三、八三八兩第八；九江一三五、五三二擔，五〇一、四六九兩第九。各地原貨出口數，共爲三〇、七六二、一五七擔，值一〇四、五二〇、七六〇兩；較之十四年之二二〇三六、九一六擔，七、六、九〇三、四一、一兩，十五年之二三、五四二、八三一擔，七、九、三六四、九

三八兩，極多發展。

黑豆之輸出口，以日本之銷路為盛。十四年為一二二、一七四擔，值四〇四、五一二兩；十五年稍落，至十六年又盛，輸出量有一二七、二八一擔，值四五九、五八二兩，與出洋總數二〇六、二七八擔，七五九、五〇九兩相較，佔百分之六十六。香港次之，十六年有四四、〇八二擔，值一六四、八一九兩，其他則爪哇、新加坡、暹羅等地又次之。

青豆多銷於日本、朝鮮、香港、爪哇、新加波、印度一帶。十一年之出洋總數為三三四、三七一擔，值一三三七、三三〇兩；就中銷往日本者，佔一二八、六三六擔，值四二九、三九二兩；香港七、六四一六，擔二八二、三二一兩；第二朝鮮四、四五六擔，二二二、五一三兩；第三印度四、八〇六七擔，一七九〇六〇兩；第四爪哇、新加坡等又次之。該項貨品，大半來自大連與牛莊。以十六年而論，各地原貨出口之總數，為三七七、六七九擔，一四〇一、一一四兩，內經由大連出口者，有二一四、四八七擔，七一四、二四二兩；牛莊六九、一一〇擔，二七五〇五七兩次之。其他則散見於漢口、九江、鎮江、上海一帶。

十六年輸出之小綠豆，雖不及十五年之盛，然亦有三九四、八九八擔，一五一三、三二二兩。就中輸出往香港者，為二四九、〇八二擔，九六五、四二七兩。日本、台灣五〇、五九〇擔，一八三、六六七兩次之。而出口往印度者，近頗發達，十四年並無粒豆之銷；十五年有一九、八五八擔，值八六、九七八兩；十六年增加至四、二九七擔，值一六一、六三四兩，已佔小綠豆輸出之第三位矣。

赤豆輸出額，除黃豆與蠶豆外，即推爲第三。十五年出洋數達一〇四四、〇九三擔，值三八七六、三三九兩。十六年稍有降落，共爲一〇三四、五八九擔，值三六六七、二六七兩。大半銷往日本、朝鮮等處。如十五年輸出往日本者，有七二五、七〇七擔，值二七六七、三八七兩；朝鮮二五六、六七四擔，九〇九、六一四兩次之。十六年之日本銷路，爲六六〇、一七九擔，二三八五、五三七兩；朝鮮之銷路，較十五年爲良好，有三二八、四四一擔，一二五、九九三兩。白豆之銷路，亦以日本與朝鮮爲盛。十六年出洋總數爲二五八、九七六擔，值八七九、八二七兩。銷往日本者，佔一五三、五七九擔，六三〇、一五七兩；朝鮮八五、八四九擔，一七一、七四七兩次之。

十六年蠶豆之銷路，極多發展，由於歐洲英、法、荷、德等國市場之良好也。十五年之出洋總數，祇爲四三〇、八五八擔，值一四八六、二一六兩；日本銷佔一七四、六八二擔，六二五、四〇五兩；英國一一、「四八〇」擔，三八一、三九六兩次之；法國一〇二、一五一擔，三三三、三九六兩又次之。至十六年，英國之銷路，增加至三五「六三五」擔，值一、一九六、六〇九兩，居第一位；法國四〇九、四二五擔，三八四、三三五兩第二；荷蘭一六六〇一九擔，五五九、三三八兩第三；日本一三二、九四七擔，四七二、五一七兩第四；德國一二七、七八九擔，四三三、一五四兩第五。來源以漢口一埠爲獨盛，十六年輸出數，有八七二、一一〇擔，值三〇〇八、七八〇兩；長沙之五一三、八三六兩；沙市之五一二、七四〇兩；寧波之二九九、一六兩；天津之一二九、四二四兩等次之。

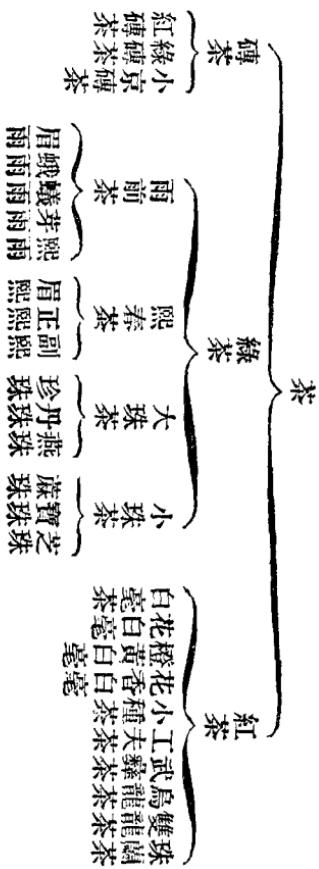
十六年輸出之豌豆，亦爲最高紀錄之一，全年出洋總數，共四二三、二四六擔，值一五九五、〇五六兩。就中白

豌豆一項佔四二〇、二八〇擔，值一五四、四七三三兩。他類豌豆共一二、九六六擔，五〇、三三三兩。白豌豆多銷於日本，台灣，德國，英國，美國等地。十六年輸出往日本者，爲一七一、九一七擔，六四八、四一〇兩；德國一一、八〇九擔，四三四、一五〇兩次；英國之四二、六一一擔，一六〇、六八七兩；與美國之三一二、六八〇擔，一二六、六九一兩又次之。

第七章 茶(Tea)

第一節 茶之種類

茶爲吾國重要農產品之一，種類極多。普通分爲綠茶、紅茶與磚茶三類。紅茶又可分爲白毫茶、花白毫、橙黃白毫、花香白毫、小種白毫、工夫茶、小種茶、武彝、烏龍、雙龍、珠蘭等種。綠茶亦有小珠茶、大珠茶、熙春茶、雨前茶、等之分別。茲爲便利起見，特將茶之種類，列表如左：



上列茶之種類，不過略具大綱，而以產地之不同，名亦異焉。如以福建紅茶而論，崇安所產者名武夷茶，又稱淮山茶，閩侯縣產者爲北嶺茶。福鼎縣白琳地方之白琳茶，閩侯縣板洋地方之板洋茶，建安縣洋口之洋口茶，政和縣清和之清和茶，崇安縣界首之界首茶，政和縣之政和茶，邵武縣之邵武茶，沙縣之沙陽茶，建甯東風塘地方之東風塘茶等皆是。宜昌之宜昌茶，蒲圻縣羊嶺峒地方之羊嶺峒茶，羊嶺司地方之羊嶺司茶，與通山縣之通山茶，皆爲湖北省有名之紅茶。湖南省所出之紅茶種類亦多，如安化縣之安化茶，桃源縣之桃源茶，平江縣長壽街之長壽街茶，瀏陽高橋之高橋茶，醴陵縣之醴陵茶，瀏陽縣之瀏陽茶，湘潭縣之湘潭茶，臨湘縣荳家市之荳家市茶，臨湘縣雲溪地方之雲溪茶，平江縣之平江茶，等是。安徽祁門之祁門紅茶，與江西修水之修水紅茶，亦係特出之品。至於綠茶，則又有安徽徽州府之徽州茶，江西九江市場之九江茶，屯溪茶，浙江舊紹興府之平水茶，福建武園之武園茶，等之分。

茶以收穫時期與製造季節之不同，又可分春茶及夏茶二種。通常春茶葉較夏茶葉爲厚汁液亦濃，在穀雨前摘以製造者，謂之頭幫茶，又名頭春茶。二幫茶一名二春茶，採摘時期，較頭春茶遲四十日左右。夏茶爲二春茶以後所採摘製造者，以時期之先後，得分三幫茶與四幫茶二種。穀雨後二十日摘葉製造者爲三幫茶，四幫茶則爲三幫茶。一月以後採摘製造者，而湖南安化亦有春茶，子茶，採花茶，白露茶之四種，以製造時期而別者也。上海茶市，又有路茶、毛茶、土茶、樣茶之別，路茶乃生產地已經製造完成而運至上海交易者；由生產地運出至上海製

造者，謂之毛茶，土茶爲在上海重行精製之茶，樣茶不過供貨樣而已，間亦有混合他種茶而製造者。

第二節 茶之產地

吾國產茶區域，自北緯二十三度至三十二度間，皆適宜於茶之栽培，如江蘇、安徽、湖北之南部、湖南、江西、福建、浙江之全部、四川、貴州、雲南之北部是也。各省產茶地，可如下表：

江蘇省 松江、常州、鎮江、揚州、江甯。

浙江省 紹興、上虞、嵊縣、新昌、蕭山、諸暨、餘姚、杭縣、餘杭、臨安、富波、溫州、處州、嘉興。

安徽省 舊徽州府之六縣，即績溪、歙縣、祁門、婺源、黟縣、休甯等縣等爲最著。他如秋浦、甯國、霍山、鳳陽、太平、廬江等，亦爲重要產茶地。

江西省 吉安、遂州、武甯、修水、甯岡、鉛山、崇仁、宜春、鄱陽。

湖北省 以崇陽、通山、咸甯、蒲圻、宜昌所產者爲最有名。南漳、穀城、廣濟、黃梅、蘄水、通城、陽新、嘉魚、興山、秭歸、鵝峯、五峯、長陽、恩施、利川、鄖縣等亦盛。

湖南省 石門、臨湘、岳陽、平江、益陽、湘潭、醴陵、安化、瀏陽、湘鄉、湘陰、常德、桃源等皆產之。尤以安化、平江之長壽街、臨湘之鼎家市爲有名。

四川省灌縣、安縣、茂縣、西昌、閬中、宜賓、高縣、屏山、敍永、萬源、渠縣、城口、平武、東山、夾江、犍爲、榮縣、雅安、天全、名山、榮經、漢源、開縣、松潘、懋功、印疇、蒲江、大邑、鄰水、南川、合江等皆爲產茶之區。而雅安則全省製茶之中心也。

貴州省貴陽、思縣、安順、興義、石阡、平越、都勻、遵義。

雲南省普洱、昭通、思茅。

廣東省番禺、南海、高要、鶴山、清遠、紫金、連平。

福建省建甯、延平、邵武、福州爲最著名之產茶區；乃福州茶之原產地也。沙縣、崇安、建安則爲東部與西部之主要產地；建甌、政和、永安、順昌、次之。

山東省甯陽、滋陽、泰安、萊蕪。

陝西省安康、紫陽。

第三節 製茶

茶之製造，可分紅茶、綠茶與磚茶三種。綠茶之製法，係就所採茶葉，以篩去其塵埃及不純之物，然後入蒸葉室之籠內蒸之。爲時可三四十秒，見葉莖柔軟化爲藍色，急取出稍冷，再盛入淺籠，而用焙爐焙之，且焙且揉，俟水

分大半化去，取出略爲散布，再置焙爐中，用低溫度烘之使乾，即成綠茶矣。

紅茶之製法，係將採取之葉，先使萎凋，即曝諸日光中，至適度時，再入生葉室中，設法使葉內水份蒸發即止，用篩去其土砂及不純物，而搓揉之，置於桶內，使之發酵，及茶葉呈赤褐色有佳香時，取出曝於日光中，約一二小時，即可置諸焙爐，烘之使乾，於是紅茶成矣。

磚茶製造原料，爲茶之粉末，置入籠內蒸之，然後傾入磚形之印板，及乾而成。

第四節 茶之產額與品質

茶之產額，全國共有一百四十萬擔，浙江省與安徽省各三十萬擔，佔第一位。江西、福建、湖北三省共六十萬擔，其他二十萬擔，分佈於各省，此大略之情形也。

茶之種類甚多，上已言之矣。以是品質之鑑定，殊非易事。以各有特長，未可如一論也。大約紅茶以色黑，味濃、不苦、汁液色赤，爲上等品。綠茶須濃青色，而有光澤，味甘而爽，無苦味。汁液呈青黃色者，方爲佳品云。

第五節 貿易

在昔之日，茶葉一項，幾爲吾國之特產物。每年輸出外洋各國者，爲額甚鉅。以是在全國輸出貨品中，極佔重

要之位置。當光緒二年，出口之各種茶葉，共值關平銀三六、六四七、九二六兩，光緒十年與二十六年間，至多不過三三、五〇〇〇〇兩，少僅二五四四、八〇一兩，二十七年減至一八、五一、二八二六兩，其後雖互有增減，總不過三〇〇〇〇〇〇兩上下。至民國四年，忽驟增至五五、五六、二五一九兩亦由於歐戰時期適然之機會而已。嗣後逐漸減少，如民國九年，祇值八、八七三、一三五兩，以後稍有增加，終不克與當年相比擬矣。推厥原因，實由於吾國商人道德之不講求，往之美惡相雜，底面不符，遂致華茶聲價頓落，栽製復不師新法，惟守舊是從，自不能與免稅之印錫茶葉及獎勵輸出之日本茶葉，互相爭衡，江河日下，莫知所歸，蓋由來漸矣。

我國茶葉輸出目的地，以俄國、英國、與美國三國為最盛。據民國二年之統計，該年輸出至俄國之茶葉，佔總數百分之六十二；往英國者佔百分之五；美國百分之十。故華茶之暢銷與否，全視俄銷為斷。當俄國內亂後，俄商停運華茶，所有需要，悉賴英國倫敦市場轉給。於是華茶對英銷路，一時增加，如民國八年華茶對俄銷路佔百分之二十三，輸往英國者增加至百分之三十一，美國佔百分之十二。及民國十二年，華茶輸出至俄國者，祇佔百分之二，英國亦不過百分之二十一。美國為百分之十八。民國十四年，俄國復行加入中國茶市，凡有所需，皆直接由華購辦，全年運俄華茶，共有二七四、五一七擔，約佔出口總數八、三三、〇〇八擔，百分之三十三。實民國七年以降之特色。去年度又增加至三〇〇、九九二擔，其中功夫紅茶佔三三、〇七〇擔，值一〇三四、〇〇一兩；他類紅茶二四、八三一擔，值一〇三〇、九九〇兩；小珠綠茶一、九五三擔，值八、二八四六兩；熙春綠茶一、一三〇四擔，值四三〇、

二八兩，雨前綠茶三五、六七一擔，值二、一五六、三一二兩；他類綠茶一七、一七一擔，值六二九、六四九兩；紅磚茶九五、四四八擔，值三、六五六、七三二兩；綠磚茶七五、二七〇擔，值一、一四七、五九〇兩；毛茶六、二九四擔，值一、一九、三九七兩，是也。與出口總數八七二、一七六擔相較，佔百分之三十四以上。他如香港、丹麥、荷蘭、法國、加拿大、土、波、埃及等處，亦有增加。法國自十五年之「九三九」擔增至四三、二三八擔；土、波、埃及一帶，十六年運往之華茶，有一二九、八二五擔；香港一一七、五八六擔，較十五年高出二、二八〇六擔；而澳門、安南、爪哇、挪威均較十五年為減少。

第八章 菸葉(Tobacco)

第一節 菸葉之種類

菸葉之種類甚多。東三省所產者，有高力菸葉與黃菸葉二種。高力菸葉葉形小，多密生，收穫量甚豐，味極苦。而黃菸又有片子菸葉、東山菸葉、南山菸葉之分。片子菸葉乾燥後呈鮮黃色，為優良之品。東山菸葉為遼寧省東北部所產者。吉林附近一帶之產品，則名南山菸葉，其葉形長而闊，色青者稱大青筋，葉形小狹為黃色者稱胎裏黃，葉長大呈鮮黃色者稱柳葉尖，葉最長大而黃色者稱胡把香。

河南省之菸葉，產於鄧縣一帶者，稱鄧紐。又有一種鄧柳，俗名鄧片，與鄧紐不同之點，祇栽培上略有異耳。

湖北省所產之菸葉，有白菸、黃菸、紅菸、黑菸，烘包之分。白菸表裏均呈黃色，又或黃白色；黃菸之乾燥度較白菸為強，而黃菸之色度，亦不若白菸之深；紅菸為紅黑色，由於氣候不順也；黑菸為青黑色，而腐敗之菸葉，皆稱烘色。

浙江省之菸葉，有泗都葉與松陽葉二種。泗都葉呈赤色，略帶褐色，有光澤，葉形稍大，葉肉頗厚，香氣極強，味

濃厚而松陽葉則爲黃褐色。

第二節 菸葉之產地

菸葉之出產，全國各省皆有之，而以廣東、廣西、福建、浙江、安徽、江西、湖南、湖北、四川、河南、山東、甘肅、吉林諸省爲盛。

吉林省 主要產菸葉地，推南山地方爲著名，即鏡波湖南北地方所產，松花江上流，吉林、樺甸、舒蘭、磐石、額穆、敦化、濱江、甯安等亦盛。

河北省 宣化、易州、涿州、甯津、邢台、雄縣。

山東省 綿縣、坊子、甯陽、滋陽、泰安、棲霞、沂水、莒縣、招遠、昌樂、安邱、臨朐、益都、臨淄、即墨、鄒平、桓台、濰川、堂邑、太原、平陽、絳州、曲沃、孝義。

陝西省 鄖縣、鳳翔、乾縣、長安、襄城、洵陽。

甘肅省 蘭州（所稱蘭州水菸極有名）沙泥、鞏昌、甯遠、禮縣、成院、秦州等。

四川省 成都平原爲主產地。新都與金堂，最重要之二大散集市場也。其他萬縣、渠縣、合州、崇嘉定等亦多。

湖北省 均州、廣水、孝感、黃岡、廣濟、常建、南鄉。

湖南省 衡州、湘潭、柳州、甯鄉、長沙、善化、武岡、永興、辰漢。

河南省 鄭州、冠羣、內鄉、杞縣等。

江西省 廣豐、瑞金、驛前、新城、安遠、珠明、蓮湖、東湖、都昌、瑞昌、進賢、鉛山、羅坊等。

安徽省 宿松、安慶、臨淮關、鳳陽、相城等。

江蘇省 銅山、碣山、豐縣、沛縣、睢寧、宿遷、蕭縣、邳縣、六合。

浙江省 松陽、新昌、平陽、桐鄉、嚴州、台州、浦江、杭縣、鄞縣、定海、富陽、常山。

福建省 永定、沙縣、（夏茂）順昌、福鼎、霞浦、大田、新坪、龍巖等爲最著名；而汀漳道永定縣所出之葉，尤爲

名貴。

廣東省 南雄、天堂、鶴山、石龍、源潭、四會等。

廣西省 柳州、南甯、龍州、梧州。

貴州省 貴陽、貴筑、定番、貴定、修文、思南、婺川、甕安。

雲南省 建安、順甯、普洱。

熱河省 赤峯、圍場、開魯。

第三節 菸葉之產額

全國菸葉之耕種面積，當民國三年時爲五、二八九、一三九畝，民國五年減少至三、〇二四、二七五畝，民國六年有四、七八二、八七七畝，至民國七年大盛，各區產菸面積總數激增至一〇、五一、五四四畝，而收穫量亦自八、八四一、二七二擔增至一三、〇四三、七七一擔。各省產額，自以河南省爲最盛，達九、五一六、九二七擔，與總額相較，佔百分之七十二以上。陝西省五七六、一六〇擔次之，其他如江西省之四一五、一四五擔，吉林省之三九八、三六三擔，江蘇省之三八七、五八九擔，奉天省之三五五、三三二擔，浙江省之三四九、七三〇擔，山東省之二七二、六二七擔，湖北省之二二四、三三三擔，黑龍江省之一五四、五八五擔，福建省之一二五、四四八擔，安徽省之一一五、五八四擔等，又次之。此尙屬十年以前之情形也，輓近以來，人民吸煙者甚多，製煙事業，日新月異，故種植菸葉者，以需要之日增，逐年益發達，惟統計缺乏實屬憾事耳。

第九章 蔴(Indigo)

第一節 蔴之產地與產額

當外國靛青未輸入以前，中國所產之靛，在市場上極佔重要之位置，民國三年時，外國靛以及安尼林染料之大宗進口，幾有取代中國靛市場之勢。後以歐戰暴發，來源驟少，於是中國靛遂大事發展。除供本國之消費外，兼輸出他國焉。大戰告終，德國商業漸次恢復，靛與染料，捲土重來，而與中國靛之銷路競爭，國產靛以成本昂貴，品質欠佳，大受其摧殘，實亦勢所必然者也。

中國靛之產地，西北部各省皆盛，而江西、福建、廣東、廣西、四川一帶，尤為主要之產地，普通常於種麥之地收穫後栽植靛青，兼有調劑地力之效，誠一舉而兩得之利也。

江西省潯陽道樂平縣所產之靛，極為有名，產區又廣，在歐戰時期，幾視為主要之農產，每畝可獲利十元，每年收穫約有三次。第一次作寶藍色，二三次則為深色。又樂平之西南，有縣名餘干者，亦以靛出產名，惟不及樂平。湖北省所出之靛，為額極盛，涓水、漢水、襄河、黃岡、黃坡、安陸、雲夢、鍾祥以及京山、棗陽、襄陽、宜城、均州、穀城、光

華南漳、潛江、天門、沔陽、遠安、隨縣、應山、江陵、巴東、荊州、石首、房縣、竹谿、武昌、漢陽、崇陽、蘄春、蘄州、麻城、黃梅、鄂城等，皆有名產靛之區也。漢口市場上之靛，產品種類有四，所稱樂平貨、巴河貨、府河貨、黃陂貨是也。樂平貨產於江西，省以品質之優良，故貨價最高。產於湖北黃岡一帶者，稱巴河貨。府河貨產於涓水及襄河沿岸。黃陂貨則以品質不良，售價以是最賤云。

山西省產靛之區，爲離石、霍縣、渾源、曲沃、太谷等地。內含染料成分，據歷次試驗之成績，較他處所產爲豐富。山東一省，產靛頗盛，較之山西更爲發達。惟在最近數年來，以天災人患頻仍，直有一落千丈之勢，然每年尚有二、四、六〇〇擔之出產也。以民國十四年之價格計之，可值銀六〇〇〇〇〇〇兩。

東三省亦爲產靛之區，爲便利起見，得劃分爲二大區域。一在遼寧省之東北部，自長白山至松花江一帶，包括西豐、東豐、西安、海龍、柳河、輝南、本漢、樺甸、雙陽、舒蘭與伊通在內。一爲遼河附近與平奉鐵路之沿線，而尤以錦州爲出產之中心。出產畝究有幾何，現尚無可靠之統計。據前農商部之估計數，全滿洲靛之產額，共爲九〇〇〇擔，西豐與東豐各佔二〇〇〇〇擔，西安一五〇〇〇擔，錦縣、海龍均爲九〇〇〇擔，雙城五〇〇〇擔，柳河本美、各六〇〇〇擔，朝陽七〇〇〇擔，惠豐二〇〇〇擔，樺甸、舒蘭、雙陽、伊通合共一〇〇〇〇擔，此大略之情形也。

浙江省所產之靛計有二種，所稱山靛與粉靛是也。山靛又有圓葉、尖葉、紫梗、綠梗等名目。金華道之金華、衢縣、建德與甌海道之麗水，乃浙江產山靛最著名之地也。其他如會稽道之鄞縣、紹興、甌海道之永嘉等，亦盛。

第二節 貿易

競輸出國別表單位：擔

年份	國別	香 港							
		澳門	新 加 坡	日 本	其 他	合 計			
民國九年	七一、四三六	四八五	• 六七七	四一	七二、七一八擔	五二九、九一八兩			
民國十年	五〇、九九二	四九八	四五〇	八六五	五三、四九八	三七八、八八六			
民國十一年	二八、四〇八	三七三	三三七	七一	二九、四九九	八六、四六八			
民國十四年	四、三四八	一三八	一、二三九	五九	五、八四三	三二、一一〇			
民國十五年	二七五	六一	二、五三四	五七	三、一三一	一七、九七六			
民國十六年	八一九	一二三	一、〇六九	—	—	一四、二六七			

第十章 落花生(Groundnurs)

第一節 落花生之產地

我國落花生之栽培，遠在一一千六百餘年以前。廣東、福建兩省，即爲最初栽種落花生之地。後以需要日增，於是栽種區域，因以擴充而至於北部一帶。事美國傳教牧師由美輸入大粒之落花生種移植於山東一帶，品種甚優，產量亦豐。以黃河流域左右之沙質土壤，極適宜於落花生之栽培，遂將稻、麥、砂糖之耕作面積，皆改種落花生，產額於是大增。江蘇省北部、山東省山岳地帶，並河南、河北北部地方，皆現今落花生之主要產地也。山東所產者，可分南貨、北貨二種。南貨爲濟南以南所產之落花生，北貨則爲濟南以北地帶所產者。又有西南口貨、大汝口貨、濟東貨、河北貨、大路貨等名目。西南部地方如臨沂、沂水、莒縣、日照等地所產者，謂之西南口貨。泰安縣及其附近產者，稱大汝口貨。濟東貨爲濟東縣、章邱縣一帶之產。黃河附近稱河北貨。而大路貨即爲河南省接近地方之落花生也。

除上述產區外，他如湖北省之沙洋、湖南省、江西省、安徽省、浙江省等地方亦產之。

第二節 落花生之產額

落花生產額，以氣候土壤之不同，因亦異焉。如印度一帶，每畝產量之最低者，約有七百磅，最高量則有五千磅上下，現孟買地方之落花生產額，平均有二千餘磅，巴拿馬地方祇八百四十磅，可穆比亞爲一千二百磅，奈可爾流域約一千磅，至於中國之產額，據美國某領事之報告，山東地方每畝約二千五百磅，而瓊州一帶，則僅九百斤云。

各省落花生之出產，以山東最爲發達，故產額特盛，其有八、四二八、〇〇〇擔；河南省六、八七四、〇〇〇擔次之；江蘇省六、二五九、〇〇〇擔，居第三位；湖北省三、八九九、〇〇〇擔，佔第四位；他如河北省之二、七二一、〇〇〇擔，安徽省之一、八九〇、〇〇〇擔，福建省之一、三二一、〇〇〇擔，浙江省之八八五、〇〇〇擔，江西省之五五〇、〇〇〇擔，熱河省之三九五、〇〇〇擔，等又次之。全國出產總額，共三三二八五、〇〇〇擔。

第三節 落花生之用途

落花生爲種子油原料之一，其用途甚廣，壓之成油，稱花生油，可供烹飪用，輸出外國，又爲橄欖油之代用物。

第四節 貿易

山東爲吾國落花生出產最盛之區，以是每年出口者，極佔全國重要之位置。凡文登、萊陽、福山一帶所產者，皆散集煙台，由此出口。舊水、睦縣、萊蕪、新泰、蒙陰、泰安、大汶口、濟東、博山、安邱、昌邑、諸城、王台、平安、日照、海陽、卽墨所產之落花生，多集於泰安金家口等地，或直接或轉道而至青島出口。曹州、濟甯、兗州一帶，移出時，以花生仁爲多，由津浦鐵路經浦口至上海。沂州花生，則由青口運往上海。德州平原所產者，向由天津出口。此山東省落花生各產區出口之情形也。

落花生之輸出海外各國，可分花生仁與帶殼花生二種。帶殼花生通常即稱落花生，民國二年時，落花生之出口，有一百萬擔，值四百六十萬兩；花生仁爲八萬七千擔，值四十二萬兩。嗣後落花生年有降落，而花生仁則欣欣向上，頗有發展之可言。民國十年之花生出洋數量，爲四十萬擔，值一百六十萬兩；花生仁則有一百十萬擔，值五百四十萬兩。民十三又增加至二百六十萬擔，值一千七百萬兩。同年花生之銷路，亦頗爲良好，雖不及二年之盛，已相差不遠。最近數年來，以國外市場之良好，大爲發達。如民國十六年出口之數量，落花生有九十一萬擔，值五百十八萬兩。花生仁爲一百五十四萬擔，值一千一百十五萬兩。

落花生之銷路，以法國、荷蘭、德國、英國、意大利、土、波、埃及、香港、日本、台灣、加拿大、美國等地爲盛。民國十六年輸

出往法國者爲三三九、〇九八擔，一三〇〇、三六二兩佔第一位；意大利一三七、六三六擔，七八六、五〇九兩第二；荷蘭一三一、五六〇擔，七六三、四九五兩第三；德國四八、〇五七擔，四九二、四〇七兩第四；英國八〇、七二五擔，四六二、二九五兩第五；香港五八、六三八擔，三一〇、一七一兩第六；美國五三、六八九擔，二九七、九四一兩第七；日本五三、八八二擔，二八四、六四〇兩第八；土、波、埃、四八、三三四擔，二八〇、二一〇兩第九；加拿大一八、六五五擔，一〇七、三七四兩第十。至於花生仁，美國、加拿大、菲列賓、日本、意大利、西班牙、法國、比利時、荷蘭、德國、丹麥、瑞典、英國、土、波、埃等處與香港一帶之銷路，皆極發達。就中惟歐美市場爲盛。十五年銷於德國者有四九九、〇七七擔，三、三三〇、九五一兩；荷蘭三三七、八六九擔，二二四九、七六二兩；西班牙一六二〇三〇擔，一〇七四、〇三〇兩；法國一四二、六一五擔，九五六、〇八四兩；比利時三八、二二四擔，二五五、六二七兩；丹麥四三、三九〇擔，二九四、八四九兩；瑞典二三三、八五六擔，一六一、八一七兩；英國四、二八一六擔，二八六、三五八兩；意大利一〇五、三二八擔，七〇四、九四九兩；日本台灣一六九、六七五擔，一一二〇、二四二兩；美國三三六、〇八四擔，二二七、三九三兩，等是也。十六年之歐洲市場，除法國外，餘皆降落甚多。德國祇一九〇、六八九擔，一四〇、三五九〇兩；荷蘭爲二三六、一〇五擔，一七二七、五五五兩。西班牙亦減至六二、四一六擔，四五二、七一一兩。日美銷路稍有疲滯。美國爲二七七、三一三擔，二〇四〇、六六二兩。日本一三、三四九擔，九七七、五五六兩。

落花生與花生仁輸出數量及價格額表

年份	數量			價格		
	落	花	生	花	生	仁
民國二年	一、〇五四、三八七	四、六〇九、九七三		八七、〇五九		四二三、二二五
民國三年	五九一、七五五	二、〇八七、三八九		五八二、三四〇		二、九七七、〇五五
民國四年	三三三、一九一	一、一九一、八三三		二一六、〇八六		一、〇〇六、三八二
民國五年	二一六、八四六	八〇三、四七七		四二四、九一七		一、八一二、二五一
民國六年	一〇二、六六五	三五五、六四八		三六八、六五三		一、六五六、二二〇
民國七年	四三、四四〇	一六〇、五七一		四八七、二二九		二、一九二、五九二
民國八年	一三七、三八九	五一七、二六四		一、一六四、八八〇		五、三二三、〇七三
民國九年	一〇九、二九七	四三八、六三七		一、一五八、八四八		五、六一〇、五四八
民國十年	四〇九、七三六	一、六六六、八〇四		一、一四九、一四六		五、四五九、六〇八
民國十一年	四三九、〇〇五	一、九八六、五六三		八九七、四九一		四、八〇六、一九六
民國十二年	八七一、八三二	三、九九八、七〇六		一、三七四、六九三		八、〇四七、四〇四
民國十三年	九六四、三八三	四、四四九、九五七		二、六六三、四一四		一六、九五八、〇六三
民國十四年	八九五、〇六九	四、三三五、九五三		二、〇五四、四二三		一二、九三七、三一八

中國重要商品

一五四

民國十五年	九八二、八一八	五、〇六八、四三五	二、〇一七、二二七	一三、四六五、七二七
民國十六年	九一三、五六九	五、一八六、九九四	一、五四〇、九六五	一一、一五八、五七〇

第十—章 芝麻 (*Sesamum Seed*)

第一節 芝麻之產地與產額

芝麻之種類，通常商業上之習慣，分爲黃芝麻、白芝麻、黑芝麻三種。全國產區，自以河南省爲最發達。境內栽種面積有三〇八六〇〇〇畝，每畝收穫量，平均計之，約有七斗。全省產量，共達二一六〇〇〇〇擔。次之即推湖北省，收穫量有「〇六四〇〇〇」擔。河北省三四一〇〇〇〇擔。江蘇省三二一〇〇〇〇擔。新疆省二五八〇〇〇〇擔。安徽省一七三〇〇〇〇擔，又次之，陝西、山東、浙江、東三省亦產之，惟產量不多，全國總產額，總在五百萬擔與六百萬擔之間。

第二節 貿易

芝麻之對外貿易，以歐洲銷路爲最盛。如荷蘭、德國、意大利、比利時等國，皆爲大宗芝麻銷費國。民國二年芝麻出口總數爲「〇三四六四七」擔，值關平銀「一三三七二一九四兩」，其中輸出至荷蘭者，佔「〇一三九五八」擔，

值六、一四五、五五七兩；德國六九三、一八五，擔值四、二一六、七〇七兩；意大利一〇九、九五五，擔值六七四、八四八兩；英國二五、〇八八，擔值一四九、二三三兩；比利時一四、二三四，擔值八八、七八七兩。及歐戰起後，以商船之缺少，無由轉運，兼以潛水艇政策之施行，運輸更覺困難，故民六、民七之芝麻出口數，祇二十萬擔左右。民國八年，歐戰告終，交通恢復，於是芝麻之輸出，以歐洲各國需要之殷，遂旺盛一時。出口總數有二、八三八、五〇四，擔值一五五七七、二六八兩。而運至歐西者，法國達九七三、五四一，擔值五、二九四、一九七兩；比利時五二、一九五九，擔值二、八三三、〇五〇兩；意大利四九二、一九〇，擔值二、六七九、七五五兩。丹麥一一三、二四六，擔值六一二、四七〇兩。英國七二、四五八，擔值三九三、四九六兩；荷蘭三五、九二三，擔值一九六、一九七兩。實則僅可視為歐戰後暫時之恢復也。故最近數年來之出口額，通常祇六七十萬擔，如民國十六年為五六、五六四八，擔值四、七六四、一四七兩。銷往日本台灣者，有二七〇、九一九，擔值二、二三七、四四四兩；荷蘭六八、一五五，擔五六、〇三九兩次之；朝鮮三九、六三八，擔三九八、〇三〇兩居第三位；法國三九、四三八，擔三一七、八一四兩佔第四位；丹麥三二、五九四，擔二六一、九〇九兩第五；美國二九、八七九，擔二四三、四〇二兩第六；香港二五、三三一，擔二四一、九三八兩第七；意大利二一、四二〇，擔一七七、〇七二兩第八；德國一七、六七四，擔一四四、九三七兩第九；比利時、土、波、埃、新加坡等處，俄國太平洋各口等地又次之。

芝麻輸出數量及價額表(關平銀)

年 次	擔	數	兩	年 次	擔	數	兩	年 次	擔	數	兩
民國二年	二、〇三四、六四七	一二、三七二、一九四	民國十年	一、四八〇、五四七	八、八一一、六二六						
民國三年	一、二五一、一八〇	六、三五五、三一七	民國十一年	一、二五七、七六六	七、四五一、八七四						
民國四年	二、二九八、二〇八	九、五五五、九六五	民國十二年	一、九二六、三七九	一二、一六一、三四五						
民國五年	一、五五八、一〇〇	六、九九七、七五一	民國十三年	九三四、一九一	六、〇五一、一〇八						
民國六年	二二三、二〇〇	一、一〇〇、五三六	民國十四年	五二八、五七三	四、一二二、四六四						
民國七年	二三四、一〇三	一、一七三、三八四	民國十五年	九〇一、四六三	七、二二三、四三四						
民國八年	二、八三八、五〇四	一五、五七七、二六八	民國十六年	五六五、六四八	四、七六四、一四七						
民國九年	二、〇五六、二四〇	一〇、八三〇、〇七〇									

第十一章 胡麻子 (Linseed)

第一節 胡麻子產地

胡麻子之栽培，以北部溫帶地方最為適宜。世界主要出產國，推俄國為有名，北歐各地以及美國次之。吾國產胡麻子地，以張家口為主要散集地。蒙古南部境界附近，胡麻子之出產極盛。其他如河南、河北、山東、山西亦產之。

胡麻子用冷榨或熱榨後，即得胡麻子油，為深棕色，乃重要之乾性油也。故多用以製塗料、印刷油墨等，亦有入藥用者。上海市價胡麻子油之為藥用者，每加侖值規銀三・五兩，通常供漆用者，較為便宜，約二兩左右。

第二節 貿易

胡麻子之銷路，以日本為大宗，十六年有九〇〇二八擔，值關平銀五四六、二一一兩，與出洋總數相較，佔百分之九十七又五。美國之一二三七五兩，香港之七〇九兩，朝鮮之一六兩等又次之。下列之表，即為最近十五年

來胡麻子對外輸出之情形。

年次	擔數	兩數(關平銀)	年次	擔數	兩數
民國二年	一六六、三九三	四八五、四四一	民國十年	七七、一二一	二九一、七四二
民國三年	一八六、五八三	五一四、〇〇六	民國十一年	五五九、一八二	二、〇六六、二五五
民國四年	一五二、九七三	四三八、九一五	民國十二年	一三一、七五一	五〇九、三九三
民國五年	二〇二、四九九	六二二、二五三	民國十三年	八七、七一三	三八二、五四一
民國六年	一三九、八八八	四二八、四五八	民國十四年	八三、七四四	四四四、二七四
民國七年	八八、〇八四	二九六、七五一	民國十五年	六五、一七九	三七二、五四〇
民國八年	二三三、一九五	八一二、五三二	民國十六年	九二、六二三	五五九、三一一
民國九年	一〇一、五三〇	三八八、一〇〇			

第十三章 菜子 (Rapeseed)

第一節 菜子產地與種類

全國菜子產地，以江蘇、浙江、安徽、湖南、湖北、河南，以及山西省北部、河北省東北部、山東省西部地方為主要。江蘇歸蘇州松江府屬各地，如常熟、元和、崑山、嘉定及同里、角里，浙江平湖、嘉興、安徽之蕪湖附近，皆為著名菜子生產地。而漢口、蕪湖、上海尤為長江沿岸菜子各產地之重要市場。漢口之菜子，以來自湖南、湖北、四川及河南，陝西之南部者為多，有油子、黃菜子、辣子三種。油子色黑，粒大。黃菜子為四川所產，粒形較小，辣子粒細，稍帶紅色。其中推黃菜子為上等之品，每子百斤，可得油四十八斤，油子與辣子祇三十餘斤而已。蕪湖菜子市場，種類名目極多，如金花籽、大烏籽、中烏籽、小烏籽、小辣籽、大花籽、中花籽、小花籽、大辣籽等。金花籽為黃色之上等品，大烏籽稱黑子中之最上等者。其他皆屬中下等物。上海市場，通常分菜子為黃子、黑子、雜色三種。黃子稱最良，產於蘇州、崑山一帶。黑子來自浙之平湖、嘉興。雜色子產自常熟，又有名為花子者，為黃黑子參雜之義。黑子參入成數之多寡不定，少者名一成花二成花，對半者為對成花，以來源之不同，又有蘇州菜子、常熟菜子、同里菜子、平湖菜子。

浦東菜子、角里菜子、上海菜子、七種之別。蘇州、常熟之菜子，品質甚良，含油量較多，平湖、同里次之。

第二節 貿易

菜子之輸出國外，每年總在四十萬擔至一百十五萬擔之間。民國二年出口者，為六一六、六九一擔，值關平銀一九四一、九三四兩。民國四年頗多發展，全年輸出數有一〇九一、六三〇擔，值三一八二〇八七兩。自民五至民九年有降落，民國九年祇二三六、八九二擔，值一〇〇四六〇八兩。民國十年復大盛，對外輸出數，共有「一三七、九九六」擔，值四三九六、八七三兩。嗣後頗多衰落。至民國十五年，出口數達一七五四、三四九擔，實為歷年所無。十六年則仍形不振，較十五年減少一、二五五〇四〇擔。試觀下表：

年 次	擔	數	兩	年 次	擔	數	兩
民國二年	六一六、六九一	一、九四一、九三四	民國九年		二三六、八九二	一、〇〇四、六〇八	
民國三年	八七五、六二六	二、七三三、三〇七	民國十年		一、一三七、九九六	四、三九六、八七三	
民國四年	一、〇九一、六三〇	三、一八二、〇八七	民國十一年		六一二、七七六	二、三四一、七八四	
民國五年	六二三、九八四	二、〇〇七、五九五	民國十四年		七八四、八三七	三、四四九、七三三	
民國六年	四三〇、六九四	一、五九〇、八三三	民國十五年		一、七五四、三四九	七、四六六、九七三	
民國七年	六七〇、一、二六	二、二七九、七一八	民國十六年		四八九、三〇九	二、二〇二、九四三	
民國八年	七二六、一一七	二、六九一、九五三					

菜子輸出國別，以日本佔第一位，當民國二年運往日本之菜子，達二七六、三二八擔，值八七七、六六〇兩；英國一五五、七一〇擔，值四八七、三二八兩，次之；英國亦有七六、六四〇擔，值二二一、八二八兩；比利時、丹麥、德國等又次之，及民國七年，菜子輸出至日本者，佔百分之九十五以上，民八、民九，亦約略相同。民國十年之日銷爲一、二三、一九八擔，與出口總數一、一三七、九九六擔相較，佔百分之九十八強。最近十五年東洋莊銷路有一、七二、二一二擔，值七三一七〇七八兩。惟十六年竟一落千丈，祇四七〇、〇二五擔，值僅二一〇、三五四六兩而已。

第四十章 瓜子 (Water Melon Seed)

第一節 瓜子產地

瓜子爲西瓜種子之仁，按五代時胡嶠居契丹，始食西瓜。云契丹破回紇，得此種，後普及本部各地。以故現時甘肅、新疆等省產瓜殊多。哈密之瓜，大且味美，尤稱有名，久爲古來朝廷之貢品焉。至於本部各省之西瓜出產地，尤推山東、山西、河南、安徽爲著名。而山東與河南，更爲其中之翹楚。長山、嘉祥、博平、茌平、臨清、東平諸城地方皆盛產之。博平、茌平之子種極佳，其他如青州、坊子、昌樂、壽光、臨淄等亦頗發達。

第二節 貿易

瓜子之輸出，以香港、澳門、暹羅、新加坡、俄國、日本之銷路爲盛。尤以香港市場爲活動，如民國十年出口總數爲一六五、三二〇擔；而運銷香港者有一四四、五五三擔；日本台灣一六、六八五擔次；澳門與俄國各六〇〇擔，新加坡一帶爲二〇〇〇擔。民國十六年之輸出數，雖不及十年之盛，而年內市價良好，故價額有一〇三九、〇六

九兩，輸出往香港者，佔七二、二一五擔，值八一五〇三四兩。日本台灣一三、七六八擔，值一三二、三二〇兩。斐律賓三七、四九八兩，新加坡二七、三一四兩。爪哇一三、七四一兩，等更次之。重要輸出口岸，則奉天省之大連牛莊，河北省之天津，山東省之膠州與烟台，湖北省之漢口，江西省之九江，江蘇省之南京與上海，廣東省之廣州與瓊州，廣西省之梧州等，皆是。大連一埠，每年瓜子之輸出數，當九十年間，常在十萬擔以上。牛莊、天津、九江、上海諸埠各三四萬擔。最近十六年之出口數，九江一九九、七七七擔，值一八〇七、九八一兩，居第一位；大連一一六、九七四擔，一二二、九五〇兩次之；其他如天津之二五六、三九〇兩，膠州之一六九、九四九兩，牛莊之一二四、九六六兩，廣州之一一九、七四一兩，梧州之一〇七、二一九兩，漢口之一一、三三〇兩等，又次之。

瓜子輸出數量及價額表

年 次	擔	數	兩	數	關平銀)	年 次	擔	數	兩
民國二年	五三、二四九	四八六、七六八	民國十年	一六五、三二〇	一、一五四、〇〇八				
民國三年	三四、六七五	三六一、三二九	民國十一年	六八、一八九	五六五、五七九				
民國四年	六三、七二三	四九二、九三五	民國十二年	六九、九七〇	六一一、〇四二				
民國五年	六九、八一〇	五五九、九五五	民國十三年	五九、六一〇	五四五、九六二				
民國六年	四二、四二八	三六三、一二二	民國十四年	七〇、六四〇	五九一、八九一				
民國七年	三三、〇七六	三一四、六二四	民國十五年	七八、七八四	八六四、二二三				

民國八年	五三、一一七	四四九、五五六	民國十六年	九四、五七三	一、〇三九、〇六九
民國九年	一一三、一一三	七六五、四一六			

第十五章 杏仁 Apricot Seed (almond)

第一節 杏仁產地與種類

杏仁通常可分爲二種，卽甘杏與苦杏是也。甘杏味甜，效用最廣，苦杏味苦，多產於河北、山東、河南等省，而甘杏則以山東之歷城縣爲最盛，以色澤而論，杏仁又得分爲紅杏與白杏二種。

山東固爲全國產杏仁最盛之區，以平時該地之習慣，每有白杏、水杏、麵杏與土杏之區別。白杏呈青紅色，皮薄、肉厚，味甘，亦爲甘杏之屬。水杏爲紅黃色，形稍大，富水分，味甘強，土人所稱將軍拳者是也。麵杏呈黃色，水分較少，肉厚，核小，仁苦，通常以果肉爲主要食用。至於土杏，形極小，肉薄，味酸而苦，核大，仁苦。此種栽培之目的，專爲取得其子仁而已。

第二節 貿易

杏仁一項，爲用極廣，多銷於香港以及歐洲市場。民一幾達一百萬兩，後漸次低落，祇及數十萬兩。民十四復

盛，十五、十六二年，更多發展，十六年之出口數有五六、八四〇擔值一三四六、〇二四兩。輸出往德國者，達二三、一八〇擔，值四九四、二六六兩，佔第一位；香港一〇、七五四擔，三五五、一九三兩第二；荷蘭九〇〇四擔，二〇六、七三三兩，第三；英國八、五七四擔，一五八、九七〇兩，第四。

天津爲杏仁最大之散集市場，故輸出口岸，亦以天津爲最重要。民國十六年之出口數，有四八、七九五擔，值一、一七九、五七〇兩，與全國各地原貨出口數六、二三三〇擔，一四三二、七〇五兩相較，佔百分之八十三；山東之烟台、膠州，次之。

杏仁對外輸出數量及價額表

年 次	擔 數	兩 數	關平銀	年 次	擔 數	兩 數
民國二年	四六、〇二〇	九七一、八六一	民國十一年	二一、二四七	二八一、五〇五	
民國三年	二三、四〇四	四二三、五七八	民國十二年	二八、二〇三	二七六、一二四	
民國四年	五六、三八三	八七九、九九二	民國十三年	一六、一五〇	二五八、八二三	
民國五年	三三、四〇七	五五〇、九〇九	民國十四年	三〇、八二六	四八三、一〇七	
民國六年	一八、二九五	二七九、三四〇	民國十五年	六三、〇八六	一、一五八、五四一	
民國七年	一六、七四九	二六七、六二六	民國十六年	五九、一三三	一、三〇〇、九六三	
民國八年	二四、五三七	三〇八、七八二	民國十七年	五六、八四〇	一、三四六、〇二四	
民國九年	一六、七四五	二三四、四七一				

第十六章 棉子(Cotton Seed)

第一節 棉子產地與產額

中國棉子之出產總額，據最近之調查，約爲一五〇〇〇〇〇擔，揚子江下流及白河流域，其主要產地也。通常皆散集於漢口、上海、天津三大市場，就中自以上海附近一帶爲最發達。年有七〇七〇〇〇〇擔，次之推漢口市場，每年棉子之出產，大約總在四七三〇〇〇〇擔左右。天津附近又次之，年產棉子二四五〇〇〇〇〇擔。

第二節 貿易

棉子之輸出貿易，年以東洋莊採辦數量爲最鉅，約佔出口總數百分之九十五以上。如民國二年之輸出，總數爲一八二、四九四擔，運往日本者，有一八一、九二八擔。而七年之出口數，竟盡往日本。最近數年來，情形亦約略相仿。今以最近十五年來對外輸出之棉子數量及價額，列如左表：

年 次	擔	兩	年 次	擔	兩	年 次	擔	兩
民國二年	一八二、四九四	二三三、三五〇	民國十年	五三五、二六七	八四八、六三七			
民國三年	二四五、八三九	二九四、五七六	民國十一年	三三四、六八三	四九九、二七一			
民國四年	五六六、一一一	六六一、四一四	民國十二年	四三五、三六七	七三三、八〇六			
民國五年	三七三、〇四六	四一四、八五八	民國十三年	三八〇、〇七九	六二八、四七四			
民國六年	三七〇、三八〇	四五九、二八二	民國十四年	五八九、九〇三	一、四〇三、九五〇			
民國七年	一六五、三〇三	二二九、七二七	民國十五年	一、〇九一、〇九五	二、二三一、七七七			
民國八年	六三三、二七〇	八九九、二七五	民國十六年	九一六、六一九	一、六〇七、二一〇			
民國九年	五二八、七九五	八三九、二九六						

棉子輸出口岸，向推湖北省之漢口、沙市，與河北省之天津，為巨。十五年由漢口一埠輸出者，有七二五、九四五擔，值一五一、五九四兩。十六年頗多降落，祇二八八、二三一擔，四五四、二五〇兩。天津之一六八、八四四擔，一八、二三九兩，次之。沙市二四五、三二三擔，三一八、七三八兩，又次之。

第十七章 桐油 (Wood Oil)

第一節 桐油之產地與種類

桐油爲落葉喬木，屬大戟科植物 (*Aleurites cordata*)，隨處皆可種植。幹高二丈許，其葉頗類梧桐，春夏之間，開花呈淡紅色，所結之實大而圓，有如瓶罍，名曰相子，外皮內殼，呈暗黑色，殼內含子，約有五六粒不等，可榨爲油，即所稱爲桐油是也。桐子貨品之優劣，全以皮色爲定，大凡色愈深者，含油質較多，色淡則含油質少。通常有紫桐、白桐、桂桐、嬰子桐之別。產區極廣，舉凡四川、湖南、湖北、江西、廣東、雲南、貴州等省，莫不有桐油之出產。以言其種類，頗爲複雜，可以製法、產地、原散地等而區別之。由製造之不同，得別爲白桐油、黑桐油、洪油、秀油與光油五種。白桐油多輸出海外，又稱金油，呈淡黃色或淡褐色。黑桐油亦稱老油，爲暗褐黑色，少粘度，多供內地之需要。洪油爲湖南省辰沅道洪江地方所產，故稱洪油，油質濃厚，冬日不凝，實爲佳良之品，每年行銷江、浙二省，達二十萬桶。秀油產於四川省秀山地方者，價格不及洪油，光油爲一種普通桐油，呈褐黑色，質燥性強。至於以產地而別之，則可分爲川油、南油、襄油等三種。所稱爲川油者，即四川、貴州省界地方之產品，爲中國桐油最良之品。湖南、貴州、邊界

附近所產者，則稱南油。湖南省湘江道之常德，爲其散集之國心。以來源之雜，又得分南河油、北路油、中路油、雜路油等。凡沅江本流，如溪口、溆浦、辰谿、浦市、泸溪、沅陵、洪江、麻陽、高村、龍潭所產者，名南河油。四川、貴州、湖南、三省界附近之秀山、松桃、石垣、永順、保靖、王村所產者，稱北路油。桃源上流至辰州一帶之產品爲中路油，雜路油則爲常德附近及津市方面之統稱。總之，南油之品質雖不及川油，惟產量則爲桐油中最盛者。以言襄油，蓋指湖北省漢水上漢、湖北與陝西交界地方之出品，老河口爲其散集中心。品質極爲不良，是其缺點。此外尚有萬簍、涪簍、合簍、叙簍等別。萬簍指四川省東川道、雲陽、萬縣、忠縣、鄰水、梁山等地所產者，以萬縣爲中心，故名萬簍。涪簍爲涪州、執江、長壽、酉陽、秀山、彭水產，而集中於涪州者。嘉陵江流域及渠江上流如合州、綏定、三匯場等地之產品，稱合簍，又爲嘉定、敍州一帶之出品。

第二節 貿易

桐油一物，現銷售各國，甚爲發達，在商業上言之，幾成爲中國之獨占品。尤以輸出至美國者爲多，以極於油漆之製造，和以松香，出品非常良好，塗於房屋木器，經水不透，實非他油所及。於是需要日增，而產地方面，人工之廉，油桐產量之盛，遂能以粗陋之方法，製造多量之桐油，以供世界各國之消費。如民國二年對外輸出之桐油，爲四六三、六四七擔，值關平銀四〇〇一五〇三兩，輸出至美國者，佔三一、二四六擔，值二六四〇、四二四兩；德國

三六、六二六擔，值三一〇、五三五兩；英國、比利時、荷蘭、法國、奧地利、日本、香港等次之。歷年來繼續增加，自五百萬兩至一千萬兩至二千萬兩。如最近十六年之擔口額，有九十萬擔，值二千一百九十萬兩，實為最高之紀錄。較民國十三年之八十九萬六千擔，一千七百七十萬兩，猶增高不少。全年內香港方面之去銷，較多發達，有一三三、六八三擔，值二〇九六、四八九兩，與十五年之五三、五三三擔，八三〇、二〇三兩，相較，增加八〇、一五〇擔，一、二六六、二八六兩。美銷亦頗多發展，自十五年之五四〇〇、一三擔，一〇、九四八、二七一兩，漲至五七、二三一六擔，一四、八九七、四三二兩。此外德國、荷蘭、英國之銷路，皆在一百萬兩以上。如荷蘭有五七、六〇三擔，一四六八、五三八兩；德國五四、四〇〇擔，一三八九、七三。兩英國四四、六八〇擔，一、一四〇、七七五兩，是也。其他則法國、意大利、日本台灣等地，亦頗有相當之市面，總在數十萬兩之間。

民國十六年桐油自各地原貨之出口者，有一、一〇四、三八五擔，值二三、六九四、二〇四兩。就中輸出至國外者，為九〇一、二九四擔，值二、九七〇、九四七兩。故銷於本國者，為量極微。重要輸出口岸，以湖北之漢口、湖南之岳州、四川之重慶、萬縣為著名。廣西梧州桐油之輸出，近日臻於發達。他如湖北之宜昌、沙市、湖南之長沙、浙江之溫州、廣西之南甯等地，對於桐油之輸出，亦稍佔位置。當十四年時，岳州輸出之桐油，有四五二、七八五擔，值一、一七八、五九五兩。十五年減為三二八、八三六擔，八、六二二〇八〇兩。十六年又為二四七、六八六擔，六、六八七、五二二兩。反較漢口之三二五、二五〇擔，八、四八八、四〇九兩，為減少，而居第二位矣。萬縣出口之桐油，十六年有一

湘油輸出國別表(單位擔)

九三、四七二擔，二九四〇、七七五兩居第三位。梧州一〇三、三二七擔，一五二九、二三九兩，第四重慶六、一九四擔，一五一、三四三兩，第五是爲全國五大桐油輸出港。長沙三七、一九三擔，六四〇、四六三兩；南甯二九、六九五擔，五〇八、九七二兩；溫州二八〇〇八擔，五〇四、一四七兩；宜昌三九、六五六擔，四四八、一一三兩；上海一三、六六五擔三三一，一二八兩；沙市一六，七五四擔三〇、五七二兩等，又次之。

第十八章 花生油與花生餅 Groundnut oil, Groundnut cake

花生油之出產，以山東省爲最發達，膠州一埠輸出者，年有四五十萬擔，上海、天津次之。其他廣東方面之汕頭、北海一帶亦盛。對外輸出額年值甚鉅，民國八年達一千四百萬兩，東洋莊採辦數量最盛，佔五五六、三七六擔，值七〇九六〇六一兩美銷次之，值三七八五〇一四兩香港「八三七、五五八兩又次之。是爲中國花生油三大輸出目的地。民國九年，以東洋莊銷數銳落，祇及前年百分之五十，美銷亦降至百分之三十五，故輸出總額祇值九百萬兩。較前年減少五百萬兩。嗣後年有跌落。民國十一年祇值四百萬兩，十三年已頗有發展，對外輸出額，自十二年之六百萬兩增至八百四十萬兩，十五年又增加至一千萬兩。就中美銷達三一七、三八一擔，四〇五四、三八二兩香港二二四、四一七擔，二九二八、一八六兩次之。新加坡一一六、二〇一擔，一六六二、五二五兩，與英國之八六、三三八擔，一一〇一三四九兩，又次之。日銷祇五、五二五擔，七〇九五二兩。以視民八、民九之盛況，誠不可同日而語。反不若斐律賓、加拿大、荷蘭、土耳其、波斯、埃及之發達。十六年香港之花生油市場雖無活動，新加坡亦有極緩之進展。惟美國之銷路銳減，祇及上年十分之一。所幸歐洲市場如荷蘭、意大利等頗能多所發展，故全年出洋之花生油，尚有五九一、六六八擔，值八六〇〇、五二九兩，較十五年減少二三一〇五七擔，一六五、七七四兩。

花生油輸出國別表(單位擔)

年 次	香 港	港 菲	列 爵	日 本 台 灷	新 加 坡	英 國	蘭 美 國	其 他	合 計	關 平 銀
民國十四年	二一七、八五三	一七、五三五	二、〇七九	八三、三五一	一〇一、二七八	二〇、八三六	一二六、七四三	五八八、〇六二擔	七、六三五、四七八兩	
民國十五年	二三四、四一七	二六、〇六〇	五、五二五	一一六、二〇一	八六、三三八	一二、二一二	三一七、三八一	八三三、七二五	一〇、七六六、三〇三	
民國十六年	二三〇、七二二	三八、八七四	二、六四二	一二九、八六九	八五、六七二	五五、六八五	三〇、五四〇	五九一、六六八	八、六〇〇、五二九	
花生餅輸出國別表(單位擔)										
年 次	香 港	港 達 羅 日 木	其 他	合 計						
民國十四年	二、八九八	二、五三〇	一三一、一三二	一四五、八四五擔	三五二、一八八兩					
民國十五年	一、八三四	二、一三七	一六一、六七五	一八七、二九〇	五二〇、五五八					
民國十六年	一〇、六六八	二、一一五、一八八、四一三	二四五、九〇三	六六四、四五六						

花生餅之銷路，以日本爲大宗。民九達二十萬擔，近頗有降落，如十四年之十三萬一千擔，十五年之十六萬一千擔，十六年之十八萬八千擔是也。

第十九章 麻油 Sesamum Seed oil

芝麻餅之國外銷路，不及麻油之盛，在民國初年。麻油之輸出總數，常有二三十萬兩之鉅。民國八年達四十萬兩，以美銷之激增所致也。該年輸出至美國者，有二九七、七八二兩。九年減至二四三兩。同時香港與日本之銷路，亦極受打擊。於是輸出量跌至五萬兩，近則更形沉悶矣。十六年之出洋總數計為四二、八二一兩。運銷香港者，佔二、一五五兩。朝鮮之八、四七八兩。美國之六、九二五兩。日本之四、二〇〇兩等次之。

麻油輸出數量及價額表

年 次	擔	數 兩	年 次	擔	數 兩
民國二年	八、五二六	一一八、〇九九	民國九年	三、七二八	四七、九九三
民國三年	一一、四八六	一三九、三三六	民國十年	三、〇三一	三七、四五六
民國四年	二二、〇〇八	一八五、六〇二	民國十一年	二、八〇四	三九、二四六
民國五年	三二、六五一	三三二、五九三	民國十四年	二、〇三五	三四、七七一
民國六年	八、九〇四	一一九、〇八六	民國十五年	五、六一二	八七、七四九
民國七年	二〇、六二二	二二一、三六三	民國十六年	二、二〇七	四二、八二一
民國八年	三七、七五五	四三八、三三六			

第十一章 菜油與菜餅 Rapeseed oil, Rapeseed Cake

菜油輸出貿易，當民國初年，有二三十萬兩。最近數年來，頗為不振。惟菜餅一項，以日本方面銷路之發展，輸出量尚佳，年有七八十萬兩。近則達百萬兩以上。如十五年之出洋總數為一百五十九萬三千兩，日銷有八六八、九九七擔，值「五七三〇五一兩」。朝鮮「五〇三擔，二〇、三五九兩」次之。十六年以東洋莊採辦數量銳減，祇五五〇、一四四擔，值九八六〇二八兩。故全年出洋總數，亦低落至一〇〇一、一四六兩。今以最近之菜餅輸出國別，列如左表：

年 次	朝 鮮	日 本 台 灷	其 他		合 計
民國九年	—	三一四、八九七	三一四、八九七	四七四、五九二	兩
民國十年	一〇、六八八	六〇九、三六〇	六二〇、一三二	八四六、三一四	
民國十一年	—	四七一、九四八	四七一、九八二	六九五、〇一九	
民國十四年	一一、〇九四	六〇五、二九四	六一七、一九八	一、一四九、二〇七	
民國十五年	一一、五〇三	八六八、九九七	八八〇、五〇〇	一、五九三、四一〇	
民國十六年	八、三二六	五五〇、一四四	五五八、四七〇	一、〇〇一、一四六	

第二十一章 棉子油與棉子餅(Cotton seed oil, cotton seed cake)

第一節 用途

棉子油係由棉子用浮析、壓搾、提精等法製成；但普通一般情形，祇用壓搾一法。故含殘渣質地極多，所謂不純物是也。欲供食用，非再經精製不可。精製用物，有燒鹹石灰、堵石等，皆屬鹼性物質，能將油內所含不純物除去，使之沉澱，而與油質分離。我國各油廠，大都皆用石灰，其成分平均為氯化鈣九八·三、氯化矽〇·九五氯化鉛〇·五五、氯化鐵〇·一九。與棉子油中不純物化合而生沉澱時，並無溶解於油之物質，使極為純粹，與花生油、菜油、豆油，有同樣之效用，亦可供肥皂製造之原料。

第二節 貿易

漢口與上海二埠，為全國棉子油之會集地，除供本地之消費外，移出外埠者甚多。而對外之輸出，則以英國為獨盛，日本、香港、澳洲次之。民國初年，該項出產物之銷路，頗稱發達，民六以前，每年輸出額，常達八九十萬兩。民

國七年增加至一百二十萬兩，民國八年又高漲至二百萬兩，由於美國方面銷路之平穩也。民國七年輸出總額為一三三、二七二擔值一二四五、六五六兩。輸出至美國者，佔一二四、九八八擔值一、一七五、七五八兩。民國八年雖稍有減少，猶值一、一三四、五三一兩；而英國方面之銷路，復由絕跡而漲至二七〇、五七〇兩。挪威與加拿大之需要，亦甚緊張。銷量皆在十餘萬兩以上。至民國九年，美國銷路大為降落，全年祇二十餘萬兩。加拿大之華棉子油市場，幾告絕跡。英銷祇及上年百分之四十，以是該年之對外輸出總額遠非前年之可比擬。嗣後更形不振，民國十一年共七萬六千兩，十二、十三年雖稍見活動，祇值十萬兩。最近數年來，關冊上不列專名，而附於他類植物油總數內矣。棉子餅一項，以年來東洋莊需要之殷，探辦頗勤，十四年之出洋總數為一、一二二〇八八擔值二、五〇八、〇五四兩。而運銷日本台灣者，有一〇八、五、八二一擔值二、四四二、一二六兩。十五、十六、二年，稍見疲滯，十六年共為八二四、六六八擔值一、九二四、七六一兩。除運赴香港一五二擔值三八〇兩外，餘皆銷日本。

第十一章 茶油 Tea oil

第一節 茶油之產地

茶油爲茶實榨取而成。茶實有二種，一爲茶梅，學名(*Thea Sasanqua*)，其一學名爲(*Thea Sinensis*)，所稱普通之茶樹是也。茶梅長成後，高有丈餘，四川中部北部一帶山野間多產之，東部各省，祇爲取其子播種後所生植者，通常於秋間開花，結實後，農人稱之曰大瓣茶子，蓋所以別於普通茶樹也。普通茶樹高祇五六尺，結實亦小，故稱小瓣茶子，凡種茶之地皆產之，乃種茶者之一種副產品也。以是我國茶油之產地，分佈於湖南、湖北、江西、廣東、廣西、福建各省；尤以湖南省之產額佔最多數。如湘江流域之瀏陽、平江、來陽、衡山、資江流域之新化、寶慶、沅江流域之桃源等，其主要之中心也。每年出產物，與江西、湖北等省皆集中於漢口，而兩廣及福建之出品，則又以梧州爲分配之要地。

由茶梅擰取之茶油，呈黃色而透明，以該項茶實之外皮爲深褐色，而肉仁作淡褐色也。小瓣茶子之外皮與

肉仁，均較大瓣茶子之顏色爲深，通常茶梅長成後，每樹每年可得子實五斤，需二十株始有一擔之收穫量，榨成茶油，約得二十斤。普通茶樹較多，每擔可得二十五斤。每當冬季十二月中旬之際，茶子皆已成熟，農人以竿輕擊之，即紛紛落地，去其外皮，而將肉仁曝諸日光下，待其乾燥，置入臼中，用力碎之，復入籠蒸熟之，即可榨取其油矣。市場上之茶油，多作深褐色，以榨油時溫度稍高，而肉仁當蒸熟時，即行榨取，並未待溫之故也。

第二節 茶油之用途

茶油主要之用途，經瀘清後，多用於化妝品一類，除此以外，亦可供烹調食物與燃燈之用。惟茶油一項，據本草所載，內含有毒質，故烹調食物時，必須久經沸滾，否則必使胃部失序也。其渣滓製爲茶餅，又爲極好之肥田料，稻田最宜，以能去除各種稻害蟲，間亦有用爲燃料者。

第三節 貿易

茶油對外輸出量，以民國八年爲最發達，共值六二七、七九九兩。香港方面佔五二一、〇三〇兩，居第一位；日本八〇、八七六兩次之；英國一四、九〇六兩又次之。民國九年大爲降落，以香港銷路減縮也。最近數年來，更形不振。至十六年稍好，全年出洋數量，已有二萬四千餘擔，價值三十八萬兩，雖尚不能與民八比擬，惟民九而後之巨

銷也。左列之表，即為最近茶油對外輸出之國別概況。

年數	國別						其 他	合 計
	香 港	英 國	日 本	美 國				
民國九年	一三、一三一	五、九五四	四、八四一	六五九	二四、六三八	二九三、八〇六	兩	
民國十年	七、四八三	一、〇二三	六、五三九	七七八	一五、九七九	一八二、九〇七		
民國十一年	七、五九八	一、三四三	六、三七三	三四九	一五、七一	一七八、七六九		
民國十四年	一、四六〇	…	七、五五八	二、四六八	一一、五二八	一七五、九四八		
民國十五年	二、二九九	…	八、二〇一	一、七五二	一二、三二四	二〇五、二二一		
民國十六年	一三、〇七六	四、〇二九	四、七八八	一、五三二	二四、七八七	三八〇、七九七		

第十一章 榴油 (Tallow Vegetable)

第一節 榴油之產地與種類

榴油爲烏榴之子實搾取而得。烏榴爲落葉亞喬木，屬大戟科植物 (*Stillingia Sebifera*)，高可二丈餘，葉圓如卵形，端爲尖形，夏月開小花，呈黃白色，一屆秋末，其實遂熟，所得之油，可爲肥皂及蠟燭之原料。產區以湖北省之西南，四川省東南部，貴州、湖南、廣西及安徽、浙江省界地方爲盛。言其種類，以上海之情形而論，大約有三種：所謂皮油、木油與梓油是也。皮油爲就烏榴果肉搾取者。歐美肥皂製造業家稱爲 (Primary Vegetable Tallow)。由果肉、肉皮、種子三部，卽子實全部採取者，名木油亦稱 (Secondary Vegetable Tallow)。梓油則爲就核內採取者。

第二節 貿易

榴油之輸出至海外各國，以歐美之銷場爲大。當民國二年時，輸出數量爲二二〇九九八擔，值關平銀二二

六六、九六一兩。民國五年增加至二五六、九六〇擔，值三、〇一、一六九五兩。以後年有降落，民八尚有「九七九、三三三兩」，民九祇七八、九、三一七兩，民十一則不過六六八、一九五兩矣。與最盛之民五相較，減落二三四三、五〇〇兩。民十二年稍有發展，全年輸出者，有九六、三四八擔，值一、〇八六、一三八兩。民十三更多進步，已達一、三三〇、四〇四兩。十四年稍減，十五年降落甚鉅，祇值七九五、五〇七兩。十六年較十五年為進步，惟尚不能與十三、十四年比擬，美銷佔四、七〇二〇擔，值六四、「八二三兩」，意大利二二〇七七擔，值三〇七、八一六兩。次之，近十五年來之輸出數量及價額，可如下表：

年 次	數 量	價額 (關平銀)	年 次	數 量	價額
民國二年	三〇、九九八擔	二、二六六、九六一兩	民國十年	六六、一二五擔	七五七、一五六兩
民國三年	一九〇、〇九四	二、〇七五、〇二〇	民國十一年	六四、〇五六	六六八、一九五
民國四年	一八一、四八二	一、九六二、一七九	民國十二年	九六、三四八	一、〇八六、一三八
民國五年	二五六、九六〇	三、〇一一、六九五	民國十三年	一一四、八五六	一、三三〇、四〇四
民國六年	一五一、三八五	一、七八二、九三八	民國十四年	九二、五五五	一、一五七、五八八
民國七年	一六二、八八一	二、一二三、八六九	民國十五年	五七、八〇四	七九五、五〇七
民國八年	一六四、五四四	一、九七九、三三三	民國十六年	七八、四九七	一、〇八三、一一一
民國九年	六九、一一八	七八九、三一七			

第一回章 生漆 Varuish (Lacquer, Crude)

第一節 生漆之產地

中國產漆之區，以楚西山地、福建脊梁地、贛湘脊果地爲盛。湖北省襄陽道之鄖縣、竹谿、施鶴道之施恩、建始、荊宜道之巴東、江漢道之隋縣、四川省東川道之奉節、萬縣、合川、龍潭、貴州省鎮遠道之銅仁、湖南省湘江道之臨湘、平江、陝西省漢中道之安康、平利、關中道之商縣、浙江省金華道之金華、建德、甌海道之麗水、福建省汀漳道之長汀、附近是也。最大散集之中心，則湖北之漢口是。不特聞於全國，亦馳名海外也。

第二節 生漆之種類

生漆之種類，大約言之，可分宜昌貨、常德貨與老河貨三種。宜昌貨又有建始貨、萬足貨、毛塈貨等分。建始貨爲湖北省施鶴道建始所產者。萬足貨產於四川省萬足地方。毛塈貨則爲產與湖北省施恩之稱。均由民船裝運，首集於宜昌，然後再轉道而至漢口市場。所稱常德貨，爲產於貴州省鎮遠道、鎮遠與銅仁之出品，集於常德，而陝

西省興安與平利出產者，皆集老河口，故名老河貨。由漢水之便，即至漢口市場焉。其他又有西點貨、與晒點貨之別，品質較毛塈貨遠遜，惟產量尚稱豐富。

第三節 貿易

生漆之出口，年在一萬五千擔左右，而運往日本者，則佔最多數，通常達百分之九十以上。如民國十年之輸出總數爲一八、九二八擔，而輸出至日本者佔一八、五三七擔，近數年來，約略相同。民十六年之日銷爲一八、四六六擔，值一、五三九、三四二兩。與出洋總數一九、一九四擔、五六六〇三三兩相質，佔百分之九十八。主要輸出各口岸，自以漢口、宜昌、重慶、萬縣、岳州爲多。民十一年漢口輸出之生漆，有一、六二六擔，宜昌九、六六五擔，岳州八、七七五擔，萬縣一、二二九擔，沙市一〇二四擔，九江九五七擔，重慶四、八九五擔。至民國十六年，各輸出口岸，均有相當之發展。漢口一埠，佔一五一四七擔，值一、三六二九八〇兩第一。宜昌八、三四一擔，值五六五、五一九兩第二。重慶七、一四九擔，值五五〇、一八七兩第三。萬縣二、四〇二擔，值二〇四、一四七兩第四。上海九、四三四擔，值一三五、二九六兩第五。

生漆輸出數量及價額表

年次	數量	價額（關平銀）	年次	數量	價額（關平銀）
民國二年	一三、四三二擔	八四一、三〇七兩	民國十年	一八、九二八擔	一、二六〇、三二五兩
民國三年	一三、四二九	七九四、一二二	民國十一年	一七、七七七	一、六七三、〇二五
民國四年	一三、五六八	七二五、三六四	民國十二年	一九、三七四	一、五五六、四五九
民國五年	一五、六一九	七八八、六五八	民國十三年	一八、二六八	一、三三三、一七九
民國六年	一二、六〇九	六五〇、七三八	民國十四年	一六、四〇七	八〇四、一五〇
民國七年	一七、一二一	一、〇〇四、七三九	民國十五年	一八、二三六	一、一八六、一七九
民國八年	二一、一九九	一、一七〇、八五九	民國十六年	一九、一九四	一、五六六、〇三三
民國九年	一三、六九七	六八三、三九〇			

第一十五章 人參 Cinseng

第一節 人參之產地與種類

人參英文學名爲 (Gauox Ginseng)，屬於紅蘿蔔一類，多年生草也。葉爲掌狀複葉，花小色白，滿洲、奉天、吉林、以及高麗、接近地方，皆爲人參出產最盛之區，故稱遼參，或曰吉林參，又稱關東參。亦稱高麗參，有野生與種參二種，以野生者爲貴，名野山參。然所謂參者，是其根也，長者八九寸，狀若人形，故曰人參。年數愈多，則愈長，每生深山幽谷，以及斷崖絕壁之地，採取殊非易易，甚爲危險，以是價值極爲昂貴，據業中人云：其年代之久長，可於參之橫紋中得之，殆亦似樹木之年輪然也。性微寒，有補臟安神之效。我國向視此物爲珍品，多作補品用。

有所謂黨參者，歸產於上黨郡，即今山西翼甯道東南部長子縣，長子舊屬潞安府，故又稱潞黨參，爲不透明。此與遼參不同之點也。

第二節 貿易

人參輸出貿易，以香港最佔大宗。十四年運往香港者，有一〇二〇擔，值二〇、五九八兩。十五年爲一〇四擔，值二七九、三一七兩。十六年稍減，計爲八二十四擔，值二二七、五九一兩。

人參輸出數量及價額表

年 次	數	量	價 額 (關平銀)	年 次	數	量	價 額 (關平銀)
民國二年	九四、九四七斤	二四六、八二九兩	民國十年	八八、六〇一斤	二八九、六二四兩		
民國三年	七五、〇一九	一五八、三三二	民國十一年	一三一、七四五	二八〇、六〇四		
民國四年	一〇七、七七五	三一〇、三四六	民國十二年	一〇七、七九一	二六一、五一六		
民國五年	八五、二一三	二一九、三七〇	民國十三年	一〇七、三八七	二四三、二三五		
民國六年	一四五、六一七	二九五、二七五	民國十四年	一、一一五擔	二二四、〇〇二		
民國七年	一二三、四〇二	二一五、六七五	民國十五年	一、四六一	三二三、九八五		
民國八年	一二六、九七八	二六〇、四〇〇	民國十六年	九三二	二四七、二五六		
民國九年	一〇三、二三四	二二一、五三三					

第二十六章 甘草 (Liquorice)

第一節 甘草之產地與用途

甘草有美草、路草、蜜甘草、靈通、國老、等別名。為多年生草，乃甘草類植物之根也。葉為羽狀複葉，當初夏之際，即開淡紅之花，其花冠有如蝶形，簇聚成穗，其地下莖及根皆入藥用，其味甚甜，故名甘草。

甘草之出產，以滿洲、蒙古、山西、甘肅、四川、山東、河北、浙江、福建、廣東等地為盛，新疆、西藏亦多。

第二節 貿易

天津為甘草最大之輸出口岸，年達五六十萬兩之鉅。如十四年有五九三、八八七兩，十六年為七一、五〇二、六連牛莊，次之。輸出外洋，以日本與香港為盛。十四年運往日本者，值三九三、八一七兩。香港二四九、七九二兩。十五年之日銷，頗為發達，共值四九八、八五三兩。香港市場稍有降落。十六年輸出至日本者，又增加至五二六、三四三兩。香港亦漲至三七八、〇六五兩。歷年甘草之對外輸出數量及價格，可如下表：

年次 數	量	價	額	年次 數	量	價	額
				年次 數	量	價	額
民國二年	二七、一六四擔	三三六、四四四兩	民國十年	一五五、一二四擔	二、三八四、四〇五兩		
民國三年	二四、八三一	二三七、〇七九	民國十一年	三二、二八三	三七五、四四〇		
民國四年	三二、六七七	三三四、九一	民國十二年	七五、九八七	一、〇四四、五三七		
民國五年	三二、六六四	三一五、一四二	民國十三年	四四、五三一	六三〇、二〇七		
民國六年	七六、九六三	七〇九、五二三	民國十四年	四三、九六五	六七五、七七九		
民國七年	五九、三三五	六九四、〇二六	民國十五年	四六、八三四	七六六、四二三		
民國八年	一五七、三八三	二、二八五、一一四	民國十六年	五三、六七〇	九三四、八九〇		
民國九年	一〇五、九五八	一、六三五、三三七					

第二十七章 茯苓 (China Root)

第一節 茯苓之產地與品質

茯苓以中國之出產爲最多，雲南、廣東、安徽、山東、湖北、四川、等地方，茯苓之產額尤盛。通常生於松林中，乃菌類之一種也。成塊，大如拳，極似薯蕷，皮色黑棕或紅棕，內有堅硬之澱粉質，呈白色，無臭味，味稍辛辣，略有苦味，品質之佳者，割面組織極密緻，其色有如乳皮，設或割面極粗，色白或棕者，則爲次貨。市上銷售者，成方形，徑半吋，多作藥料用。又有茯神者，爲茯苓包根而質鬆之別名，亦入藥，尚有一種蔓草之根，皮如茯苓肉赤味澀，稱土茯苓，性質與普通之茯苓不同。

第二節 貿易

茯苓一項，年銷於香港者，最佔大宗，十一年達一五、三九八擔，十四年爲一二、二八五擔，值一六四、二三九兩；十五年一〇、三七一擔，一〇一、七五六兩，十六年則有一四〇九〇擔，一五五、六四五兩；日本與新加坡一帶次之；

十六年運赴日本者爲「九六七」擔，值二六〇五—兩；新加坡二三七一擔，值一五、四九四兩。其他暹羅、爪哇等處又次之。以言其來源，推漢口爲獨盛。十四年由漢口輸出之茯苓，有三〇、六一一擔，值五一、〇四九兩。十五年頗多降落，共爲二九、一〇〇擔，三一七、九一八兩。十六年更形銳減，祇二、八九九擔，二五四、六七八兩。其他來自江西之九江，安徽之蕪湖，江蘇之鎮江、上海，廣東之汕頭、廣州一帶。十六年之出口數，九江一六〇一擔，值一六、八一兩；蕪湖一四七三擔，值一六、一〇〇兩；鎮江二三一七擔，四八、六五七兩；上海七五五擔，九八一五兩；汕頭三五五二擔，二三〇八八兩；廣州四九八五擔，三八、五三〇兩，等是也。

茯苓輸出數量及價額表

年 次	數	量	價	額	年 次	數	量	價	額
民國二年	二〇、九八五擔	一五二、六九六兩	民國十年	二四、二七四擔	一七三、四九五兩	一八、〇七五	一四四、七一五	民國十一年	一九、六八一
民國三年									
民國四年	三〇、五三二	二〇八、四一〇	民國十二年	一九、二九〇	二三五、三七四				
民國五年	一七、七七一	一四四、八六五	民國十三年	二五、二四七	三一五、七三二				
民國六年	一九、八三七	一七〇、五四一	民國十四年	一八、九五三	二三四、九六一				
民國七年	二二、四九七	一八四、八七七	民國十五年	二一、五五三	二〇五、六六〇				
民國八年	二二、二四〇	一六一、〇九五	民國十六年	一九、一九二	二〇三、四九八				
民國九年	一八、一二三	一五五、七〇四							

第二十八章 大黃 (Rhubarb)

第一節 大黃之產地

大黃爲多年生草，莖高四五尺，葉甚大，屬多數穗狀花序，其根入藥。四川省所產者，有碧海產於灌雲產二種，碧海產來自甘肅之文縣，亦稱文黃，而散集於四川省者。灌雲產則爲松潘之出品，屬野生，大都供內地之消費用。其他如甘肅省之西甯、中吉、山西省、陝西省、河南省所產之大黃亦多，其性瀉洩峻快，有將軍之稱，俗稱大黃爲生軍，良有以也。亦可健胃，兼作染料用。

第二節 大黃之種類

大黃在世界市場上，有亞細亞產大黃、歐洲產大黃之分。亞細亞產大黃，指產自俄國、土耳其、東印度一帶者。英國、法國、奧地利所產之大黃，則名歐洲產大黃。惟藥品之販賣市場上，通常以俄國大黃與土耳其大黃爲多。中國大黃與印度大黃，亦頗爲聞名。

第三節 貿易

大黃輸出數量及價額表

年 次 數	量 價	額	年 次 數	量 價	額
民國二年	一六、八一四擔	二一八、八一八兩	民國十年	六、一七四擔	一〇六、五五九兩
民國三年	一一、〇四五	一八五、六一四	民國十一年	九、三〇五	一七五、六三四
民國四年	一三、六六五	二二二、九八九	民國十二年	七、五二一	一七五、五八八
民國五年	八、〇一七	一三一、二八一	民國十三年	一一、八三五	二二二、七六〇
民國六年	九、〇二九	一二五、〇〇五	民國十四年	一〇、九九七	三〇六、八五四
民國七年	六、〇九六	八〇、二六五	民國十五年	一〇、三一一	二一七、〇八二
民國八年	九、九九八	一七五、〇〇四	民國十六年	一二、五〇三	三二八、九九八
民國九年	一〇、二〇四	一三八、九五八			

大黃以香港之銷路爲盛。十六年中國大黃運往香港者值一三三、八九四兩，日本台灣五五〇三四兩，美國四五、二九二兩，英國三五〇九一兩，德國二九、五三三兩，意大利一四、三五三兩。

第二十九章 桂皮 (*Cassia Ligneum*)

桂皮爲 *Cinnamomum Cassia* 之皮，當其生長十餘年後，將皮剝下，置於日光下或空中，任其發酵，則外表脫落，乾後成卷，呈棕色，長可呎許。市價每擔值規元二六、五〇〇兩，其重要出產地，以錫蘭、安南與我國之兩廣爲中心。廣東省粵海道之羅定縣、雲浮（東安）、鬱南（西甯）與廣西省之大、容、縣、六陳地方、桂平（潯州）及西江上流之太平府、龍州地方是也。他如雲南、貴州諸省亦產之。產於安南者稱安桂，亦名邊桂。廣西省桂平出品，又名潯桂。猺山內者則以猺桂爲名，俗訛作瑤桂。

桂子爲 *Cinnamomum Cassia* 未熟之子，有香氣，可用作增味品、藥料、香料品等，每擔市價需規元二十三兩左右。

桂枝爲 *Cinnamomum Cassia* 之嫩枝，呈深棕色，富香味，通常作藥料、香料用。價格並不甚高，每擔值規元五兩餘。

肉桂爲 *Cinnamomum Cassia* 年深久遠嫩枝上厚而多肉之皮。與桂皮相較，頗爲粗厚，味亦較強，內含揮發油份甚多，故有辛辣，以採自枝之中部者較爲良好。我國兩廣一帶所產者，質地不良，以錫蘭出品爲最佳。

桂皮油一項，即由桂子、桂枝、桂皮等和水加熱而絞出之流質，須入鍋內用蒸溜法提煉後，始可為用。市場上之桂皮油，以產地之不同，可分二種，即中國桂皮油與錫蘭桂皮油是也。有強烈之芬香味，為香水、化妝肥皂，以及其他化妝品之原料，亦有入藥用者。

香港一埠，為世界最大之桂皮散集地，錫蘭、安南、以及我國兩廣所產者，皆輸出至香港，再分配於各國焉。歷年來中國桂皮輸出數量及價額，可如左列之表：

年 次 數	量 價	額	年 次 數	量 價	額
民國二年	一〇〇、七六八擔	一、三三五、四七七兩	民國十年	五三、六九一擔	三二六、八四七兩
民國三年	七五、八五六	七八一、三八八	民國十一年	一二五、〇三八	六九九、九六六
民國四年	九二、四〇〇	七三八、九一〇	民國十二年	八五、九一〇	五六八、四六六
民國五年	七八、〇〇六	五八五、三三四	民國十三年	一〇〇、〇〇二	八七九、三二〇
民國六年	五一、六七三	四〇七、六二三	民國十四年	七二、八〇三	六四一、五五五
民國七年	五〇、〇二四	二九九、八九二	民國十五年	一三九、六四一	一、一五二、六八六
民國八年	一二四、八八七	九二八、二五四	民國十六年	一〇八、五七〇	七三六、九二六
民國九年	七〇、二一六	五五七、九一四			

第三十章 五倍子 (Nugalls)

第一節 五倍子產地與種類

五倍子爲蚜蟲寄種於鹽膚木上，刺傷其葉，成囊狀之虫瘤，中藏蚜蟲之卵也，故亦稱鹽膚子，初呈青色，後變黃色，大者有如拳，形之圓長不等。其主要之用途，在醫藥上可爲收斂藥用，工業方面，則又爲製造墨水及黑色染料之原料。全國各地皆產之，而湖南省之洪江、津市、湖北省之沙市、嘉魚、蒲圻、四川省東南隅之綏定、綦江、涪州、嘉定、三匯場、敘州、永甯，以及廣西、貴州一帶，尤爲五倍子出產最盛之區。通常稱川倍、南涪、河涪者。川倍指產自四川省之五倍子；產於湖南省之五倍子爲南涪；襄河一帶所出者，即名河涪。此實不過產地之不同而已。以其形狀而論，又有角倍、肚倍等名目。肚倍爲圓形，或橢圓形，可製紅綠諸色染料，產於湖北荊河內之肚河地方爲最著。角倍則長形圓形皆有，且多角，爲青藍色染料之主要原料，以四川重慶、夔州府屬萬縣、湖北宜昌、施南等地產者爲佳。所含鞣素不及肚倍之多，故質亦較劣，市價平均每擔二十一兩。又以其品質純雜之不同，得分爲毛貨淨貨二種，毛貨係指未經揀擇者，凡已經剔除枝莖者，即稱淨貨，歐美商人收買最多，東洋莊以收集毛貨爲盛。製法與重量，亦

各處有異，重慶方面，多裝於方形之竹簍內，每簍重可三百斤，萬縣、洪江所產之五倍子，通常裝於圓形竹簍內，重約四五百斤。老河口之貨，裝入軟竹簍，重自三四百斤至五六百斤不等。此皆指毛貨而言也。淨貨以裝於長方形木箱或麻布袋內為多，每當夏歷正二、三數月間，尤為五倍子貿易之最盛期，銷路以外國市場為主要。

第二節 貿易

五倍子處市之銷路，最近數年來，頗為發達。歐洲方面之英國、德國、法國、荷蘭、比利時、美洲之美國，以及附近之日本、香港等處，年銷總量，達一百五六十萬兩之鉅，尤以民國十六年為最盛。英國計銷一、九四九擔，值一九六、二六〇兩；德國一、二三九擔，一八二、九三五兩；比利時一、六九五擔，一八九、九九五兩；法國八〇一、一擔，一三〇、九四二兩；荷蘭七、二四五擔，一一八、四四三兩；香港一、四二八擔，一八六、二六三兩；日本八、四九六擔，一三六、三〇七兩；美國二、七〇五二擔，四四二、二六七兩，是也。左列之表，即為歷年來五倍子對外輸出之概況。

年 次	數	量	價	額		
				年	次	數
民國二年	五五、六四五擔	一、〇七〇、四〇九兩	民國十年	三四、三六五擔	六四五、〇〇二兩	
民國三年	五八、七三二	一、一六七、〇七三	民國十一年	六九、八六七	一、二三一、一六七	
民國四年	五〇、三九八	九一六、〇七六	民國十二年	八八、三二〇	一、三六〇、九六九	

民國五年	四七、〇六八	一、〇三一、五〇二	民國十三年	七六、九八九	一、一二六、七五六
民國六年	四一、五〇六	八九六、六〇六	民國十四年	八五、五六四	一、二五四、五四四
民國七年	四五、三四九	一、〇三〇、一四六	民國十五年	九五、五四〇	一、五三〇、〇一九
民國八年	三四、五五五	七五三、八三八	民國十六年	一〇二、四四〇	一、六七〇、二〇八
民國九年	四七、三三四	九四一、〇七四			

第三十一章 樟腦 (Camphor)

第一節 樟腦之產地

樟腦之生長，以溫和之氣候為宜，性畏寒，以是生長於山陽者，樹多碩大，而腦之成份亦多；反是即生於陰幽等處者，往往不能充分發育，腦之產量又少。故吾國產樟腦各省，常限於長江以南一帶，即此故也。其分佈區域，總在北緯十八度乃至三十二度間；四川、湖南、湖北、江西、浙江、福建、廣東、廣西等省是。惟樟腦產量最多者，在南嶺山脈一帶之地域，仙霞嶺山脈介於浙江、安徽、江西、三省間，南走沿江西、福建二省境界，又江西省西南邊界之大庾嶺山脈，本自湖南省入境，蓋皆樟腦叢生之地也。就中以浙江、福建、江西三省為主要，廣東、廣西、湖南三省次之；湖北、四川、貴州三省又次之。今將各省樟腦生產情形，略述之如左。

福建省為中國最古樟腦生產地，與其他各省相較，推為全國第一。惟以該省人民但知採伐，不事種植，遂至樟樹逐漸減少。在今日之情形言之，已退居浙江、江西二省之下，而為全國第三樟腦生產地矣。省內的樟樹分佈區域，以閩江本支流兩岸為最發達，其他如沿海岸之北福建地帶、南福建地帶，與汀江上流地域等，亦為著名樟

腦產地。閩江流域包括閩海道之閩清、古田、屏南、永泰、達安道之尤溪、順昌、邵武、光澤、將樂、浦城、松溪、崇安、沙、永安、廈門道之大田、德化、永春、汀漳道之歸化、清流、甯化、連城等地。閩海道之甯德、福安、霞浦（福甯）、福鼎、壽甯則屬沿海岸北福建地帶。沿岸南福建地帶之樟腦產區，指晉江流域之晉江南安、安溪與九龍江上流地方之龍巖、甯洋、漳平等縣。而長汀、上杭、永平、武平等又屬汀江上流地域之樟腦出產地。

江西省產樟腦地域，以贛江流域為繁盛。贛南道之瑞金、會昌、信豐、大庾（南安）、崇義、贛（贛州）、雲都，與廬陵道之萬安、泰和、永新、宜春（袁州）、安福、遂川（龍泉）是也。盱江流域次之，如黎川（新城）、廣昌、南豐、宜黃是。信江一帶之玉山、上饒（廣信）、廣豐諸縣又次之。其他如預章道之南昌、贛南道之南康，以及潯陽道之九江、饒州府等地，亦有樟腦之出產。惟產量不豐，統計全省產樟腦地帶，延長凡一千三百里，近年雖稍有不振，仍不失為全國第一樟腦產地也。

浙江省樟樹之分佈，錢塘江本支流域頗盛。衢縣一帶為浙江省最初有樟樹之栽培，現樟樹極多，產量豐富。金華附近，產腦亦盛。建德稍少，品質尚不惡。紹興西部所產之樟腦，品質稍次；而杭、嘉、湖方面又次之。甌海道之甌江流域所及地帶，則為浙江省全境樟腦產區之首位，其南飛雲江流域亦多。臨海（台州）方面，所產樟腦之品質頗良，惟以土民頑愚，製腦極少，進步為可惜耳。

湖南樟腦產地，以沅江上流之靖縣，及資江上流寶慶府地方為盛，其他西南部各地亦多。而長沙與湘潭，則

全省樟腦之散集地也。又湘江流域之長沙、株州間頗多樟樹之分佈，住株州至潦水一帶，約有五十里，沿途樟樹甚為發達，衡陽與沫水間亦盛。

廣東省樟樹之分佈，以北江流域為多，自三水至英德間，沿途尚不甚發達。其支流綏江之曰會縣、濱江之靖遠縣、連水之連山等地，亦有少量之出產。自英德上溯，樟樹之種植漸見繁盛，及英德與曲江二縣交界之大坑口附近一帶地域，則見樟樹密佈，堪稱大觀。支流翁江，沿途亦盛。此外則西江流域、東江流域、茂名、合浦等地亦多。

四川及貴州所產之樟腦，以居民祠堂近處為盛，四川省西川道之成都府、岷江流域之瀘州地方亦多。惟不若殊功之繁茂。其他如涪江上流之綿縣，以及渠江上流之綏定等地，皆樟樹生產之地也。

第二節 樟腦之製造事業

各省樟樹之分佈概況，已如上述。以江南各地氣候之適宜，土質之合度，然未見其發達，祇知濫施斧斤，不加保護，絕少有成林者，以致原料日見減少，如福建省是。又以民俗之固陋，對於風水一事，專一固守，牢不可破，實亦樟腦製造業之一大阻礙。故各省樟腦之製造，以福建與廣東二省為最早。福建省之漳州府、廣東省之潮州、與韶州、二地，其最著名者也。而廣東韶州之樟腦製造業，據日人白河太郎之考證，推為世界樟腦製造業之嚆矢焉。福建之製腦業，當其興盛時代，實為全國第一。福州一埠，即樟腦貿易之重要市場也。除本國華商用土法製造外，日

本商人，多開設精製工場，從事製造。嗣後以樟樹之濫伐，台灣樟腦專賣之發達，官腦局之設立，樟樹買入之困難等關係，遂致逐漸減少，因亦衰落焉。在昔江西所產之樟腦，大半由陸路途經福建，而集中於福州。自閩省式微後，江西生產者，皆改由水道出九江，而集中於上海矣。其境內之出產，則全恃需要之情形如何而定，以製造者全為土著之民也。浙江省之樟腦製造，又為福建傳入，就中鄞縣、臨海、永嘉，以及衢州、金華、嚴州等最為著名。惟資本不足，製造法又極少進步，故祇為農家之副業。全省產額，以目下狀態而論，約十五萬斤左右。當民國八年極盛時，樟腦之出產約三十五萬斤，樟腦油三十萬斤。民國九年，以市價暴落，產額遂減，樟腦祇二十五萬斤，樟腦油為二十萬斤。其散集地點，即定海、鎮海、穿山、象山、石浦、臨海、溫嶺、樂清、青田及衢縣城是也。

第三節 貿易

樟腦之銷路。當民國三、四年間，並不發達，祇千餘擔，值十數萬兩而已。民國八年，以香港、日本、美國、市場見漲，輸出大盛，共有二萬三千擔之多。香港之銷路，自民七之一、四六六擔，增加至一、二、九五二擔；日本有三、三八四擔；美國亦自二、三九七擔，增至六、二七六擔。民國九年，繼有漲勢，出洋總數達二百八十萬兩。是為歷年來樟腦輸出最盛之期，自民十至十二年，每年尚有百餘萬兩，十四年之後，益轉疲滯，而有一落千丈之勢，如十六年之出口數，祇一千擔，值八萬二千兩；香港為八四四擔，值六七、五九〇兩；美國一〇九擔，九九二一兩；英國二五擔，二、一三七

兩；安南三四擔，二、〇四〇兩；新加坡六擔，五一三兩等是也。

樟腦輸出數量及價額表

年次 數	量 價	額(關平銀)	年次 數	量 價	額
民國二年	一、八五七擔	一二九、三五二兩	民國十年	一六、七三〇擔	一、四三一、〇八〇兩
民國三年	一、八一〇	一三一、五七四	民國十一年	一二、九七六	一、一六二、六九一
民國四年	一、三一八	九八、〇七五	民國十二年	一五、一〇三	一、四三〇、九〇一
民國五年	二、三七七	一八一、六七三	民國十三年	一〇、七一	九九三、五五一
民國六年	三、五四七	二六一、九一八	民國十四年	三、九二四	三三六、一八五
民國七年	五、七四二	四二八、〇七四	民國十五年	二、七四八	二五九、八九五
民國八年	二三、〇九〇	一、五九五、三一三	民國十六年	一、〇一八	八二、二〇一
民國九年	二九、九九七	二、八四〇、〇四三			

第三十一章 麝香 (Musk)

第一節 麝鹿之性狀

麝香爲牡麝臍上之分泌物。按麝鹿屬小有蹄類，似鹿無用，軀稍小，長三尺餘，毛灰褐色甚長，亦有硃褐色，或
其他雜色者，耳大、尾短小，性喜居高地，故多生於我國西部青海、西藏之高原，以及沿四川一帶之山澤間，日中休
息，匿伏叢林，每於夜間出外尋覓食物，性極煩躁，不易馴服，又不喜成羣結隊，往往踽踽獨行，此爲與其他獸類絕
異之點，主要食料，以野草、苔蘚、花子、樹葉等爲多。據業中人云，麝鹿之專以野草樹葉等爲食料者，所分泌之麝香，
量豐而質優，間亦以蛇爲食品者，其足堅固，稱有殊力，尤以後足爲甚，行動輕快，又極勇敢，雖兩處山巒，相距綦遠，
亦能縱越而渡。惟麝香之分泌，祇牡麝鹿有之，而麝鹿之雌雄，驟視之一若並無鮮著之異別，必也幾經閱歷，始有
把握。大抵麝鹿之雄者，有巨齒向前直出，後端稍彎曲，此爲牡麝鹿所無，而雌雄因以別也。

第二節 麝鹿之捕捉

麝鹿之捕捉，以需要之日增，我國西部山岳一帶人民以此爲業者極多，銷路之佳，價值之昂，於是每年捕殺者，不知凡幾。平時對於該項獸類之蕃殖，又缺少研究，雖在生殖季節，肆意捕捉，並無限制。較最近之估計，每年麝鹿之捕殺者，總在六千頭至一萬頭之間。長此以往，必有絕種之虞，爲可惜耳。前達賴喇嘛曾頒有禁令，關於麝鹿，宜多保護，不准殘殺。惟禁者自禁，犯者自犯，蓋大利所在，無怪羣趨之若驚也。據捕獵者言，麝鹿之捕捉，以尋覓其居處之所在，而置餌於其近處，誘之外出，再捕捉之，此爲最切實用之法，亦爲多數捕捉麝鹿之不二法門。又有於該獸之往來要道，置網具而捕捉之，或於洞穴之前，設鐵籠以陷之。每頭價格，自二十元至三十元不等，集牡麝鹿二十二頭，可得麝香一斤。其市價以上海市場而論，約在規銀一千兩至一千一百五十兩之間。

第三節 麝香之種類

在商業市場上，世界所產之麝香，可分爲三種，所稱中國（西藏）東京麝香、阿塞姆或納不耳麝香、廿倍定或俄國（西伯利亞）麝香是也。中國麝香，通常稱西藏麝香，以產於西藏也，品質最佳，香力又強，可以經久不散，故佔世界市場上第一位。四川、雲南、甘肅亦產之，惟雲南所產者，品質稍劣，而其他各國所稱之麝香，並非麝鹿之分泌物，如印度之麝鼠、中美之麝蟲、南美之特殊植物等，皆有同樣之分泌物，品質當然不及我國，然目下世界市場上最普通之一種，則爲俄國（西伯利亞）麝香，性地純粹，是其特色，惟香力稍遜耳。

第四節 麝香之用途

麝香之用途極廣，我國醫家認為辛溫通竅，可治胃病、過瘡、驚癇等症；而配合丸散，尤為重要原料之一。其他用於化妝品者，亦不在少數。

第五節 貿易

我國所產之麝香，皆集中於川藏邊界之打箭鑪，以附近各區如理塘（今置理化縣）、灌縣等，皆著名之麝香產區也。每年輸出國外，供香料之配合用者，為額極鉅，民國元年為二一、三二八兩，值關平銀三七七、七三六兩，民國二年增加至五一、五二七兩，民國八年達六一二、六八四兩，民國十四年又增加至八一〇、三八七兩十五、十六、二年稍減，歷年來對外輸出之數量及價額，可如左表：

年 次	數	量	價 額(關平銀)	年 次	數	量	價 額(關平銀)
民國元年	二一、三二八兩	三七七、七三六兩	民國九年	二四、四四七兩	五七七、〇七九兩		
民國二年	二一、五七六	五一、五二七	民國十年	二三、二六九	五六八、五七六		
民國三年	一七、四九八	三七三、五九七	民國十一年	二六、二二三	五五三、八八六		

民國四年	一九、七七五	四三〇、三三四	民國十二年	二八、〇八一	六三七、五五二
民國五年	一八、八九三	五一五、九四一	民國十三年	二六、九三四	六四一、七七九
民國六年	一五、九五四	五三三、九一四	民國十四年	三一、四五七	八一〇、三八七
民國七年	二四、〇〇七	四四六、六五五	民國十五年	二七、九三六	七〇六、三六三
民國八年	二七、五四八	六一二、六八四	民國十六年	二八、八八六	七八七、一六三

麝香輸出國別表(單位關平銀兩)

年次	香	港	英	國	德	法	國	日	本	台	灣	美	國	其	他	合	計
民國十四年	九六、三三三	五六、五七八	二、一八九	兜〇、七一五	七七、五五〇	六六、〇〇三	八一〇、三八七										
民國十五年	二四、二六九	四四、六六一	—	三八、四三九	三九、五二一	六〇、〇五七	七〇六、三六三										
民國十六年	九四、二五三	二〇、五五〇	六四、九〇〇	三六、一五二	三〇一、〇五二	四八、四三五	七八七、一六三										

第三十二章 香菌 (Mushrooms)

第一節 香菌之種類與產地

香菌之種類極多，吾國商業上之習慣，祇分爲滿洲貨、北貨、南貨三種，品質以天津貨爲最良，故價格特高。至於以產量而論，自推福建省爲第一；建甯方面之浦城、崇安、松溪、政和、興延平一帶之洋口、順昌、將樂、沙縣等，主要之產區也。有野生與栽培之分。野生者色紅，一稱紅菰，初春盛夏間甚多，有苦味，栽培生者，又有春菰與冬菰等名目；春菰產於一、三月間，肉薄味佳；冬菰則爲舊十月至十二月之產品，形稍大，肉厚，香氣高，味濃厚。

第二節 貿易

香菌之輸出數，民國初年，祇值十數萬兩，最近數年來，出口數頗多發展，年值五六十萬兩。香港常佔最多數；安南、朝鮮、日本次之。其輸出口岸，推福州、九江、天津、大連、廣州、梧州、蒙自爲盛。就中福州一埠，約佔總數百分之四十，尤稱第一。

香菌輸出數量與價額表

年 次	數	量	價	額	年 次	數	量	價	額
民國二年	三、一五〇	一五四、三九六兩	民國十年	六、三一三	五二二、一六七				
民國三年	一、四四八	九七、九三四	民國十一年	四、三五二	四一、三八九				
民國四年	二、六八一	一五六、四八三	民國十二年	五、八七五	六四七、九七四				
民國五年	一、七三五	一一四、七六四	民國十三年	六、一四七	六四九、〇五六				
民國六年	三、五〇九	一二四、三六一	民國十四年	五、三七九	五四三、〇七三				
民國七年	二、六九七	一八三、四七一	民國十五年	四、九四六	五一六、三五八				
民國八年	二、四八七	一六七、七七八	民國十六年	六、二五四	六四五、六九二				
民國九年	三、一四九	二一〇、二三七							

香菌一項，據關冊所載，頗多自日本輸入者，十三年有二九七、七六九兩；十四年三二六、四九五兩；十五年五〇五、一〇一兩。市場上之交易牌號極多，如菊花、雙喜、天華、花姿、寶珠、天寶、紅梅、新貨、無牌、國寶、金蓮、天香等，每擔市價，自天香之一百五十三兩，至天華之二百六十一兩，高低不一。

第三十四章 木耳 (Fuugus)

第一節 木耳之種類與產地

木耳學名 *Auricularia Auricula-Ju-dae*, L., 屬菌類。寄生於諸種闊葉樹枯木，春秋時季之雨後，即發生結實體，大者二三寸，形如人耳，故名。濕時為透明軟質，頗似洋菜，富彈力。其出產地，以四川省東部、陝西省南部、秦嶺山脈南麓地方為最著名，雲南、貴州亦盛。有黃、白二色，黃色者稱黃木耳，白色者為白木耳。白木耳又稱銀耳，極為貴重。貴州出產甚多年，約一萬擔。黃木耳亦稱黑木耳，以四川省綏定、廣元、三磊場、巴州等地所產者為佳良，此外如滿洲、齊齊哈爾、嫩江、布西、景星、黑河、莫河、奇拉、滿洲屯、米海拉夫屯、奇克特、曰計屯等地方亦產之。

第二節 貿易

木耳輸出國外者，多屬黑木耳一類，以來自漢口一埠為最盛，民國十六年達一六九〇七擔，值一二一七三〇四兩。四川重慶次之，滿洲、愛理、大連、牛莊等處亦盛，出洋數量，初不過三四十萬兩，十六年之出口數，較多發展，

共值七十一萬四千兩，運往香港市場者佔九、二三四擔，值六三二、八七二兩。下列之表，即為歷年來木耳對外輸出數量及價額之情形。

年 次	數	量	價	年 次	數	量	價	額
民國二年	一〇、六六五擔	三三〇、九五四兩	民國十年	九、八一九擔	五四八、四五八兩			
民國三年	九、七一八	四〇一、四七五	民國十一年	一〇、〇五七	五六八〇、八八三			
民國四年	一〇、七〇五	五二七、五九六	民國十二年	一〇、七〇三	五七三、八五六			
民國五年	九、九〇〇	四二八、六一九	民國十三年	一〇、〇六〇	四六二、二一〇			
民國六年	九、五五五	三九一、七四九	民國十四年	七、二五七	二九六、六六六			
民國七年	八、〇一三	二九三、九一三	民國十五年	九、九三七	五一八、七五八			
民國八年	八、三三三	三三五、四一五	民國十六年	一〇、五二九	七二四、二七八			
民國九年	八、〇九九	三六三、八七五						

第三十五章 金針菜 (Lily Flower Dried)

金針菜一名黃花菜，即以萱草花之單瓣曬乾者爲之，呈淡黃色，味微甜，可食。中國各地盛植之。四川、湖北、江西、安徽、江蘇、山東、河南、河北等地，較爲發達。其中尤以山東省濟南府、泰安府及河南省陳州府、海甯府之品質，最爲佳良，有特味。每年運至香港者佔百分之九十。日本次之。歷年來對外輸出貿易，可如左表：

年 次	數	量 價	額 年 次	數	量 價	額
民國二年	三四、八八〇擔	三七九、一六〇兩	民國十年	三一、一八三擔	四九一、八二二兩	
民國三年	三六、五四九	三四〇、八〇五	民國十一年	三三、〇一五	四八七、六七六	
民國四年	三五、八四七	四四五、六一五	民國十二年	三三、一三七	四九九、一〇五	
民國五年	三五、二四七	四五三、一七七	民國十三年	三七、六〇七	五三三、一四六	
民國六年	二九、二三〇	三一〇、七四六	民國十四年	二六、四七六	四三一、五九八	
民國七年	二四、六七一	二九五、二八二	民國十五年	三〇、三七九	五一二、五七二	
民國八年	二五、六〇六	二九八、五八三	民國十六年	三五、六一一	六二九、三三七	
民國九年	三一、九五二	三七七、一七五				

、金針菜之輸出口岸，爲上海、鎮江、漢口、重慶、天津等；而上海一埠，佔最多數，與出口總數相較，達百分之五十。
鎮江約佔百分之三十，惟據關冊所載，每年國外常有金針菜之輸入，然大都係香港轉口，遂被作爲外國貨也。

第三十六章 筍 (Bamboo Shoot)

第一節 筍之產地

凡竹類繁盛之地，皆爲產筍之處，以是福建、浙江、四川、湖南、廣東、江西各省爲最多。就中福建省產額佔第一，建安道之建甯與廈門道之泉州，其中心也。浙江省之安吉、孝豐、武康、臨安、餘杭，亦以產筍名。產額佔全國第二，四川省第三，永甯道之江安爲其中心。是即所稱中國三大產筍之地也。

第二節 筍之種類與市價

筍之種類極爲繁雜，以各地市場之不同，因異其名焉。通常所稱冬筍與春筍者，蓋以採取時期之不同也。當十一、十二、一、二等月，筍在地中，其尖點尚未發見於地面，而即行採取者，謂之冬筍，品質最爲佳良；而十二、一、二月採取者，更稱美味；春筍爲三四、五等月採取者。此時筍在林中，已現於地面，筍尖長可二三寸，質地極堅，惟美味較冬筍差甚，以是市價低廉，此冬筍與春筍之區別也。平時又有筍乾與鹽筍之別，所謂筍乾者，即將筍切成條片，

浸入鹽水養熟之，再曝於日光中，使乾，而鹽筍即以鹽漬筍是也。此外如毛竹筍、菜筍、鷄竹等名，則不過產竹種類之不同而已。但市場上之名目，更為複雜，如大片、二片、上中、二角尖、花筍、短拖、上角尖、行頭尖、筍衣、拖水、三號、紅筍、大老頭、上頭尖、二尖、次中、蓋花、薄長、三雀、揀雀、小雀、花雀、行二尖、短中筍、厚次長、提角尖、小老頭、上路、中路、上路片、次頭尖、短山蓋、角拖、綉尖、拖尖、山蓋花等是也。其價格以上海市場而論，自以上頭尖為最良品，每擔市價值規銀三二・八〇兩，揀雀三二・六〇兩，上角尖與行頭尖三二・二〇兩，大片三〇・八〇兩，二片、上中、二角尖、厚次長、短中筍、行二尖、小雀、薄長、二尖、次頭尖、短山蓋、綉尖、山蓋花等總在二七兩與二九兩之間。他如次中二六・六〇兩、提角尖二五・四〇兩、三雀二五兩、花筍二四・四〇兩、上路片二三・四〇兩、上路二三・六〇兩、拖尖二三・六〇兩、角拖二一・六〇兩、短拖二〇・八〇兩、花雀二〇・八〇兩、拖水一七・八〇兩、筍衣一六・六〇兩、三號一五・二〇兩、紅筍、大老頭、一一兩、小老頭六・二〇兩，又次之。

第三節 貿易

重要筍類輸出口岸，以福州為最盛。境內所產之筍，皆由此出口。民國十年為九六・〇八一擔，民十三增加至一〇七・一一六擔，值關平銀一一七・六九〇兩。十五年則降落不少，為八六・四六三擔，值九二・六・八三五兩。次之即推甯波。民國十年之輸出數有二九・六五六擔，民十三為二一・三三四擔，值二五・九三二兩。其他如重慶、長沙、廣

州等埠，每年輸出者亦多。全國對外輸出總數，民國十四年計四、七五五擔，值四五、七二三兩。較之民國十三年，減少二、七九二擔，十五、十六二年稍見發達。十六年輸出往香港者為四、三七一擔，值三三、五八三兩；新加坡等處之七一四擔，九、九一八兩；暹羅之四八五擔，四、九三三兩；朝鮮之一一六擔，三、三七三兩；斐律賓之二〇三擔，二、三二八兩，等次之。

第三十七章 薑 (Ginger)

第一節 薑之種類與產地

薑亦稱生薑，苗高二尺許，葉狀如箭鏃，爲對生，花被大小不整，呈淡黃色，地下莖色黃味辛，時當秋初，始出新芽，名曰新薑，尤嫩美可食，烹飪時多用以調味，或蜜漬食之，稱糖薑，醬園多製爲醬薑，曝乾者名乾薑，可入藥用。其銷路以華北一帶爲最盛，河北之天津、奉天之大連、牛莊等地是也。以該地氣候極爲寒冷，居民習俗，每以薑爲頭痛、腹痛治療之無上藥品。幾家戶常備之必需品也。以言其主要產地，廣東一省最爲著名，其他則四川、浙江亦產之，浙江之平湖、新來、山林等地，每年出產額爲量極鉅。

第二節 貿易

鮮薑製薑對外輸出數量及價額表

年次	數	量	價	額	年次	數	量	價	額
民國二年	六三、五二三擔	一九一、七八三兩	民國十年	七一、九〇五擔	二四九、五三〇兩				
民國三年	五八、四五七	一八五、二一五	民國十一年	九四、五〇六	三〇三、〇六五				
民國四年	五九、七八五	一七〇、五〇五	民國十二年	九〇、八六一	二九三、〇五七				
民國五年	六四、〇六五	二〇一、三〇六	民國十三年	九六、八三七	四〇〇、三〇八				
民國六年	四三、六七三	一三一、三三七	民國十四年	二六、二二七	八八、二八七				
民國七年	五二、九二八	一六七、六八〇	民國十五年	四一、〇二六	二三九、三九四				
民國八年	一〇八、八一二	三四六、八五〇	民國十六年	六八、九一五	二九六、八五八				
民國九年	四五、八八三	一四三、三三八							

第三十八章 蒜頭 (Garlic)

第一節 蒜頭之產地

蒜有大蒜、節蒜、小蒜之別，大蒜名葫，根基俱大，小蒜則根莖皆較小，葉細長而扁，花呈白色，微紫，有地下鱗基，咸作食用，中國本部以及滿洲各地皆產之，南部廣東省所產者尤稱特出之品，湖北省亦盛，漢口一埠，即為附近一帶散集之市場。

第二節 貿易

蒜頭多來自江蘇省之上海，浙江省之甯波，廣東省之汕頭、廣州、九龍、拱北等地；上海、汕頭、廣州三埠，尤為發達。十六年輸出數，上海有六七、七八三擔，值一四五〇四一兩；汕頭二三六、七〇〇擔，值二八七、〇七〇兩；廣州三四〇〇四擔，九九、一八七兩。出洋總數，十六年有六七六、四七三兩，雖不能與民五、民九、民十相較，然自十一年以後，當推十六年為發達也。銷路以香港為獨大，十六年達一一三、六三三擔，三〇四、六一五兩；新加坡七四、二三七

擔，一五六、二八三兩次之。

蒜頭輸出數量及價額表

年 次	數	量	價	額	年 次	數	量	價	額
民國二年	二六三、五五〇擔	五八七、五四五兩	民國十年	二一三、八八五擔	八二六、三四三兩				
民國三年	二八九、四八九	六四八、四八三	民國十二年	一九八、三〇二	四八七、三六一				
民國四年	二六二、二〇八	四七九、七二〇	民國十三年	一八八、〇四一	四四九、九九八				
民國五年	二三九、八五七	一、一四一、二七七	民國十四年	二〇〇、八四八	五二七、六七八				
民國六年	二二一、六二七	九一、二六六	民國十五年	二〇七、〇五二	四八四、五六二				
民國七年	一八三、一四一	七二六、五〇八	民國十六年	二四八、九一二	六一五、五七〇				
民國八年	一四二、七九〇	五三七、六三二		二七九、一四二	六七六、四七三				
民國九年	一〇二、七五一	七四三、五七二							

第三十九章 菓實 (Fruits; fresh, dried, & preserved.)

第一節 菓實之種類

中國所產主要菓實，以橘子、大柚（文旦）、杏、橄欖、栗子、龍眼、核桃、蕃荔枝、檸檬、梨、棗、金柑、桑實、香蕉、梅、楊梅、無花菓、葡萄、蘋菓、枇杷、鳳梨、桃、荔枝、石榴、芭菓、西瓜等為多。其中尤以橘子、梨、橄欖、香蕉、栗子、核桃、棗、荔枝、桂圓、柿餅為重要。

第二節 菓實之產地

橘子多產於浙江、福建、廣東等省。浙江省之溫州、福建之福州與廣東之汕頭地方，又為全國著名之三大產橘地。福州蜜橘極為有名，多產於閩侯、永福、潘岐、吳山、陽岐、陳厝一帶。外皮甚薄，色赤，廣東所產者，皮厚，色黃，品質甚良。

河北、山東、河南、湖北、四川、廣東諸省為主要梨之產地。就中河北省天津一帶與山東省登州附近之出品最

爲全國著名，有天津梨、白梨、雪梨等名。

橄欖產地，以福建與廣東二省爲主要，福建稱橄欖爲青菓，閩侯以及閩江沿岸多產之。

蘋菓以山東、河北爲最盛，山東一帶所產者，皆由烟台運銷南方各省，河北之昌黎一縣，尤爲著名之產區。

香蕉爲芭蕉之結實者，葉甚大，花淡黃色，實長四五寸，經寸許，彼此鱗接，香而味甘，又稱甘蕉。吾國南部各省皆產之，尤以廣東爲最多。

栗子以河北、山東、安徽、江西、湖北等地所產者爲多，就中河北之良鄉、山東之袁州、與安徽之甯國三地，又稱特出之品。良鄉栗子，色香味三者俱佳，市上販者，大都非來自良鄉。蓋真正良鄉之栗子，實不足以供當地之需求，焉能大宗運往他埠，不過假借聲譽，以圖銷場而已。

核桃以河北、山東、河南、湖南、四川等爲主要之產地，而河北天津東北約百哩許之灤州與昌黎，以及北平北三十哩地方之昌平，又爲核桃重要之產區。山東所產者，多野生，產額極豐，惟品質不甚佳。河南之開封、洛陽，以及湖北之襄陽、荊州一帶，所產核桃亦多。

河北與山東產棗最多，浙江亦有出產，本爲落葉亞喬木，長二丈許，葉作卵形，互生，花小而黃，實橢圓，產於河北、山東者，謂之北棗，有紅、黑二色，紅者味甘美。浙江省金華一帶之產品，則稱南棗，形長色紫，味甘微酸，爲棗中佳品。

荔枝幹高三四丈，屬常綠喬木，葉爲羽狀複葉，有透明之小點，果實外皮似鱗甲紋，肉色白，味甘多汁，福建、廣東、與四川，其主要之產地也。而廣東一省所產者，最爲發達，產品種類，名目繁多，其核細如豌豆，殼亦如丹砂，上有綠綫一條者，謂之掛綠，尤屬珍品，現因樹僅增城縣一株，年產五六十斤，每棵值洋一元左右，其他有糯米糍、桂味、黑葉、尚書懷、香荔、淮枝、妃子笑、三月紅、晉奉、糯米團、水浮子、犀角子、宋家香、亞娘鞋、甜巖、琥珀光、水晶球、明月珠、鳳味、將軍荔、孩兒拳、馬口鈴、山枝、狀元紅等名目。糯米糍亦爲荔枝中之上品，多產於番禺及增城二屬，皮色鮮紅，肉厚核小，味極清香。

龍眼亦爲常綠喬木，夏初開細白花，至秋實熟，圓如彈丸，殼有細紋，肉白如荔枝，乾、鮮皆可食，俗稱桂圓，以福建舊興化府所產者爲良。福州、廈門、漳州、泉州、廣東等處，出產亦多。

柚爲常綠灌木，幹高丈餘，實經四五寸，形圓頂高，呈黃色，皮極厚，種類甚多，總以味甘者爲貴。福建省漳州府之文旦、廣西省容縣之沙田柚，尤爲著名。

第三節 貿易

鮮葉乾葉製葉輸出數量及價額表

		類別		橘		子		梨		橄		櫟	
		數	量	價	額	數	量	價	額	數	量	價	額
時	期												
民國十四年		二三七、五三三擔	七七三、九〇七兩	四三、四四六擔	二三三、八六五兩	七、二三四擔	一六、三二九兩						
民國十五年		一三四、九八八	五八五、九一九	三一、二〇六	一〇〇、二一八	九、七七〇	三一、七九一						
民國十六年		一八二、九六六	七八三、八一八	五六、九四〇	二〇三、九一五	一三、〇八九	四九、四三三						
民國十七年		三八、八四八	二六九、六二七	三、二五〇	八、一四二	四四、四七八	三九五、一五一						
民國十八年		核	桃	仁	柿	餅	桂	蘋	核	桃			
民國十九年		三九、一三二擔	一、〇二九、一一六兩	二八、五三三擔	一四七、二〇六兩三、一八七擔	四二、九三二兩							
民國二十年		四九、一九四	一、一六六、八六五	三六、九七六	一八〇、一〇二	四、一六九	六三、五七五						
民國廿一年		五八、〇三一	一、四一〇、三九九	三八、九三一	一九七、〇四六	四、二三六	七六、六八一						

時期	類別	荔		枝		棗		未列名鮮菜	
		數	量	價	額數	量	價	額數	量
民國十四年	一四、〇五八兩	一七五、五四五兩	五〇、四五〇兩	三四五、五六六兩	五三七、一四八兩				
民國十五年	二、七九六	八九、二四七	五五、一四八	四一八、二三八	四七七、三六四				
民國十六年	七、九六一	三一三、一五二	六三、三三〇	四八五、七六四	六七二、六六五				
時期	類別	鰹頭乾菜製葉	未列名乾菜製葉	額價	額價	額價	額價	額價	額價
民國十四年	二五九、五五四擔	二四五、一六三兩	五七三、三四三兩						
民國十五年	三八五、三三三	三六三、九二七	五四九、二六七						
民國十六年	三七八、五一七	三三六、一九三	六八三、二五一						

第四十章 木材 (Timber)

第一節 木材之產地

中國產木之區，以地理上之分配，可分爲三大區。東北部之東三省，中部之湖南省與東南部之福建省，是也。東三省一區，尤爲全國最大之產木地，內興安嶺、松花江、長白山脈、鴨綠江沿岸，與圖們江一帶，莫不林木蒼蒼，縣瓦數百里而不絕，主要之林木，有紅松、杉、檜、落葉松、五加樹、橡、槐、軟木塞樹、樺、楓、白楊、核桃樹、菩提樹、柳樹、榆樹等。紅松木質最良，紋理條直，易受斧斤，爲用極廣；惟濫施斬伐，甚爲不經濟。而運輸不便，運費昂貴，以致內地一帶之林木，無由運出。有時爲肅清土地，計劃耕種，每付之一炬，爲可惜耳。全區林木之集中地，以松花江流域，與鴨綠江流域，爲重要。每年由安東出口，途至北方各省以及上海者，爲額極鉅。試一望鴨綠江口，帆牆如織，船艤千里，類皆運木之舟也。湖南省西南部之沅江流域，產木亦多，杉木與松，約佔全區百分之九十四，周附近，均賴以供給，有餘則皆經由洞庭湖、入長江，而分銷於上下游各地。第三區在福建省閩江一帶，每年杉木、杉松、花柏等之出口者甚多。尤以福州爲最大之輸出口岸；惟近數年來，斬伐過甚，不事培植，致林木日見衰落，不久恐即有衰歇之象也。

第二節 貿易

我國輸出之木材，有重木材、輕木材、木桿之分。重木材係指樟木、紫檀、以及其他堅硬之木類，安東、福州、九龍、拱北等為其重要輸出口岸。輕木材以松、杉、梧桐等為主要，鴨綠江、福建、廣東一帶出產甚多，故每年自安東、溫州、福州、九龍、拱北諸口輸出者為量甚鉅。木桿多採自杉木、椿木、柘木產福州、漳州以及湖南、四川、廣東等地。福州、漢口、九龍輸出極多，左列之表即為中國木材輸出之大概情形。

重木材輸出國別表

年 次	香	港	澳	門	朝	鮮	日	本	台	灣	其	他	合 計
民國七年	三八、九一九	七五、五七一	三三、〇〇六	七、四四八		一五三、九四四							
民國八年	三八、四四二	八三、一六〇	五三、〇一三	五、一一六		一八〇、二一六							
民國九年	六〇、六一六	五四、二四五	六二、五〇二	五、六一八		一八九、七七一							
民國十四年	三七、六七三	七二、二二二	七五、四八一	二八、八二九		三一〇、〇七五							
民國十五年	二四、二四〇	一五九、〇六九	三二、五四三		二四二、三一八							
民國十六年	一九六、二六七	二一、一六四	一五九、八八七	二一、一九四		三一三、六四〇							

輕木材輸出國別表

年 次	香	港	澳	門	朝	鮮	日 本	台 灷	其 他	合 計
民國七年	四三七、七四九兩	六二、二七四兩	七五〇、四九一兩		一一六、〇〇二兩		一、三七三、八九七兩			
民國八年	四五〇、〇一五	六〇、六二一		六六八、一六九	一七一、八九五		一、三五一、二九二			
民國九年	四一五、四三四	九六、四九五		七六八、三二八	二八七、二三八		一、五六八、四五六			
民國十四年	八四七、九〇七	四三八、三八八	一、二四六、〇五五		三三〇、二五五		二、七九四、七三四			
民國十五年	六三〇、三七八	四三、八六四	三、八七八、四三六		一三三、八四三		三、七五六、九三五			
民國十六年	六六四、八〇八	八〇、八一二	四、三〇八、一七三		七六、九九六		五、一四二、五〇五			

椿木杉木橋木輸出國別表

年 次	香	港	澳	門
民國十四年	三三四、〇二四根	一、二七六、七四五兩	三六、三五二根	七〇、一九〇兩
民國十五年	二三九、六五〇	八二七、一六七	四二、二四二	七五、五九九
民國十六年	三三二、八八四	一、六三一、五七二	四三、四六六	一六三、〇三二

年 次	朝	鮮	日 本	台 灣
民國十四年	八二、六三一根	七七〇、二六三兩	一、二三八、〇五六根	四、二四四、八五九兩
民國十五年	一一二、五四五	二七三、五一九	一、二七五、五九五	四、三七八、六八九
民國十六年	八五、七三三	二〇七、七二六	一、四四八、四二九	六、二八八、一二一
年 次	其 他	合 計		
民國十四年	一、六八二、八〇〇根	五、七六三、二〇九兩		
民國十五年	一、六八九、五〇四	五、五七九、九二三		
民國十六年	一、九一四、八二三	八、二九六、四二九		

第四十一章 竹及竹製品 (Bamboo & Bambooware)

第一節 竹之產地

竹爲禾本屬，乃多年生植物，以熱帶及熱帶接近地方最爲相宜。中國、日本、印度、暹羅、安南等地，竹之產出極盛，種類不一，即以中國而論，已有五六十種之多。其著名之產地，以湖南、湖北、四川、江西、安徽、江蘇、浙江、福建、廣東、廣西、雲南、貴州爲重要。

浙江省全境皆產竹，但在出口商業上佔重要之位置者，則以浙西所產爲有名。如錢塘道之孝豐、安吉、武康、餘杭、臨安等地，其中心也。天目山一帶蒼蒼竹山，名曰山貨；言其種類，則有毛竹、淡竹、石竹、紫竹、筀竹、篠竹、鷄竹、木竹、水竹、珠篇竹等名目。除原竹輸出外，製爲各種器具，以供日常用品，亦極發達。奉化有精勤竹器公司，出品之精，推爲全省冠；竹製人形一項，以竹材良好，彫刻精細，尤爲特色。

江蘇省以松江、太倉、江甯、揚州、常州爲著名；尤推常州所出櫛製品，尤稱中國第一，其美術製作品亦盛，彫刻甚精，詢爲良品。

安徽省爲古來產竹之地，南部地方，較爲發達。

江西所產之竹，亦頗有名，竹製品之重要中心，推宜豐、高安、臨川、鄱陽、上饒、九江等地。其中新昌之竹簾、臨川之美竹，尤爲特出之品。

湖南湖北均爲著名產竹之區，而湖南省之九州九疑山一帶，有湘竹之出產，極著盛名。湘竹者，卽湘妃之竹也，又稱斑竹。相傳舜崩蒼梧，二妃追至，哭帝極哀，淚染於竹，故斑斑如淚痕。佳者其紋如螺旋，而色紫，不紋處則碧如玉云。至於竹製品之中心，每稱長沙筆、箱類、箸、櫛等之出產甚多。而椅、檯等製品，則湖北之特產也。漢口方面，黑色竹簾、筆、櫛、小箱之製出亦盛。

廣東省產竹頗盛，種類繁多，如近業用之毛竹、撐篙竹、黃竹、離娘竹、食料用之甜竹、甘竹、苦竹、麻竹、藥用之淡竹、單竹，供玩掌之佛肚竹、觀音竹、托竹、崖州竹等，全省隨處皆產之。北江流域、韓江流域、瓊崖等處，較爲發達。毛竹、撐篙竹、離娘竹，多產於北江；黃竹以韓江一帶爲盛。毛竹一項，年銷於廣州者，約值五六十萬元，各省銷路三十萬元，運往海外者，亦值十萬元以上。撐篙竹每年集於廣州、佛山、汕頭三處，而輸出向歐美各國甚多，全省產額有七八十萬元。黃竹以潮安之意溪市銷場爲大，年產三十萬元。

第二節 貿易

竹及竹器輸出國別表(單位關平銀兩)

年 次	香	港	澳	門	新 加 坡	日 本	其 他	合 計
民國九年	七六八、二九一	一五六、四一六	四四、八三七	五、九三三	一、一〇五、〇二八兩			
民國十年	八六七、七〇〇	二五一、四三四	四四、二三三	一〇、一三三	一、三八五、九五五			
民國十一年	一、一五九、〇六五	二〇九、三〇九	四三、二〇一	一二、七八二	一、六一〇、七四九			
民國十四年	五三五、九三九	一二四、八二八	六〇、五〇五	一二八、七四〇	一、〇九六、一六〇			
民國十五年	三七〇、三〇四	八六、二〇七	八三、二六五	一二四、〇九九	一、三六九、四八八			
民國十六年	七三三、二七〇	二一〇、九五八	四六、八一四	七六、三八三	一、二四八、六二五			

第四十二章 篸 (Rattan)

籐以南方諸省爲主要產地，高達三十呎，而廣東省又爲籐工業重要之中心。每年籐條、籐皮、籐片等之輸出海外各國者，總在十數萬兩以上。民國九年則有三十五萬八千兩，最近十六年之出洋數量，爲十七萬一千兩。就中銷往香港市場者，有一七、六四四擔，值一六〇、一〇五兩。又以之製造爲各種器具，而銷於香港、澳門、等地者，十五年爲二三三、七六七兩，十六年稍減，有一九七、五六四兩。該項出品，來自廣東省之拱北、九龍、廣州、江門、浙江省之溫州、江蘇省之上海、河北省之天津等地爲大宗。據十六年之報告，全國各地原貨之出口，共值二四七、三三六兩，較十五年減少五〇、四五一兩。由拱北輸出者，值七八、五〇四兩；九龍六、五九一七兩；廣州五、八〇一兩；上海一、五五〇八兩；天津一二〇七五兩；溫州九、八五一兩等次之。

籐條、籐皮、籐片、對外輸出表

年 次	數 量	價	額	年 次			數 量	價	額
				年	次	數			
民國二年	一九、八四八擔	一三八、〇一九兩	民〇十年	一七、七〇四擔	一六九、五二〇兩				
民國三年	一七、〇四五	一一三、五七三	民國十一年	二四、一八〇	二三五、〇〇〇				

民國四年	三二、二六一	二七九、四四九	民國十二年	二三、四七七	二二七、一一三
民國五年	三三、〇八二	二八九、九五四	民國十三年	二三、三七一	二二九、九四二
民國六年	二〇、一五一	一七三、四二一	民國十四年	一九、一八〇	一八三、〇六〇
民國七年	一四、五〇四	一二六、〇六二	民國十五年	一二、八五〇	一三一、一一一
民國八年	二三、一四三	二一、一七四	民國十六年	一九、〇六四	一七一、六二六
民國九年	三八、九三八	三五八、六四三			

第四十三章 炭 (Charcoal)

炭之出產，湖北荆宜道之宜昌，江漢道之漢口，江西潯陽道之九江，以及奉天大連地方皆有之。而主要之產地，則推浙江省爲全國第一，福建省之北部一帶亦盛。

浙江所產之炭，大約可分二種：即溫州炭與杭州炭是也。溫州炭爲產於南部三江口河一帶者，其他椒江附近所產尚多集於溫州、台州，故稱溫州炭。每年輸出向上海者，月有八萬簍，每簍重量，自四十五磅至四十八磅。而杭州炭則爲建德之西江炭、衢州之襄袁炭、餘杭之中簍炭、昌化之栗炭、方炭、平簍炭、烏炭、花簍炭等之總稱。每年除供附近各都市之燃料外，尚多餘額，轉道上海，而輸出至香港、澳門、俄國、朝鮮、日本等年值甚鉅。如最近十六年之出洋總數，有四四、二九、一九擔，值關平銀七〇二二三一兩。就中銷往日本台灣者，佔三四、一五五二擔，值四八七、五六二兩；香港八六、六三七擔，一七、二四七七兩次；之澳門一三、三〇五擔，三九、九一三兩，又次之。歷年來對外輸出貿易之概況，可如左表：

年 次	量 價	年 次	量 價	年 次	量 價
民國二年	一三八、七〇五擔	一四六、〇九五兩	民國十年	三四四、八六〇擔	四五七、五四六兩

民國三年	一四四、二四〇	二〇二、七八〇	民國十一年	五七〇、五六六	八二四、二二〇
民國四年	一三五、七五一	一八四、八七一	民國十二年	九六七、四七九	一、四五一、〇四四
民國五年	一四五、一四〇	一九三、〇〇六	民國十三年	八七五、三八八	一、五四四、三三九
民國六年	一七〇、八五五	二一五、九五一	民國十四年	五二六、一九一	九六六、九一二
民國七年	一七九、七六七	二三七、六八八	民國十五年	五一五、四三八	八〇七、八九四
民國八年	一九六、三一五	二三八、〇三四	民國十六年	四四二、九一九	七〇二、二三一
民國九年	一八四、一八九	二二三、二八〇			

第三篇 動物產品

第一章 皮貨 (Skins)

第一節 皮貨之種類與產地

我國所產皮貨，可分為二大類：所稱西口貨與北口貨是也。西口貨係指山西、陝西諸省之出品，北口貨則產於河北省以及關外一帶之地。通常稱西口貨之品質，較優於北口貨；惟出產數量，略有不及，而西口貨尤多珍貴細毛之出品。

皮貨之種類，雖甚複雜，然其重要者，爲羊皮、狐皮、鼠皮與貂皮等。

羊皮有綿羊、山羊、青種、羊米珠等。綿羊之毛，普通祇長一寸餘；最優者長可四寸，稱二毛；三寸者爲三毛；二寸半者爲四毛；二寸爲平毛。以其毛色之大小，又有難皮、宰皮、羔皮、黑紫羔、宰羔、抱羔、老羊皮、案羔等名目。灘皮爲綿

羊皮中品質最優者，甘肅省雷夏府一帶，出產極盛。其毛長可三寸，成卷曲形，翻覆轉側，皆能順勢而轉，呈光亮之色，此上品也。通常市價，每只可售四元至五元，一衣之料，大小不定，約需九隻或十隻。羔皮爲小羊之皮，甘肅與蒙古前營、後營所產極多，以甘肅之出品，較爲優良，光亮悅目，是其特色。蒙古前營、後營產者，稱營路貨，品質雖不及甘省，其堅結耐久，則遠非甘肅貨所及。從前營路貨之銷路極佳，近以社會風尚日趨奢華，於是甘肅貨之採辦者，非常暢銷。其花紋有粗細二種，花粗者謂之大鷹爪，細者爲小鷹爪，耐久與悅目，各有其特長。其毛色亦有二種：白色者即通常所稱之羔皮，黑色者又名黑紫羔。黑紫羔之品質，約有二等品之上者，產於庫倫西包頭一帶，每只值洋七八元，袍料每件約需二三百元，普通之紫羔，亦總在百元左右。陝西、甘肅諸省產者，即屬此類。老羊皮產於山東省濟甯與河北省之順德，本爲羔皮之一種，惟以老羊居多，每年產量，爲數極盛。即以順德一地而論，年產生皮值五百萬兩。其銷路以東三省爲主要，江浙諸省次之。市價每只一二元，所稱爲宰皮者，蓋係指綿羊之在冬月長足後而斬殺之謂也。當二三月間，綿羊毛頭不盛，至五六月際，即漸次脫落，至秋復長，一屆冬季，毛頭最足，此時斬殺之，品質尤稱良好；然以有絨頭又結實者爲上品。甘肅一帶，宰皮之出產頗多，價格較灘皮爲低。每只約值三四元不等。宰羔之毛粗而長，有三寸許，細視之，頗多花紋，其皮板有如橘皮，以堅結者爲良品。至於抱羔，則又爲綿羊皮中之最次者。浙江省之石門、硠石、長安出產甚豐，每年達三百餘萬兩，毛長可一二寸，質地極粗，最初市價，每只紙七八角。後以洋莊之銷路頓盛，經染色後，西人之需要頗鉅，故價格已漲至四元以上矣。又所稱案羔，爲有病不

足期而宰殺者之意，毛頭雖甚悅目，並無毛力，每不能經久。甘肅省之甯夏、大廟、五佛寺、新堡子、永昌縣，與新疆省之巴里坤一帶，皆爲案羔出產豐盛之區。此乃綿羊皮之大略情形也。山羊毛長有三寸許，惟毛根無底絨，俗名充灘，毛之短者，又稱沙羔。北方之陝西、甘肅、諸省與中部之浙江省，產量甚多。就中自以細花者爲優品，粗花次之。其市價與綿羊皮相較，祇及其半數。市上之黑羊皮，即採自黑山羊。榆林、神木、定邊、山西、陝西、甘肅、邊界一帶產者，推爲上品。有冬皮與春皮之別；冬皮之絨頭較足，一望瞭然也。榆林所產之黑羊皮，花極細，頗似黑紫羔。神木產者色更黑，乃呈光亮，惟其花紋較榆林貨爲粗，定邊貨又次之。青種羊爲甘肅省之出產物，毛面甚白，根稍青，一稱草上霜，每件袍料之市價，約需一千四五百元。惟次貨祇值一二百元。米珠產於陝西、甘肅一帶，普通即所稱之珍珠皮是也。因其珠細如米，故名。價格並不甚貴，每袍料一件，價值四十元。惟普通市上之珍珠皮，多屬寒羊皮，產於河北省之辛集鎮，將長毛拔去，而以二毛絨製成之，故市價較廉。

狐之種類甚多，有營黃狐、隔山狐、西路狐、紅狐、白狐、玄狐、烏刀狐、草狐之別。就中以玄狐爲最珍貴，毛片有光澤，作黑色，背部有銀針，鬚下帶白領。據云玄狐本爲修煉千年以上之動物，故其捕獲甚難，以產於俄國之干木卻斯爲有名，每只市價約值一千五百元。營黃狐爲營路貨之佳品。蒙古之庫倫一帶出產頗多，價值稍遜於玄狐，故亦爲狐皮中之珍品。捕捉匪易，以其性狡猾，晝間輕易不爲人見。土人每於山林之地，掘無數地穴，中置無氣味藥粉，製成之牛肺，夜深後，狐即出外獵食，一遇牛肺，則知覺盡失，乃能從容捕獲。其色黃而亮，毛峯頗厚，良品也。白狐

與紅狐，亦屬上品。毛峯極細，只頭頗大。紅狐每只值三百元以上；白狐次之，每只約二百八十元。產於俄國干木卻斯者最爲名品。我國東三省之吉林、三姓、附近，極多紅狐皮之出產；惟毛峯較粗，價格祇一百數十元。烏刀狐爲黑色，微帶黃，市價以品質之上下，普通者值百餘元。上品則在四百元左右，隔山狐爲產於長城以南各地者，爲黃色。毛峯稍粗，尚經久耐用。西路狐以產於陝西、甘肅、諸省得名，市價每只三十元，毛大空鬆，不甚經用。西藏產者，大約相同。漢口貨價約十四五元，頗耐久，惟不甚悅目。浙江省溫台一帶所產之狐，又另稱草狐，品質惡劣，每只祇售四五元而已。

狐皮之成袍料，並非以全只爲之，每分爲頭部、頸部、腹部、背部、腿部等。各以其同部者，縫接而成。狐鬚袍料，尤爲名貴，以腹部之狐皮製成者，其名狐肷，每二十四只，可成馬褂一件。狐腿皮一名干尖，又有前後腿之分，前腿較貴而經用，成馬褂一件，約需十九對。狐背袍料則需五十只，市價約值二百七十元。

鼠有灰鼠、銀鼠、田鼠、栗鼠之別。灰鼠產於黑龍江、興安嶺、嫩江、黑河、三姓、海拉爾、哈克圖、吉林、甯安，以及蒙古西營、一帶，毛豐厚，呈淡紅色，此爲上品。淺灰色者次之，皮薄而色黑者，則爲劣品。形與松鼠相似，常作巢於大樹之上，土人從事捕捉者，每待其軀幹強壯之時，而於樹根之四周圍，密佈鋼針，復以木砲作巨響，則樹上灰鼠皆紛紛墮地，捕捉極易。東三省一帶每年所獲之灰鼠，爲數極多。以產於興安嶺、嫩江者爲上品。皮毛非常濃厚，吹時有菊花根，每只時價在四元以上。黑河、三姓、一帶者次之，毛略薄，每只值二元有餘。吉林、甯安之產品，毛多空鬆，不能耐

久海拉爾、哈克圖所出之灰鼠，亦屬上品。銀鼠以外蒙古一帶之出品爲優良皮之大者，長可一尺有餘，毛高三分，每只市價，統在十元左右。袍料一件，需二百只。惟近來真者極少，每以白兔皮充之，須細加攷察，方能區別之。大概銀鼠之皮毛，富光彩，呈象牙色，與白兔皮之白而無光者絕然不同也。每年國外之銷路，爲額甚大，西人大衣多用之，而西俗女子出嫁時，以銀鼠皮爲禮品者，又不乏其人也。栗鼠背有花紋，一稱花鼠，毛稍硬，通屬下品，價格不大。田鼠一名白面，亦稱旱獺，性與家鼠略同，穴居田野，浙江省出產者，最爲良品，每只市價，須三四元，製作大衣夾裏，頗耐久用。

紫貂以產於滿洲一帶者爲上品，形如狸貓，毛呈深褐色，生性極慈，又能耐寒。據云捕者每於嚴冬飛雪之時，飲高粱酒或紅砒等品，除去上衣，而臥於地上，貂見後，不覺憫而憐之，奔集其身，使不致凍斃。捕者乃得從容捕捉之。然亦費盡苦力，價值以是非常昂貴。有青韓、紫韓二種。青韓作藍黑色，敦化、延吉、間之哈爾巴嶺，爲其著名之產地。紫韓產於張家口、牡丹嶺、以及三姓東部之森林地。圍巾之類，以全只爲之上品，值五百元。衣料每分部爲之，以腿腹相全製成者，名壽桃貂。通常皮衣袍料，總值九百五十元左右。清代律制，對於貂皮一項，每多限制。普通人士之服用者，尤屬禁止之列，非有品位，不准御用，蓋以貂爲德獸之故也。

除上述之羊皮、狐皮、鼠皮、貂皮外，他如猞猁、獺皮、貓皮、狗皮、黃狼皮、虎皮、豹皮、獾皮、熊皮、等種類甚多。猞猁狀如狸而耳大，有長毛，外蒙古、東三省、西藏等地產者極多。品質以外蒙古之出產物爲優良，色白，市價每只八十元。

東三省產者次之，微帶黃色，市價五十元。西藏猞猁祇值三十元，以其毛細無力也。獺皮以西藏產者爲最良，稱藏獺，毛峯長可六七分，極濃厚，每只市價自一百元至二百元不等。東三省所出之獺皮，毛頗結實，市價值八九十元，良者一百二十元以上。除藏獺外，即推獺皮中第二名曰關獺，以產於山海關之東也。湖南之寶慶、四川之重慶，以及雲南、貴州之出品更次之。長江一帶所產者，稱江獺，每只售一二十元。浙江省之溫台等地，亦有獺皮之出產，較江獺爲良，惟與寶慶貨相較，稍有不及也。貓皮各處皆產之，而以關東與甘肅一帶爲優良，毛峯濃厚，是其特長，每只需價二元以上。江北貨一元有餘，江南諸省，出品較薄，祇售五六角至七八角，小者又祇一二角。野貓皮亦稱小豹皮，雲、貴、各省極多，品質優良，又甚悅目，價格需三元以上。東省出品，以毛大之關係，售價較昂，每只約五元左右。九江一帶，野貓皮之出產亦多。黃狼皮則產於東三省、山東、河北、江浙、湖北等省。東三省產者，其毛峯長有六七分，只頭亦大，長達一尺四五寸，以銷洋莊量頗巨，故價格較貴，每只需十二三元。山東省濟甯與河北省棗強出產者，售價祇六七元。江、浙、湖北之貨品，以毛薄色淡，價格更低，每對爲五六元之譜。虎皮優者，產於東三省黑龍江大嶺、白頭嶺、牡丹嶺、老爺嶺及松花江二流等地，亦產之。惟以捕捉匪易，售價甚高，每只在四百元與八百元之間，小者亦需二三百元，多製爲毯子用。其他四川、江西諸省，年略有少量之生產，售價並不低，約爲七八十元。豹有金錢豹與艾葉豹之別。四川、甘肅、東三省多產金錢豹；艾葉豹產於蒙古西營。東三省與甘肅貨爲最優，毛長寸餘，每只售價五十元。四川貨爲四十元，西營貨底白花紋黑，點點圓如錢大，毛高一寸半，每只市價自六十元至九十元不等。

熊皮以產於關東者爲多，分馬駝與狗駝二種。新開河嶺、張廣嶺等地所產者，年可三十餘只。兔皮以產於黑龍江省之嫩江爲最優品，毛峯長三寸，捨毛色帶青黑，甚軟熟，三姓貨次之；甘肅、四川、湖南、寶慶、江浙等貨又次之。

第一節 貿易

已硝山羊皮輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	英	國	德	國	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國九年	四三五、三八六	三、〇八八	一一五、〇四六	二一、八六八		九、六五四				七一九、六九四		
民國十年	一〇七、一四二	一五、三五三	二二、四二五	三三、七一六		九九、三六二				三六九、五八五		
民國十一年	五一四、五一四	三三、〇八八	一三〇、九六〇	五二、四〇五		二〇八、四〇八				九五〇、四八一		
民國十四年	五五八、五〇三	四四、一五〇	一四一、八三九	一八、六五五	九一六、二四一		一、七二〇、三二〇					
民國十五年	三九九、四八〇	二七、八二三	一六五、三三三	四、〇七〇	一〇四、二五九		七二〇、七二五					
民國十六年	九〇四、三〇四	三五、八〇二	七七、九〇三	一三、六六六	七二、二五八		一、一二三、五〇一					

未硝山羊皮輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	香	港	安	南	英	國	荷	蘭	法	國	
民國九年	一八七、七七二		五六〇	九五、四七〇		五、一一二					
民國十年	一七四、八二一	二五、〇三四	一、九六八	三九、〇五四		八六、五八六					

年 次	日	本	美	國	其 他	合 計
民國九年	三〇三、八〇八	七、三八〇、四六一	八、一一二、三二六兩			
民國十年	九二、六八八	三、八四八、三二四	四、二九八、三五三			
民國十一年	六九、七九二	五、三七四、七〇八	五、九五八、五六二			
民國十四年	七八、五九二	三、七九九、八〇七	四、四三八、一三三			
民國十五年	一五五、八二三	五、二八七、三九八	六、一七四、二三五			
民國十六年	三八二、七七二	四、二四三、五三五	五、二六九、四三一			

羔皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	法	國	意	大	利	朝	鮮	日	本	美	國	其 他	合 計
民國九年	五六、七四二	一二、二八五	三、一四三	七、九七四	五、一八五	二五、四七三				三、二三三	六〇、六四				二二、五二
民國十年	四五七、四二六	三五、三一五	一一、二〇八	二九、七一											
民國十一年	二四〇、五一四	七、七八七	一、五一〇	三一、四七二											
民國十二年	五九七、一二三	一八、六三五	五二、〇〇一	三二、六六八	六、一一五	三〇二、四三									
民國十三年	三〇五、二一三	四六、六二四	五二、五九九	四九、二三三											
民國十四年	五五二、五〇〇	七三、七三八	五五、七一〇	四四、三四〇	一五、五三八	六八〇、五九	一、六四、六六								
民國十五年	一〇、七二八	一七二	九、六〇九	二、〇四九、四一三	二、〇八三、七五三										
民國十六年	一七、二〇八	一、六五九	八、六四〇	二、四四〇、五八一	二、四七一、四六一										

黃狼皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國九年	六九、一二八	一、六〇二	四九、〇六〇		一八九、〇二二			三〇九、五四八兩		
民國十年	五三、四二一	四、〇七一	二、二八五		二七七、四六四			三四〇、四六九		
民國十一年	五六、四四九	六、六二一		一六九	三三五、七三六			三〇九、〇六三		
民國十二年	一〇八、三六一	一一、二五七	四、五五五		五五三、二七五			六八四、一四二		
民國十三年	一〇、七二八	一七二	九、六〇九							
民國十四年	一七、二〇八	一、六五九	八、六四〇	二、四四〇、五八一	二、四七一、四六一					

狐皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	德	國	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國九年	一六九、二三七				二四、〇七八		五一、一七三		一四四、五三二		三九五、七四六	
民國十年	二四一、九五七		七、三六四			七九八	四八、一六八		七一、三二九		三八七、六六四	
民國十一年	三七二、五〇七		一三、〇七一		一七、一三四		四、九九三		二三六、六九八		六四二、四九三	
民國十四年	二八五、二二一		六二六		一五、二二七		七、六七七		五三八、七九〇		八五三、一九八	
民國十五年	一九五、九七八		四、〇二三		三、〇三三		六、六六四		八三、八三〇		三〇〇、二一七	
民國十六年	二〇六、五四四		二六、七九二		一四、九六一		一八一、三三五		二七一、〇三七		七一三、三三二	

旱獺皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	德	國	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國四年	一、八七〇、八五八		九二、五五四		一四六、〇三七		二〇一、七〇六		一、五〇三、一三		三、八三、〇三	
民國五年	一、三八八、二九四		二一〇、三八五		一〇三、三一四		三九三、一五二		一、〇三一、五五		三、一〇、六六	
民國六年	七一五、四九一		四二一、九六七		三七、七五七		五四八、九八九		五六七、三六		二、四四、三三	

狗皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國十四年	一七八、九六六		二六八、二一三		七九二、七八二	一、二四五、六九〇		
民國十五年	一五〇、四三七		二〇九、九四五		八九三、六〇五	一、二五四、三〇一		
民國十六年	三一六、八六七		一、二八九、七〇九		一、二三六、八三八	二、九一一、〇一九		

猾皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	法	國	美	國	其 他	合 計
民國十四年	六六、一九一		一、一八一		八四、七五七	一七一、九五〇		
民國十五年	三五、四〇六		四、七六七		一六一、四四〇	二〇六、〇七三		
民國十六年	九七、一八一		一三、九四七		二一九、七〇三	五三二、一一一		

浣熊皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	國	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國十四年	七三、〇五九		九四九		二、五八八	一七五、八一六		二五八、二八九		
民國十五年	一四、八九五		七、九二九		九	一〇五、二〇五		一三一、四〇五		
民國十六年	一四〇、六五五			一、七九七	一九九、八〇九		三四五、八七三		

兔皮輸出國別表(單位兩)

年 次	英	德	法	國	日	本	美	國	其 他	合 計
民國十四年	四二一、九三六	六五、一七八	一八九、〇九八	一四、二六八	一二六、三六九		八四七、九一三			
民國十五年	五〇二、一一五	一五四、〇二八	二五三、四二〇	一一、七五九	一六七、九三七	一、一一七、八九八				
民國十六年	五一四、〇九九	一四八、五一三	二四九、六九九	一〇九、七三八	五〇四、六二四	一、五四四、六二三				

灰鼠皮輸出國別(單位兩)

年 次	英	德	法	國	日	本	加 拿	大 美	國	其 他	合 計
民國四年	一五〇、一四三	八、八九一	九、九五四	三、三九〇	一四、一〇五	五一二、五五一	七〇〇、八〇				
民國五年		七〇二	五七九	三八、三四八	八、八七七	一六、六九五	五二九、五四八	五九五、〇五			
民國六年	六三、五五八	四〇、一四〇	二〇、〇〇〇	一四、四五七	七、二五九	七四四、六九一	八九〇、一三				

第十一章 牛與牛皮 (Cattle & its Hides)

第一節 牛產地

中國人士，對於豬肉，極多需要，每以爲常食之品。而所謂牛者，以耕作用爲主，食用者極少。惟回教則不然，專食牛羊，視猪肉爲違例。故此等地方，牛類較多，如河南、湖北、湖南、廣東、四川、陝西、甘肅、山西、山東諸省是也。河南省之信陽，山東省之周村，四川省成都附近，尤爲著名。

中國各地飼養之牛，約有六種。黃牛、水牛、犂牛、毛牛、洋牛與雜種牛，是也。黃牛以山東省爲多，其所以稱爲黃牛者，以呈黃色也。間亦有黑色、或黃褐色者。水牛皆在江蘇、河南、交界地方，及東昌附近，洋牛屬外國種。犂牛爲蒙古青海之特產，而毛牛則爲產於四川省打箭爐以及西藏間者。

第二節 牛皮之種類與散集市場

牛皮之出產，自推牛產地爲盛，約可分爲黃牛皮與水牛皮二種。黃牛皮皮質緻密，製成物品，甚爲強韌。而水

牛皮非常粗硬，是其缺點。惟皮之品質，亦因地方之不同而有異焉。湖北、湖南、蒙古等處所產之牛皮，或以氣候之寒冽，全屬放牧地，多沼澤，纖維過弱，皮質皆屬不良。惟山東、河南、四川等省，以土地高燥，皮質厚而疵痕少，纖維緻密，故各國皆樂購之。

全國牛皮之散集市場，以漢口、上海、膠州、天津等為大。漢口市場之牛皮，以來自河南省者為多。尤以信陽為主要，鄭州次之。他如湖北之漢陽、沔陽、棗陽、樊城、孝感、黃陂、宜昌、德安、湖南之常德、長沙、寶慶、四川之成都、重慶、及陝西南部，運來者亦佔一部分之勢力。惟終不若河南貨之多。上海市場之牛皮多來自丹陽、蘇州、杭州、鎮江、清江浦、徐州等地。山東一帶所產，有黃牛皮、水牛皮、洋牛皮、雜種牛皮四種。更有生皮、鹽皮、乾鹽皮、乾皮之別。回教徒集合地為臨清、濟南、東昌、濟寧等所產更多。青島、德州、泰安、青州、高密、濰縣、博山、灤口、烟台、黃縣、周村、長嶺、即墨、沂州、萊州、滕縣等亦盛。終以膠州為最大之散集地。天津市場上之牛皮一項，山東、河南、河北各省以及張家口、歸化城、宣化、大同府等地，皆集於此。有鮮牛皮、鹽板、鹽土板三種，全無砂土者，稱為淨板，品質最良。以各地來源之不同，又有東皮、南皮、京皮、京東皮、京北皮、蒙古皮等之別。東皮為來自山東者，每張重量自十八斤至二十五斤，市價每擔二十六兩；保定以南、河北、河南所產者為南皮，屬鹽土板，價值頗廉。河北北部之皮，以北平為中心，有京皮、京東皮、京北皮、三種蒙古皮則為產於蒙古者。

第三節 貿易

生牛一項，多銷香港一帶。牛皮之輸出，則有水牛皮與黃牛皮二種。當民國初年，出洋總數常達一千六七百萬兩之鉅。民五有一千七百五十八萬一千兩。民九之後，頗多衰落。水牛皮與黃牛皮二者合計，亦不滿千萬兩之數。民國十三年祇六百三十萬兩。近數年來，情勢稍好，銷路逐次進展，如民國十六年已有一千〇十三萬六千兩。其中水牛皮佔二百十六萬五千兩，黃牛皮為七百九十七萬一千兩。

牛與牛皮輸出數量及價額表

年 次	數 量	價 額	牛 方		
			數 量	價 額	類 數
民國二年	八六、五六五四	三、〇七八、四九七兩	四九八、〇三八擔	一五、一八四、三四四兩	
民國三年	七六、七二七	二、八六五、六五六	四三六、九四六	一四、二五五、三八八	
民國四年	五七、一七〇	一、八六九、二五二	四三七、三九五	一六、八一七、六九一	
民國五年	五六、三四八	一、六四一、九四二	四六五、四六一	一七、五八一、四六二	
民國六年	四〇、四八五	一、一二三、六八〇	四七七、〇九九	一七、三六七、五七二	
民國七年	二八、八五二	三九五、六三八	一三、四七〇、六九六		
	八六四、三八九				

民國八年	三四、五五一	八七八、〇八二	三八三、三三三	一〇、三六一、三八一
民國九年	五七、四〇七	二、一三四、一九二	二六一、三四三	八、二一五、三七九
民國十年	四二、七三三	一、四五四、五六六	二二六、六一七	六、五三二、九五七
民國十一年	四六、一八五	一、五四四、九四一	二四〇、七四四	七、二六八、六三一
民國十二年	四三、六一四	一、五八六、四二三	二九三、七四〇	九、二六五、九六五
民國十三年	三九、〇五七	一、三〇六、二〇八	二二七、六九四	六、三四四、二一〇
民國十四年	二四、四七一	七四六、〇八五	二二三、二六八	七、六一六、五七八
民國十五年	一一、九六七	四一〇、一三六	二四三、四四八	八、〇二一、八九八
民國十六年	二五、一八三	六九一、二九七	三二一、四三五	一〇、一三六、九七〇

第三編 生馬驥驢皮 (Hides; Horse, Mule, & Ass)

第一節 產地

中國產馬之地，以蒙古、新疆、滿洲、河北、山東、陝西、四川、雲南等地為主要。普通可分為口馬與川馬二種。前者來自河北省之張家口，或山西省之殺虎口，屬於蒙古種所稱塞外之馬也。察哈爾為主產地，川馬則為四川省打箭爐地方所產者。

驥、為驢馬相交而生者。河北、山東、山西、陝西、甘肅、新疆、河南、湖北、四川等省皆產之。通常可分為二種，馬駒驢。牡體格強健，能任力役，驢牝馬牡，則反是。此其不同也。

驢之體格，較馬為小。耳頰極長，其毛夏為黃色，冬為褐色，或鼠色。背之中央，有黑線一自叢達尾，性極溫順，能負重物。出產地以陝西、甘肅為主要。甘肅口外之甯夏與榆林方面，尤負盛名。其他如河北、關外、山東、河南等地亦多。

第二節 貿易

馬驥驢生皮輸出國別表(單位關平銀兩)

年次	朝鮮	日本	台灣	美國	其他	合計
民國十四年	六、一七二	七三〇、三八〇	一九、〇八八	七六九、一八〇兩		
民國十五年	五、一二〇	九四〇、〇八八	七、八一〇	九五六、六四一		
民國十六年	二、七八〇	九四四、八五一	三八、三六〇	一、〇五一、六六二		

第四章 猪與其產品 (Sis and its Products)

第一節 猪之產地與種類

江蘇、浙江、河南、山東、湖北、湖南、四川、廣東等省本爲古來吾國重要養猪發達之地。就中品質佳良者，尤推四川、湖北、廣東之三省。歐美諸國亦甚歡迎。惟其他各省所產者，均屬品種不良，身材矮小，實有改良之必要。故最近購自外洋之純良猪種，使互相交配，而行繁殖，或僅購外國之純良公猪，與本地母猪交配，亦有選擇本地較良之佳種者。法雖不同，而求猪種之改進則一也。現中國所養各種猪類，由顏色上觀察之，通常可分爲三種。所稱白猪，黑猪，與花猪，是也。黑色之猪，各地皆產之，白色猪以江蘇省之南部以及四川湖南等地爲多。花猪爲白黑紋色之總稱，南部各省飼養也頗盛。

第二節 猪之產品

猪之產品，如猪油、猪腸、火腿、猪鬃等，在商場上皆佔有重要之位置。猪鬃一項，後有專章詳論之，茲不贅述。

豬油為調理食物之主要品，其他在肥皂、臘燭等工業原料上，亦有相當之位置，尤以上海一埠為最大之市場。每年輸出者，為額頗鉅。

火腿之出產，以江蘇與浙江二省為有名。上海、杭州、鎮江等地，主要之輸出港也。浙江省金華地方所產之火腿，稱金華火腿，遐邇聞名。雲南省滇中道宣威縣，亦為火腿有名之產區。

豬腸以天津與漢口為全國二大散集地，上海、重慶次之。各地原貨出口數，民國十年間，尚不過一百餘萬兩。近則已增加至四百餘萬兩矣。漢口與天津各一百萬兩，上海八十萬兩，重慶四十萬兩。

第三節 貿易

豬與其產品對外輸出

年 次	豬			豬油		
	數 (隻)	價 (錢)	額 (兩)	數 (擔)	價 (錢)	額 (兩)
民國二年	二七七、八四八	二、七二〇、五四四	七五、五八六	一、〇一一、七八〇		
民國三年	二六四、三五九	二、三〇六、四七二	七三、六八四	九四二、二四六		
民國四年	三〇二、四二〇	二、五一七、九一一	八五、三九五	一、一三八、九六四		
民國五年	三二三、七二一	二、三六五、九九八	九六、〇三五	一、二六五、四三〇		

年 次	數 量(擔)	火腿		豬 腸	
		價	額(兩)	價	額(兩)
民國二年	八、九五八	一八八、〇〇八	四五六、四三七		
民國三年	一〇、二二五	二〇三、三三三	四二一、六一七		
民國四年	一〇、四九〇	二六三、九四二	三〇一、七七一		
民國六年	二七一、〇八九	二、三三一、六二七	一五八、一四一	二、四八二、〇九九	
民國七年	二五九、五一二	二、一四三、五四〇	一一九、八一〇	一、八四四、〇四三	
民國八年	三〇二、七一四	二、二六九、四五〇	三一七、五二〇	四、八三三、一二七	
民國九年	二九七、五四九	二、二一二、五七六	一九五、八六〇	三、二一〇、六二三	
民國十年	三二九、九七二	二、五〇七、七四一	一三六、五二九	二、二一六、四七〇	
民國十一年	二六四、六三三	二、八七五、七九八	六〇、八七五	九二三、〇三七	
民國十二年	二八六、四八〇	三、〇四三、五一七	五一、九二五	八〇八、八八二	
民國十三年	二七一、四六五	二、八八七、一八七	六一、七三三	一、〇一五、五七三	
民國十四年	二二二、九三六	二、一六三、三五七	一一一、六五五	二、〇一六、三九五	
民國十五年	一一〇、二〇四	一、二五七、一八六	八七、七九六	一、六八九、六八六	
民國十六年	二一二、三一〇	二、六一〇、二四四	六四、九四一	一、三〇九、五九六	

民國五年	九、四五八	二五四、〇一八	四〇五、九八八
民國六年	二〇、一九三	五六七、四六一	四五七、〇八九
民國七年	三〇、四六二	六〇〇、七二四	五一九、五四五
民國八年	二三、七九六	七三一、九三三	九一六、七二六
民國九年	一三、六五二	四〇一、四五一	九九三、七三三
民國十年	一六、一四六	四六八、五一三	一〇一六、〇三九
民國十一年	一二、八三五	四五八、八九三	一、五〇一、四八三
民國十二年	一一、九三五	四〇九、七一一	三、三一九、三六七
民國十三年	一四、〇九一	五三三、六五〇	三、八九三、一四四
民國十四年	一三、七二三	五三四、六一五	四、〇一二、〇四三
民國十五年	二〇、八九七	八一六、五二二	三、五二一、八〇七
民國十六年	一六、〇六五	五八一、七三三	三、八七二、五五二

第五章 獸骨 (Bones)

第一節 獸骨之產地

獸骨指牛骨、水牛骨、馬骨、豬骨、驢骨、象骨、鯨骨等而言。而大連、天津、膠州、上海、漢口、五埠，則所稱爲中國五大獸骨散集地也。山東、江蘇、安徽、湖北、各省以及滿洲一帶，尤爲主要之產地。北部各省所產之牛骨，以及河南、河北、之獸骨，總集於天津市場。各小集地運入大市場之由經河南、漳德縣一帶，取道運河。正定附近以及北平、張家口、山海關、唐山等地，皆有極便利之鐵道或水道，以資運行。上海市場之獸骨，多爲江蘇、浙江、安徽所產者。就中江蘇與安徽之北部爲盛。最初淮陽仙女廟附近極爲有名。湖北、河南、湖南，以及揚子江上流一帶所產之牛骨，均散集於漢口。而膠州則爲全部山東之獸骨總集地。

第二節 獸骨之品質及散集額

天津市場散集之牛骨類，數年前僅一千數百萬斤，後以運費低廉，散集額年有增加。惟其品質，多黃土、黃砂。

等雜物之混入，希圖加重，較之上海與漢口品稍次一等。所幸散集量極多，居全國各埠之首。

上海獸骨，大半來自鎮江、南京、蘇州、揚州等地，而直接自浙江、福建移入者亦不在少數，品質尚良好，頗適珠工之用。

漢口為全國內地交通之中心，牛骨之散集，為量極鉅，向日本輸出者，佔百分之六十左右，其他均向浙江、福建、江西等地移出，所有之獸骨，約分四種，即腿骨、腳骨、關節骨、與肋骨是也。其價格自以種類之不同而高低有異。膠州市場之獸骨，全產自山東省，一般解體後，置入釜中煮沸之，除去脂肪，通常以粉骨為多，大骨甚少，每年向日本輸出者，為數甚多。惟其價格，較之他處，約低十分之一云。

第三節 獸骨之用途

獸骨之用途極廣，如小刀柄、刷柄、扇柄、珠飾、烟嘴、筆桿、牙籤、麻雀牌等，即以牛之腿骨而論，通常可分為三部；大者曰扁爪，可製麻雀牌等用，次曰細料，最小者曰腳筋，刀柄、扇柄，常以肋骨前三對之上部為之。羊腿後骨第三節所製造之烟嘴，甚為美觀。其他不合製造用品者，每燃燒磨粉，或用其他化學方法，作為肥料，以其中所含磷化鈣量極多，對於農田上有無量之利益也。

用獸骨製為麻雀牌，該項工業，為時已久，每年所消耗之獸骨，為額亦屬不少。惟最近數年來，以該業之發達，

國內獸骨，頗有不足之狀，轉而仰仗舶來品焉。

第四節 貿易

獸骨輸出國別表(單位擔)

年 次	朝 鮮	日 本	台 灣	其 他	合 計	關平銀
民國九年	二、八五七	六八四、四〇六	六九二、七二七增		九六一、〇五一兩	
民國十年	五、七三四	八三八、五五四	八四四、四四二		一、一七二、五六五	
民國十一年	一、九五七	六九一、一二三	六九三、五三三		一、〇五三、三八〇	
民國十二年	七三二	九六六、六四七	九六九、〇三四		一、六〇九、五二七	
民國十三年	一、九五〇	八六一、七九八	八六九、五一二		一、五〇四、六〇五	
民國十四年	一六	二三五、九七三	二三七、一八二		三二〇、九九七	
民國十五年	一、二三四	三〇七、三〇三	三〇八、七七三		三九一、二五八	
民國十六年	三、〇五一	三一五、二三一	三一八、二九三		五六八、五二四	

最近獸骨之輸出，遠不及民十二、十三年之盛。而十四、十五年之衰落，實爲民國以來罕見。推厥原因，實由於東洋莊採辦數量之銳減。以是天津、膠州、漢口等埠獸骨之來源，竟一落千丈。如民國十年天津輸出之獸骨有三十七萬擔，民國十六年祇三十七擔，漢口亦不過三十餘擔。與昔相較，誠不可同日而語矣。

第六章 角 (Horns)

第一節 角之種類與其產地

角有多種，關冊上所載者，爲黃牛角、水牛角、羚羊角、老鹿茸、嫩鹿茸、犀牛角等。就中以水牛角、黃牛角、鹿茸爲重要。水牛角與黃牛角，以產牛地爲最多。如山東、山西、河南、陝西、湖北、四川等省是也。鹿茸爲鹿角初生時之特名，其形如芽，有皮覆之。皮上腫處，狀如蕈蓋之未開者即是。此爲吾國之特產，東三省極爲著名，一稱關東鹿茸，而梅花鹿茸尤屬珍貴之品。

第二節 貿易

嫩鹿茸一項，爲角類輸出貿易中最佔重要之位置，初祇數萬兩，近則頗多發展，如十四年之出洋總數有二、六一、架，值關平銀二、一四、八二六兩。十五年以市價高漲，故輸出量雖見減少，而價額則增加至二三八、一、三兩。惟十六年頗有降落，全年輸出數共一、五六九架，值一四八、八三一兩。就中銷往香港者，佔九九七架，值八六、三

五一兩。朝鮮五一九架、值五八、七八六兩、次之。日本、新加坡等處、又次之。

第七章 馬鬃 (Horse hair)

第一節 馬鬃之產地

世界馬鬃之出產。以俄國、德國、南美諸國、及澳大利亞、西伯利亞等地為主要。俄國尤為重要。中國方面，極東一帶，頗多出產。滿洲、蒙古以及北部諸省是也。由品級上可分為二種，鬣毛及尾毛。揃為一束者，是為優等品，長短毛錯雜者屬下等品。長毛多製為馬牛巾、篩布、瀘囊、靴下、手袋等。短毛則供椅子、寢床及汽車、馬車等之填充用。

第二節 貿易

馬鬃輸出額，民初祇值四五十萬兩，嗣後年益發展，以至最近，已達百萬兩。依據民國十六年之統計，馬鬃出洋總數，有一萬六千擔，值一百四十萬兩。推為歷年來輸出最盛之時期，由於美國、英國、德國、一帶市場之活動也。十五年之美銷，為八八一二擔，值六一二七一兩。十六年輸出量，雖稍見減少，共為八五八一擔。而價額則增加至七八六、七〇七兩。英國自十五年之二三七五擔，一二七、八五七兩，增至三、三七三擔，二六七、六一五兩。德銷高

出百分之三十，日本銷路與上年無大上落。茲將馬鬃之對外輸出貿易，列如左表。

年次	數	量	價	額	年次	量	價	額
民國二年	一三、一〇七擔	四四〇、九八九兩	民國十年	一二、三〇五擔	四八二、七五七兩			
民國三年	一五、二九九	五一三、八四八	民國十一年	一五、四二五	五六八、一七〇			
民國四年	七、六九七	二六四、八六〇	民國十二年	一四、〇二一	五一八、〇二七			
民國五年	一八、五一四	六五六、六二〇	民國十三年	一一、六六九	五三四、二九二			
民國六年	九、五四五	三四四、七八六	民國十四年	一八、〇六九	九三三、八二八			
民國七年	一〇、七四六	三九三、二二一	民國十五年	一五、五一九	九九六、八五九			
民國八年	一二、六三五	四二五、五九八	民國十六年	一六、五六四	一、四一、一四〇			
民國九年	一三、〇四五	五三七、二九四						

第八章 猪鬃 (Bristles)

第一節 猪鬃之產地與分類

中國猪鬃之出產，隨處皆有之，而以湖北、湖南、四川、河南、山東、江蘇、浙江、廣東、東三省等為主要。總產額共計有九萬六千擔。其中輸出至國外者，約佔十之六七。本國方面之銷路，不過十之三四。通常猪鬃可分為黑猪鬃與白猪鬃二種。黑猪鬃較盛，年產額達九萬擔。東三省與北部各省佔三萬五千擔。長江一帶二萬五千擔。四川、廣東、各一萬五千擔。白猪鬃出產額，全國不過五六千擔，以產於四川與湖南二省為發達。

中國猪鬃最大之散集市場有二。北部之天津與中部之漢口是也。而天津市場尤為全國第一。東三省之齊齊哈爾、海拉爾、阿什河、哈爾濱、一面坡、長春、鄭家屯、興京、海城、通遼、蓋平、遼陽與東部蒙古多倫、赤峯、朝陽、熱河等地所產之猪鬃，皆取道錦州、小庫倫或營口而至天津，復輸出海外各國焉。有高尖鬃、青鬃、毛鬃等名目，鬃長四五吋以上者稱高尖鬃，青鬃大都剪自週歲之猪而得名，長祇二三吋，凡未加剔擇之猪鬃，每多不純物混合在內，故稱毛鬃。

漢口市場之猪鬃，以產於湖南、四川、湖北、河南、陝西為多，湖南為白猪鬃之出產地。湘江道之湘潭、益陽、醴陵、與衡陽道之衡州、柳州、零陵、桂陽，尤為該項出產品之中心。輸出時之配合習慣，二吋與二吋半者各二十五斤，三吋者十五斤，三吋半、四吋、四吋半、五吋者共三十五斤。市價較黑鬃高百分之五十。惟其品質與產於四川境者相較，猶多不及。需知川省所產之猪鬃，推為全世界第一。有光澤，富彈力，是其特長。全省產額，共有一萬五千擔。黑猪鬃佔百分之九十，白猪鬃百分之十。攀昌、隆昌、合江、瀘州、敍州、廣安等地，極多白猪鬃之出產，黑猪鬃則隨處皆盛。成都、重慶附近較為發達。有生貨與熟貨二種：未加洗刷者，稱為生貨；又有原莊提莊、尖子、飛尾等名目，長四吋以上，而品質較為良好者，是為飛尾。尖子多為長三吋之猪鬃，在三吋以下復呈剪時之原狀者，名曰原莊。就原莊稍加剔擇，即稱提莊。此生貨大略之區別也。至於熟貨則指已經洗刷而加剔擇者。其專為輸出外國之銷路用，又名洋莊，配合法黑猪鬃與白猪鬃不同。黑猪鬃有四等，分十七號，各等配合方法，可如左表：

等別	長度								
	二吋	二・二五吋	二・五吋	二・七五吋	三吋	三・二五吋	三・五吋	三・七五吋	四吋
一等	二〇	五	一五	八	八	八	八	七	
二等	二〇	一〇	一〇	八	八	八	八	七	
三等	二五	一五	一二	一〇	八	六	四	三	
四等	三〇	二五	二〇	一〇	…	…	…	…	

等別		長度							
		四、二五吋	四、五吋	四、七五吋	五吋	五、二五吋	五、五吋	五、七五吋	六吋
一等	五		四	一、五	一	○、五	○、五	○、二五	○、二五
二等	五	三	二	一、五	○、五	○、五	○、五	○、二五	○、二五
三等	二	一、五	○、五	○、五	○、五	○、五	○、二五	○、二五	○、二五
四等

川省白猪鬃之配合法，共分六種：第一種爲二・七五吋以下者；第二種三吋與三・二五吋各五十斤；第三種爲三・五吋與三・七五吋各五十斤；第四種爲四吋與四・二五吋各三十斤；四・五吋與四・七五吋各二十斤；第五種五吋六十斤；五・二五吋四十斤；第六種則皆爲五・五吋以上者。一經分類，即可加束。包裝之法，通常每百斤爲一箱，外用油紙，或竹紙包紮，置入錫箔箱，更盛於木箱內，即可輸出國外矣。

又有所謂野猪鬃者，爲採自野猪。陝西興安、湖北房縣、竹谿等地，所出甚多。產額年達數十擔，毛質粗而長，間亦有長逾一尺以上者，多用於機器刷之製造，而內地皮匠，又以之縫皮鞋等用。

第二節 貿易

猪鬃之輸出，多屬分類者。其未經分類者，實屬少數，年來銷路極佳。如十五年之出洋總數，分類猪鬃與未分

類猪鬃，共值關平銀一千萬兩，爲歷年來輸出最盛之期。就中分類猪鬃佔六四、八四〇擔，值一〇、三九二、七〇四兩；未分類猪鬃祇二〇四五擔，值七六、二六八兩而已。分類猪鬃多銷於美國、日本、英國、以及其他歐洲一帶。十五年之美銷，有三〇、七六一擔，值五、四五七、五八四兩。英國一四、〇〇二擔，二〇九九、六六〇兩，次之。日本八、八六八擔，一五二、一〇九兩。第三，其他如法國之四、九六九擔，五四、二七五兩。德國之一八四六擔，二五七、三二三兩。比利時之一四五九擔，一七七、六三一兩。荷蘭之六九五擔，一〇七、四五三兩等。又次之。同年未分類之猪鬃，亦以英國之市場爲活動。至十六年，英國銷路雖見發展，惟美國、日本、法國、皆有遜色。如分類猪鬃之出洋總數爲五八、六七三擔，值九、〇三八、六九七兩。美國佔二六、三二五擔，值四、三七三〇〇四兩；較十五年減少四、四三六擔，一〇八四五八〇兩。日本爲七〇、八九擔，一九四、二二二兩；英國則有一六、三一九擔，二、三三三、六九六兩。與十五年相較，增加百分之十二；法國亦見減少。

猪鬃輸出數量及價額表

年 次	數	量 價	額(關平銀)	年 次	數	量 價	額(關平銀)				
				民國二年	五二、七一五擔	四、四三五、三三六兩	民國十年	四四、一〇五擔	四、二一九、四七八兩		
民國三年	五〇、六五二	四、四三九、九六三	民國十一年	六七、八四一	六、三〇三、七八三	民國四年	五八、六一一	四、八七五、一三五	民國十二年	七四、四二二	七、七五七、九九一
民國五年	六二、七八七	五、五三四、六八四	民國十三年	六五、五四〇	八、七四二、三九二	民國五年	六二、七八七	五、五三四、六八四	民國十三年	六五、五四〇	八、七四二、三九二

民國六年	六四、一八一	六、一七一、六三八	民國十四年	六七、八〇四	九、五五六、九九五
民國七年	七一、六一一	六、六八二、四六四	民國十五年	六六、八八五	一〇、四六八、九七二
民國八年	五一、六三一	四、七四八、八九〇	民國十六年	六二、三三一	九、二九〇、〇〇九
民國九年	五八、八五三	六、二二四、二八九			

第九章 牛油 (Tallow, Animal)

第一節 牛油之產地

中國純粹牛油之出品極少。山東省一帶，往往有其他之獸脂混合，希圖佔利，實爲一般奸商之故技，間亦有雜以豆油、落花生油等植物油者。他如揚子江各省暨河南、河北、東三省等地，皆爲牛油主要之產地。天津、膠州、上海、南京、漢口諸埠，尤爲大宗牛油之移出港。前以漢口一埠最爲發達。四川、湖南、湖北、河南各省所產者，皆集於此，後逐漸衰落。而膠州之牛油，則日見發達，以現今之情形觀察之，似以膠州爲全國第一牛油輸出港矣。該項貨品，上等者爲黃白色，俗稱老牛油。黃色者則爲下等貨，即嫩牛油是也。每當舊歷十月，大宗牛油，皆集市場，須至翌年之四月，始逐漸收閉。大半由洋行收買，再加以精製，使凝成方塊，重可三百磅，或二百二十五斤，盛入麻袋，以繩束之，亦有覆以鐵片，裝入木箱，始行出洋者。其主要之用途，多供肥皂、蠟燭等製造原料用。

第二節 貿易

牛油輸出貿易，以民國五年爲最盛，達三〇六、〇〇三擔，值關平銀五、〇五五、〇七一兩。嗣後年多衰落，頗有不振之象。民九尚有十萬擔之銷路，值一百三十六萬兩。年來則不過三四萬擔而已。如民國十六年之出洋數量，爲三萬四千擔，值四十五萬兩。由於香港、英國、俄國、等地銷路之銳落也。左列之表，即爲牛油之對外輸出概況：

年 次 數	量	價	額	年 次 數	量	價	額
民國二年	一二二、七八一擔	一、二七五、六八七兩	民國九年	一〇六、一五一擔	一、三六一、七〇六兩		
民國三年	一三九、〇三三	一、三九三、三六七	民國十年	七六、二八八	九四一、〇六八		
民國四年	一一三、六三六	一、一六二、二四四	民國十一年	二五、七五三	三〇九、六九八		
民國五年	三〇六、〇〇三	五、〇五五、〇七一	民國十四年	五五、六三三	六八九、九二四		
民國六年	二七七、二〇八	三、九二七、九八九	民國十五年	三九、七二五	五〇八、三〇三		
民國七年	一四〇、七二〇	一、九五六、七九五	民國十六年	三四、六七七	四五〇、八三九		
民國八年	一二五、三七二	一、六〇二、七八五					

第十章 鮮蛋皮蛋鹹蛋(Eggs; fresh, Preserved, and Salted)

第一節 蛋之產地

鷄、鴨、鵝等家禽之飼養，爲吾國各地農家之副業，利用棄餘之穀屑，爲其食料品，可食其肉，而每年所產之卵，爲量頗鉅。惟一般農人，大都限於資財，間以不知其利益之重大，故極少大規模者。全國家禽飼養數，據民國七年農商部刊行之第七次農商統計，共有二〇七、六九二、六一五頭，值五八、九五三、五六〇元。鷄一項最佔多數，共有一四九、六四八、七四六頭，值三九、九二、七、九一〇元，所產鷄卵，達四、四八九、七〇三、四二五個。東三省、河北、山東、河南、江蘇、浙江、安徽、湖北等，其主要之產地也。上海與天津，尤爲全國二大蛋類之散集市場。山東、河南、以及河北、西南部，與天津附近所產者，皆集於天津市場。上海市場之蛋品，又爲湖北、湖南、安徽、江蘇、浙江之總集地。惟自最近數年來，膠州一埠出口之卵類，極多發展，天津市場，已有逐漸被奪之勢矣。

第二節 貿易

鮮蛋皮蛋鹹蛋對外輸出表

年 次	數 量(千個)	價	額	年 次	數 量(千個)	價	額
民國二年	三六三、二〇二	二、七八八、〇六一兩	民國七年	一、一八〇、七一四	一一、五一六、一七三兩		
民國三年	四一三、四五一	三、〇〇三、六四四	民國十一年	一、一八一、九八〇	一二、九五六、二七一		
民國四年	三四四、三二九	二、六八五、四一九	民國十二年	一、一〇一、〇四九	一一、一九〇、六四二		
民國五年	三五四、〇一一	二、九七〇、八三七	民國十三年	九四四、二五三	九、八九二、八六〇		
民國六年	二四七、四〇〇	一、八七〇、二九七	民國十四年	七八四、五〇九	七、六八〇、八〇七		
民國七年	二〇九、八六七	一、五五五、七二七	民國十五年	七八八、七六〇	八、四八〇、三四九		
民國八年	三四六、一二一	二、五六一、二八一	民國十六年	六〇二、八一六	七、三七八、四七四		
民國九年	六四六、七〇〇	四、九九四、九四六					

蛋類貿易，雖可分爲鮮蛋、皮蛋、鹹蛋、三種(蛋白與蛋黃詳下章)而尤以鮮蛋最佔重要之位置。即以民國十六年而論，蛋類出洋總數爲七百三十萬兩。就中鮮蛋一項，佔五八三、〇二〇、〇〇〇個，值七〇五八、四八九兩；皮蛋與鹹蛋祇一九、七九六、〇〇〇個，三一九、九八五兩而已。鮮蛋之銷路，以日本爲最盛，十六年出口至日本者，有三五四、七五一〇〇〇個，四、二四〇、〇三一兩香港七二、五七五〇〇〇個，八七四、一四九兩次之。英國六九、〇二一〇〇〇個，八六一、三四五兩。第三菲列賓五五、五五一〇〇〇個，六八二、九八六兩。第四德國一三、四一三、〇〇

〇個、一八〇、九五七兩。第五皮蛋與鹹蛋，則以新加坡一帶之市場為良好；十六年銷數為一、一四七五、〇〇〇個，值一八四、五四二兩。香港、菲律賓等次之。

第十一章 蛋白蛋黃

第一節 蛋白蛋黃之製造地

生蛋運出外洋，每多腐敗，又易破碎。一般經營斯業者，所受損失，頗為不貲。後乃發明乾燥卵之法，分乾蛋白、乾蛋黃及乾全蛋三種。乾蛋白與乾蛋黃，為以生卵去其外皮，分別蛋黃蛋白而乾燥之者。所稱乾全蛋，祇去其外皮。總之，為便利運輸耳。乾燥之法，即為加入防腐劑，俾能持久也。防腐劑初用食鹽，今又改用硼酸。然內地一帶一般舊式工廠，仍墨守古法。英、德諸國，在華經營蛋業者，每利用機器製造，出品既多，質地又良。近美國又發明製造蛋粉之機器，較之法國所用者，尤為便利。製品有蛋白粉、蛋黃粉、全蛋粉三種。吾國蛋粉廠之設立，初起於湖北、安徽、江蘇等省，近則推及湖南、山東、河北各省。據最近之調查，全國蛋粉廠之所在地，如江蘇省之上海、常熟、鎮江南、京、樓川、上崗、泰州、高郵、興化、豐縣、大李集、窑灣、夏鎮、睢寧、徐州、泰興、揚州、宿遷、清江浦、安徽省之南宿、雙清、亳州、蕪湖、巢縣、懷遠、蚌埠、潁州、河南省之歸德、許州、彰德、新鄉、濮陽、鄭州、洛陽、道口、鎮清化、開封、駐馬店、三和店、周家口、山東省之沙溝、濟甯、茌平、濟南、濮口、張店、青島、德州、桑園、台兒莊、滕縣、河北省之天津、保定、邯鄲、唐山、楊店。

村、琉璃河、石家莊、湖北省之漢口、山西省之大谷、福建省之福州等是也。

第二節 貿易

蛋白與蛋黃，爲蛋產品中最佔重要之位置。輸出國外，年值甚鉅。民國二年祇一五五、九七三擔，值關平銀二、九四三、九五六兩；民國四年即增加至一九〇、九六七擔，四、八六四、九二五兩。嗣後如民五之二八八、三四六擔，七、七〇二、四〇三兩；民六之四〇五〇一九擔，一、九九九、六八四兩；民八之六〇六、一八二擔，一九、八二五〇九八兩，皆極有發展。民九、民十兩年，降落甚多。民十祇三九二、八二二擔，一、一七五八〇九三兩十一、十二兩年，稍有進步。十三年復有四五七、九三八擔，一六、六五八、五八一兩之銷路，雖不及民八之盛，然比之民九而後，實已頗多發展也。英國去銷佔二二一、二八五擔，推爲第一；美國之八六、八五〇擔，德國之五四、一二六擔，法國之四五、一二九乾蛋白有六五〇擔，比利時之一四、六六四擔，日本之「四六七擔」等又次之。至十四年，各蛋製品之出洋數，三〇六〇、五四四兩；溫凍蛋黃二九〇；一、二六、五四三、三〇九兩；凍蛋白五八〇七五擔，九八二、五六〇兩；乾蛋黃八四、二〇八擔；六兩；溫凍蛋品四二一、四一二擔，七〇五九、二九七兩；三十一、三〇九兩；蛋白與溫凍蛋黃之市價極良，故輸出量雖較十四年爲減少，而價額反見漲。凍蛋白與溫凍蛋品頗爲發達。溫凍蛋品之出洋數有二、三二七〇四一兩；英銷佔

四〇七、四四一擔八、八六六、一三五兩；美銷四二、四三三擔，八四九、〇八八兩；德國一、一九九擔二二八、四四六兩；法國九、五三七擔，一九〇、七四〇兩，等次之。乾蛋黃與機製乾蛋品，較上年跌落，及十六年，蛋製品輸出貿易，頗有不振之象。如乾蛋白自十五年之五八、五、六擔，七七九八、八一七兩，減至四八、〇一九擔五、三六六、九〇四兩；溫凍蛋黃祇爲一〇、三、五六擔，四六八七、九三三兩，較十五年之二八、一八四五擔五、八四一、五二一兩，降落一〇、三、八八九擔，一、一五三、五八八兩。凍蛋白減少百分之三十。而溫凍蛋品之數量雖見缺，價額頗見高漲，其值一〇、七〇二、一九五兩，實由於英銷之良好也。

第十一章 毛羽 (Feathers)

第一節 毛羽之產地

毛羽之出產，古來以南部廣東汕頭地方為著名。中部各省如南京、蕪湖等地，亦有大宗之出產。四川附近，產區範圍頗廣，而上海與漢口二埠，尤為全國最大之毛羽輸出港。惟大半歸洋商經營，收買後，將污物剔去，再依輸出之目的而為之分別品類，加以蒸氣，使之乾燥，如是則可捆載運往外國矣。每捆之重量，通常為一〇〇磅，或七十五斤。

第十一章 貿易

雞鴨等毛輸出數量及價額表

年 次	數	量 價	額 年 度	量 價	
				年	度
民國二年	九八、六一九增	一、四八四、八五七兩	民國十年	五三、六一六磅	七六九、四九八兩

民國三年	七三、七〇五	一、〇四一、六六八	民國十一年	八七、一一八	一、二六八、二三一
民國四年	五一、五三二	五九九、五五〇	民國十二年	七三、〇三四	一、二五五、八六二
民國五年	五〇、六八六	七七二、五二九	民國十三年	八四、〇七二	二、〇四七、八四一
民國六年	五三、一二五	八〇三、五〇八	民國十四年	九〇、三一一	二、五四七、〇三二
民國七年	三五、七一一	四六三、七九八	民國十五年	七五、四七五	二、二二〇、六一二
民國八年	七五、一三七	一、〇二七、六七八	民國十六年	八三、三二二	二、〇四一、三〇一
民國九年	七六、四四九	一、〇三四、二三八			

第四編 水產品

第一章 中國水產業之概況

第一節 水產之產地與種類

奉天、河北、山東、江蘇、浙江、福建、廣東、七省，爲我國濱海之區。故全國之漁業，亦以該地一帶爲發達。就中尤以廣東省爲最重要。其漁民以潮州府人爲多，分佈於雷、廉、瓊三州；重要漁業島嶼，都凡二十有一。福建省之漁業亦盛。泉、漳二州之漁民，散佈各處，閩、浙、海面交界處，較爲發達。浙江省甯波府之漁民，亦頗有足述處。溫、台二府之從事漁業者，又不乏其人。漁業地以定海鄰近各島嶼，如沈家門、衢山、洋山、岱山、陳山、四礁、黃龍、花島等處爲盛。該三省每年收獲之水產物，爲額極鉅。廣東省達一五七〇四、九七七元；浙江省八、四〇九、三八三元；次之福建省一九九〇、七八〇元；又次之山東與江蘇二省之沿海，魚族較少。山東青州、烟台之漁民，多屬農家副業。江蘇省則以

舊黃河、射陽港、新陽港、闢龍港、老壩港、環港、崛港、彭家港、潑水港等為漁業根據地。奉天省東南部之莊河、貔子河、沿岸旅順、大連、熊岳城、以及遼東灣一帶，亦為重要漁區。總計全國沿海所產之水產物，若魚翅、海參、墨魚、蠶皮、鮑魚、油魚、海帶、蝦米、淡草、江珧柱、鯉魚、鯽魚、鱸魚、鰐魚、黃花魚、鱗刀魚、大口魚、海獅魚、鰱魚、鯪魚、矮魚、滑子魚、比目魚、鱈子魚、青魚、白魚、鰱魚、烏魚、鯊魚、鯧魚、鯛魚、鯧魚、鯇魚、鯻魚、大頭魚等甚多。此外如各省大河內之出產，當亦不在少數也。

第二節 貿易

鮮魚輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	香 港	澳 門	朝 鮮	日 本	其 他	合 計
民國十四年	四二、四八六	二一、一六四	一六四	一一、六一五	七五、六四九兩	
民國十五年	一五、七七六	三二、四一二	一五五	四、八四七	四三、一九〇	
民國十六年	八五、四六七	三〇、八二三	五六二	四、七七二	一二一、六二四	

乾魚鹹魚輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	香	港	澳	門	邁	羅	新加 坡	朝	鮮	日	本	英 列 寶	其他 合計
民國十四年	四二一、七九三	三、六四五	六、七五六	四、六〇七	二、八二九	九、九八〇	四、六五四	四、六五四	四、六五四	四、六五四	四、六五四	四、六五四	四、六五四
民國十五年	一六五、二九八	二、九四〇	七、九五三	七、三七九	一三九	三一、九四四	九、四六五	七、四八五	四九〇	二四、二〇八	四、三九九	三一、九四四	三一、九四四
民國十六年	四九六、四八八	八、九五五	九、四六五	七、四八五	四九〇	二四、二〇八	四、三九九	三一、九四四	一三九	三一、九四四	五、五七二	三一、九四四	三一、九四四
												三一、九四四	三一、九四四

鮀魚墨魚輸出國別表

年 次	香	港	邁	羅	新 加 坡	其 他	合 計
民國十四年	四五二、五八三	四七、五〇七	三一、三八八	五五二、三三四	兩		
民國十五年	一七一、六八〇	四九、一〇三	四一、六三〇	二七九、二六〇			
民國十六年	四七六、〇七三	二八、六五〇	二一、〇六一	五三四、二三五			

第二章 海參 (Bicho-de-mar, or Trepaug.)

第一節 海參之種類

海參爲棘皮動物，舊名沙噀，體長五六寸，圓而軟滑。其種類極多，以現時市場上之習慣而論，因其形體之大小、長短等，共有五百餘種。茲爲便利研究起見，依邊刺之有無及色之黑白，得區之爲黑刺參、黑光參與白海參三類。黑刺參有十番參、梅花參、八腳參、方刺參、玲刺參、灰參等。禿參、烏元參、番烏參、靴參、烏靴參、白靴參、紅靴參、烏繩參、岩參、烏岩參、白岩參、灰岩參、花色參、番烏參等屬黑光參。赤參、龍赤參（赤條參）、玉參、烏條參、梅條參、蟲參、青蟲參、象皮參（象鼻參）地黃參、抽皮參等又屬白海參。市價亦各有不同。如地黃參之下等者，每擔祇值規元十五兩，而十番參之上等者，則值二百二十兩。據民國十六年各種黑刺參之平均市價，每擔爲一百十兩，黑光參爲八十兩，白海參又次之。每擔平均價值六十兩左右。

第一節 海參之產地

海參之出產地，以日本、朝鮮、印度、南洋羣島、北美，以及中國為重要，我國沿海各省皆產之；尤以產於福建省者最佳，為一種白色無刺者。盛京一帶之產品名遼參，又稱紅旗參。甯波所產之海參，為白色稱瓜皮參，品質極下。廣東省出廣參，為黃色，質地頗佳良。

第三章 魚翅 (Sharks' fin)

魚翅之種類極多，惟以加工之程度，得別之爲淨魚翅、與未淨魚翅。二類淨魚翅爲已剔去皮骨之堆翅，我國福建、廣東、甯波等地方，雖亦爲魚翅之重要出產地；但市場上所見，以香港輸入者爲多，有龍鬚、鳳尾、頂堆、大堆、中堆、頂片、全單、大片、大中小中牙揀次貨之分。未淨魚翅，亦有白魚翅、尾骨翅、上色翅、中色翅、小魚翅、玉尾翅、統魚翅、黃尾翅、棉裙翅、白玉吉、上黃翅、大旗翅、二旗翅、玉吉翅、黃玉吉、婆娑翅等名目。現市價淨魚翅之平均數，每擔四百四十兩。未淨魚翅中，則自三十兩起至二百八十兩止不等。

第四章 海蜇(Sea Blubber)

海蜇一名水母，又名蛇。屬腔腸動物 *Caelenterata*，近海之處多產之。我國浙江省之甯波一帶尤盛，大者可尺許，種類甚多。通常所見者，爲上面高凸，其狀有如張繖，極柔軟而平滑，呈淡藍色。俗所稱海蜇皮者，即其薄皮也。下有八腕，爲淡紅色，通稱雞冠海蜇，每浮游水面，爲蝦類棲息之處。夏秋之交，以網捕之，而以食鹽加明礬少許漬之，即可出售於市。

海蜇輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	香 港	新 加 坡	日 本	其 他	合 計
民國十四年	四四、二三四	六七一	四、二〇四	五四、五三八	兩
民國十五年	五八、七〇五	二、四三〇	五、五四〇	七三、九〇三	
民國十六年	七一、五九二	一、〇〇五	七、三六八	八八、四五〇	

第五章 鹽 (Salt)

第一節 製鹽之原料

鹽之爲用，極爲普遍，不特爲人類、牲畜、營養素之必要成分，而在工業上亦佔重要之位置焉。其製造之主要原料，約可分爲二種，所稱岩鹽與鹹水是也。岩鹽爲存於地中而成結晶層之鹽質，遠離海岸之大陸內地，出產極多。世界有名之岩鹽產地，如德之斯塔斯佛特 (Stassfurt)，匈牙利之衛里卡 (Wieliczka)，西班牙之喀多那 (Cardona)，英之折息埃 (Cheshire)，法之南錫 (Nancy)，奧丁堡州 (Odenbury) 之伊來芝宅西齊齊 (Iletz, Zaschtchitz)，等是也。我國湖北、山西、蒙古、青海一帶，亦有出產。惟各地出產物，含量每有不同，有純粹鹽質者，通常每含有硫酸鈣或鎂之鹽類等，而岩鹽之所以能生成者，實係鹹湖或海之一部受地震或其他原因，使地層變動，而與大海分離，嗣後逐漸蒸發乾涸，遂成岩鹽焉。天然鹹水又有海水、鹹湖水、鹹井泉之分，海水一項，尤爲製鹽之主要原料。因此等鹽質存於地殼中，被雨水及川流所侵出，流入於大海，故爲量極富。鹹湖水則係年代久遠後，被蒸發濃縮而成者。設如地下之岩鹽，爲地下水溶解，而湧出於地面，是即稱爲鹽井泉。

第二節 各省製鹽之概況

奉天、河北、山東、江蘇、浙江、福建與廣東爲我國濱海之七省，故其製鹽原料，以海水爲大宗，亦即我國主要之製鹽區也。蒙古、青海、山西、陝西、甘肅等地，鹹湖分佈極多。四川、雲南多鹽井，產鹽量頗盛。

奉天產鹽最盛之地，推營口、處州、蓋平各縣之附近地方爲主，產額佔總量十分之六，以該地一帶屬岩土質，氣候高燥，對於鹽之製造，頗爲相宜。所有鹽田，均稱鹽灘。因所屬之不同，與規模之大小，甚多分別。其屬於國家者，稱爲官灘，民灘爲人民所有者。他如魁灘、順灘等，不過規模之異耳。井灘與溝灘，又爲灌水之不同。營口與蓋平二地，最爲民灘之聚集地；共有一、一四五副、一、〇八九座，合復州莊河、安東鳳城、盤山、北鎮、興城等在內，總計三、七三九副、二、五〇七座。至於日本租借地之鹽業，初不過獵子窩稍有成績，後逐漸發展，而推及於附近各地。如旅順境內之雙島灣、營城子灣、羊頭灣、旅順、大連灣之老虎灘、河沙口、金州境內之董家灣、千島子、貌子窩境內之碧流河、東老灘、夾心子、贊子河、普蘭店境內之普蘭店，與五島等是也。產額每年有二、五〇〇、〇〇〇擔，其銷路以日本與朝鮮爲主。

河北省爲吾國最初推行天日製鹽法者，全境鹽場，分屬於二分司：滄州之豐財場、寶坻縣之蘆台場，屬於天津分司；歸霸永公司管轄者，如豐潤縣之越支場、灤州之濟民場、樂亭縣之石碑場、撫甯縣之歸化場、鹽山縣之海

豐場、滄州之嚴鎮場是也。其中產量最多者，推豐財場與蘆台場。附近渤海地勢平坦，土質堅實，極宜於天日製鹽。石碑濟民歸化，則通常用煮煎法。

山東省製鹽一業，凡沿海各地皆盛，惟膠州灣一帶，則尤稱著名；以地面平坦，土質多屬粘土，雨水不多，實天日製鹽最適當之地也。加以工資低廉，故出產量頗豐。所出原鹽、精鹽、粉碎鹽、洗滌鹽等甚多。鹽灘數凡二十九所，共九十五副，佔地一七七九畝。南滿下崖鹽場佔一〇三灘，五五一副，計九三一畝。陰島西鹽場四九一灘，一六一副，三三七畝，居第二位。陰島東鹽場又次之，有鹽灘四七處，副數一三一，佔地三三五畝。潮海鹽場、海左紅石崖鹽場等又次之。產品除供附近居民消費外，每年運往膠州者，總在二〇〇〇〇〇擔以上。

江蘇省產鹽之區，限於淮水南北各地，故有兩淮鹽之名。大抵海州一帶出產者，稱淮北鹽。淮南鹽爲淮安府與揚子江間出產者。所有鹽田，分屬於泰州、通州、海州三分司，計有二十三鹽場。東台縣之富安場、丁溪場、草堰場、劉莊場、梁垛場、東台場、河垛場、安豐場、栟茶場、甬斜場、海州之中正場、板浦場、贛榆縣之臨興場、阜寧縣之廟灣場、鹽城之伍佑場、新興場、如皋之豐利場、掘港場，與通州之餘東場、餘西場、呂四場、金沙場、石港場，是也。揚子江以南，產鹽亦盛，如松江之袁浦、橫浦、青村、三場，產量頗多。惟與浙江毗連，故常與浙江之鹽合而稱之也。

浙江省沿海各區，以及江蘇省江南所出產之鹽，概稱兩浙鹽。共有鹽場三十二；浙江省佔二十五場，平湖縣之蘆瀝場、海鹽縣之鮑郎場、海沙場、海甯縣之黃沙場、西路場、杭縣之仁和場、紹縣之三江場、東江場、曹娥場，上虞

之金山場、蕭山之錢清場、餘姚之石堰場、慈谿之鳴鶴場、鄞縣之大嵩場、鎮海之清泉場、穿長場、龍頭場、象山之玉泉場、甯海之長亭場、許村場、太平之黃巖場、臨海之杜瀆場、永嘉之永嘉場、瑞安之雙穗場、樂清之長林場等是也。每年之產額，計有二〇〇〇〇〇〇擔。

福建省產鹽地，以閩江南部之福州、興化、泉州、漳州一帶爲盛。其有鹽場十四：福清縣之福興場、福清場、江陰西場、蒲田縣之下里場、蒲田場、前江場、晉江縣之澤美場、惠安縣之惠安場、同安縣之祥豐場、蓮河場、浯州場、漳浦縣之漳浦南場、沼安縣之沼安場、龍溪縣之石碼場，是也。製鹽之法，一以天日法爲主，惟品質略遜耳。

廣東省鹽場，昔有二十場，今則祇潮陽縣之招牧場、惠豐縣之隆井場、饒平縣之東界場、陸豐縣之石橋場、興小靖場、舊善縣之淡水場、吳川縣之茂暉場、電白縣之電茂場、茂名縣之博茂場、台浦縣之白石場等十場而已。天日煎熬，二法並用，近則行改良之煎熬法矣。

雲南省之井鹽，頗爲有名，現共有二十四井：普洱縣與廣通縣各佔四井；石膏井、磨墨井、水成井、安樂井、新沙井、浪鹽井、阿陋井與溪謾井，是也。餘如威遠縣之抱母井、香鹽井、姚州之白鹽井、安豐井、廣通之黑鹽井、沙滷井、麗江之麗江井、老姆井、鎮沅之恩耕井、按板井、交甯之安甯井、新洪井、劍川之彌沙井、雲龍之雲龍井、景東之景東井，元謀之只奮井等。就中產鹽最盛者，當推石膏、白鹽與黑鹽三井；浪鹽、安豐、安甯、雲龍、景東、抱母、香鹽等次之。

四川省鹽業，當秦孝公時，已初具規模。境內鹽井數，昔稱八千八百餘眼。據最近之調查，即永甯道富順縣之自

流井，已有五千餘眼，蓬溪縣、洪縣，亦各有三千眼，合其他產鹽之區，共有四十餘縣。以富順縣、雲陽縣、仁壽縣、內江縣、鹽源縣、南部縣、射洪縣、中江縣、樂至縣、犍爲縣、蘆山縣、大甯縣、井研縣、彭水縣、三台縣、鹽亭縣、蓬溪縣、安岳縣等為有名。富順、雲陽、犍爲與蘆山，年產額約在三〇〇〇〇、〇〇〇斤以上；富順有二七四、〇〇〇斤。各井性質稍有不同，普通可分為鹽井、油井、與火井三種。鹽井為湧出鹽水者；湧出石油者為油井；火井為噴出煤氣者；亦有煤氣與鹽水同時噴出者。即以之煎而為鹽，名曰貢井。產品有花鹽與鍋巴鹽之分。花鹽係由黃水六成、黑水四成、配合有碎鹽、塊鹽二種。鍋巴鹽則為黑水三成、與黃水七成、所配合有羅漢鹽、白鹽與黑鹽三種。

湖北省產鹽之區，多在山地。德安之大洪山，尤其著名者也。該山脈自茲南下，入應城縣界，再向西趨行，經盛家灘、蕭家墳、王家廟、窩湖崗、潘家集、張家畈、龍王集、廟崗等處，皆為產鹽之區。普通鹽層約深六百尺。

山西省土質多含鹽分，所稱為土鹽者是也。南部清水中亦每含有鹽分，又有地下泉水，經過鹽層，鹽分被其融解，隨水流出而滯積者，名曰鹽池。河東道安邑縣最為著名，東西長十五英里，南北二英里，周三十餘英里。所產之鹽，為河東鹽，每年產額約四五〇〇〇擔，每斤售價六十文，惟距離較遠者，則增至九十文、八十文、不等。

陝西甘肅二省，亦多鹽池之分佈，其中最著名者，推甘肅省靈武縣之花馬小池（惠安池）為最。分南、中、北三段，故又稱惠安三池。他如紅水之白墩子、靖遠之小紅溝、樟縣之鹽井鎮、西和之鹽關鎮、海源之甘鹽池、鹽池之花定池、西甯之青海池、鎮番之蘇武山、白土井與馬蓮泉、平番之哈家嘴與紅灣池、高台之鹽池堡、富平之滷泊灘、

朝邑之鹽池、蒲城之內富灘、與榆林之上下鹽灣等亦盛。花定池又有花馬大池、爛泥池、波羅池、蓮花池、紅崖池、娃娃池、等六池。

第三節 貿易

鹽輸出數量及價額表

年 次 數	量(擔)	價	額(兩)	年 次 數	量(擔)	價	額(兩)
民國二年	一、五六二、四一七	九九四、一八一	民國十年	四、八四六、八三〇	一、五四七、八九七		
民國三年	二、一六〇、五四〇	九八六、二一〇	民國十一年	四、七六九、六五六	一、四九三、七二八		
民國四年	一、五四〇、三五一	一、〇七二、八六三	民國十二年	三、七〇六、四七〇	一、七六九、九三三		
民國五年	二、一九六、〇七四	一、二〇六、二六八	民國十三年	三、三四〇、五二九	一、五八〇、九八〇		
民國六年	二、七八三、九八五	一、〇二六、三一八	民國十四年	二、九一三、三八五	一、二一四、二一一		
民國七年	五、二七〇、六五四	一、八一三、一四五	民國十五年	三、三〇五、五八〇	三、四七八、四九七		
民國八年	七、一四〇、〇〇九	三、二六〇、八七七	民國十六年	四、七一九、一九六	一、二五五、三〇五		
民國九年	五、六四八、一八一	一、七二九、三九九					

鹽輸出國別表(單位擔)

年次	香	港	朝	鮮	日	本	其	他	合計
民國十四年	一一〇、一八三		七九三、三五二		一、九五八、四一八		二、九一三、三八五		
民國十五年			一、〇五四、〇二六	二、二五一、五五四		三、三〇五、五八〇		
民國十六年	四六九、〇九〇		一、三三〇、一一九	二、九一九、九八七		四、七一九、一九六			

第五編 鑛產

第一章 煤 (Coal)

第一節 煤之分佈區域

煤一名石炭，亦稱石涅，又有黑丹、玄丹、焦丹、畫眉石、石墨等名。其成因各說不同，惟據最近學者之研究，係由古代植物腐爛變化而成。試察各煤之化學成分，即可得其梗概，而植物之遺跡如枝幹葉等，每有保存於煤層間之頁岩中。除此木質植物外，據美國傑弗萊 (Jaffrey) 之學說，則煤之主要成分，為細胞、變質木與炭精三者；松脂、石臘等，間或有之。

吾國煤礦之分佈區域極廣，據中外地質學家及探險者之報告，鑛藏之富，除美、英、德諸國外，舉世無其匹也。產地以山西、河北、山東、河南等北部諸省為盛。尤以山西一省為最。東三省、內蒙古附近亦頗多煤藏。至長江下游

暨沿海各省，除湖南與江西外，藏量不多。

山西省藏煤量，據李希霍芬（Richthofen）所著之中國誌，極為豐富，不特推為全國第一，即以素負煤藏盛名之美國賓夕法尼亞洲相較，亦高出不少。自此論一出，於是山西省之煤名，大噪於世。惟以交通之不便，運輸極感困難，實為發展本省煤礦最大之阻礙。全境一百零五縣，產煤者佔八十縣。其分佈之區域，以地理上之便利，得分為平定與孟縣、壽陽、昔陽、大同、懷仁與左雲等數區。平定與孟縣之煤區，西北自平定，東南至孟縣，所佔面積，極為廣闊。在保晉、建昌與廣懋，有三煤礦公司開採之。保晉煤礦公司於正太鐵道沿線之陽泉門一帶，如鐵爐溝、燕子溝、漢河溝、莊莊溝、先生溝、賈地溝、平潭溝、麻地巷等地，曾開掘煤坑，每坑之產量，以平均數計之，約在五十噸至二百噸間，而燕子溝一處，產量非常興旺，日有五六百噸或一千噸，此實例外也。建昌煤礦公司之掘煤處，面積計有三方哩，位於陽泉西之蔡窪溝，產煤量不多，日不過百噸左右。黃沙岩一帶，有煤田二百四十餘畝，歸廣懋煤礦公司經營。每日產量祇五十噸而已。壽陽煤田，可分城北與城西二區，城北區如方山、榮家溝、陳家河等，計二十村落。北張芹、段王村、大窪、火燒嘴、蔡窪、半岐罕山、背權窪等，則屬城西區。從事開採之煤礦公司，以保晉與聚義公為有名。保晉公司於陳家河、榮家溝二地開採，每日產量有一百二十噸，均運赴壽陽城，而供正太鐵道之用。聚義公煤礦公司，現正開掘北張芹一帶礦田，工人約一百二十餘名，產量日可百噸左右。開採之法，將來倘能採用新式機器後，自可大為發展也。昔陽煤田尚未經當局詳細調查，惟據已經開產之區域察之，有一百方哩，產品

多在當地消費，並無輸出至他地者。大同、懷仁、興左、雲諸縣，在本省北部之雁門道，有京綏鐵路之便，故運輸問題，較少困難。三縣煤田，總面積計共二千五百方里；北區之雲光保、馬營窪、二道溝、三道溝、白廟村、黃土坡、高山鎮；南區之煤谷口、口泉大溝、千金綱、黑溝、官窰村、大小烏林澗；西南區之青陽灣、張家峯、秦家山、萬家咀等處，皆是煤質良好。含硫礦質極少，以是最適於火車輪船之燃料；現由保晉公司開採之。秦家山煤區似較為有希望，故公司最多注意之。大同之西南，有干溝者，亦有豐富之煤藏，面積計二方里餘，現歸廣信公司開採，工人二百名，年產量達三萬噸，以運赴豐廣、二道河、銷售者為多。煤谷口與青羊灣二煤田，由大同裕晉公司開採之，礦區共五千三百八十五畝，工人二百名，每日產量平均為一百五十噸。其他煤礦公司，尚有同寶公司以及諸小公司等。太原附近，煤田亦多，惟開採之法，皆屬舊式，規模不大，資本極小，產品祇供本地之消費而已。

河南省煤藏之分佈，以北部河北道為最多。武安縣之紫山坡、楊樹窰、暴家莊、周家莊，安陽縣之六河溝、旁佐村、陳家墳、左旁佐村、鳳凰嶺、小寨、老窰、三家村、橋溝、劉家溝、倪家村、三家倪村、清洛村、趙家溝，湯陰縣之舊場、良玉村、分塲、紅礮村、小寺灣、南海村、東頭村，淇縣之廟口鎮、汲縣之陳召村、沙鍋澗村、陳台村、姚勿村，輝縣之巒桑村、修武縣之洞樹溝、寺河、焦作、柏山、四河村、沁陽之老君廟、柏山村等是也。河洛道鞏縣之煤坡、聖水、東海鋪村、南山蛇村、偃師縣之夾溝、洛陽縣之龍門、開封道滎陽縣之桑園、洞子溝、崔廟寨、密縣之七里岡、曹窪、沙石坡、超化、與汝陽道確山縣之大儀山、信陽縣之賢山等，亦有大宗煤儲量。各開採公司，自以六河溝公司及福中公司為重要。福中

公司初爲英國資金倡辦者，勢力極盛。光緒二十四年五月二十一日，以借款與山西當局，結山西全省煤、鐵、煤油、開採合同。旋該權爲中國政府收回，而經營事業，又多失敗，惟焦作之煤礦，稍有成效。不得已，乃與中原公司合併，即今日所稱之福中公司是也。礦區在修武、沁陽、焦作一帶。兩公司取分採合銷制，成績頗好。

光緒十三年，李希霍芬對於山東省之煤礦，謂色黑而堅，火力堅強，可煉佳良之焦，自山東曹州亂民殺德國教士二人後，德人遂乘機以兵艦隊佔據膠州灣，並要求鐵路路旁三十里內之礦山開採權。時爲光緒二十四年，翌年德政府即命其本國商會組職德華合股公司，限五年之內，着手經營山東礦產。二十六年，德人選得礦區七處，濰縣、博山、大汶口、嶧縣、沂州等皆在其內。惟華德礦局屢起爭執，及宣統三年，以山東巡撫之交涉，得收回路礦權，而德華公司之採煤地，以坊子、博山爲限。自日德宣戰後，日本攻取青島，收管膠濟鐵路，並開採礦山。是時淄川縣黃山一鑛，已爲水淹。日人乃自撫順調借機器，從事恢復。後膠濟鐵路雖由中國出資贖回，而淄川博山之煤田，則歸中日商人合辦。現中國商人在魯省大規模經營煤礦事業者，推嶧縣之中興煤礦。該礦區位於南境濟甯道嶧縣、膳縣間，係清光緒六年集股而成。礦局設於棗莊，以土法開掘，後陸續增加股本，添購機器。二十一年，巡撫李秉衡通飭禁止開採，遂即停止。二十五年，集合華德股份繼續開辦，改名嶧縣華德中興煤礦公司。三十四年，收消德股，專集華資，共收股本一、〇〇、〇〇〇元。嗣因自築棗莊至台莊運煤鐵路九十里，於宣統三年又議添招新股。至民國二年，已有資本二百餘萬元。民國四年，大井火災，事業幾危。一面由舊股東續議投資，一面則在武漢，

另招新股。新舊股本共集三、八〇〇〇〇元。民國九年，值歐戰以後，該公司遂乘華煤市場擴張，而添開大井，增加產量，股本添加至五百萬元。民國十一年，以事業之擴充，又續收股本二百五十萬元，成績尚稱不惡云。除此以外，他如濟南道章邱之埠村、新泰、萊蕪、濟甯道之蒙陰、黃、臨沂、郯城、甯陽、磁窑等處，煤田亦多，惟開採者資本不足，組織不備，產量極小，祇供本地之消費而已。

河北省產煤量極盛，其分佈區域，如臨榆縣之柳江村、灤縣之唐山、林西、馬家溝、趙谷莊、宣化縣鶴鳴山、宛平縣、房山縣之北窯、大安山、長溝峪、周口村、易縣趙莊村、曲陽縣野北村、靈壽縣慈峪鎮、唐縣古洞下莊、井陘縣、臨城縣祈村、沙河縣問信坡、磁縣西佐柳條村等，皆有良好之煤田。就中尤以灤縣井陘與臨城三區為最發達。灤縣煤田，現歸開灤礦務局開採，最初為直督李鴻章以資金二百四十萬兩設立開平煤務局，從事開採，亦即吾國新式煤礦業之嚆矢也。第一煤井，即鑽於唐山，距開平鎮十八里。光緒二十六年庚子變起，時開平礦務局之督辦為張翼，恐該礦之有失，遂改隸英國商事會社，加入英、比、資本一、〇〇〇、〇〇〇鎊，並在香港政廳註冊，改稱開平礦務公司。後拳匪亂平，清廷屢思收回，皆不果。而英人號稱該公司礦區為沿平奉路線廣袤約二十英里，開平大平原及灤州屬之半壁店、馬家溝、無水莊、趙各莊等，皆在其內。雙方旋起訴於倫敦法廷，結果，英人雖敗訴，然其心猶未死也。會天津官銀號募集資金於灤州之馬家溝、陳家嶺、石佛寺、趙各莊、無水莊、白道子、窪里一帶，購有大宗地皮。袁世凱時，正任北洋大臣，深恐灤州之礦區均歸入開平礦務公司，乃為天津官銀號咨行農工商部，許以採辦權。

是即灤州煤礦有限公司成立之原始也。資金一、二〇〇〇〇兩，用機器開採，築造輕便鐵路，以資運輸之便利。曾不數年，規模乃大備。後二公司互相競爭，爭減煤價，卒大致雙方不支，始於民國元年一月由二公司商訂聯合營業草約，設立開灤礦務總局。惟仍各保其獨立性質。厥後雙方礦務，日有起色。今礦中有工人數千名，每年出煤數，在四、〇〇〇〇〇噸以上。爲全省礦產之首。在國內各大礦中，亦當居第二位也。井陘煤礦，在保定道井陘縣境，光緒二十八年德人漢納根設立井陘礦務公司，清廷爲之立案。未幾，國人欲收回自辦，北洋大臣袁世凱特設井陘礦務總局，光緒三十四年楊士驥督直，輾轉磋商，始與漢納根合辦，訂定分年償還井陘公司資本辦法。惟自對德宣戰後，井陘礦務全收回自辦矣。每年產量，尚稱不惡，年約六十萬噸左右。至於臨城煤礦，即在臨城縣西北地，當平漢路鳴鶴營站之西南約三十里，有支線可達。該礦於光緒八年由李鴻章扎委侯選郎中鈕秉臣試辦，所稱臨城礦務局也。現每年可出煤三十萬噸，燕省各煤礦除開灤與井陘外，即推臨城爲第三，以是頗佔重要之位置焉。

東三省重要著名之煤田：南滿以撫順、本溪、烟台、三地爲最；北滿煤區之曾經調查而極有把握者，有中部褐煤層、鶴立崗煤田、扎賚諾爾煤田、穆陵密山煤田、東甯煤田、中部侏羅紀煤層、與拉法河煤田之七區。其他如南滿方面本溪縣之中心台、田什付溝、紅臉溝、西窪子、內柳樹排子、梨樹溝、賽馬集、東溝、黃柏峪、北山半坡、瑤子谷、廟子溝、紅臉溝、前央、核桃溝、湯溝、小市、偏嶺子、老瓜砬、西安縣之大疙疸、錦西縣之大窖溝、昌圖縣及開原縣之放牛溝、

沙河子海龍縣東南約百里之杉松岡通化縣南之鐵廠等地亦有良好之煤田惟終不及撫順之優良撫順煤田東西長約三十里南北寬六里初爲私人開探嗣因附近皇陵視爲禁地遂停止開採光緒二十七年八月商人王承堯翁壽等先後稟請盛京將軍增祺思欲開採撫順千金塞之煤田增祺卽入奏幸得許可後歸王獨辦稱華興利煤公司將軍爲之咨部立案日俄戰爭後日人遂謬設撫順煤礦爲俄人獨立經營之事業據而有之礦主雖訴於政府乞與日交涉終未得要領後安奉鐵路一案解決撫順煤礦之權竟爲日本有矣攷撫順煤礦之煤質極爲良好產額豐富全國尤推爲第一舉以讓諸日本誠可惜也本溪湖煤礦現由中日合辦中國方面除礦區估價爲三五〇〇〇元外再出股銀六五〇〇〇元自本溪湖東至明山溝西經柳塘螞蟻村溝新洞溝至河頭溝南部橫斷太子河平原皆爲該公司之礦區所在地今所開採者爲東部本溪湖一區中部柳塘區正開始工作西部新洞區則尚未經營也鶴立崗煤田在黑龍江省湯原縣鶴立鎮鶴立河畔附近一帶隨處可有露出之煤苗現歸黑省官辦採法純用新式產額日增煤層之廣雖有十八公里但曾經詳細調查者祇一公里之廣厚煤層有五六十層之多儲煤量極豐富稱北滿諸大煤田之首煤質僅亞於庫頁島之煤藏以塊煤爲多含灰質甚少洵良品也穆陵密山煤田近中東鐵路東端共有三區一爲西南部之煤田在山城場溝卽觀今穆陵煤礦公司所在地二爲中部煤區小黃泥河子二道河子屬之爲東部煤田包括滴道溝鷄冠山等地全煤田之藏量以地質調查所所長翁文灝之估計約有一〇〇〇〇〇〇〇〇〇噸歸中俄合辦之穆陵煤礦公司開採者祇穆陵縣屬之梨樹溝山

城溝一帶，鑛區計四百十五畝。扎齊諾爾煤田，在滿洲里附近，呼倫池北畔，距哈爾濱九〇六里，現歸東省鐵路公司經營，開採地在濁川河西岸一帶。煤質不甚良好，易燃而不結塊，置於大氣之中，每能自行分解，幸所含灰分尚少，此其優點也。

江蘇省重要煤田，以北部附近山東處為發達。如徐海道銅山縣賈家汪與蕭縣白土塞之烟煤，就中賈家汪煤田之儲量最豐，有一四〇兆噸；與全省煤田總儲量一九〇兆噸相較，佔百分之七十三又六九。蕭縣白土塞煤田之儲量，祇三〇兆噸。其他二〇兆噸，則散處浦口暨其附近一帶。

浙江省煤田儲量，無烟煤與烟煤計在內，共有一二〇〇〇〇〇〇噸，以錢塘道長興縣之合溪鎮、小溪市等地為盛，現由長興煤礦公司經營。該礦係於宣統二年，由本地紳商集資四千元，用土法開採，旋因資本不足，致告停頓。民國二年鄂人劉長蔭向官廳註冊自辦，幾經波折，苦心經營，不遺餘力，始克稍有成效。民國七年組織股份公司，股本四百餘萬元。其開採區域，有南臘、四畝墩、並南寶村、張家澗、趙家村五區。現每日出煤六百噸，東南部唯一之煤礦業也。

安徽省煤田之分佈，較江浙二省為廣，藏量亦多，共有二〇五兆噸，烟煤佔一三五兆噸，無烟煤七〇兆噸。蕪湖道宣城、廣德、涇縣、繁昌、貴池、安廣道懷甯之集賢關、太湖、新倉、宿松、荆橋、潭子嶺、淮泗道宿縣、列山、懷遠、舜根山等是也。

江西省煤之出產，較皖省尤盛。廬陵道吉安縣與萍鄉縣之安源、大水坡、鵝坡里、柳樹坡、添滋山、麻子坡、胡家坊、廣腦上沙坡里、官山門架中、豫章道進賢縣與豐城縣、萍陽道鄱陽縣、樂平縣、萬年縣、餘干縣、楓港等。總藏量共計有八一五兆噸，而萍鄉與安吉二縣，其佔四〇〇兆噸。最初湖廣總督張之洞設立湖北鐵廠於漢陽，惟是時國內煉焦炭之煤鑛，僅開平一處，道遠價昂，頗感困難，乃遣德礦師馬克斯與賴倫調查湖北、湖南、江西等省。至萍鄉縣時，見有煤田甚鉅，資地優良，頗適煉焦化鐵之用，遂於光緒二十三年夏秋間設為官局，仿用西法，而為大規模之經營，資本一〇〇〇〇〇〇兩。光緒二十九年，收買附近各商井，商廠無數。至光緒三十四年，由盛宣懷奏准，將萍鄉煤鑛與漢陽鐵廠、大冶鐵鑛合併，改為漢治萍煤鐵廠鑛有限公司焉。

湖北省煤田不多，馬鞍山煤田距漢陽三十里，現供漢陽鐵廠之用。陽新縣、炭山灣之煤藏甚豐，荆宜道秭歸以西有盆地，中生界煤層猶獲保存，即所謂香溪煤田是也。

湖南省煤田面積之廣，為長江流域第一，尤為南部各省之冠。湘江上流有上部古生界及下部古生界之煤田甚多，近湖一帶，上部古生界所含之煤質亦盛。

川省四圍皆山脈，其地質先為下部中生界，次為上部古生界，西北二方面又有極古之變質岩，中部則為侏羅紀及侏羅紀以後之紅砂岩。煤藏之分佈，自以中部盆地之江北、瀘縣、開縣、奉節等縣為著名。其他各地，隨處有之。

雲南省地質構造，極為複雜。煤藏區域如安南邊地、東部之古生界地層，暨大理、麗江一帶，皆有極廣之煤田。

貴州省地質，大致如一。西北自安順、平越、東南至台拱、獨山、荔波，一帶，皆爲三疊紀至侏羅紀地層所分佈。煤藏極多，平遠、大定、畢節間之高地，亦爲中生界煤系所分佈。遵義、松坎、煤田，又屬中生界。雲南交境西林、廣南、剝隘、

除以上所述外，他如甘肃省、热河省等亦有重要之煤田；察哈爾、綏遠、廣東、廣西等省又次之。

第二節 煤之儲量

中國煤礦之儲量，各說不同。據農商部地質調查所之統計，共有二三、四三、五〇〇、〇〇〇噸。內烟煤佔二七、一八三、〇〇〇、〇〇〇噸；無烟煤六、二五二、〇〇〇、〇〇〇噸。各省分配之情形，可如下列之表。

參照前農商部地質調查所之報告（單位一○○○○○○噸）

熱河省	八〇	八五〇	九三〇	陝西省	...	一、〇〇〇	一、〇〇〇
察哈爾及綏遠	一五〇	三一〇	四六〇	甘肅省	一〇〇	九〇〇	一、〇〇〇
山西省	二、三七〇	三、四六〇	五、八三〇	黑龍江省	一六〇	一六〇
河南省	一、三七五	三八〇	一、七五五	吉林省	一六〇	一六〇
山東省	三〇	六五五	六八五	雲南省	一、一〇〇	一、一〇〇
安徽省	七〇	一三五	二〇五	貴州省	一、三〇〇	一、三〇〇
江西省	一一〇	七〇五	八一五	福建省	一五〇	一五〇
江蘇省	一九〇	一九〇	廣西省	五〇〇	五〇〇
浙江省	五〇	七〇	一二〇	廣東省	一一〇	一〇〇	三〇〇
湖北省	七〇	六〇	一三〇	共計	六、二五二	一七、一八三	一三、四三五

上表所列之煤儲量，係以一千公尺爲開採深度，煤層須厚一公尺以上者，始行計入。故實際上煤儲量，必較此數爲大。依美國商部鑄產之調查，中國之煤儲量有「一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」噸，似此則世界各國之煤儲量，除美國與加拿大而外，中國爲世界第三煤儲國矣。

參照美國商部之調查見“*The world almanac 1928*”[1]五九頁

世界各國煤儲量表 單位米噸(一、一一〇四・六磅)

美國與阿拉斯加	三、五三六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	英 國	一六六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
加拿 大	一、三六一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	德 國	一四八、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
墨西哥與中美	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	波 蘭	六八、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇
北美總儲量	四、七八一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	烏克 林義	五五、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
哥倫比亞	三〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	捷克斯洛伐克	二四、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
巴西智利祕魯委內瑞拉	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	法 國	一八、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
南美總儲量	十三〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	比利 士	一一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
中國	一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	挪 威	八、七五〇、〇〇〇、〇〇〇
西伯利亞	一九二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	西班牙	五、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
印度	八七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	荷 蘭	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
安南	二三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	俄 國	一二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
日本	九、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	奧 匈	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
亞洲總儲量	一、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	歐洲總儲量	五二二、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
澳大利亞洲	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	南非聯邦	六二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
世界總儲量	七、六八五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇		

第三節 煤之產額

一九二六年世界各國產煤量 單位米噸 見“*The world almanac 1928*”

美 國	六〇一、六一三、〇〇〇	加 拿 大	一四、九二九、九〇〇
德 國	二八五、二四〇、三〇七	沙 爾	一三、五八一、〇〇〇
英 國	一二七、五八九、〇〇〇	南 非 聯 邦	一二、八五〇、〇〇〇
法 國	五二、四七七、九七二	澳 大 利 亞	一〇、七〇〇、〇〇〇
波 蘭	三五、四二九、一三四	荷 蘭	八、六五一、〇〇〇
捷 克 斯 洛 伐 克	三三、〇一三、〇七二	匈 牙 利	六、六四九、二〇五
比 利 士	二五、三一九、五七〇	西 班 牙	六、六六四、〇〇〇
俄 國	二五、三〇〇、〇〇〇	路 得 西	八七四、一四〇
印 度	一一、〇〦〦、〇〇〇	日 本	三三、〇〇〇、〇〇〇

中國煤之出產量，當民國四年時，祇一、五四四〇、二六七噸。嗣後如民五之一五、五八四、〇〇〇噸，民六之一七、二〇五、二二四噸，民七之一八、〇三三、三六七噸，民八之一九、三八七、四三七噸，民九之一〇、三四三、二六〇噸等，頗有發展。惟民十與十一兩年，稍有降落。民十二年甚多進步。全年煤產量達二、六八一〇〇〇噸。就中開灤

鑛務局之出產佔四、四九五、九六二噸，臨城二二七、六五二噸，井陘六〇〇、二三一噸，柳江一六〇〇〇〇噸，門頭溝一五〇〇〇〇噸，塔里五八〇〇〇〇噸，撫順四七八、二二〇〇噸，本溪湖三七九、一一〇噸，扎麥諾爾一五〇〇〇〇噸，河南福公司六九四、一四三噸，中原公司五六八、四〇四噸，六河溝四四四、四四一噸，山西保晉公司一九九、九二二噸，大同二〇〇〇〇〇噸，山東中興七二七、九六〇噸，坊子一六六、一二一噸，淄川五五八〇四三噸，博山五〇〇〇〇〇噸，賈家汪二五〇〇〇〇噸，等是也。以此計算，則中國產煤量，在世界上並無重要之位置。如最近美國之煤產有六〇一、六一三〇〇〇噸，德國二八五、二四〇、三〇七噸。

第四節 貿易

國內重要煤輸出口岸，當民國二年時，自推大連、安東、秦皇島、膠州、長沙、漢口等埠。東省撫順煤產品，輸出他埠，大都經由大連、安東、秦皇島一埠，又為開灤煤鑛之出路。山東煤產，必經膠州，是為全國運煤之四要港。而大連尤佔重要之位置。最近數年來，運出之煤，常在二三百萬噸以上；如十四年達二四三四、一八八噸，值關平銀一六〇四八、五二一兩；十六年又自十五年之二四九三、四七八噸，增至三〇三、四八六噸。同年安東之輸出額，亦有三八六、九七四噸，值二六四七、七九二兩。秦皇島近頗發達，十五年為一三七九、六〇八噸，值五七一九、五三七兩；十六年增加至二二五二、九一〇噸，值一一一五二、三九四兩。膠州以附近兵戈連年，煤產銳減，故輸出之煤，遠不

及十一、十四年之盛。十六年祇爲一六六、四九〇噸，值一六三、一六〇二兩而已。至於出洋數量，約佔各地原貨出口數量百分之四十五左右。依照十六年之統計，共有三、四三四、五七二噸，值二四、九九六、四六二兩。就中銷往日本台灣者有二、三一、五六〇六噸，值一七、五八五、五七一兩，約佔總數百分之七十二；朝鮮六〇五、四一五噸，三九〇一、〇八六兩，次之；香港之二九四、三六九噸，一七四〇、一一五兩，與斐律賓之一九三、八八六噸，一五五八、〇八八兩，又次之。

煤輸出國別表(單位噸)

年 次	香 港	朝 鮮	日 本	台 灣	菲 律 賓	其 他	合 計	關平銀
民國二年	二〇〇、二四一	二四〇、二一二	七一〇、〇五六	一二二、四四三	一、四九、一五三	六、四三、〇六六		
民國七年	一七二、五六三	四七七、八五九	八一八、一三四	一七九、三三〇	一、七九、一九	八、二六、一六六		
民國八年	一六三、七二三	五六四、四二二	六五四、六二三	六八、二四一	一、七七、四七	七、三三、八六		
民國九年	二四八、四五七	七三三、一八六	八一四、〇一一	八四、〇五二	一、七〇、一七	三、三四、六九		
民國十年	三四七、二〇三	四四三、三一二	八六八、三四三	七二、一八八	一、七六、五九	二、三七、五五		
民國十一年	二六九、六九〇	四七九、〇一五	一、三二八、七六九	一四二、七七七	二、七七、四三	四、九〇、三三		
民國十四年	一七三、二一六	四六七、四四九	一、六二一、八三三	一七四、一七四	二、七一、四〇	六、八三、九四		
民國十五年	一二四、四六五	四三八、三三九	一、七六五、四七九	一八四、二五五	三、七九、四〇	三、七六、六二		
民國十六年	二九四、三六九	六〇五、四一五	二、三一五、六〇六	一九三、八八六	三、四四、五七	三、七四、九二		

第二章 鐵 (Iron)

第一節 鐵之重要及其分類

鐵之爲用極廣，目爲世界一切物質文明之基礎。小之如日用之器具，大之如航海之巨舶，蛛網之鐵道，架河之橋梁，以及一切工程器械，皆惟鐵之是賴。所稱煤鐵主義，棉鐵主義，鐵血主義，蓋有由來矣。吾國用鐵，以黃帝時代爲最先，據山堂肆考，黃帝之先不用鐵，至黃帝炒鐵鑄釜，造干戈金器之物。春秋戰國之世，管仲相齊桓，對於鐵業，頗多發展。自後秦漢之際，已以鹽鐵二者爲政府專利事業。或設鐵官，或設場監，惟終鮮提倡之效。而歐美各後進國，以科學之完備，反蒸蒸日上，可慨言夫。

鐵鑛石爲一種化合物，經冶鍊後，始可爲用。惟鐵鑛石亦有多種；如赤鐵鑛、磁鐵鑛、炭酸鐵鑛、褐鐵鑛、鐵淬鑛、淬黃鐵鑛等是也。赤鐵鑛之主要成分爲養化鐵，由暗黑色而赤色，條痕赤褐色。磁鐵鑛含鐵分最多，爲一種黑色。炭酸鐵鑛之質地頗純粹，故多用爲製鋼之原料。褐鐵鑛者，所稱爲含水分之養化鐵也。鐵淬與鑛淬，其中不乏鐵量，用爲製鐵原料者亦多。而黃鐵鑛本非重要，自北美最初用濕式收銅法採取硫酸後，其淬可製上等生鐵，名途

大噪於世焉。

鐵之分類，據一八七六年費城(Philadelphia)各國委員之會議，共分爲生鐵與可鍛鐵二類。生鐵又有白鐵與風鐵二種。可鍛鐵亦有鍊鐵(鍛鐵)及鍊鋼(鍛鋼)二種。此僅以食炭之多寡與硬化之能否爲標準而已。現除德、奧、採用外，他如英、美、法等國，則以鐵類分鐵與鋼爲二大類。鋼有西門士門丁鋼(Siemens-Martin Steel)、貝塞馬鋼(Bessemer steel)、坩堝鋼(Castable steel)、電氣鋼(Electric steel)與炭殼鋼(Cement steel)之別。鐵有鍊鐵與生鐵之分。木炭鐵(Charcoal Iron)及巴德爾鐵(Puddle Iron)屬鍊鐵類。生鐵類仍區爲白鐵與風鐵，此其大要也。

第一節 鐵之分佈區域

吾國鐵礦之分佈，其區域極爲廣大。東三省及河北省，多爲礦質而呈帶狀結構之結晶赤鐵礦及磁鐵礦。河北西部宣化、龍關附近，則屬元古紀之層形鐵礦，特稱宣龍式，呈鱗形腎狀結構，含鐵量極富。山西一帶，在二疊紀至石炭紀地層之底部，所含水成巖中呈結核狀或乳狀之赤鐵礦褐鐵礦及菱鐵礦甚豐。湘、贛、交界之萍鄉上株嶺，又屬石炭紀變質砂岩中之赤鐵礦層，與花崗巖有直接關係之赤鐵礦及磁鐵礦，更爲我國各大鐵礦之主要。其礦量有數百萬噸者，分佈區以中部與東部爲多。蘇、皖、贛、鄂、各省，尤爲重要。

河北省產鐵之區，以宣化、龍關、密雲、遷安、廣平、等縣為盛。宣化之鐵，自民國二年發見以後，陸宗興等發起官商合辦組織龍烟公司，他如密雲縣城北四里之鞍子嶺鐵鑛及大浴樵山、廣平之磁州鼓城鎮西北大峪村、黑石、遷安縣之夾壁山等，亦頗有名。

東三省產鐵處，以奉天省較為發達。如本溪之廟兒溝、遼陽鞍山站弓長嶺、海城、復縣、臨江、通化等是也。其中尤以廟兒溝與鞍山站兩處最佔重要之位置。廟兒溝鐵鑛在安泰鐵路南汶站東南約十四里，藏量極為豐富。宣統三年八月，經中日雙方協議，加入本溪湖煤鑛公司，改稱商辦本溪湖煤鐵有限公司。該鑛之成分，上等者含鐵量達百分之七十又六九，砂酸二又五二，錳零二四，硫零一五五，磷零二二，銅千分之八，水分一又三四。即普通者，其含鐵量總在百分之四十左右。鞍山鐵鑛在南滿鐵路鞍山站，鐵區共八處，合二十六方里，約二千餘畝，現由中日合辦，出品多售於南滿鐵路。

山東省鐵鑛之分佈，如益都之金嶺鎮、長山縣之馬山、喪家山、博山縣之岳陽山、青石關、膠州花林店輔、小竹山、昌邑縣之孟埠、李格莊、蓬萊之寶山、與金華山、福山縣芝罘島、鑛洞島、嶧縣之峨台、鐵嶺等。其中以金嶺鎮鐵藏最富，鑛區在金嶺鎮北三里鳳凰山、四寶山、鐵山、玉皇山等，隨處有露出之鐵苗。數百年來，土人從事採掘。光緒二十六年，開採權讓於德人，民國三年為日本所佔，十一年改為合辦。鐵嶺鐵鑛在濟甯道嶧縣，距臨城站支線棗莊甚近，鑛藏尚稱富有云。

山西省平定縣之楊樹溝、王家莊、梨林頭、平潭河床、五渡、楊家莊、平潭、擒、太原、大同府西沿石、孟縣南流、清城鎮、盧河溝、五台縣五台山、孝義縣河底、忠凹、砂崖、趙城縣百曲兒里、內溝里、白鐵村等，皆爲鐵鑛石分佈之處，鑛藏極豐。

陝西省鐵鑛業，遠不如山西省鐵鑛皆附於煤層以生者，長安之南山較盛。

河南省鐵鑛藏，以安陽縣之六河溝、修武縣之鳳凰嶺、鞏義縣之左近、宜陽縣之龍盤寺、鎮平縣之騎立山、開封縣之大鶴山、信陽縣之潭家河、羅山縣之銀洞冲、光山縣之萬家坡等爲盛。

湖北省東南一帶，鐵藏最富。武昌之富貴山、鄂城之縣城州、廣山、馬鞍山、銀山頭、大冶縣之象鼻山、老鼠山、嚴鮑地、尖兒山、尖山腳、余家山、獅子山、野鷄坪、龍洞、紗帽翅、大冶廟、鐵門山、陽新縣之鷄籠山、蒲圻縣之大同鄉、黃岡縣之樊山、蘄春縣之大伏冲、京山縣之黃嶺、東鄉滴水寺等是。他如松滋縣之七里壘、家房、長陽縣之東鄉、施恩縣之應山、苦漕洞、古浣手、衰蓬、鶴豐縣之鑛蘭灣、咸豐縣之揚岡、張家坪、馬阿壩、棗陽縣之大山、七尖峯等，亦爲產鐵之區。而就中最有名者，則推大冶。蘊藏量極豐，現正從事開採者，有湖北官鑛局、漢冶萍公司等。湖北官鑛局資本五百萬元，其鑛坑在象鼻山一帶，自九年春至十一年，共產鐵二五二〇〇〇噸，多銷於揚子機器公司及漢冶萍公司等。而漢冶萍公司，則中國有數之採鐵製鐵公司也，係張之洞氏於光緒十七年倡辦，專開採大冶鐵鑛與萍鄉煤鑛，設鐵廠於漢陽，後改歸商辦，資本共二〇〇〇〇〇〇〇元，有新式鐵爐二座，每座每日生鐵產量約二百

五十噸，民國九年又新建化鐵爐二座，日產量達八百噸。其出品依照民國二年十二月之借款合同，四十年內應售於日本頭等鑛石一五〇〇〇、〇〇〇噸，生鐵八〇〇、〇〇〇噸。

四川省鐵鑛藏量，以綦江縣砍砍水、土治場、大足縣獅子山、萊子溝、興隆坊、床家溝、巴縣接龍場、璧山縣陰陽溝、永興橋、銅梁縣陽砍口、白馬山、平家市、開縣河堰口、巫山縣蘇金坡、墊江縣馬神寺、彰水縣岩西、龍鄉橋、漢源縣營防地、銀溝、前聚溝、後聚溝、山後壩段家溝、水碾河、楊柳店、黃泥壁、洒坪場、林口、新廟場、冷水河、天全縣鐘靈鄉、張村、黃家林、七路田、楠木園、高槽門、猪鼻岩、乾河、馬桑溝、張家灣、三坪、還茶圖、馬方山、江安縣砂礦、南江縣江梁山、巴中縣木洞、廣三縣三山保、通江縣石子壩等為多。綦江縣砍砍水及泥河沿岸，古來製鐵業極盛，惟終以交通不便，實為川省鑛業發展最大之阻礙。

湖南省鐵鑛之分佈，以資江流域之安化、新化、寶慶、新甯地方與湘江流域之茶陵、攸等為主，均用舊式土法開採，以製為農具鍋釜之物，寶慶與湘潭其主要之散集地也。而安化縣栗山牌、廖家坪、新化縣獅子山、家冲、益陽縣人里滴水村、湘鄉豐樂塘、甯鄉大馬蹄山、瑚璉嶺、衡山雷獅嶺、大斗灣、楓林洞、常甯猺山、烏金坪、來陽沈斗沖、大保山、郴縣椎子嶺、金獅嶺、東冲、桂陽縣弧坪廠、黃毛岡、石腦山等尤為著名之鐵產地。

江西省萍鄉縣大西路上珠嶺、南路、小水、黃家源、小坑裏、南路灣山、大嶺背、劉公廟、上沫嶺、九江縣城門山、與永新、同為三大產鐵區。他如泰和縣源申村、沙區、新喻縣蕪陂礦、佛嶺山、銀石凹、石岡、茶山、彬坡、銀銅坡、大嵩嶺、崇

仁縣三官寨、甯都縣管架、龍鵝嶺牌、石頭溫防、河背村、贛縣萬松山、瑞昌陳家山，亦多產鐵。

安徽省以銅陵與繁昌二縣產鐵最盛。銅陵縣之銅官山、太平鐵山、繁昌縣西鄉桃沖山，尤其著名者也。銅官山之鐵鑛，在銅陵縣南十里，前為英商凱約翰經營，成立於光緒三十年。至宣統元年五月，因逾限廢約，由吾國備款五十二萬元贖回。現歸涇銅公司開採，資本二百二十萬元，惟成績並不甚佳。桃沖山在荻港東南十五里，附近有潘冲大鑛山、天台山等，鑛質良好，現由繁昌公司經營。他如當塗縣天長山、治山、大小孤山、釣魚山、鐘山、南山、太湖、潛山縣西北鄉各山、天長縣治山等地亦盛。

江蘇省產鐵之區，有銅山縣之利縣驛、北山、楊貨山、西馬山、銅山、盤馬山、賈家、汪家、彭城、靖江之許巷山西山、丹徒縣之鐵岡頭、馬鞍山、先頭山、曹王山、中德古山西德古山、响山凹、江甯縣棲陵關、鳳凰山、六合縣治山、江浦縣楊家村等。鳳凰山鐵鑛頗有盛名，藏量亦富，含鐵量據最近試驗之結果，達百分之四十九又九。

浙江省甯海任家山、臨海西壘石、青田東鄉雙山、開化大溪山、北鄉六都敦常山北鄉斜園、麗水東鄉虎山、卻金山、建德縣東營山西小洋莊、鐵山塢、浦安縣南鄉二十九都二圖羅山、縉雲縣樊莊、樂清縣南溪等地，皆為產鐵區，惟藏量不甚豐富。

福建省廈門道安溪縣有望鐵山，鑛藏尚稱豐富，但並無大規模之經營，多屬狹小之範圍，設備簡陋，從事鍋釜以及日用器物之製造，他如潘田、五閩山、虎沼山、雲斗安溝、大里左槐、雲口、磐山，以及龍岩縣烏塗、鐵爐、三杭象

山、永安縣林田、沙縣大馬坑等亦盛。

廣東省鐵鑛藏之分佈，並不發達，祇梅縣官田鐵山潭石馬墟、從化縣北方良口、東莞縣寶山、英德縣波髻嶺、陽春縣鐵坑山、芙蓉、陽江縣梅峒山等地，稍有微量之鐵產而已。

雲南省產鐵區，以在安甯縣邵宮屯廠、迷犁箐、八街、河底村、七凸山、昆陽縣牛腳跡山、冷水箐、昆明墳池、祿豐縣祿表地、晉寧縣石將軍山、晉城縣山後廠、分拉羅納摩樓、黑老魯關、水唱廠、紅石岩、榮里廠、野馬廠、他達廠、羅平縣磁山、大阿金、尋甸縣鐵箐溝、雙箐河、澤兩錢、鐵廠、黃梨樹、大紅頭、道河、大水塘、巧家縣巧家廠、岩壩、冷壩溝、東川縣珙山、礦山廠、麒麟廠、岔河苞谷箐興發廠、昭通縣長發洞等地為盛。

第三節 鐵之儲量

中國鐵礦藏量，以地方遼遠，交通不便，極難得精確之數。據農商部地質調查所統計，以交通較便，易於開採，儲量在三十萬噸以上之鐵礦計算之，共有六七七〇九九〇〇〇噸。其中含鐵量又不過二五二、一九三、〇〇〇噸。內遼寧省佔三八七、五八〇、〇〇〇噸，含鐵量一〇五、二〇五、〇〇〇噸，佔全國第一位置；河北省九、一四七九〇〇〇噸次之；湖北省五、六六〇、〇〇〇噸，安徽省五〇〇〇〇〇〇〇〇〇噸，江蘇省三五〇〇〇〇〇〇〇噸與山東省之二九、九二〇、〇〇〇噸，又次之。今列如下表。

依據前農商部地質調查所之報告（單位噸）

省 別	鑛	石 膏	含 鐵	量	省 別	鑛	石 膏	含 鐵	量
河北省	九一、四七九、〇〇〇	四五、四三四、〇〇〇	安徽省	五〇、〇〇〇、〇〇〇					
龍關	四九、二〇〇、〇〇〇	二六、六〇〇、〇〇〇	銅陵	八、〇〇〇、〇〇〇					
懷來	四、〇〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	繁昌	三〇、五〇〇、〇〇〇					
灤縣	一一、一二九、〇〇〇	三、三三九、〇〇〇	當塗	一一、〇〇〇、〇〇〇					
宣化	二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、六〇〇、〇〇〇	六安等	五〇〇、〇〇〇					
井陘	五、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	江西省	一八、〇六〇、〇〇〇					
臨榆	三五〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	九江	六、〇〇〇、〇〇〇					
朝陽	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	永新	九、〇六〇、〇〇〇					
昌黎等	一、五〇〇、〇〇〇	六七五、〇〇〇	萍鄉	三、〇〇〇、〇〇〇					
奉天省	三七、五八〇、〇〇〇	一〇五、二〇五、〇〇〇	湖北省	五一、六六〇、〇〇〇					
本溪溝溪	八〇、〇〇〇、〇〇〇	二五、六〇〇、〇〇〇	大治	三五、〇〇〇、〇〇〇					
遼寧	四四、六四〇、〇〇〇	一四、三三七、〇〇〇	鄂城	一七、六六〇、〇〇〇					
鞍安站	三八、二三〇、〇〇〇	六三、二八八、〇〇〇	江蘇省	三五、〇〇〇、〇〇〇					
海城	二、〇〇〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇	銅山	五、〇〇〇、〇〇〇					

復縣	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	江蘇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇
臨江	一、二〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	福建省	七、五〇〇、〇〇〇	三、六五〇、〇〇〇
通化	一、二〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	安溪	五、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
山東省	二九、九二〇、〇〇〇	一四、一三八、〇〇〇	建甌縣	二、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
益都	三三、三三〇、〇〇〇	一三、八三八、〇〇〇	莆田	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
金錢鎮	六〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	浙江省	二、三〇〇、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇
豐縣	三、四〇〇、〇〇〇	一、六四〇、〇〇〇	長興	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
河南省	一、〇〇〇、〇〇〇	五六〇、〇〇〇	瑞安等	二、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
武安	四〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇			
修武	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	全國合計	六七七、〇九九、〇〇〇	二五二、一九三、〇〇〇
信陽					

上列之表，不過就已經測勘者計算之。他如輕微之水成鑛床，以及內地辦遠等區之藏量計之，尚不下三〇〇〇〇、〇〇〇噸以上。故中國鐵鑛總藏量，共有「一〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇」噸，諒非誇大也。

盧森堡二七〇,〇〇〇,〇〇〇噸，希臘一〇〇,〇〇〇,〇〇〇噸，是則中國之鐵藏量，當為世界第六也。

第四節 貿易

鐵類輸出貿易，因最近數年來，各地兵戈連年，戰爭無已，採鑛事業，每受其影響，或致停閉，由是其產日致銳減，此蓋必然之事也。如生鐵一項，民十三之輸出量有四、三八九、四四八，擔值八九八〇、一九二兩，十四、十五年跌至三百餘萬擔；十六年稍見發展，然猶未能與十一、十二年相較，又安能望及民七、民十三之盛況耶？銷路以日本最佔大宗；十六年有三、二三七、五六七，擔值五、一一二、一一二兩，佔出洋總數百分之九十三。鐵鑛砂與舊鐵碎鐵，亦皆以日銷為大。民十六運銷於日本之鐵鑛砂有八、二九八、一八六，擔值一、三八九、四六一兩；舊鐵碎鐵一〇、三二一七兩。鐵製品則日本之銷路，亦有一部分之努力。十六年鐵製品之出洋總數，值二九九、三六七兩；香港佔八四、一二五兩，第一暹羅六八、七五一兩，第二新加坡六七、六八九兩，第三日本五二、七三三兩，第四。

生鐵輸出國別表（單位擔）

年次	香港	朝鮮	日本	美國	菲律賓	其他	合計	關平銀
民國三年	二四八	九、〇〇五	一、〇一、三三〇	五〇、四〇〇	...	一、七七、三六	一、七七、三七	兩
民國七年	八、五一九	一一、七一〇	二、七七五、三〇二	二、五二〇	...	二、八四、〇四	二、八四、〇四	兩

民國八年	二、七二五	六、〇五一	二、六九九、七七〇	八四	二、四〇、二〇一	八、一四、〇四
民國九年	六、四四九	一六、七三七	二、九一五、六三一	二〇九、八七二	九、三二七	三、〇五、一五五	七、一六四、一六八
民國十年	三、五四〇	四七、六八六	二、四七四、七〇五	八〇、五七六	四、六二〇	二、六八、一〇三	五、三六、五五五
民國十一年	六、八五四	三七、二五〇	三、三〇六、九二五	八、四三四	一、二六〇	三、三五、一五一	六、七〇一、三六六
民國十二年	一、五九一	三一、三五一	二、四八七、二〇一	一二、八〇五	二、一〇五	三、一四四、九〇九	四、三三、八七一
民國十三年	二、二九六	九四、一八二	二、七二四、〇九二	二、一〇四	二、八三、一六六	四、四五、一七一
民國十四年	一、七一二	二五、三六九	三、二三七、五六七	二〇、五三三	三、三五、三六六	五、五三、七六八

鐵鑄砂輸出國別表(單位擔)

年 次	朝 鮸 日	本	其 他	合 計
民國二年	九、〇〇五	一、〇一一、三三〇	一、〇七一、三六八擔	一、三三〇、二一七兩
民國七年	五九、七三九	六、二〇一、二四八	六、二六一、〇六二	一、三五九、五九六
民國八年	二四八、四七四	一〇、三四〇、八一九	一〇、五八九、三七五	二、四〇二、五三四
民國九年	六九六、三六〇	一〇、五九五、九九七	一一、二九一、四〇七	二、六一、一七六〇
民國十年	六七七、五四五	七、八三八、九〇二	八、五一七、一六二	一、五一〇、六八七
民國十一年	三三〇、七六二	一〇、七九七、九六四	一一、一一九、七一〇	一、八八六、一二五
民國十四年	二七〇、三八八	一三、三二八、一六二	一三、五九八、五五〇	一、九五二、四一四

民國十五年	二九四、〇〇四	八、三九三、七八九	一、三四八、七八四
民國十六年	四三三	八、二九八、一八六	八、二九八、六〇八

第二章 錫 (Antimony)

第一節 錫之產地

錫之爲用，極爲廣大，如印模必於鉛之外，和以純錫，始能持久。以是各種金屬之質薄而堅韌者，殆無不雜以純錫。其產區據地質調查所之長江以北各地，似無錫之蘊藏，長江以南如湖南、湖北、江西、浙江、貴州、雲南、廣東、廣西等皆產之。就中尤以湖南省之蘊藏量，推爲全國第一，不特此也，即與世界各國相比較，亦無出其右者。

湖南省之錫產地，湘江道之新化、益陽、寶慶、新甯、安化、茶陵、衡陽道之汝仁、東安、祁陽、安仁、辰沅道之桃源、芷江、等皆盛。新化縣雪廣山一地，內含純錫二、〇〇〇〇〇〇噸，全國最大之錫礦也。板溪在益陽縣城西一百八十里，距資江口七十里，華昌鍊錫公司開採之，設治廠於長沙。其於赫倫希米 (Herrenschmidt) 治錫法，有專利之權，蓋湖南省最大之鍊錫廠也。沅陵武漢之錫礦，屬商辦開採，平均含錫量約百分之三十，亦有少量金之化合。

雲南省以蒙自道之文山與阿迷二縣爲錫礦出產最多處。茅山在文山縣西南約二百三十里，自清末發見以來，即歸寶華公司經營。都比與菓花，皆在阿迷州西南約六十里地方，產錫量頗豐，亦屬寶華公司經營。

貴州省產銻之區，推東部鎮遠道銅仁縣之梵淨山，考梵淨山在銅仁縣西北約二十里，本爲貴州東部諸山之主峯，其東南部分燕子坪及青龍峒二處，產銻量甚豐，內含純銻百分之六十，現爲銅仁鑛務局收買，每年產量，有三四百噸。

廣東省之銻鑛，以嶺南道曲江地方爲有名。其鑛區皆在縣城之西，獵老頂爲最大，距縣城八十里，至粵漢鐵路之烏石驛五十里，其他如葛籐坪、窩村、妙梓閣、橋源村，及黃沙坪之蜜蜂嶺、羅源洞之梯子嶺等，亦以銻產而著名。

第二節 貿易

我國所產之銻，推爲全世界第一。英國雖亦產銻，惟產量有限，除供本國及荷法諸國之需要外，實難望其增加。後我國華昌公司成立，鑒於世界銻產之缺少，遂將英貨收買，而同時故將售價減低，於是英國銻業，不能再行維持。世界上之銻業，乃獨歸中國。當歐戰初期，銻價極爲昂貴，國內產銻量，亦增加不少。大戰而後，銷路逐漸減少，價格日降，又受匯兌率之低落，銻業頗多殘摧，大遭其影響。所幸最近數年來，已漸入佳境。如民國十二年上海純銻每噸之平均價格爲規銀一五一·八三兩，十三年之平均數增加至二五七·〇八兩，十四年又漲至四一四兩，十五年又在四〇〇兩以上，一月份曾漲至六一〇兩。該年出洋總數純銻有二九九·〇三三擔，值五、七三二、六

五四兩，較十四年猶增加一七、七二一擔，一四七四、一二三兩；蓋由於美國、日本、英國、法國、銷路之發展也。美銷有二、七九一、〇六八兩，英國九七九、八四〇兩，法國六四三、二〇九兩，日本五八三、八六五兩。惟至十六年，以美銷之銳落，較十五年減去八十五萬兩。英銷低落三分之一，法銷復降下百分之六十。荷蘭與德國，則較前稍有進步；但所增加者，終不及減落之多。故全年之純錫輸出總數，祇為二六一、三五六噸，值四、一一五、二六八兩也。同年之生錫銷路，亦較十五年為銳減，祇及上年百分之六十三，由於英、德、美三市場之打落也。

錫輸出數量及價額表

年次	純錫	生錫
民國二年	▲二〇七、三四四擔	九三九、五七七兩
民國三年	▲三一四、六四七	一、三七九、五三六
民國四年	▲三五八、九六六	四、六六六、八三二
民國五年	一七三、一三七	六、九一二、一四四
民國六年	二四五、〇六八	三、七一四、三二一
民國七年	二三七、七九六	二、一一七、九一六
民國八年	一〇二、六五一	五四一、四六五
民國九年	一六〇、八一五	七九三、七三三
	七五、三四一	七五、三〇六
		二六六、八二四

純錫輸出國別表(單位擔)

年次	香	港	英	國	德	國	法	國	日	本	美	國	其	他	合	計
民國十年																二〇九、四三四
民國十一年																一〇一六、一七六
民國十二年																四一、九〇三
民國十三年																一一七、五六五
民國十四年																二〇一、〇三一
民國十五年																一〇二六、四五四
民國十六年																二六、五二一
民國十七年																七八、五五三
民國十八年																一九三、一二二
民國十九年																一七六、八五三
民國二十年																一、七九四、八〇〇
民國二十一年																三一、二九一
民國廿二年																一七七、二九四
民國廿三年																二八一、三一二
民國廿四年																四、二五八、五三一
民國廿五年																四五、三九七
民國廿六年																二九九、〇三三
民國廿七年																五、七三二、六五四
民國廿八年																五三、五四三
民國廿九年																六二一、七九六
民國卅年																三八〇、九八七
民國卅一年																二九、一四八
民國卅二年																六、八八八
民國卅三年																一、三四二
民國卅四年																八、五六一
民國卅五年																一、七六四
民國卅六年																二九、一四八
民國卅七年																六、一四九
民國卅八年																一〇二、六五一

民國九年	一、二二一	二六、八〇九	一一、一七〇	三、五四五	七、二四一	一〇七、七二一	一六〇、八一五
民國十年	一、〇六九	一七、一五五	一七、七四九	...	二〇、八三一	一五一、一九四	二〇九、四三四
民國十一年	五、五五〇	四二、二〇四	四一、九三三	三、六八九	一四、〇六五	九二、七四八	二〇一、〇三一
民國十二年	四四五	五九、七六二	三二、六九八	二一、五八八	一七、〇八〇	一三一、七九九	二八一、三一二
民國十三年	二、六六四	五一、八六九	二一、一六〇	三七、二〇八	二九、〇五三	一四二、一九五	二九九、〇三三
民國十四年	九二〇	三九、〇八九	二七、三〇〇	一六、一一八	二八、三七八	一二三、九六八	二六一、三五六

第四章 錫 (Tin)

第一節 錫之產地

中國錫產地，以雲南省最爲主要；廣西、廣東、湖南三省次之。

雲南錫產地，區域極爲廣大，蘊藏量最豐，產品佔全國總額百分之九十。其主要產地，則爲蒙自道之箇舊縣，礦區長三十哩，寬十哩，其採掘與冶金之法，雖屬幼稚，產額尚豐。近有雲南官商錫務公司用新法採掘，資本金二百萬元。民國十年，自個舊築支路通滇越鐵路之碧色寨，以資運輸，故產量日增。

湖南省南境地方如江華、臨武、宜章、郴縣一帶，亦均產錫。郴縣西南四十里之安源錫礦，前由裕成公司經營，江華南一百二十里之上五堡一帶，有官鑛局及二公司開採之。

廣西省之富川、賀縣、河池、南丹等，錫礦分佈亦多。富川之錫礦，五十年前即有土人開採之。賀縣錫礦，以婆山爲中心，數百里以內，皆有錫之出產，由富賀官鑛局經營之。

廣東省產錫地，推紫金與惠陽二縣。海南島儋縣那大之砂錫礦，亦頗著名。礦區在那大市北六里之西份村。

十數年前，僑興實業公司曾經經營之。每年出產品，自一〇〇〇〇斤至三〇〇〇〇斤不等。

第二節 貿易

錫之輸出地，推雲南省之蒙自為最鉅。民九有十八萬二千擔，近雖衰落，十四年尚有十四萬七千擔，值一千一百九十八萬四千兩。十六年又自十五年之「一〇八、八〇六擔八、七〇四、四八〇兩」，減至「一〇二、〇二三擔八、一六一、八四〇兩」。其他則廣州、漢口、長沙一帶亦盛，出洋數量，民六特多，十四年為一千二百萬兩，除此則總在七八百萬兩上下，十五年為八百七十三萬兩，十六年減至八百三十四萬兩。就中運銷香港者，佔十萬零四千擔，值八百三十二萬五千兩。歷年來之輸出數量與價額，可如左表。

年次 數	量	價	額(關平銀)	年次 數		量	價	額(關平銀)
				年	次			
民國二年	一三八、六八八擔	一〇、九一六、九〇六兩	民國十年	一〇三、〇三五擔	六、〇〇一、四五八兩			
民國三年	一一九、二三五	七、九七八、五五八	民國十一年	一五一、六七〇	八、三〇二、一六四			
民國四年	一三二、三七九	九、二四六、八一二	民國十二年	一三三、二二五	七、八七五、四三〇			
民國五年	一二六、〇四四	八、六三〇、一六四	民國十三年	一一七、三五三	九、〇八七、八六八			
民國六年	一九六、三二七	一二、二〇四、八七七	民國十四年	一四九、二三七	三、〇六四、六四五			

民國七年	一四五、八一七	一一、〇〇九、〇六七	民國十五年	一〇九、三四三	八、七三八、三九五
民國八年	一四六、〇二五	八、四二八、一三三	民國十六年	一〇四、五〇四	八、三四六、三八〇
民國九年	一八九、九四〇	一一、〇九八、一六七			

第五章 銅 (Copper)

第一節 銅之產地

中國銅鑛分佈於各區，蓋吾國最古之金屬工業也。現銅產地以雲南、四川一帶為盛；湖南、湖北、福建次之；雲南滇中道昆明縣三支鍋下寶興廠、七個象尋甸縣發古廠、雙龍村、鳳梧山、易門縣萬寶廠、香樹廠、宣威縣得祿廠、東川縣猴岩、札塘、興發村、湯丹廠、大關縣魯甸縣樂馬廠與四川省西川道彭縣白水河銅鑛、嘉陵道中江縣建昌道天全縣會龍山銅鑛等，其尤著者也。湯丹廠在東川縣城西北一百五十里，現產銅頗多。其中白錫蠟一區，約深三千米，鑛夫之從事開採者有千餘人。白水河銅鑛位成都北五十里，地屬彭縣，銅藏量極豐。宣統元年省實業司以補助金最初開始採掘，聘日本人為技師，設製鍊所於白水河，為四川省第一大銅鑛山。會龍山銅鑛距天全縣城一百九十里，最初山崩，銅鑛脉始露出，方行開掘，鑛質良好，惟交通不便，殊難發展耳。

湖南省產銅區域，以綏甯銅場界辰谿銅沖門、羅公塘、四都平沅陵石馬坡、陳家山、船涼驛、麻陽汀邵嶺、龍長壘、牛谷嶺、澧縣太清山、新甯唐金壠、桂陽綠紫坳、大開、萬發窿、鳳凰山、會同紅岩溪、龍溪頭、大風坳、南冲尾、天台壠、

龔家灣、獅子腦、桃源灰溪河、窖澗、桑直九斗山、永定保子界、永興銅塘冲、梅花井、下馬塘、東邊窿、新坑嶺、屢溪冷水溪、祁陽象飛山、毛鑊塘、常甯楊家洲、樟山塘、麻石嶺、銅坑、湘潭鳳凰坡、寶興烏竹山、瀏陽馬鞍坡、隱直觀、獅子腰、銅盆嶺、六尾冲、石門山羊溪、銅廠坳等地為有名。其中大部分歸湖南官鑛局、豐厚公司、開泰公司、中興公司、達利公司、寶和公司、裕華公司、宏大公司等開採，成績尚稱佳良。

湖北省銅鑛，最初以利川團寶寺銅鑛為有名，後因洪水氾濫，鑛坑湮沒，即行停止開採。最近境內銅鑛開採事業，頗多用新式機器者，如陽新縣洪季田、竹山縣豐石洞與陳開山等是也。

江西省張八嶺銅鑛，位於贛南，歸省政府經營，自採用新式機器後，年產激增，含銅量據工程師之化驗，達百分之四十二。

福建省之閩江流域，產銅甚多，即以南平一區而論，歷次開採，成績甚佳，含銅量以美國考察家之試驗，佔百分之十八又二七，每噸含銀量有二十盎司。

除以上所述各產區外，他如河南省黃河北岸濟源之銀魚溝、孫真人墳、黃上窖、馬頭山、官河、山東省歷山之桃科，以及福山、沂水、吉林省之盤石、青石咀、亮寶台、樺甸皮州梢、延吉天寶山、滾牛礮子、二道溝、依蘭溝、吉林歡喜嶺等地，皆有銅之出產，惟產量不豐。

第二節 貿易

紫銅錠、塊、輸出數量及價額表

年次	數	量	價	額	年次	數	量	價	額
民國二年	二、〇九一擔	二四、五一〇兩	民國十年	一五、八三三擔	二四〇、一九九兩				
民國三年	一、八二九	二八、一三六	民國十一年	五、一七六	九四、一八九				
民國四年	四五、〇八四	八一二、三八九	民國十二年	一四、〇三四	二八四、五〇一				
民國五年	五六四、八一八	九、〇六六、六八一	民國十三年	一三、九一八	三〇六、〇三一				
民國六年	六八九、八二三	九、九四六、七五六	民國十四年	一七、三三一	三八一、九一七				
民國七年	四四、七一〇	八三三、六四九	民國十五年	三四、一九八	七五八、六〇五				
民國八年	九、一五三	一八六、三七二	民國十六年	一七、三九六	三一六、一五二				
民國九年	三、一六二	七九、九六九							

黃銅器輸出國別表(單位關平銀兩)

年次	香	港	暹	羅	新	加	坡	英	國	德	國
民國十四年	二〇七、〇一七	七四、八七五			五一、八二三	二四、七〇四		二五、九三〇			
民國十五年	一六四、六八三	一一〇、五八四	一六六、五〇五	五八、三六二	二二、五七四						

民國十六年	二七八、〇三七	六五、九八九	六三、三四四	四三、八九三	二四、三一一
年 次	日 本	加 拿 大	美 國	澳 洲	其 他 合 計
民國十四年	三〇、七二六	一八、〇一九	二盈、九九三	二一、一二三	七八七、一三六
民國十五年	三三、四九三	三四、三六八	三盈、六三二	六六、二八六	一、一二五、八〇三
民國十六年	四九、九二三	三六、〇八五	三七、八七四	六九、二四八	一、〇四八、七一九

第六章 鉛 (Lead)

第一節 鉛之產地

中國產鉛之地，以湖南、貴州、四川、雲南諸省為主；河北省平泉地方亦產之。其他如河南省河南府西南地方，及山東、安徽、諸省，亦有少量之出產。

湖南省鉛之出產，以常甯縣水口山、松柏、呼頭、衡陽縣三官町、桂陽縣虎形山、瀏陽縣曾家灣、麻陽縣潭石約、興甯縣大腳嶺、桑植縣鶯嘴山等為多。惟常與鋅併含，水口山鑛為湖南省政府所辦，設備尚稱完全，鑛山在衡州之南約三十二哩，距湘水南岸祇數哩，敷有輕便鐵道，以資運輸。現有斜鑛井二，深及二百尺，有採鑛機及洗鑛機各一，出品以鋅為多，鉛次之。

雲南省東川縣之鉛鑛，為東川採鑛公司所辦，產品鉛居最多，數鋅次之。

他如察哈爾之獨石鉛鑛（青羊溝、桃樹底、楊樹溝）、張北鉛鑛、豐鎮鉛鑛（李家營、吉羊黑）、興和鉛銀鑛、遼寧省蓋平化銅溝鉛鑛、桓化老人溝鉛銀鑛（桓化縣南約百里）、桓仁二棚子鉛鋅鑛、山西省大同鎮邊堡鉛

鑛、文水西南六十里之陷家溝鉛銀鑛、河南省盧氏鉛鑛、羅山縣銀銅沖鉛銀鑛、光山鉛銀鑛、湖北省興山鉛鑛、鶴峯、宣恩、坼春、鄖西之鉛鑛等，皆有微額之出產。

第二節 貿易

鉛輸出數量及價額表

	鉛塊	鉛條	鉛礦砂
民國二年	六九三擔	二、七四四兩	六七、二〇〇擔
民國三年	三、八八一	一七、五七一	六一、五三四
民國四年	一一、三五三	六五、五五四	九四七
民國五年	一八、六五五	二五三、三四〇	一四八、四八六
民國六年	一二、三七八	一六四、四一	二三〇、七〇〇
民國七年	七、六七〇	一二三、五四一	一五、四九三
民國八年	一七八	一、九五五	二、二七〇
民國九年	五、四五五	八一、五〇八	三九、五三四
民國十年	四、七〇七	一〇二、一一〇	一三五、七六六
	鉛塊	鉛條	鉛礦砂
			三五八、五三九兩

民國十一年	一一、二〇五	一〇七、三三八	八四、三一四	二九〇、九七五
民國十二年	一二、三五七	八九、九九九	八一、三三七	二七八、三三一
民國十三年	一八、五七一	一五三、五六六	一一九、五八五	四〇九、〇四二
民國十四年	六、五八九	五三、五〇九	一八二、四三七	五七二、九四五
民國十五年	二、五四〇	二一、六四三	二三三、七九四	七二九、二三〇
民國十六年	二、二七四	一八、七四二	八四、四六九	二八三、〇〇六

第七章 鋅 (Zinc)

第一節 鋅之產地

鋅之出產，雲南、貴州、四川、湖南、及廣西諸省皆盛；而最大之礦山，則在湖南省水口山。雲南、貴州省境附近之東川及麗江地方，四川省西南部會理、貴州省威甯等地方，亦頗著名。浙江省諸暨地方高塢坑鋅礦，在縣城東南六十里，現由人和公司開採，每年產額約百餘噸，為浙江省最大之鋅礦，含量百分之三十五乃至四十五。臨海龍珠山鋅礦，在縣城東五十里張公庵地方，今由九成公司經營。永嘉屬溫州境內，亦多鋅礦，近城十五里之鄭山，與三十里之橫田，以及大雙坑、孫坑、前山等是也。

第二節 貿易

鋅礦砂輸出國別表（單位噸）

年次	德	比	利士	日	本法	國	其他	合計
民國九年	五〇、四〇一	六九、〇三八	三二一、二五六	一五〇、七二九擔	一五六、七九六兩		
民國十年	五八、〇八四	一三九、一〇四	三四	一九七、二二二	一八〇、五四〇		
民國十一年	一六七、一六〇	七四四、二二一	一〇一、二三五	一、〇一二、六一六	六九七、三〇三		
民國十二年	二六、七七二	三四三、九九七	一六、八〇〇	一八六、九六七	五七四、五三六	三九九、七八六		
民國十三年	一六六、六二二	一八七、〇五一	二八、五六〇	二七、六八六	四〇九、九一九	二七九、六四二		
民國十四年	二三、二八五	六五、〇九九	三九	三三六	八九、〇八八	六一、五四九		

第八章 錫 (Tungsten)

第一節 錫之用途

錫爲金屬化學原質之一，效用極廣，有天生錫礦，可以其綠化物或養化物通入輕氣製成之，富光澤，頗似鋼，抽之成絲，質地非常堅硬，較銅尤難溶解，與炭質融合，硬度愈高，爲近世工業上之重要原料。所稱錫鋼者，即於鋼百分中和入錫質八九分而成，製爲器具，頗爲佳良。

第二節 錫之產地

中國錫之出產地，以江西、湖南、以及廣東、廣西各地爲盛。其產額與世界總產額相較，頗佔重要之位置，然其發展，不過十年以內事，而至最近，華錫之產量，已佔世界總產額百分之七十。

第三節 貿易

華鎢出產額，當大戰時期，對美輸出極盛，以當時英國治理下鎢產品之價格，皆經特定，每一單位為六十先令，一噸之價，需美金七百二十元。至於美國市場，較為活動，一單位之值，有美金十八元，每噸需美金一千零四十元。此中國鎢產盛銷美國之原因也。民國八年後，美國市場之鎢價，漸次低落，祇及美金六元，惟華鎢仍盛銷於美國市場，以內國生產費用之便宜也。民國十一年九月二十二日，美國 Fordney McCumber 稅則法置諸實行，對於輸入之鎢，課以重稅，每單位征美金十元一角四分。自此以後，一部分之華鎢，遂改道而至歐洲市場，尤以德、法、二國為活動。如十四年鎢之出洋總數為九八、六〇五擔，值關平銀一、一七、五一七兩，德銷佔三、一八一九擔，值三六、一九九二兩；法國二〇、三七一擔，值二三六、〇五五兩，次之；英國之一〇、九二〇擔，一、二七、二六一兩，美國之一、五九八三擔，一、八一、一三三兩；香港之一〇、二一五擔，一、二六四五兩，等又次之。十五年之法銷與美銷頓盛；英國亦有相當之進展。故全年輸出之鎢，共有一一七、四〇八擔，值一、六六九、五一三兩。至十六年，香港華鎢之銷路，自十五年之九、四六一擔，一、三九、九六兩增加至二、一七一擔，四、二〇六六六兩，而美國市場則一落千丈。德國亦較上年減少百分之二百八十七；法國自十五年之三、二六二二擔，四五七、五五〇兩，低落至二、一七三擔，三、五〇六五三兩；英國祇為五、二五七擔，值七、六五四二兩而已。

第九章 水銀 (Mercury)

第一節 牛油之產地

水銀爲中國重要礦產物之一，礦區自四川東南及湖南西部、廣西北部起，經貴州全省，以至於雲南省之蒙自，延長凡千餘里，藏量極豐。故貴州、湖南、四川、雲南、廣西五省爲全國重要水銀產地；就中尤以貴州省第一，湖南省次之。

貴州省之水銀產地，銅仁縣萬山場、開縣白馬洞、興義縣楠木廠，皆極著名而萬山場水銀，礦區之大，推爲全國第一，面積約佔四五〇〇畝，含量多寡，據化學家分析之結果，在百分之一·七與四·四間，平均約百分之二·七八。當三十年前開採頗盛，近則日漸減落矣。白馬洞水銀，在開縣東南石炭岩中，每有硃砂之散佈，惟藏量並不豐富，現有鍋爐七八座，產量亦不多。楠木廠，礦位在興義縣之西北一帶，面積甚廣，七十年以前所產水銀量，已盛極一時，近數年來經營斯業者，多半閉歇，是爲惜耳。大洞喇，屬貴溪縣，水銀，礦床，面積有六百畝，開採公司甚多，以利恆公司爲大，有鍊爐十三座，其產量日可四、五十斤。

湖南省水銀之出產，推西部辰沅道鳳凰縣爲有名；縣城西北之猴子坪水銀鑛是也。鑛在石灰岩中，前曾官辦經營，惟因產量不多而停歇焉。

酉陽縣在四川省東南部之東川道，爲全省水銀出產最盛之地，該地農民視爲重要之正業，其著名之水銀鑛，共有四處：瀾泥場、分水嶺、龍門廠及硃砂溪，是也。以後二述者，較爲豐富。

第十章 石膏 (Gypsum)

第一節 石膏之種類

石膏即爲含水硫酸鈣，結晶成菱形或燕尾狀雙晶。其硬度低而爲纖維狀者，名纖維石膏。細粒相集，呈白色，如雪狀者，則爲雪花石膏。其他又有黃、黑、赤、青等色。普通論石膏之種類，稱燒石膏與硬石膏。燒石膏即石膏入鑿中徐熱之，使失去其結晶水，遂呈一種白色粉末是也，爲用極廣，可用以塑像、或造瓷器模型、與裝飾品材料。至於硬石膏，則指本無水分者而言也。

第二節 石膏之產地

中國石膏產地，以湖北與湖南二省爲最盛。湖南之湘潭，與湖北之應城，尤其著名者也。應城在鄂之江漢道，距平漢鐵路之孝感車站西百里。鑿區即在應城縣西北十里至十五里，延長凡四十里，皆蘊藏極豐富之石膏。上層則爲沙岩層及鹽岩層，中厚二尺六寸許，即石膏層也，內復含鹽質數層。現從事開採者，爲一私家公司。每年

產石膏量達六十萬元，而副產品之食鹽一項，則值七八十萬元之鉅焉。應城縣城內，復有應城石膏有限公司，資本四十萬元，每年由漢口出口者，達四十萬擔。

湖南省湘潭地方所發見之石膏產區，在縣城之西南八十里，位洙亭丁至猴子石間，廣袤數百里，藏量極豐。除此以外，他如四川省之萬源、雅安、青神，雲南省之石膏井、雲龍井、麗江、普河，貴州東南部，安徽省貴池縣、江林浦、休甯等，亦有石膏之出產。

第三節 貿易

石膏輸出國別表（單位擔）

年 次	香 港	新嘉坡	爪 哇	日 本	其 他	合 計
民國九年	五七、六二一	三九八	一、三四〇	二七、八一三	八七、四〇一擔	五九、一六五兩
民國十年	三九、六六五	五〇六	二、九六五	五八、二二八	一〇一、七八七	七三、一〇〇
民國十一年	四六、六八六	四一二	一、七三三	七〇、三〇四	一二八、二〇七	八八、八七一
民國十四年	一六、一六八	九〇三	五、七三九	九三、八九二	一一七、三三九	二一八、一〇五
民國十五年	一一、五二〇	七三九	三、一九一	四六、九五四	六二、五一七	一一一、七一四
民國十六年	二五、七八四	九五四	五、四二一	八、四八七	四〇、八三五	八一、四三六

第六編 製造品與雜項

第一章 豆油豆餅(Bean oil, Bean Cake)

第一節 豆油豆餅製造分佈區域

豆油與豆餅一業，為吾國重要工業之一，以原料品之豐富，人工之價廉，當極早時期，已頗有可觀處，惟多屬小本經營者，規模不大。後新式機械逐漸改用，產額於是大增，尤以滿洲一帶為吾國豆油豆餅業之中心，亦為該地最重要之工業，而與人民之生計，有密切之關係也。他如湖北、河南、江蘇、安徽等地，搾油之工廠與油房，為數亦多。

東三省油房之總數，據民國十六年之調查，共有四四七戶；南部之大連，與北部之哈爾濱，其二大中心也。大連一埠之油房數，已有八十六所，每日豆油產量計一三四、一四八斤，豆餅產量凡二六八、四六一枚。哈爾濱次

之，有油房四十三所，每日所產之豆油量為三九二、〇一一斤，豆餅七八、五三七枚。安東有油房二十四所，日產豆油二一九、八五二斤，豆餅四三、九二五枚，又次之。營口佔第四位，共有油房二十二所，其他分佈於南滿鐵路、中東鐵路之沿線各都市。在昔本以營口一埠為東省油餅業之會粹地，其他各地無可與之倫比，產量之大，品質之良，遠非他埠所可比擬。惟自大連開埠以後，以其地位所居之便利，日俄戰後，日人復極力經營，各地製造廠家，皆挾資築廠於此，便為大規模之製造。豆油豆餅一業，當亦在此例內。遂致久據豆油豆餅重要中心之營口，逐漸衰落，而新興之大連，反與日俱長。如日清製油會社、三泰油房、政記小寺油房、福順厚加藤油房、和盛利同聚祥、晉豐成裕昌、鈴木油房、福順義、大連油脂會社、大連製油會社、日華油房、大倍、雙盛中日、三菱油房、萬義長等，皆為大連新規模之豆油豆餅製造家。機械式樣，以水壓式、螺旋式、抽出式，三者為多。每日豆餅出產額，日清製油會社、三泰油房、政記、福順厚、同聚祥、晉豐、成裕昌、福順義、大連製油會社、雙盛中日、萬義長等，皆在五〇〇〇枚以上。福順義八〇〇〇枚，與日清製油會社七〇〇〇枚，尤為特色。其他各家，亦在三〇〇〇枚與四五〇〇枚間。營口油餅業，以小寺機器油房為大，成立亦最早，每日豆餅出產數有五〇〇〇枚；餘皆在一六〇〇枚與四〇〇〇枚間。而迄今仍用手壓機者，有王盛發、振義生、興懋長、興源長、世昌德、西義興、鴻興長、同生東、利豐德、同興永、宏昌厚、興源盛興、之十二家；日新昌、及天生厚二家為水壓手壓二種機械並用者。

第二節 交易習慣

油餅交易之方法，如在大連等埠，約可分爲二種，所稱現貨交易與期貨交易是也。現貨交易即以豆餅豆油之現貨或貨板相對買賣之謂也。期貨交易爲依據相對買賣方法，而以貨板或買賣雙方所定之豆油豆餅行之。現貨交易之交貨時期，本限十日以內，但以其他關係或雙方當事人之同意，皆得展限之，但至多不能過一月。如爲買方之展限，則展限期內之保管費用，由買方負責，此都半之情形也。期貨交易之契約期限，通常爲四個月以內，間亦有展長至半年者，交貨之期，常於每月之十四日或月終行之。惟豆油與豆餅，情形稍有不同，豆餅交易以大連碼頭混合保管合格品爲標準，其計算與核檢，又須依滿鐵會社所規定豆餅混合保管制條例照辦；而豆油交易，祇須根據取引人組合之規約行之可也。

第三節 貿易

豆油與豆餅，爲吾國輸出大宗，惟其發展，亦不過數十年來事。當民國元年，豆油之對外輸出貿易，祇五二五、六八八擔，值關平銀三、九四九、八二九兩。民國二年稍有降落，對外輸出總額爲四九、一八一七擔，值三、七三二〇一二兩。輸出主要各國，以香港、英國、瑞典、比利士、俄國、日本、美國爲盛。運往俄國者，佔八六、四五六擔，值六九六、九

五〇兩。但運俄豆油之由徑有三：自太平洋各口運往者，達四七、七二四擔，值三五〇、四九〇兩；黑龍江各口二三、二四四擔，值一八八、二九〇兩；陸路一五四八八擔，值一五八、一七〇兩。次之即推日本，民國二年運往日本之豆油，計有六七、六六〇擔，值五〇九、八四三兩。香港、英國、瑞典與美國，又次之。至民國七年，情勢大變，豆油輸往俄國者，僅一九八〇二擔，值一九五六七二兩。與民國二年相較，減少六六、六五四擔，五〇一、二七八兩。而美國方面，則以需要之激增，輸出量共有二一三六、七四六擔，值二三四七七、三二二兩。與出口總額二二七七、一六七擔，二四九八一、二四九兩，相擬，佔百分之九十四。輸出至日本者，仍居第二位。及民國八年，輸出量雖見增加，價格甚多低落。自後則更形跌落；如民九爲一七一三、一〇四擔，民十又減至一四八、三五七擔。其故安在乎？須知豆油之出口，向以美國爲第一。自美國施行新稅則後，在該國之豆油貿易，遂大受打擊，非特無利可圖，行見賠虧日增，故逐年銳減。所幸最近數年來，歐洲豆油市面，極趨活動，俄銷又見復活，故尚多發展。十三、十四年間，出洋總數，每有二百萬擔左右，值關平銀二千萬兩。民國十五年，英國、荷蘭、意大利、俄國等地之豆油銷路，非常良好。英國自十四年之五〇六、五四二擔，五〇六、五四二〇兩，增至六二八、七七二擔，七二六二、四〇二兩，居第一位；俄國六二九、三七〇擔，六四五七、四九七兩，已居第二位；土耳其、波斯、埃及、等地四八三、五〇七擔，五八四、五〇六兩，第三；意大利四三八、六七五擔，五〇六、六七八〇兩，第四；荷蘭二二七、六八七擔，二六三〇、五八三兩，第五；美國一八七〇一六擔，二一六〇、四九〇兩，第六；德國四五、二〇六擔，五二二、一二九兩，第七。全年出洋總數達二六六七、二二九擔，值

二九、九九二、七五三兩。是爲歷年輸出之最盛時期。迨民國十六年，英國與荷蘭之銷路，仍見高漲；英國爲七八八、〇七五擔，八、六六八、八二五兩；荷蘭則有六三一、八六二擔，值六、九五〇、四八二兩；與十五年相較，增加百分之二百八十。其他土耳其、埃及、意大利、美國等，皆有降落；尤以土波埃、意大利之銳減，最受影響。故全年輸出總額，較十五年爲減少。

豆餅之輸出，向以日本爲第一。如民國二年豆餅出口總數爲一、一八一、八四四三擔，值二、四九六、二七八七兩；而運出至日本者，佔一、一四二四、〇一一擔，值二四、三六九、八七一兩。俄國次之，運往太平洋各口爲二三八、一五七擔，黑龍江各口九、四七三擔，陸路一〇八、三九九擔，計共三五六、〇二九擔，值四〇七、七一六兩。朝鮮、美國、新加坡、暹羅等又次之。而重要輸出各埠，自推大連佔首位，達八、四五九、四八四擔，值一六七四九、七七八兩。牛莊、一二二、八九〇五擔，值一〇、八六八、二八四兩，居第二位。漢口二三一、五〇〇三擔，值四、二一三、三〇六兩，居第三位。他如安東、烟台、鎮江、琿春、膠州等埠亦盛。全年輸移出總數，有一六、九四九、四三七擔，值三五、四五二、二一一兩。及民國七年，全國對外輸出之豆餅，有一六、三六六、八五四擔，計值二九、八八二、八二九兩；較之民國二年，增加四、五四八、四一一擔。民國八年又增至二〇、七二四、七六九擔。民九頗多降落，對外輸出數爲一八、九九八、九〇三擔，值四一、九五九、一〇七兩。嗣後常有進落，及民國十五年，豆餅之銷路，突然猛進，全年出洋總數達二六、〇五四、九二六擔，價額值七〇、〇〇九、三八二兩。推爲歷年輸出之最高數量。蓋由於日、俄市場見漲也。十四年之日銷爲一六、

八九〇六一六擔，值四〇五五八九五八兩。十五年增加至一七八五一九九三擔，五〇八五一六三六兩。而俄銷則自十四年之二七七七三一二擔，六二二一七九兩，漲至六五五八〇三五擔，一四四二七六七七兩，約高出百分之二百三十六。朝鮮與美國之銷路，亦較十四年為良好。至十六年，俄銷雖繼有漲勢，惟日本市場頗多降落，較十五年減少百分之十三，故出洋總數受此種影響後，當然不能與十五年比較，共為二四三四九三五〇擔，值六〇七七三九一兩。

豆油豆餅輸出數量及價額表

年 次	豆	油	豆	餅
民國二年	四九一、八一七擔	三、七三三、〇一二兩	一一、八一八、四四三擔	二四、九六二、七八七兩
民國三年	六〇七、四七七	四、九六六、四七〇	一〇、七六九、四四七	三三、〇一二、五七一
民國四年	一、〇一七、九三二	七、四八一、一六五	一一、五九三、八三三	二〇、七〇六、一八一
民國五年	一、五六五、六四〇	一一、八三三、一六七	一一、六三六、二四五	二六、一二三、七五一
民國六年	一、八九一、三五三	一八、一九六、一二五	一五、五一二、七三九	二三、七五八、〇七五
民國七年	二、二七七、一六七	二四、九八一、二四九	一六、三六六、八五四	二九、八八二、八二九
民國八年	二、三六一、六三三	二一、〇六〇、八七八	二〇、七二四、七六九	四四、一七三、一八
民國九年	一、七一三、一〇四	一四、七九四、六二四	一八、九九八、九〇三	四一、九五九、一〇七

年 次	豆 油						豆 餅
	豆	油	豆	油	豆	油	
民國十年	一、一四八、三五七擔	九、七三五、七九一兩	二二、二八一、六八八擔	四九、五二四、八五二兩			
民國十一年	一、四八〇、一九六	一二、二九四、〇〇六	二一、五九〇、五九一	四九、〇〇八、九五五			
民國十二年	二、一二六、九二八	一七、六八八、六二三	二四、七八五、八九九	五六、八六六、二〇一			
民國十三年	二、一二一、四七〇	二〇、四八三、五二五	三二、五七七、七一六	五〇、八九七、三二五			
民國十四年	一、九八九、三〇二	二〇、三八七、二六二	二〇、六六一、九八六	四九、四六九、三二四			
民國十五年	二、六六七、三二九	二九、九九二、七五三	二六、〇五四、九二六	七〇、〇〇九、三八二			
民國十六年	二、四六九、七三四	二七、六八三、五一五	二四、三四九、三五〇	六〇、七七七、三九一			

豆油輸出國別表(單位擔)

年 次	香 港	英 國	德 國	荷 蘭	日 本	土、波、埃及	
民國十四年	九、一四〇	五〇六、五四二	四七、二〇五	一九〇、二八一	一、八九九	二六九、七二四	
民國十五年	九、五八三	六二八、七七二	四五、二〇六	三二七、六八七	一、〇三〇	四八三、五〇七	
民國十六年	八、六六五	七八八、〇七五	一一、四九八	六三一、八六二	一、一七六	五九、八二五	
年 次	意 大 利	俄 國	美 國	其 他	合 計		
民國十四年	二六七、〇九四	五〇九、五六八	一三七、七七五	一、九八九、三〇二			

豆餅輸出國別表(單位擔)

年 次	遞	羅	新	加	坡	俄	國	朝	鮮
年 次	日	本	美		國	其	他	合	計
民國十四年	一四、一二三	八、七三三	二、七七七	三一二		七四六	八一七		
民國十五年	一四、一六六	三三、二四四	六、五五八	〇三五		一、三三一	一三一		
民國十六年	二〇、一〇三	二三、二六三	七、五三三	七四九		一、七三〇	三六四		
民國十四年	一六、八九〇、六一六	二〇五、五六二			二〇、六六一、九八六擔				
民國十五年	一七、八五一、九九三	二八一、二三六			二六、〇五四、九二六				
民國十六年	一四、六八一、九九六	三四七、一〇九			二四、三四九、三五〇				

第二章 麵粉附麩皮 (Wheat flour)

第一節 麵粉業現狀

通常所稱麵粉，係指小麥粉而言，歐戰以前，亦爲吾國重要輸入之商品。後以國內原料出產豐富，漸次設廠自行製造，逐步發展，時至今日，已頗有成績之可言；與紡織業同爲吾國近年來所經營之新式工業也。惟紡織工業一項，外商經營之工廠甚多，而欲求華商爲主要之工業，其惟麵粉業乎。

往者，麵粉一業，本爲家庭工業之一種，規模極小，用人力或牛馬力，以使用磨臼，惟出品極爲粗陋，種類雜亂，故祇能供本地之需要而已。至於新式工廠，藉蒸汽及電動力，生產量甚大，出品精良，行銷各地，稱爲良好食品，尤推北方各省，因米穀出產稀少，視爲主要之食糧焉。然一考我國麵粉業之經營，約可分爲三時期：自中日戰爭至日俄戰爭爲第一期，得稱之爲麵粉業創始時代；日俄戰爭至辛亥革命，已入於漸進時代；由辛亥革命而後至歐戰開始，蓋入於勃興之時代矣。北滿之哈爾濱、與江蘇之上海，推爲全國二大麵粉業製造之中心。東三省爲全國主要小麥產地，哈爾濱交通便利，運輸發達，自俄人用新式機械經營麵粉業後，遂大爲興盛，現共有麵粉場二十

三所，佔北滿鐵路區各都市麵粉業百分之八十五。上海一埠，則爲長江一帶製粉業之中心，有新式麵粉廠二十餘所。福新第一、二、三、四、六、七、八、廠，阜豐、長豐等，其著名者也。惟本年除停機各廠，開機製造者，祇十有三家，製粉能力，一晝夜共爲一〇九、〇〇〇包；與前年相較，減少甚多。推厥原因，不外二端：一由於最近粉稅之特重，一由於外粉之充斥也。自前清季年，麵粉通行全國，概免稅厘，蓋所以示獎勵也。民國之後，亦並未變更。國民政府成立，命定每粉一包徵特稅一角。茲原料昂貴，費用浩繁，資金周轉不靈之時，已頗有捉襟見肘之象矣。

第二節 麵粉廠之組織

麵粉廠爲大事業之一，內部之組織，極爲複雜，各家不同。惟普通可分爲批發處、總務處、麥務處、會計處、物料處、運輸處、粉棧房、機器房等。批發處爲銷賣麵粉、麩皮之要務。廠內一應事項，又歸總務處之管轄。麥務處專理辦麥收麥驗麥以及外莊採辦之事。會計處爲司理賬情暨全廠之收支。廠內製辦物件機件或五金等，則屬物科處。運輸處爲駁運貨物之司理。麵粉麩皮之上下，與每日之存數，皆爲粉棧房之事。至於機器房，事情更爲複雜，舉凡每日上棧小麥若干，出粉麩皮下腳幾何，以及機間全體工友之督促，在在負其全責焉。

第三節 貿易

麵粉一項，在宣統年間，每年由各國輸入者，常達關平銀一〇、〇〇〇、〇〇〇兩以上。如民國元年尚值一二、六九三、八三九兩；民國二年為一〇、三〇〇、六一二兩。後國內麵粉製造業勃興，遂由輸入國一變而為輸出國矣。然在民國二、三年間，不過十數萬擔；民國六年，增至七九八、〇三一擔；民七益復發展，全年對外輸出數量，有二、〇一一、八九九擔，值八、四一〇、五五七兩。其輸出之目的地，以俄國、日本、英國為多。民國六年向日本輸出者，為一〇六一擔，價額五、四九一兩。及民國八年，一躍而增至八九八、七〇四擔，價額四、〇一九、九六〇兩。其輸出往英國者，民國六年為一〇〇、七八二擔，價額四四〇、〇〇〇二兩。至民七亦漲至一〇一五、〇七四擔，價額三、八二二、四八一兩。嗣後英國對於中國輸入麵粉之品質，頗多懷疑，恐易遭及皮膚病與睡眼病等。後經倫敦衛生試驗所精密之檢查，卒無實據，亦並無含有雜質也。自茲益為吾國輸出麵粉之保障，各國皆得安心行銷。如民國九年輸出麵粉之總數，有三、九六〇、七七九擔，值一八、二五一、七二二兩。較之民國八年之二、六九四、二七一擔，價額一〇、八七二、三一八兩，尤為發達。尤推麵粉輸出之最盛時期。此後頗多降落。民十祇及民九百分之五十，而十三年又不過七十萬兩，由於英、日銷路之一落千丈也。十四年稍見發展，全年出洋總數有二十八萬八千擔，值一百三十萬兩。惟十五、十六年復入衰落狀態；十五年祇五十三萬三千兩，十六年為五十五萬八千兩，受港銷之影響也。

麵粉輸出國別表（單位：擔）

年次	香港	港	新加坡	瓜	哇	英	國	俄	國
年次	朝鮮	日本	斐律濱	其他	合計				
民國二年	三、七三三			一一五、六六六	
民國七年	一六七、七六五	四、九五〇	三九、一三三	一、〇一五、〇七四				四一七、三四七	
民國八年	三九〇、七四四	九、一七七	七、七二一	三二三、八四五				六九二、二六二	
民國九年	六二九、八一七	一〇七、四三九	五四、五六一	一、九八四、四一七				五二九、三七八	
民國十年	四一六、四五七	四七、八三一	一〇〇、三四九	一六、〇五七				四七二、九九七	
民國十一年	六、八六三	三、〇〇〇	三七五	...				五五九、三二八	
民國十四年	一〇五、三三八	四七、六六〇	三六、七八六	...				八、〇八〇	
民國十五年	七、五七二	五一、二三五	三二、五七三	...				三	
民國十六年	二、四九七	四四、三七八	一八、八八七	...					
民國二年	...	四	...	一九、四五一擔					
民國七年	一一三、七八〇	一六〇、七七八	二三、三八八	二、〇一一、八九九	八、四一〇、五五七				
民國八年	一八二、〇七三	八九八、七〇四	一二二、七二五	三、六九四、二七一	一〇、八七二、三一八				
民國九年	七九、一七五	三二、九二七	一三三、六〇三	三、九六〇、七七九	一八、二五一、七二二				
民國十年	九三、五七七	四三六、八八九	九〇、〇二六	二、〇四七、〇〇四	九、三六六、二五四				

獾皮爲麵粉製造之副產品，年來國內之麵粉製造事業，頗見發達，於是該項之出品，逐漸增加，年銷於日本、俄國、香港甚鉅。初不過百餘萬兩，近則自二百萬兩，至四百萬兩，至六百萬兩。十六年更達七百四十八萬三千兩。就中銷往日本者佔三、一三七、〇五四擔值七、一〇〇、三九五兩；俄國太平洋各口二二八、二五一擔三三〇、九六三兩次之。

獦皮輸出數量及價額表

民國二年	一、〇三七、三九六擔	一、一六三、一八七兩	民國十年	二、五八七、九六〇擔	四、三四三、一〇八兩
民國三年	四二八、〇一二	四五三、七六八	民國十一年	二、六二五、七七七	四、六二三、六二五
民國四年	七五五、九六四	一、〇〇四、七二一	民國十二年	二、七二一、四七四	四、九八〇、九三二
民國五年	三三〇、一二八	三四二、二〇八	民國十三年	三、二六三、四六二	六、二七一、五九八
民國六年	五一八、六七三	四三〇、六五三	民國十四年	三、〇三二、五〇六	六、五〇七、九三一
民國七年	一、二二三、九九九	一、五九五、二〇三	民國十五年	三、一五四、六〇三	六、九二一、〇三七

中國重要商品

三六二

民國八年	一、六八七、二四〇	二、一八六、九九九	民國十六年	三、三八八、九七二
民國九年	一、七九一、一二一	二、五七九、四三三		七、四八三、九五二

第三章 糖 (Sugar)

第一節 糖之產地

中國製糖業，在五十年以前，本爲印度、斐律賓、古巴、三大產糖地之亞，產額極其旺盛。後歐洲之甜菜糖事業逐漸發展，中國之製糖業遂大受打擊，而降至世界產糖國第十二位。台灣割與日本之後，糖業益形不振矣。

中國產糖著名地，古來推福建省漳州、廣東省潮州、欽州、廣州、韶州、廉州、安徽省之徽州、等，近代雲南、湖南、廣西、江西、浙江、河南、各省，甘蔗之栽培，頗見發達；惟終不若福建、四川、與廣東之繁盛也。

廣東省產糖區域，以地理上之便利，得分爲東部之韓江流域，與南部之廣州、九龍、二大區。韓江流域包括汕頭附近及潮安一帶，蔗田極多，每屆陰曆十月、十一月之間，正爲甘蔗收穫期，以氣候之溫暖，每年收穫期，共三次。其種類可分紅白二種；紅種較小，含汁美而甜，多作食用；供搾糖原料者，皆爲白種，高可六七尺。全區產額，本有百餘萬擔，近則受外糖影響，頗多衰落現象。廣州九龍區，較東部區爲少年，祇四十餘萬擔而已。

福建省之產糖地，以東南部一帶，頗適宜於甘蔗之栽培。廈門道之泉州與汀漳道之漳州，即其中心也。

四川省亦爲蔗糖出產重要中心地，產額佔全國三分之二。川、南、川、西一帶，皆爲甘蔗之栽種地，內江、資州、資陽、簡州等，尤其要區也。所栽之甘蔗，有紅蔗、白蔗二種：紅蔗供食用；白蔗則爲製糖之原料。前年曾有輸入美洲及東印度蔗種，以爲改良之圖。惟以他種關係，未能成爲事實，是所惜耳。

第二節 製糖業

中國新式製糖業，有宣統二年設立之廣福種植公司與華洋糖廠，民國元年創辦之黑龍江呼蘭糖廠，民國十年成立之中華民國製糖公司，民國十一年設立之濟南黃台橋溥益糖廠等。每年產糖能力，連同各小規模者在內，據日人之調查，全國以四川省爲第一，產額達三億斤；廣東七五〇〇〇、〇〇〇〇斤，佔全國第二；江西省三〇、〇〇〇、〇〇〇斤，又次之；福建居第四位，年產糖一五〇〇〇、〇〇〇〇斤；湖南及其他各省約一〇〇〇〇〇〇〇斤；總額共約四五〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇斤。

第三節 貿易

糖類輸出貿易，在最近數年來，極爲不振。如赤糖一項，民九之出洋總數達二七二、三二七擔，值一九九、四二〇兩；銷於香港者有二二八、五二一擔；日本三四、九五五擔；新加坡八、四二五擔等次之。十四年降至六八、五九

二擔；而民十五祇九、七二九擔而已，可謂一落千丈，蓋受香港市場之打擊也。十六年之港銷，較上年爲良好，亦僅輸出至該地者，有三四、五〇七擔值二〇二、〇〇六兩，惟與昔日之二三十萬擔銷路，不足言也。

第四章 粉絲、通心粉 (Vermicelli, Macaroni)

第一節 粉絲與通心粉之產地

粉絲與通心粉係用米麥豆等粉類製成，全國各地皆產之。就中山東一省最為發達，而煙台一埠之粉絲業，尤稱全國第一。附近各地，如黃縣、招遠、福山、與甯海地方，皆為有名之粉絲與通心粉出產地，多半集中於煙台、龍口、一帶。運輸出口者，年在二十餘萬擔以上。其他又如奉天、吉林，以及漢口、廈門、油頭等，對於粉絲與通心粉之製造，亦頗重視，而極有成績。

第二節 貿易

粉絲與通心粉，多銷於香港、新加坡、爪哇、印度、斐律賓、日本等地。民國二、三年間，輸出數已達二十餘萬擔以上，價額值二百餘萬兩。民國七八八年時，漸見衰落。民十而後，該項貿易，復趨於發達之徑，價格亦看漲。故十三年之輸出數量，雖仍較民國之六七、六三〇擔為減少，而價額則有三、五九三、五六二兩。十四、十五、二年稍疲。十六年之

出洋數量，大為發達，全年有三十四萬四千擔，值五百三十七萬八千兩。香港一埠之銷路，自十五年之二一〇、四五七擔，二九一八、三九八兩，增加至二八八、二二二擔，四七三四、三二四兩，新加坡三〇、四〇八擔，三三九、四一七兩次之。其他如斐律賓之七〇四九擔，九一六一二兩，爪哇之六五七一擔，八〇四五二兩，印度之四一〇二擔，五二五一七兩，日本之四五八〇擔，四八三〇六兩，又次之。

烟台與龍口，為全國粉絲、通心粉輸出口岸之最重要者。十四年各埠原貨出口數量為四〇二、三八二擔，值五〇五三、三三五兩；龍口有一六五、七九四擔，二三一二、八二六兩。烟台一六四、五三一擔，值一六九七、九五〇兩；廈門之二五、一八〇擔，六一六、四〇六兩與漢口之二〇、四五三擔，一七二、七〇三兩，次之。十五年龍口輸出之粉絲，通心粉較十四年為盛。烟台約略相仿。至十六年，龍口粉絲通心粉之輸出額，已有二六二、一三七擔，值四七一八、四六六兩；與十五年之二〇〇、八一九擔，三〇一二、二二八五兩相較，增加六一三一八擔，「七〇六、一八一兩。烟台為一四〇、四六八擔，值一九〇四、七四八兩。全年各埠總出口額達四八三、五一四擔，值七五九九、九〇九兩，推為歷年來最良之紀錄。

粉絲通心粉輸出數量及價額表

民國二年	二八四、〇七三擔	二、七七三、九七六兩	民國十年	二六〇、四九四擔	二、八一二、九八八兩
民國三年	二三六、七五三	一、九四七、五九三	民國十一年	二六三、四五九	二、八二一、〇〇〇

民國四年	二八七、六三〇	二、五五五、六三四	民國十二年	二五五、九〇二	二、九一三、〇〇〇
民國五年	二三三、七三一	一、八九八、九九四	民國十三年	二七六、九八六	三、五九三、五六二
民國六年	二〇四、四九五	一、六〇四、四五七	民國十四年	二六九、七八八	三、四八八、二二五
民國七年	一八二、三七八	一、五三二、五六四	民國十五年	二六三、一八六	三、三七四、三二九
民國八年	一一八四、七三八	一、四〇七、二一〇	民國十六年	三四四、〇八三	三、三七八、六三三
民國九年	二三二、六六八	二、〇六六、二一九			

第五章 紙煙 (Cigarettes)

第一節 製煙業之現狀

紙煙一物，在昔皆屬輸入品，每年銷耗者，爲額極鉅。國人最先設廠製造者，當推南洋煙草公司，北平、天津、營口、濟南、青島、漢口、南京、鎮江、杭州、廣東、雲南、暹羅、新加坡、安南等地，均設有支店，營業極爲發達，所出各種紙煙牌號，名目繁多，如大長城、小長城、大大喜、大喜、七星大鑽石、小鑽石、銀紅、美人百雀、雀喜、伯爵、大愛國、金字、大飛船、大雙喜、小雙喜、天門、寶塔、金麒麟、大統一、地球、大兄弟、小兄弟、八角、和平、多寶、黃馬、南屏、鳳尾、馬車、民衆、九如、佛手、大富國、撲克、無雙、古畫眉、蝴蝶、白熊、新美女、飛艇、壯士、八角、大聯珠、小聯珠、金馬、紅金龍、白金龍、梅蘭芳等，皆極爲民衆稱道。自五卅之後，爲抵制外貨而成立之紙煙公司，達六七十家之多，新明、美呂仁、新中國、華成、福昌、東海、和合、大和、中國、民生、大德、福成、克富、涼州、太平洋、崑崙、德隆、大中國、華商、昌興、大達、新華、協成、和興、大東、華生、國民、南華、南林、中和、華德、百代、上海、三友、華民、惠通、合成、聯成、交通、振益、公平、美利、中南、永昌、南方、美星、民華、人和、三興、華昌、利興、中國、統益、江浙、華興、唯一、中國福、新瑞、倫紹、華昌、明金城、大有、中國大同等是也。以現狀而論，華成與福昌二

家，營業較為發達，華成所出之美麗、金鼠月份、興福昌之五蝶、五子、至尊、多福、興紅雲牌等，銷路頗稱佳良。此國內華商紙煙製造業之大概情形也。至於外商在內地設立之製煙廠，自以英美煙草公司為首屈一指，上海、漢口、皆設有工廠，從事製造，營口、哈爾濱、奉天等處，則有支店，其出品如大前門、小前門、古印、天橋、惠禾、雙刀等，營業頗不惡。

第二節 紙煙製造之手續

紙煙之製造，凡規模之大者，設備極為完全，有配葉部、加香部、切葉部、培菸部、捲煙部、包煙部、入盒部、裝箱部等。其手續先以菸葉運入配葉部，內分揀葉組與折骨組，揀葉組之職務，為選擇菸葉，將黃而老者揀去，而以黃色嫩葉，交入折骨組，折去菸骨後，即可入加香部。香料係用機器噴射，由切葉部細碎之，使成煙絲，經培菸部之暖氣，培焙軟後，再用冷氣爐吹冷之，即可運入捲煙部矣，以捲煙機之便，得捲切成煙，復入焙房，從事焙烤，再入包煙部，分別用罐裝或以紙包，而由入盒部包封蠟紙，裝入盒內，經裝煙部置入大箱，點交貨倉，其事始畢，即可運入市場，而供民衆之消費矣。

上述手續，祇為大規模之製煙廠而已，其他小資本者，設備非常簡單，祇二、三捲煙機，其主要之費用，除相當之工人、煙葉捲紙、香料、錫包外，並無其他耗費，故極輕而易舉。據查煙葉三磅，可製紙煙一千支，每磅煙葉之價格，

普通者值三錢四分，則紙煙千支之成本，祇一兩有餘，而售價則平均有六兩之多。故其贏利，較其他各業爲便，以此最近小規模之製煙廠，有如風起雲湧，大利所在，羣皆趨之，無問其然也。

第三節 貿易

紙煙之輸出，初不過十數萬兩。如民國二年之出口總數爲七、四四七，擔值關平銀三六四、六八一兩；至民國七年，即增加至二、一七四、一七五兩；民國八年有五一、四三二，擔值六、四五八、二〇三兩；民國九年爲八、六六七、五四五兩。其輸出各國，以新加坡爲最鉅，佔四、二六四，擔值五、八六四、九〇七兩；香港次之，爲三、九五七，擔值一〇〇、三五〇兩；爪哇等處之五五、二五八兩；俄國之四〇一八〇一兩；日本台灣之三三二、一三〇兩；朝鮮之一七七、七八五兩；暹羅之一二九、五二三兩等又次之。及民國十六年，紙煙之輸出事業，更多發展，全年出口總數達一七、七七〇、七五四兩，佔各種土貨出口數百分之一又九三。就中銷於香港者，有三九、八九四，擔值八、九〇三、四〇二兩；與十四年之一五、八〇〇擔三、二四二、二九八兩，十五年之二、三四二三，擔四、九二三、一五三兩相較，極多進步，故已超越新加坡而爲華煙之第一銷場。新加坡二、一、一九三擔四、八八四、六七〇兩次之；日本暹羅又次之。至於該項貨品之重要輸出口岸，上海一埠，最佔大宗；十四年爲三一七、六四一，擔值七三、三七五〇七一；六六年又自十五年之三七二、〇八九擔八、五九五二、五五九兩，增加至三九四〇六〇擔九一〇二七、八六〇兩。大連

居第二位；十六年之輸出數，有二、七、八六二擔，二、二二八、九六〇兩。天津之一、五、三〇四擔，一、八三六、四八〇兩，第三。他如漢口之三、四四八擔，四四五、一三六兩；膠州之二、八、一四，擔二八、一四〇〇兩；哈爾濱之一、一、一〇，擔一二五、七三九兩；牛莊之八九七擔，六、四三四二兩；甯波之五九二擔，四、一四四〇兩；蕪湖之三三一擔，二、五〇五二兩，等又次之。

紙煙輸出國別表（單位關平銀兩）

年 次	香	港	南 通	羅	新 加 坡
民國七年	一、二七一、七六八	六、八一七	一四四、四八二	五四二、五九七	
民國八年	八五四、七九六	三五七、一一六	二六六、六五七	三、七五七、六五一	
民國九年	一、〇〇二、三五〇	一二九、九五九	一二九、五二三	五、八六四、九〇七	
民國十四年	三、二四二、二九八	七七二、四六四	二五九、六八七	七、一二一、一五五	
民國十五年	四、九三三、一五三	七七五、七九八	一、五三八、〇四〇	五、四九五、三四〇	
民國十六年	八、九〇三、四〇二	五二三、二二九	一、一二六、四九二	四、八八四、六七〇	
民國七年	瓜 哇	朝 鮮	日 本 台 灣	其 他	合 計
民國七年	六〇、一九一	二五、四四五	三五、三四〇	二、一七四、一七五兩	
民國八年	六一三、二三二	一二四、四三〇	一四五、一七一	六、四五八、二〇三	

民國九年	五五五、二五八	一七七、七八五	二三二、一三〇	八、六六七、五一五
民國十四年	一、九三六、五四二	二三八、〇一六	一、二五八、八八五	一五、二四五、〇二九
民國十五年	六六一、七九七	三〇九、二八六	一、五一四、八一一	一五、四一五、八〇一
民國十六年	五五五、七八六	二二〇、九九三	一、四九九、二三六	一七、七七〇、七五四

第六章 水泥 (Cement)

第一節 水泥之用途

水泥一稱洋灰，通常一般人士，每名之曰水門汀，照其譯音也。其原料為石灰石及白泥等，用化學方法後，水澄洗之，燒為堅塊，復以機器碾碎，為一種青色粉末。用時更於其中和入砂子石渣等，以水拌之，乾後堅硬如石，經水愈固。近世建築上以及一切土木工程上皆用之；如工廠、房屋、道路、橋樑、碼頭、船塢、枕木地道等，咸以水泥為極良之材料。蓋既可耐久，又能防火，價格亦較廉，尤以大都會繁盛之區，需要最鉅。

第二節 水泥製造業之現狀

我國水泥之製造，以唐山啓新、上海水泥公司、湖北水泥廠三家為重要。唐山啓新洋灰公司，係光緒十六年成立，每年所出之水泥，約有四百萬桶，每桶計重四百磅，合三百斤，惟目今祇出二百萬桶，以需要不多也。該廠為華商創辦水泥業最早者。上海水泥公司，係朱葆三、張退庵、喬庵等所發起，資本二百萬元，發電各機，均購自德國。

之祕里生廠，每日可出水泥一千二百桶，年約四十萬桶。湖北水泥廠，年亦有二十萬桶，現暫停工。他如九龍澳門之青島水泥廠、青島之洋灰水泥公司，則皆屬外人設立者。最近華商創辦之水泥公司，又有江蘇南京之中國水泥公司，無錫太湖水泥公司等。中國水泥公司，為上海之包工姚新記所設立，資本一百萬元，廠在南京附近之龍潭，每日可產水泥四百桶。太湖水泥公司，則為無錫絲棉巨商薛南溟所創辦，資本一百五十萬元，規模非常宏大，每日出品有一千桶。

第三節 貿易

我國除自製水泥外，每年由國外輸入者，自不在少數。况今後內國各種建設事業，皆逐漸擬設計劃，從事大規模之建設，則水泥之需要，自必更為增加。惟年來輸出之水泥，頗有足述處，十四年為三九七〇三六擔，值關平銀三八五、三八六兩；十五年增加至四六四、四二〇擔，值四六三〇三七兩；十六年更達五〇二、五六三擔，值四七六、三八二兩。銷往日本者有二七七、九六九擔二七八〇〇四兩；香港一三一、四六九擔，一一〇、九四四兩；爪哇九〇、一〇一擔，八四、四二五兩等是也。輸出口岸，自推大連與天津為最盛。十六年天津輸出之水泥有一、六九七、五一九擔，值一二四二、一一五兩。大連七一六、五三九擔，七一六、五八七兩。其他如上海、漢口、等地又次之。

第七章 陶磁業 (Earthen ware, China ware)

第一節 陶磁業發展之沿革

陶器亦稱瓦器，以細膩之陶土研爲細末，和以軟土，入水澄之，待其乾後，和水捏成器物之形，入窯燒之，即成生瓷，加釉再燒，是謂瓷器。（其麤者但稱瓦器）俗亦稱磁器，又名瓷器。據五雜俎所載，以河南磁州窯最多，故相沿名之。

中國陶磁器一業，極爲發達，當紀元前二千九百年黃帝之時，已粗具規模；如黃帝以甯封子爲陶正，周時陶人，亦設有專官，窯事遂備。晉代有標磁之制，沿及先唐，頗有相當之發展。當時之著名磁產地，推浙之越州，世稱越窯。宋代之際，分官窯與民窯，鄭州之柴窯，定州之定窯，開封之官窯，龍泉之官窯，汝州之汝窯，皆盛極一時。後宋真宗復於景德鎮設立官窯，以製御用品爲目的，製作種類極佳。元代之窯，皆稱元窯。明代窯業，頗多集於景德鎮者。有清之世，仍設御窯於景德。康熙時代，尤稱鼎盛焉。

第二節 產地

中國陶磁器之產地，各省皆是。如江蘇省之宜興、張渚鎮、蘇州、儀徵、蕭縣；浙江省之衢州、杭州、象山、嘉善、龍泉、溫州、餘杭、餘姚；安徽省之祁門、封州、宿州、泗州、婺源；江西省之景德鎮、南豐、九江、萍鄉；湖南省之龍山、岳州；四川省之成都、大邑；甘肅省之華亭；河南省之陳留、鄭州、裕州、懷慶、許州、汝州、汝甯、開封、洛陽、陝州、鄧州、登封、宜陽；陝西省之南山、白水、耀州；山西省之河曲、平定、平陽、榆次；河北省之朝陽、定州、磁州、武清；山東省之鹽清、博山、鄆縣、嶧縣；福建省之廈門、安溪、拓洋、琅崎、北和、邵武、四都、泰甯、德化、同安；廣東省之潮州、欽州、佛山、廣州、連州、石灣等是也。就中尤以江西省之景德鎮、福建省之德化，及廣東省之石灣，為有名。景德鎮與德化，為主要磁器出產地；石灣則以陶器聞名。

景德鎮在江西省梁浮縣之西南，居昌江之南岸，磁器一業，創始極早，遠在陳際，中興於宋，及元、明時代，於以大盛。人口雖祇三十餘萬，而從事磁器製造事業者，約佔三分之二。市街上之店鋪，幾盡為磁器行。所用原料，均產於附近各地，有土、石、二類。土類有浮梁高嶺、星子高嶺、樂平老山，與耐火土之別；樂平老山與耐火土，產於該鎮南面之樂平縣；星子高嶺，採自鄱陽湖西北部之星子縣；浮梁高嶺則為浮梁縣東港之出品。高嶺土之粘力極弱，不能單用，須與其他石類混合後，始可運用；樂平老山之粘力較強，可作中等杯用，耐火土又為匣鉢以及其他耐火

品；此土類之大要也。石類亦有釉果、祁門、餘干、三寶蓬等品。釉果產於浮梁縣東鄉；三寶蓬則出於景德鎮東北二十里地方。其中除祁門石、餘干石之粘力可以單用外，餘皆稍遜。出品如碗、碟、杯、罐、屏風、花瓶、帽筒等日用品裝飾品皆盛，食器尤多。以銷地之情形，得分為二種：素礮專銷內地各省；運往外國者，則於白礮上繪紅綠花彩等。每年銷路，即以內地而論，已達三四百萬元；廣東省最佔多數，年值六十萬元；湖北、湖南各五十萬元；上海、甯波各三十萬元；福建及南京十萬元；浙江蘭谿十萬元；四川省十萬元；北部各省共四十萬元。景德前設有官礮，專以製造內廷用器具為業，產貨之精，推為逸品，上刻有五爪龍記號，以及年號月日等字樣。民國成立之後，改為官民合辦，稱江西瓷業公司，資本共二十萬元。

鄱陽之磁業，遠不及景德鎮，江西瓷業公司之分廠設於此，從事製造各種日常用品，有石灰窯一座，長一百二十三米，突內有新式機器多具，對於該縣將來瓷業發展前途，關係甚大。

橫峯縣在豫章道之北，舊名興安，其瓷業之製造，始於明代，據史稱明處州民人瞿志高等於弋陽縣太平鄉陶，會飢民亂起，嘉靖年間避亂於此，始改興安縣，開興安窯。其製品如花盆、帽筒、以及食器、罐類等甚多，花色極鮮豔。

九江陶磁出品，以土器類磚瓦為多，銅瓦與琉璃瓦，其中最著名者也。

萍鄉陶磁業，以上埠地方為盛，製造之法，皆用日本式，所製美術品，名目繁多。

宜興陶業，久著盛名，產品有粗泥、白泥、青泥、黑泥、四種。黑泥與粗泥，皆用以製作鐘類花瓶等件。紅色、暗紫色、或暗黃色為多。盆類溺器，則以白泥為之，有光澤，頗潤滑。青泥亦名紫砂，有硃砂、豆砂、香灰、橙黃、海棠、竹葉等名目。所製茶杯、茶壺、茶碟、飯碗、酒杯、筆洗、花瓶、花插、帽筒等甚有名。配合高雅，光澤又不甚強烈，形式復多變化，雕刻精細，而富美術思想，是其特色也。致宜興陶業之發達，其最大之原因，約有四端：一也，窯場西南及附近諸山，有多量泥土之出產，其性質富黏着力，製品堅固；二也，宜興陶業，起業極早，故多熟練之職工；三也，附近各山，多松枝出產，燃料可無虞其缺乏，價格又低廉；四也，附近河流縱橫，製品與原料之搬運，悉利賴之，運費可以節省。

福建省所出之陶磁器，以白色素地為多，其品質之優良，據專家之考察，尤推全國第一，惟售價異常昂貴：德化在廈門道之北部，產品尤屬名貴，而以花瓶、花盆、飯碗等為多，光澤適宜，雕刻精良。

廣東省盛產土器，惟品質並不佳良，所出花盆、坐椅等甚多，是深綠色或青色。

第三節 貿易

磁器之輸出貿易，民國九年有二四六〇三二擔，值四九二三、一五七兩。香港之銷路佔八八、七八四擔，值一八二八、九七〇兩。新加坡九〇、七八四擔，一七九五、九六七兩。暹羅三〇、八一〇擔，六一四、五九二兩。安南二九、四六八擔，五八六、一〇七兩等是也。來原以汕頭為最盛，民九為一六〇、八〇六擔，值三二九八〇六八兩。九江三四

七〇一〇擔，九五九、三六〇兩，與九龍之四六、四二三擔，九三六、一四三兩，次之。廣州一七、九八三擔，四一、四六四八兩又次之。至最近數年來，國外市場，頗見衰落。十四年出口之粗細磁器，尚有二〇〇、二六六擔，值二、二八九、六九六兩；十五年為一七、三五八四擔，二〇五、二三〇兩；十六年又降至一九一六、七三二兩。此無他，內國磁業製造之不精，完全用舊式，每不事新法，兼以資本之缺乏，金融之滯塞，成本之昂貴，運輸之困難，稅捐之繁重，遂不能與外貨競爭。因致銷路日蹙，長此以往，勢必不能立足。為今之圖，政府方面，急宜特別獎勵監督之，總使成本低減，出品精良，始能於外貨相競，而恢復以前之盛況也。

第八章 漆器 (Lacquer ware)

第一節 漆器之產地

中國漆器之出產，以福建省之福州與浙江省之甯波為著名。他如北部山東省之萊州、河北省之北平、陝西省之西安、中部江蘇省之蘇州、鎮江、揚州、湖北省之漢口、江西省之贛州、南部廣東省之廣州、貴州省之貴陽與大定等亦盛。

福州之漆器，為該地方主要工藝出產品，木質佳良，且又堅牢，模樣新齊，雕工精巧，是其特色也。其製品有茶托、花瓶、盃以及其他各種箱類。

第二節 種類

漆器之種類甚多，通常有平漆與花漆兩種。平漆係指朱漆、黑漆、光漆、素漆而言；花漆則有金漆、剔紅、螺鈿、雕漆之別。雕漆一項，尤為北平名產。金多泥金、描金、灑金之屬。剔紅器具無新舊，以朱厚色鮮紅潤堅重者為良，有

標霞與彩漆之不同。螺鈿漆器，江西一帶多行嵌竹，山東萊州盛嵌銀，普通嵌貝者亦多。

第九章 草帽綫附草帽 (Straw Braid)

第一節 草帽綫之產地

中國草帽綫工業，始於前清同治初年，初僅限於烟台一區，後推及各地。凡產麥諸省，均有草帽綫出產，山東、河南、河北、山西等尤為重要。就中山東一省，最稱發達，東部萊州、平度、海倉、朱橋、白沙市、黃縣、甯陽、中庄、大王山地方、泰安、新泰、蒙陰地方、郯城縣地方、壽光、清水湖、樂安上家道口、許家莊、利興、黃河及小清河下流一帶之地、新城、灘縣、昌邑、陽新、王台附近、曹州、朝城地方等是也。河北省之青縣、尚家林、鳳凰店、蘇口、僧口、興濟地方、遵化州一帶、開州、南樂、韓張等大名府附近地方，與河南省之柘城、大康、朱橋、歸德，以及黃河沿岸地方等，亦為重要草帽綫出產之區。散集市場：山東省境內，以沙河鎮、浮邱、寧陽、馬頭、陽信、莘莊為大；河北省及散集於興濟、玉田、辛莊等地；鹿邑與惠濟橋，又為河南全省草帽綫之總集地。各散集市場散集數量，可為左表。

散集場名稱	散 集 量	散集場名稱	散 集 量
沙 河	三〇、〇〇〇箱	浮印及寧陽	八、〇〇〇包

馬頭	二、〇〇〇包	壽光樂安新城	三、〇〇〇包
陽信	四、〇〇〇包	興濟	一、二、〇〇〇包
辛莊	四〇、〇〇〇包	玉田	二、〇〇〇包
鹿邑	四、〇〇〇包	惠濟橋	一四、〇〇〇包

沙河產每箱重五十斤，其他一包平均一百三十斤；換算之，散集總量爲一三〇、七〇〇擔。

第二節 草帽纓之種類

草帽纓之種類極多，最初輸出時，不下百餘種；惟以現在之情形觀察之，約可分爲二類：所稱爲圓草纓與扁草纓是也。圓草纓又得區之爲平邊與花邊二種：平邊係用麥桿白色部製成者；以麥桿黃白色部分共編者，稱花邊，以纓面成黃白之紋也。扁草纓亦有毛邊與平邊二種：毛邊即爲纓邊有稜者；纓邊平滑，則爲平邊。此大略之區別也。惟各纓所用麥桿數，皆有不同，少則四根，最多有二十二根，通常什九用七根。遇有染色草時，總以深黃、淡綠、深藍、褐色等爲多。而輸出時，又有各種名稱，如興濟圓草白纓、辛莊圓草花邊、沙河扁草平邊、與沙河扁草毛邊等。興濟圓草白纓爲河北省興濟地方之出產物，而散集於興濟市場者；辛莊圓草花邊，產於河北省大名府地方，多散集於辛莊市場，惟每操於萊州商人之手。沙河遍草平邊，以沙河爲中心出產地，集於沙河市場。

第三節 草帽綫之品質及用途

草帽綫之優良者，必具有以下之數項條件：

1 原料優良 4 邊緣整齊

2 製造精細 5 平面平滑

3 闊度一定 6 染色鮮明

今以中國所產之草帽綫與日本、意大利、瑞士等國出品比較之於下，分爲上中下三等，以示其優劣；

參照東洋貿易研究一〇六三頁

	中國產品	日本產品	意大利與瑞士產品
意匠	下	下	上
編方	下	中	上
耐久力	中	下	上
光澤	下	上	下
染色	下	上	上

需要高 上 上 中 下

價格低廉 上 中 下

中國優良草帽綫之出產，推山東省沙河地方為中心，大名府、興濟、信陽地方次之，其他各地所出，不過粗製品而已。其主要之用途，即製為草帽，銷路頗盛。

第四節 貿易

草帽綫之輸出市場，以天津與膠州為重要。普通有花草帽綫與白草帽綫二種，輸出外洋數量，推民國八年為最盛，共達十萬擔，值七百七十萬兩。英國銷路佔二〇、一四三擔，值一、四一七、四一八兩；法國一〇、九四五擔，八三六、一一五兩；日本二六、九二五擔，二二五六、六七〇兩；美國四一、七七一擔，二九九九、一三七兩；而意大利、比利時、加拿大等則又次之。最近數年來，歷見降落：民國十二年尚有八萬三千擔，約值五百四十萬兩；十四年即降至五萬六千六百擔，值三百八十萬兩；民十六年又自十五年之四萬八千擔，三百萬兩，跌至三萬八千擔，二百六十萬兩。就中花草帽綫佔二二、三〇〇擔，值一、一三〇、五七〇兩；白草帽綫一五、七二〇擔，一四八一、五二二兩。花草帽綫之銷路，以日本為盛，有一三、一二八擔，六五七、六一四兩；美國之二、九〇七擔，一四八、八七八兩；法國之二、五一二擔，一三〇、六二六兩；又次之。白草帽綫亦以日銷為大宗，十六年為五九一九擔，五五一、三八七兩；美國之二、

三三六擔二二二、三七五兩香港之二、一五八擔二〇、三七四兩法國之一六二八擔、一五四、七三三兩英國之
一、四一三擔、一三五、一八四兩等次之。

草帽纏輸出數量及價額表

年 次	數	量	價	額(關平銀)	年 次	數	量	價	額(關平銀)
民國二年	一〇一、〇三七擔	五、〇七四、〇四三兩	民國十年	一五四、三九八擔	三、四五一、五七九兩				
民國三年	四九、二八五	三、〇七九、八〇九	民國十一年	七九、五五七	五、二八一、二四〇				
民國四年	四五、一二六	二、八六三、三八七	民國十二年	八三、九一一	五、四四四、一二三				
民國五年	五七、〇八〇	三、一四三、二七五	民國十三年	七六、五五二	五、五一六、一五四				
民國六年	四〇、五二四	二、四〇六、六八三	民國十四年	五六、六〇六	三、八九五、八一八				
民國七年	五三、三三八	四、一六七、六五九	民國十五年	四八、七四〇	三、〇五〇、四二一				
民國八年	一〇二、六〇四	七、七一七、五八七	民國十六年	三八、〇二〇	二、六一二、〇九二				
民國九年	五五、〇六五	四、四八七、四九〇							

草帽輸出國別表

年 次	項	數	兩	年	份	項	數	兩	數
民國二年	六、四四二、七四三	一〇六、二〇〇	民國十年	四、六三五、四三六	八二、七五二				

民國三年	二、一二五、一一八	三二、六〇六	民國十一年	一〇、二〇九、二四一	一六六、二二七
民國四年	二、三一六、九八一	五九、八二六	民國十二年	八、六〇一、六二六	一六四、三九一
民國五年	二、九一三、〇〇五	一一五、三一八	民國十三年	五、四二二、七八五	一三三、九七一
民國六年	二、一三〇、七三六	六〇、八一七	民國十四年	六、一六九、六八九	一六七、一九六
民國七年	八四九、二九二	二〇、九三六	民國十五年	四、一四五、四五四	一二五、五八九
民國八年	四、五八七、五五〇	六二、六四一	民國十六年	五、三四五、〇九二	二一八、六三一
民國九年	五、〇九五、六三五	一〇五、六九四			

第十章 蓆地蓆 (Mats, Matting)

第一節 蓆與地蓆之產地

蓆與地蓆工業，以江蘇省之蘇州、浙江省之甯波、與溫州、以及廣東省之城附近一帶為盛。蘇州之蘭草蓆，本為歷代宮中用品，名列貢物，質地優良，夙為全國著名，特稱蘇州蓆。現蘇州附近栽培之蘭草，每年產量約有一千萬擔，織之為蓆，年可二百萬，其銷路遍於南北各省。最近廣東、浙江等省，關於蘭草類似植物之栽培頗盛，其結果蘇州蓆之銷路，不無稍受影響，販運範圍漸次狹小時，至今日竟有不振之象，故對於該項植物之栽培，極宜多加注意，否則必致一蹶不起也。

殘蘭草係多年生草，一稱燈心草，植於水田，莖圓密生，有粗、細二種，一長四五尺，一長丈許，呈綠色，每當暑夏之際，莖上部開黃褐色細花，莖中有白瓤，所稱燈心是也。其莖部即為織蓆之主要原料。蘇州蘭草之栽培地，在蘇州城之東南約三至四十里一帶，其地附近太湖，地土低濕，冬季乾燥，對於灌溉，極為便利，而蘭草刈取後，又適合整齊、連根等之培植，一舉兩得，獲利無算。通例於夏歷九月初，即寒露節，移植蘭田，至翌年大暑或夏曆五月末收

穫。每畝可植二千四百株。肥料以人糞、豬糞、灰及豆餅為宜。正月之際，施用人糞、豬糞、灰宜於二月間，收穫前之肥料，多用豆餅。每畝收穫量，自七八百斤乃至一千三百斤不等。其收入二年間蘭草六十元、荸薺七十元、蓮根四十元，合計一百七十元，每年平均得八十五元。肥料需十元，移植施肥除草收穫諸人工資約二十元；以此推算，每畝每年可穫利五十元。而附近之水田，年雖有稻、麥二項收入，亦不過三四十元，與蘭田相較，自然多所不及，故蘭草之栽培，為非常有利之事業，宜其生產與販路，得無限擴張也。

蘇州之蘭草與其織成之席，以帶青藍色者為最上等，黃青色者次之，黃白色為最下等。惟為時既久，每易變色，是其缺點。販賣習慣，常有草行之設立，其栽培地之西北六十里有滸墅關者，尤為重要之散集地。金聚昌、金兆昌、金義昌、義和永順等七戶，皆以收集大宗蘭草為營業。而附近之黃埭角、金市角及望亭等地，一般農民，每以織席為農餘之副業；其戶數約五千餘，織機達一萬三千。重要之原料，自推蘭草，多由草行買入，其產品即售於席行。席行之設立，蘇州市有五所，滸墅關二十二所。

浙江省之蘭草產地，以甯波附近及台州一帶為盛。黃姑嶺尤為甯波附近各產蘭區域之首，年產額自十五萬乃至二十萬把，從來該地方所產之蓆，均屬短尺物。香港與澳門，其主要之輸出目的地也。數年前有輸往日本之計劃，逐漸改良寸法，以圖一致，品質方面，藉茲普及，成績尚稱優良云。

溫州在浙江省之東南岸，為該省著名貿易港之一，素以木炭之輸出聞名，最近數年來，對於花席一業，極多

發展，每年輸移出額，達二十餘萬元；國內如廣東、福建、江西、安徽、江蘇、湖南、湖北、四川、山東、河北、東三省各地，國外如暹羅、緬甸、日本、美國及南洋方面，皆有溫州花蓆之足跡。其製造工場，有中一機織花蓆廠、振興機織摺蓆廠、中興織蓆工廠、甌美織蓆廠、果記花蓆廠等。中一機織花蓆廠係民國七年沈挺傑鄭振中等創設，有織機數十部，民國八年以抵制日貨關係，頗受刺戟，從事改組，採股份公司性質，集資五萬元，稱中一機織花蓆廠股份有限公司。工場在南門外虞師里，共有三分廠，織機據最近之調查，已達六百餘部，女工二千餘人，花蓆、三角蓆、軟蓆、粗蓆等出品，每日計有千餘條，尤推全國之冠。製品多向上海移出，再輸出至各地焉。振興機織摺蓆廠為民國八年葉叔眉等發起，資本金八千元，工廠設在城內倉河巷，織機百餘部，女工七十人，每日可成三十餘條，出品多供附近一帶之需要，移出他省者極少。果記花蓆廠為中一廠廠主黃果初經營，織機十餘部，每日出產量雖祇二十餘條，品質頗優良。

廣東織蓆工業，以南部三角洲各地為第一；羅定縣、連灘、肇慶、及新會縣等次；東莞縣石龍、虎門、厚街、太平等地所產之蘭草，品質極為優良，產額頗盛。

第二節 貿易

近數年來，地蓆之輸出，頗不及蓆類之發達。蓆有草蓆、蒲草蓆等之別。民國十一年出洋總數為一千四百萬

條，值關平銀三百八十八萬兩；香港一埠之銷路，佔二、六六六、六五三兩；日本八三三、六九四兩；澳門二四一、四七四兩；新加坡、朝鮮等處次之。年來或盛或衰，靡有一定。如十四年輸出之草蓆蒲草蓆為五〇一六〇〇〇條，值二、一三九、六四三兩；他類蓆八〇二七、五六四條，值六一九八一九兩；二者合計，共為一三〇四三、五六四條，值二、七五九、四六二兩。十五年之蓆類市價，頗見高漲，惟內國出品無多，輸出量更為減少，祇為一二三〇五六五三條，而價額反較上年為進步，有三、四八三、九三九兩。至十六年，輸出量雖較十五年為盛，以市價之降落，價額因以減少，共為三〇三七、三四〇兩。其中草蓆蒲草蓆佔二、一六二、七八六兩，銷於香港者一八四六、二七四兩；新加坡一〇七、五五三兩；日本為五六、三三〇兩；暹羅七、一一二兩。他類蓆較十五年為進步，輸出值八七四、五四四兩；香港達六〇九、八五五兩；澳門二一五、一六四兩等是也。

地蓆多銷於香港一帶，如十五年之出洋總數為一〇二、五六三捲，值八〇〇、八九七兩；香港有二、八、九九一捲，二二九、二五六兩。惟較上年之五五、一六一捲，四七三、八六七兩，大為衰落。由於年內荷蘭市場市價之高漲，輸出往該地者，因見增加，達三一、七八九捲；二四、四五七四兩，與上年之六〇二七捲四、七七八〇兩相較，增加五倍。但在十六年復一落千丈，幾告絕跡。港銷則有一〇〇、七八四捲，值七〇〇、二〇〇兩。其來源據十六年之報告，廣州一埠佔八一、一三一捲，值五六六、五五五兩；九龍一九八五五捲，一二九、七七九兩；寧波一八九九捲，八〇七一兩；合計各地原貨出口數，共為一〇三、八八四捲，值七二二、四六一兩。

蕓與地蔴輸出數量及價額表

	地蔴	蕓	地蔴	蕓
民國二年	二一、八三九、〇八八條	一、七八六、八七一兩	二六六、二三一捲	二、〇五一、七九九兩
民國三年	二五、九〇七、三七三	一、八三九、二六六	一九四、一四七	一、四八九、五八五
民國四年	二七、一三七、八九一	一、九四一、四八一	一一五、〇〇三	八三四、八九七
民國五年	二五、七六一、五〇八	一、八三四、〇六七	一八七、六九二	一、三一三、二三〇
民國六年	三二、六〇六、七七〇	一、九〇八、四四五	七一、一二四	五五〇、三八三
民國七年	二〇、〇九六、七三三	一、一四五、九〇八	五二、二一六	四三七、三八八
民國八年	二七、二三七、三三八	一、八六八、九五五	一二五、三三二	一、〇三九、八三八
民國九年	二九、三五三、六三六	二、三五三、一八三	一八四、〇六六	一、六一四、五一
民國十年	一九、二九六、九三八	二、一四九、〇二八	九八、七四九	七八四、〇二七
民國十一年	二四、九〇七、〇〇七	三、八八四、八五四	二三一、三五四	一、七九三、一九一
民國十二年	二〇、七六〇、六八三	二、九一六、一四〇	一八〇、五〇五	一、五八七、九七四
民國十三年	一八、五四四、三三七	三、三〇九、五八三	一八九、五四三	一、五六七、三八三
民國十四年	一三、〇四三、五六四	二、七五九、四六二	八〇、〇七八	六七四、〇三五

民國十五年	一二・三〇五・六五三	三・四八三・九三九	一〇二・五六三	八〇〇・八九七
民國十六年	一五・三五七・二四二	三・〇三七・三四〇	一〇二・八二一	七二七・三五七

第十一章 紙傘 Paper Umbrella (Kittysols)

第一節 紙傘產地

中國紙傘之製造，各地皆盛，而廣州、九龍、汕頭、廈門、福州、溫州、甯波、長沙等地，尤為該業出產之中心。

湖南省對於紙傘製造各種材料之產出，極為豐富，每年出產品達二〇〇〇〇〇柄，頗佔輸出大宗，惟皆屬手工業，少有大規模之經營者，又無精巧品，均極宜多所改良。言其種類，以移出上區別之，有廣莊、漢莊、文明傘、及洋莊、四種。廣莊多銷於廣東方面，漢莊以漢口市場為盛，文明傘多赴南洋一帶，而洋莊均係向日本輸出之品。產量發達之區，自推湘江道之湘潭與益陽二地為著名；長沙次之，衡陽道之衡州與湘江道之沅江，又次之。益陽紙傘出品，每月約八萬柄，湘潭六萬柄，長沙二萬餘柄，衡州祇一萬柄。全省每年除夏歷正月休業外，依上額之六折計算，各地之出產量，合計當有一百十餘萬柄也。

湖南省紙傘之材料，以竹材為主，通常均用孟宗竹。惟孟宗竹一項品質亦極複雜，茶陵縣產者，推為最優等；攸縣在其西北，所產孟宗竹質地稍次；來陽、常德、等縣產品，質地惡劣；安化縣之產量亦多。所用之紙料，以雁皮紙為

普通衡陽道南部宜章縣盛產之品質優良。其製成之原料，係屬三義楮之類。製法甚粗雜，且原薄不整齊，是其缺點。大約每華一柄，需用之紙料，可值五分。油料多用桐油，有白色與褐色二種。洪江一帶，其主要之出產地，百斤之量價值三十元，可供三百柄之需用焉。

第二節 貿易

紙傘輸出地，年以福建省之福州為重要。浙江省之溫州、廣東省之汕頭、廣州、九龍、湖南省之長沙、湖北省之漢口等次之。據十五年之報告，福州一埠輸出之紙傘，達一六二、〇六五柄，值關平銀八八三、四八一兩，與全年各地原貨出口數六、三〇〇、九四九柄，二〇〇二、七八九兩相較，約佔百分之二十六。廣州之一八二三、四三〇柄，四四八、九二八兩；汕頭之五〇一五、一三柄，一〇〇三〇三兩；溫州之一七三七、五五二柄，三九二、六八七兩亦盛。十六年之輸出數，較為減少。福州為一、二八九、九八六柄，值七〇三、〇三三兩；廣州跌落百分之六十，祇七〇七、一五柄；一九七、一四二兩；溫州則有二〇〇七〇九七柄，四六一、六三二兩。至於國外之銷路，年來頗多進步。如十四年為一、三二三、一七一兩，十五年又增加至一、六〇一、五九七兩；香港佔一〇五一、一五七柄，四三一、三二一兩；新加坡「八四三、三七一柄，五二一、七五二兩；爪哇一、三四、九六二柄，三〇四、六五七兩；暹羅八九六、三四六柄，一八五、二五七兩。惟至十六年，以新加坡、爪哇二地華紙傘銷路之打擊，較十五年為衰落。如新加坡全年之銷路，

祇爲七三四、七五六柄，值一八二、五四五兩，與上年相比，跌落百分之二百八十以上；爪哇爲一〇八〇、〇六〇柄，二七四、七二一兩，暹羅無大上落；香港則有一三四四、八二一柄，四六〇、四三三兩。歷年來輸出貿易可如下表：

年 次 數	量 價 額(關平銀)	年 次 數	量 價 額(關平銀)
民國二年	三、六九〇、七二七柄	五〇六、九七八兩	民國十年
			四、五一六、一四九柄
民國三年	二、八二八、四〇〇	三六九、三六二	民國十一年
			五、三四五、九〇一
民國四年	三、〇四四、七二〇	四八九、一六七	民國十二年
			四、九六二、四三二
民國五年	三、五一八、三三一	六七八、三三〇	民國十三年
			四、九一三、八三四
民國六年	三、五三〇、八〇八	六五七、九五七	民國十四年
			五、〇七七、四五六
民國七年	二、二三〇、七六一	四七五、七五七	民國十五年
			五、五〇一、〇六二
民國八年	二、〇二〇、六七二	四三一、九〇九	民國十六年
			四、五六七、二〇九
民國九年	二、四九八、一〇〇	五四五、五七三	

第十一章 鎏空花邊 (Lace)

第一節 產地

中國花邊工業之中心，以山東省烟台及其附近一帶為盛。當初外國宣教師教導一般婦人為之，始漸次發展，現時所出，頗多優良之品。通常有格子花邊、與網形花邊二種。格子花邊多銷澳大利亞；網形花邊則以美國為主要之市場。其他萊州、青州、登州地方，從事花邊製作者頗多，殆已為山東特產物之一矣。

山東省以外，江蘇上海之浦東附近四周與無錫、南京地方亦盛。如浦東一帶盛行之闊紐結式花邊，與無錫之狹紐結式花邊，上海又多維也納式花邊出品。其他如江西省之九江，湖北省之宜昌，福建省之廈門、漳州，廣東省之汕頭、九龍、廣州，河北省之天津等地方，亦頗有成績之可言。愛爾蘭式花邊，係民國九年由汕頭及其鄰近地方開始仿製，據市場上之調查，該項出品較愛爾蘭本地所製為佳云。

第二節 貿易

花邊多銷於英國、美國、南美洲、澳洲、一帶，初不過十餘萬兩，民四有二十七萬兩，民七增加至九十五萬四千兩，民八更達二百萬兩；民十與十一年間，以美國、澳洲、英國等地銷路之激增，全年出口數值五百萬兩以上。近數年來，雖無若此之盛況，然仍有價值四百餘萬兩之輸出也。民國十六年為四、六九四、一二七兩，出口往美國者，估三、五九九、八八七兩，第一；英國三九一、三八〇兩，次之；他如南非洲之九九、二四〇兩，澳洲之九六、三〇〇兩，南美洲之八六、五一、二兩，加拿大之八三、三二〇兩，香港之五八、六六八兩，德國之四五、四二、六兩，意大利之四二、〇八四兩等又次之。其輸出之口岸，自推上海為獨盛，十四年有三、五四七、八三九兩，十五年增加至四〇四二、一七二兩，十六年稍有降落，為三、九八四、七八一兩，次之則以山東省之烟台為發達，十六年輸出之花邊，有七五五〇二三兩；甯波五二、九七二兩，汕頭一七四、三八〇兩又次之。

花邊輸出價額表(關平銀)

民國二年	一二三、四三八兩	民國十年	五、二三〇、二八四兩
民國三年	一四〇、六八二	民國十一年	五、六四〇、八四五
民國四年	二七四、八〇一	民國十二年	四、一一一、八〇三
民國五年	四三八、三〇〇	民國十三年	四、六三九、六八〇
民國六年	六一八、四四一	民國十四年	四、二七〇、六六三

中國重要商品

民國七年	九五四、七一三	民國十五年	四、五八五、二九八
民國八年	二、〇八〇、五九一	民國十六年	四、六九四、一二七
民國九年	二、六七八、五三〇		

第十三章 髮網 (Hair net) 附頭髮

第一節 髮網業之起源與其現狀

髮網爲以人髮製成，山東省之烟台，其主要之輸出地也。當中國髮網未爲世人知名前，歐、美、各國之需要，皆由德、奧、人士供給，視爲壟斷之品。斯特拉斯堡一地，即其最大市場之中心。清宣統年間，倫敦商人首先發見該市場有售價低廉而品質優良之髮網，頗爲驚異，不惜苦心調查之，爲時凡三載，始稍有端緒。即無意中於一髮網內覺得中國存紙一小片，該項來原於以大白，烟台髮網一業，遂一躍而聞名全球，各國洋商，皆直接往該地購買，再轉銷於歐、美、各地焉。

山東省之髮網工業，自德人佔領青島後，始稍具規模，而德人之經營，爲力極宏，對於商業扶植，彼功厥偉，髮網之編製，即其傳授者也。清末民國初年，省內布教也甚多，烟台一帶尤盛，外國宣教師等，以中國婦女之手藝，認爲特技，多所獎勵，其後遂逐漸發達，實由於產髮之豐富，人工之價廉也。初以烟台爲中心，其後輸出旺盛，漸次向西發展，如棲霞、牟平、萊陽、海陽、文登、招遠、各縣膠濟鐵路沿線之壽光、益都、濰縣、掖縣、桓台、廣饒、昌邑、昌樂、即墨、平

慶、膠、縣、高、密、諸、縣、與、濟、南、歷、城、齊、河、肥、城、禹、城、濟、陽、博、平、雀、平、甯、陽、等、以、及、鄭、城、蒙、陰、等、地、方、對、於、髮、網、一、業、已、頗、有、成、績、之、可、言。大、部、皆、向、烟、台、集、中、始、由、此、出、口；而、經、膠、州、天、津、上、海、輸、出、者、爲、量、亦、多、惟、終、不、及、烟、台、之、盛、也。

第二節 髮網之品質與分類

髮網之原料爲人髮，惟華人之髮，黑而且硬，頗不適於髮網之織造，以是必先途至歐美各國，經過製柔漂潔、染色等手續，再運回中國，從事織造髮網焉。通常首先在煙台、天津、濟南等處登陸，分散於內地，家人婦女兒童，類能爲之，蓋純爲家庭手工業也。工價按件計算，精練者每日可完畢十二件，製成之後，以一百羅或一百二十羅爲捆，護以油紙，恐受損壞也。貨品之上等者，有色澤，又明澈，帶有斑紋或紅色者爲次貨。有平式、圓式、小圓式、三種，而大小之等級，更爲繁多。顏色有黑色、深棕色、中等棕色、淺棕色、老黃色與褐色六種。中等棕色爲最多，佔全數百分之三十至三十五；深棕色自百分之二十五至三十；淺棕色百分之十五至二十；黑色、老黃色與褐色，各居百分之五至十。其運出法，以資料之輕，皆作保險包裹物寄遞，以煙台之郵局而論，每年寄出之髮網，常值二百萬兩以上，其裝入木箱交船公司運送者亦多。

第三節 貿易

髮網之銷路，以民國十年爲最盛，達七百七十萬五千兩之鉅。嗣後頗形不振，十一、十二年間，尙值五百萬兩左右，十三年減至二百六十七萬六千兩。十五年又自十四年之三百七十三萬二千兩跌至一百六十九萬七千兩，十六年祇一百二十七萬七千兩。其中銷往美國者，爲七十二萬八千兩；德國二十六萬兩；法國十二萬五千兩；次之輸出口岸，自以烟台爲盛；十四年之出口數，值一百二十一萬一千兩。十五年爲八十六萬一千兩。十六年又祇六十一萬六千兩。上海輸出者，則有六十一萬九千兩。

髮網輸出價額表（單位關平銀兩）

年 次 數	量	價	額	年 次 數	量	價	額
民國二年	七四〇兩	民國七年	七一九、三一九兩	民國十二年	四、八三九、五一四兩		
民國三年	一九、〇九九	民國八年	一、八〇五、〇九二	民國十三年	二、六七六、七三六		
民國四年	二〇七、一七三	民國九年	二、八五八、七三二	民國十四年	一、七三二、八二七		
民國五年	四二三、二七二	民國十年	七、一七五、三一六	民國十五年	一、六九七、五三八		
民國六年	六五三、三五四	民國十一年	四、九四二、二二九	民國十六年	一、二七七、四四八		

頭髮輸出數量及價額表

年 次 數	量	價	額
民國二年	二七、五〇九擔	一、〇五八、三五七兩	民國十年
		一八、二三八擔	
			六七〇、三八九兩

民國三年	一四、四五一	三八一、九一五	民國十一年	二三、四四〇	八二七、九〇六
民國四年	一四、三九四	三三八、四八三	民國十二年	三〇、〇三九	九八三、四六三
民國五年	一六、六七二	三九四、〇四九	民國十三年	二八、二〇二	一、一三六、三四九
民國六年	二二、二四四	五〇二、七六二	民國十四年	三二、四五一	一、三〇〇、二三四
民國七年	一四、三八二	三五七、七一〇	民國十五年	三五、六四一	一、五八七、七四七
民國八年	二四、五三七	六三八、一九一	民國十六年	三一、八二四	一、四四六、一六六
民國九年	二〇、七七二	五八〇、八七七			

第十四章 火柴 (Matches)

第一節 火柴之種類

火柴爲日常必需之品，日本稱爲燐寸，即以細木條蘸取燐硫以及其他易燃之品，藉化學作用，經磨擦後，生火之物也。當十九世紀時，歐洲人士，對於火柴之製造，已頗流行，現今通用之品，約而計之，可分爲二種，所稱紅頭火柴與安全火柴是也。我國最初多用紅頭火柴，即最近內地一帶，仍有用之者，其製法爲以木條蘸已溶之硫黃，復以燐質綠酸鉀及膠水紅料等製成之糊塗之，乾燥後，不論何處，一經磨擦，即能生火，是爲奧人 Sreschel 氏所發明者。而安全火柴即爲瑞典人 Lundstrom 之創始物，製法與紅頭火柴相彷彿，惟糊內無燐質，而以硫化銻一物以代之，及雜有重鉻酸鉀、鉛丹等而成。但該項火柴不及紅頭火柴之便利，必須與匣面所塗之紅燐及硫化銻一磨擦，始得生火，其利益處，在能使火柴安全，而無自燃之弊也。

第二節 火柴製造現狀

火柴製造事業，以並不需多大資本，工程較易，往往個人類能辦理之，又無需鉅值之機器，與夫熟練之工人，以故我國製造火柴者，各大城市皆有之。惟最初設廠製造而為大規模之經營者，當推上海之熒昌火柴廠。嗣後江蘇之熒昌、鴻生、中華、利民、裕昌、耀揚、通燧，浙江之光華、正大、燧昌，安徽之淮上、大昌，四川之惠昌，山東之振業，河北之丹華等，以次設立，太小計有九十餘廠。熒昌所出之上海、漁樵、松老、三老、金鼎、雙剪、保險、封王、農夫、嘉禾、元寶、童鼓、雙斧、鴻生之天女散花、火爐、定軍山、單獅、雙獅、江蘇、安全、寶塔、飛輪、渭水、五蝠、中華之雙童兔、雙月兔、雙兔人象、三貓、釣魚、雙貓、中華、黃鶴樓、月免、操琴、牡丹鳥、利民之中國、牛頭、利國、利民、雀牌、五彩、美船、蜂王、裕昌之歡喜、美麗、釋顏、金球、醒獅、快發財、三祝、小獅、耀揚之無敵、寶塔、鹿頭、財神、地球、三羊、五亭、金魚、牧童、廷壽等牌，行銷各地，成績頗佳。據民國十六年之報告，江蘇火柴製造各廠之生產能力，計熒昌六四、六四三箱，鴻生二一八二八箱，中華二四、二六八箱，利民一五四六三箱，裕昌一四〇〇三箱；惟與十五年相較，產額稍有減少，而最初則辦之熒昌火柴廠，以外貨競爭關係，已告停閉矣。

第三節 貿易

上海與廣州二埠，為全國重要火柴製造事業之中心。每年出產額，除供本地之消費外，尚有餘額輸出他埠。如民國十二年廣州出口之火柴，有三、九一、三、三三〇羅，值關平銀一、五〇、三三四二兩；上海一、四八六、二五九羅，

值四五八七九兩；天津五九八、六〇〇羅，一二八、五三一兩等是也。其中出口至外洋者，有三、六九九、一五七羅，值一、三七四、七三〇兩；港銷達三、五五四、六五九羅，值一、三二二、六二五兩爪哇、新加坡、印度一帶次之。惟最近數年來，火柴業極爲不振，茲二場漸漲，原料昂貴，稅捐繁重，成本匪輕，因而不能與外貨相競爭，即本國市場，每受其打落，而况國外之銷路哉。故民國十六年之出洋總數，祇四〇〇二四羅，值不過一萬四千兩而已。

第十五章 肥皂 (Soap)

肥皂有多種，普通可分爲家用洗衣皂、化裝皂、與藥皂三種，惟其主要之原料，則爲各種脂油及苛性鈉而加入藥品或香料而成。各地設廠製造者頗多，尤以天津、上海、漢口等埠爲盛。天津造皂公司，規模極大，營業發達，所出家用洗衣肥皂與化裝肥皂，行銷北部各省。上海廠家更盛，屬於華商者，有南洋、五洲固本、享利、隆茂、鼎豐、怡茂、信華、啓新、愛華、華昌、德昌、福隆、福昌、新昌、鴻翔等。所出牌號，名目繁多。近以政府方面特准華皂原料油類免納特稅，遂更多發展，除供國內之消費外，年銷香港、俄國等地者，逐漸增加。惟多屬家用及洗衣肥皂，香肥皂並不甚重要。十五年各種肥皂之輸出外洋者，值關平銀一六二、三〇五兩；內家用洗衣皂有一二四、六六一兩，香肥皂祇二七、六四四兩。十六年以港銷之進展，增加至二五八、六五四兩；家用及洗衣皂佔二〇五、五〇八兩。香港銷路爲一九八、五三九兩。

肥皂輸出價額表（單位關平港兩）

民國二年	五、九八一兩	民國十年	二六一、四二七兩
民國三年	八、三四四	民國十一年	一六六、一七五

民國四年	二〇、七七五	民國十二年	一四〇、八五七
民國五年	四九、四七六	民國十三年	一六九、八八八
民國六年	四五、〇三〇	民國十四年	九四、〇二五
民國七年	四七、五三一	民國十五年	一六二、三〇五
民國八年	一五二、八三〇	民國十六年	二五八、六五四
民國九年	一七六、四五二		

第十六章 磚、瓦 (Tiles & Bricks)

第一節 磚瓦之產地

磚瓦為建築房屋之重要材料，在首多屬土法製造者，是青色，即以現在之上海市場而論，土磚仍佔十分之七，大半來自嘉善縣之於窖，洪家灘下甸廟各處，以售價之便宜，建築界多用之。惟青色土瓦，除鄉僻城鎮外，已受淘汰，而大銀行大商行建築所用之紅磚紅瓦，頗多自國外輸入者，如火磚一項，民國十四年進口額計值關平銀八萬一千二百五十四兩，以需要之日增，各地華商，遂設廠自行製造，尤以清末浦東三林塘之窖廠為始，惟成績不良，旋告停辦，後上海小沙渡路之瑞和機器製磚公司，開始仿製紅瓦，各地聞風繼起，如天津、漢口等地，頗有發展。青島、濟南、蘇州、無錫、蕪湖、廈門一帶，亦有設廠製造者。最近創辦之公司，為上海北新涇之華大磚瓦廠、塘灣之信大窯廠、新龍華之泰山磚瓦廠等，泰山磚瓦廠機器購自美國，組織完備，規模宏大，其出品有大小青紅色連環式瓦、各色火磚、空心磚、路磚等，頗稱精美。中西營造廠家，皆樂購之。火磚一項，市場上以國產之開平貨為最佔多數，有F、S、T、Sc四種牌子：F牌最良，價格亦高，每千塊值國幣一二五元；S牌每千塊九五元次之；T牌七五元；Sc

五五元又次之。

第二節 貿易

磚瓦輸出數，今不如昔，由於最近內國建築事業之發達，磚瓦消費，因以增加，而生產方面，又並無若何十分之進展，故出洋數遂以減少也。十五年祇值十四萬三千兩，十六年以香港、澳門一帶磚瓦需要極殷，輸出數稍見增加，銷往澳門者值一三四、四〇九兩，香港一二八、五三七兩次之。歷年來磚瓦輸出之數量與價額，有如左表。

年 次	數	量 價	額 年 次	數	量 價	額
民國二年	六〇、六六九、五五八塊	四二四、一五九兩	民國十年	九七、七八〇、八二三塊	六〇八、七二六兩	
民國三年	七三、四〇八、五九七	四九六、七〇七	民國十一年	一〇七、八九三、六〇五	八六二、四三九	
民國四年	四四、四〇七、六五〇	三二三、七四五	民國十二年	一〇八、五七九、二一四	七五八、〇四六	
民國五年	三九、九九八、四八九	二九一、六〇一	民國十三年	一五五、四一三、九〇一	一、一二一、九六六	
民國六年	六〇、〇六八、八六四	四五四、七六三	民國十四年	六五、九八六、〇〇〇	五一八、四一一	
民國七年	五九、八一二、一七一	四三四、五三二	民國十五年	一〇、四二六、〇〇〇	一四三、七九六	
民國八年	七〇、〇一二、五〇七	五五〇、四五三	民國十六年	二一、二一一、〇〇〇	二六七、九七一	
民國九年	七八、八五一、四七一	四七三、二五三				

第十七章 神香 (Joss sticks)

神香係以香木之粉末，與粘土混合後，用壓榨器力壓之，則自細孔而出，有如線狀，於一定之長度處切斷，俟其乾燥即成。優良者用芳香性樹脂、白檀香、沈香及其他香木製之下等品，祇以杉櫟等之木粉和入大茴香粉末加製而已。西藏所產者，曰藏香，極為有名。惟普通多屬廣東省汕頭、廣州、九龍、拱北、江門、三水、福建省廈門、浙江省甯波、河北省天津一帶之出品，粵省又推為重要。每年輸出數，當民十一年間，尚不過六七萬擔，近則增加至十四五萬擔；如民國十六年各地原貨出口額有一四八、六一〇擔，值八五五、五七六兩。就中由廣東省之廣州輸出者，為五五、一二六擔，值二二二、四六三兩；汕頭二〇、五四五擔，一五八、九三五兩；拱北一二、一四九擔，一一七、五四八兩；九龍三、七三六擔，一八、八六一兩；江門五、二六一擔，二三、九五三兩；三水九、三五一擔，一七、一六六兩；天津有一一、三三九擔，一〇六、五六三兩，與龍口之六、八九〇擔，八二、六八〇兩，同為北部各省神香重要輸出地。以言國外銷路，推香港、澳門、安南、暹羅、新加波等地為盛，大半多供華僑之需用。年來頗有發展。民九之出洋總數為五六、二三一擔，嗣後如民十之六九、六九四擔，民十一之七一、八八〇擔，民十四之七二、二一三擔，民十五之七六、六九五擔，民十六之八三、八〇五擔，極有進步。惟十六年神香之市價銳跌，故輸出量雖較十五年增加，而價額反見減

少，即此故也。

神香輸出國別表(單位擔)

年 次	香	港	澳	門	安	南	暹	羅
民國九年	二七、五三四	一〇、八二四		五、四二〇		七、九三六		
民國十年	三一、九三九	一七、六四一		五、三四九		九、二八六		
民國十一年	三七、八五〇	一三、二八三		七、五七三		九、一八五		
民國十四年	二三、〇一四	一四、七二〇		一四、七四七		一三、四七七		
民國十五年	八、八二一	一六、一九五		二七、七七八		一一、一六八		
民國十六年	四五、八七二	一三、一三三		一〇、一八九		八、七五四		
年 次	新 加 坡	日 本 台 灣		其 他	合 計	(關平銀)		
民國九年	二、八七三	九五七	五六、二三一擔	四四〇	六七六兩			
民國十年	二、七二八	一、三三七	六九、六九四	五四八	三七一			
民國十一年	二、二四六	九九一	七一、八八〇	六五九	七一			
民國十四年	三、六八三	一、五一八	七二、二一三	五〇八	六三五			
民國十五年	八、〇四六	二、八四六	七六、六九五	六五六	二〇五			
民國十六年	三、〇五〇	七六九	八三、八〇五	五六八	二五五			

第十八章 爆竹、焰火 (Firecrackers & Fireworks)

第一節 產地

爆竹於古時爲以火著竹，畢剝有聲之謂也。每當喜慶時節，藉茲歡欣。三國時魏馬鈞始以紙裹火藥，爆火發聲，頗稱進步。有明之世，經李敏之改製，形式更備。言其製造原料，係以硫硝、藥線與紙料，三者配合而成。質之良否，悉視硫硝爲斷。全國有名之產地自推湖南之瀏陽縣金市鎮爲最著，市上均稱之爲瀏陽炮，有寸金邊、牛口邊、五彩邊、地球邊、狀元牌邊、荆邊、百子邊等種類。廣東省亦有名，廣州與佛山間以及順德等地，其出產之中心也。廣西南甯居民對於爆竹製造一業，技術精良，而數千居戶所賴以生活也。其他如湖北安徽等省，爆竹之出品，以額微質劣，並不盛行。

第二節 貿易

爆竹，焰火，以長沙與廣州爲輸出之二大部。十五年各地原貨之出口數，爲二三九、四八一擔，值五、二八七、六

○二兩，而長沙之輸出量有一一三、五〇七擔，值二二六三、三三〇兩。廣州八六、八七四擔，二二三二、六六二兩，次之。十六年減落頗多；長沙祇爲七三、七九五擔，值一四七一、四七二兩。廣州四八、一〇八擔，一三五七、六〇七兩；九龍則自十五年之九五一八擔，二四四六一三兩，增加至三六、七三五擔，一〇三六、六六二兩。以言國外之市場，於民國十二年之二二三、四九四擔，四三一七、四一七兩，爲最盛。年來稍有衰落，尤以民十四爲甚。實民九以後所無，蓋受港銷過跌之影響也。十五年頗多發展，香港之銷路，雖仍較十四年爲降落，而新加坡、日本等地，極爲活動。故全年輸出外洋之爆竹焰火，有一五一、三二一擔，值二四四二〇一六兩；香港七三、四四八擔，一五四三、三四九兩；新加坡三三、六二五擔，八二九、二〇〇兩，次之；日本一六、六七三擔，四二六、六二六兩；第三安南一四〇一四擔，三四五五五兩；美國四八八二擔，一〇一、一六八兩；爪哇四四四二擔，一〇一、七九五兩等，又次之。至十六年港銷有一二四、七九〇擔，值三〇八二、一二四兩，頗多恢復昔日之盛況。惟新加坡、安南、爪哇、日本、美國等地，皆一落千丈，全年出洋數量，以比較十五年爲減少，共有一三一、三三七擔，值三一九八、九二一兩。

爆竹焰火輸出數量及價額表

年 次	數	量 價	額(關平銀)	年 次	量 數	價	額(關平銀)
民國二年	一五五、五七八擔	三、一九九、九五三兩	民國十年	一四二、二八四擔	三、六一五、六五六兩		
民國三年	一二〇、六七三	二、四三五、八四一	民國十一年	一五五、三六五	三、六七九、五九九		

民國四年	九五、四二八	二、三五三、九三三	民國十二年	二二三、四九四	四、三一七、四一七
民國五年	一二二、四六九	三、五一〇、九六一	民國十三年	一九一、九九二	三、六八六、三二一
民國六年	八九、九九四	二、七一九、〇五八	民國十四年	一〇七、九一〇	二、三五八、七〇六
民國七年	六九、二七二	二、一九七、一四二	民國十五年	一五一、三二一	三、四四二、〇一六
民國八年	九八、四五九	二、八四九、一七三	民國十六年	一三一、三三七	三、一九八、九二一
民國九年	一二四、九四五	三、三七一、五五九			

附

錄

中國對外貿易表
參照中國海關華洋貿易總冊(單位關平銀兩)

年 次	輸 出	輸 入	合 計	出 超 或 入 超
同治三年	(六四)	五一、二九三、五七八	一〇五、三〇〇、〇八七	•二、七一二、九三一
同治四年	(六五)	五四、〇〇六、五〇九	一二一、八九八、七九二	一、七八九、五二四
同治五年	(六六)	六〇、〇五四、大三四	一三〇、七三五、四八一	一八、四〇一、八六七
同治六年	(六七)	五六、一六一、八〇七	一四、四三四、〇二八	一四、四三四、〇二八
同治七年	(六八)	五七、八九五、七一三	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治八年	(六九)	六一、八二六、二七五	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治九年	(六九)	六〇、一三九、二三七	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治十年	(六九)	五六、二九四、八六六	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治十一年	(六九)	六六、八五四、一六一	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治十二年	(七〇)	七五、二八八、一二五	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治十三年	(七〇)	六九、四五一、二七七	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
同治十四年	(七〇)	六六、七一二、八六八	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒元年	(七一)	六七、三一七、〇四九	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒二年	(七一)	六六、六三七、二〇九	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒三年	(七一)	六六、七一二、八六八	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒四年	(七一)	六八、九一二、九二九	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒五年	(七一)	八〇、八五〇、五一二	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
光緒六年	(七一)	六七、四四五、〇二二	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		七三、二三三、八九六	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		七〇、八〇四、〇二七	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		八二、二三七、四二四	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		七九、二九三、四五二	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		七七、八八三、五八七	一四、四五五、五二九	一、四五五、五二九
		(六八)	一五七、一七七、〇三九	一、四五五、五二九

光緒七年	(二六一)	七一、四五二、九一四
光緒八年	(二六三)	六七、三二六、八四六
光緒九年	(二六三)	七〇、一九七、六九三
光緒十年	(二六四)	六七、一四七、六八〇
光緒十一年	(二六五)	六五、〇〇五、七一
光緒十三年	(二六六)	七七、二〇六、五六八
光緒十四年	(二六七)	八五、八六〇、二〇八
光緒十五年	(二六八)	九二、四〇一、〇六七
光緒十六年	(二六九)	九六、九四七、八三一
光緒十七年	(二七〇)	八七、一四四、四八〇
光緒十八年	(二七一)	一〇〇、九四七、八四九
光緒十九年	(二七二)	一〇二、五八三、五二五
光緒二十年	(二七三)	一六、六三三、三一一
光緒二年	(二七四)	一二八、一〇四、五二二
光緒三年	(二七五)	一四三、二九三、二一一
光緒四年	(二七六)	一三一、〇八一、四二一
光緒五年	(二七七)	一六三、五〇一、三五八
光緒六年	(二七八)	一五九、〇三七、一四九
光緒七年	(二七九)	一九五、七八四、八四二
光緒八年	(二八〇)	一五八、九九六、七五二
光緒九年	(二八一)	一六九、六五六、七五七
光緒十年	(二八二)	二一四、一八一、五八四

九一、九一〇、八七七
七七、七一五、二三八
七三、五六七、七〇二
七二、七六〇、七五八
八八、二〇〇、〇一八
八七、四七九、三三三
一〇二、二六三、六六九
一二四、七八二、八九三
一一〇、八八四、三五五
一二七、〇九三、四八一
一三四、〇〇三、八六三
一三五、一〇一、一九八
一五一、三六二、八一九
一六二、一〇二、九一一
一七一、六九九、七一五
二〇一、五八九、九九四
二〇二、八二八、六二五
二〇九、五七九、三三四
二六四、七四八、四五六
三一一、〇七〇、四二二
二六八、三〇二、九一八
三一五、三六三、九〇五

一六三、三六三、八五一	二〇、四五七、九〇三
一四五、〇五二、〇七四	一〇、三七八、三八二
一四三、七六五、三九五	三、三七〇、〇〇九
一三九、九〇八、四三八	五、六一三、〇七八
一五二、二〇五、七二九	一〇、三九四、三〇七
一六四、六八五、八九一	二三、一九四、三〇七
一八八、一二三、八七七	一〇、三七二、七五五
二一七、一八三、九六〇	三、三七〇、〇〇九
二〇七、八三三、一八七	五、六一三、〇七八
二一四、二三七、九六一	一〇、三九四、三〇七
二三四、九五一、七一二	二三、一九四、三〇七
二三七、六八四、七三三	一〇、三七二、七五五
二六七、九九五、一三〇	三、三七〇、〇〇九
二九〇、二〇七、四三三	五、六一三、〇七八
三一四、九八九、九二六	六、六一三、〇七八
三三三、六七一、四一五	七、七三〇、五〇八
三六六、三三九、九八三	八、八三〇、五〇九
三六八、六一六、四八三	九、九三〇、五〇九
四六〇、五三三、二九三	一〇、一八二、三二一
三七〇、〇六七、一七四	五、五三七、二六七
四三七、八五九、六七五	六、六三七、二六七
五二九、五四五、四八九	七、七三七、二六七

光緒元年	(一五〇)	二一四、三五二、四六七	三三六、七三九、一三三	五四一、〇九一、六〇〇	一二二、三八六、六六六
光緒二年	(一五〇)	二三九、四八六、六八三	三四四、〇六〇、六〇八	五八三、五四七、二九一	一〇四、五七三、九二五
光緒三年	(一五〇)	二二七、八八八、一九七	四四七、一〇〇、七九一	六七四、九八八、九八八	二一九、二一二、五九四
光緒四年	(一五〇)	二三六、四五六、七三九	四一〇、二七〇、〇八二	六四六、七二六、八二一	一七三、八二三、三四三
光緒五年	(一五〇)	二六四、三八〇、六九七	三九四、五〇五、四七八	六八〇、七八二、〇六六	一五二、〇二〇、六七二
光緒六年	(一五〇)	二七六、六六〇、四〇三	四一八、一五八、〇六七	六七一、一六五、八八一	一一七、八四五、〇七五
宣統元年	(一五〇)	三三八、九九二、八一二	四六二、九六四、八九四	七五七、一五〇、八八一	七九、一六五、二五三
宣統二年	(一五〇)	三八〇、八三三、三二八	四七一、五〇三、九四三	八四三、七九八、二三二	八二、一三一、五六六
宣統三年	(一五〇)	三七七、三三八、一六六	四七三、〇九七、〇三一	八四八、八四二、一〇九	九四、一六五、七七七
民國元年	(一九三)	三七〇、五二〇、四〇三	五七〇、一六二、五五七	九七三、四六八、一〇五	一六六、八五七、〇二一
民國二年	(一九三)	四〇三、三〇五、五四六	五六九、二四一、三八二	九二五、四六八、〇一一	二一二、〇一四、五五五
民國三年	(一九三)	三五六、二二六、六二九	四五四、四七五、七一九	八七三、三三六、八八三	三五、六一四、五五五
民國四年	(一九三)	四一八、八六一、一六四	五一六、四〇六、九九五	九九八、二〇四、三六一	三四、六〇九、六二九
民國五年	(一九三)	四八一、七九七、三六六	五四九、五一八、七七四	一、〇一二、四五〇、〇四〇	八六、五八七、一四四
民國六年	(一九三)	四六二、九三一、六三〇	五五四、八九三、〇八二	一、〇四〇、七七六、一一三	六九、〇一〇、〇五一
民國七年	(一九三)	四八五、八八三、〇三一	六四六、九九七、六八一	一、二七七、九〇七、〇九二	一六、一八八、二七〇
民國八年	(一九三)	六三〇、八〇九、四一	七六二、二五〇、三三〇	一、三〇三、八八一、五三〇	二二〇、九一八、九三〇
民國九年	(一九三)	五四一、六三一、三〇〇	九〇六、一二三、四三九	一、五〇七、三七七、九七六	三〇四、八六六、九〇二
民國十年	(一九三)	六〇一、二五五、五三七	九四五、〇四九、六五〇	一、五九九、九四一、五八三	二九〇、一五七、七一七
民國十一年	(一九三)	六五四、八九一、九三三	九三三、四〇二、八八七	一、六七六、三二〇、三〇三	一七〇、四八五、四七一
民國十二年	(一九三)	七五二、九一七、四一六	一、七八九、九九五、一四五	二四六、四二六、二〇九	
民國十三年	(一九三)	七七一、七八四、四六八一	一、七八九、九九五、一四五		
民國十四年	(一九三)	一〇一八、二一〇、六七七			

民國十四年
(一九三五) 七七六、三五二、九三七 九四七、八六四、九四四
一、七二四、二一七、八八一 一七一、五一二、〇〇七
民國十五年
(一九三六) 八六四、二九四、七七一 一、一二四、二二一、二五三
一、九八八、五一六、〇二四 二五九、九二六、四八二
民國十六年
(一九三七) 九一八、六一九、六六二 一、〇一二、九三一、六二一
一、九三一、五五一、二八三 九四、三一一、九五九

「註」有・記號者表明出超數餘均為入超數

中華民國改編編

The World Almanac. 1928. 1928.

Statesman's Year Book 1926. 1929.

The China Year Book 1928.

F. Watson: Principal Article of Chinese Commerce.

B. P. Torgasheff: China as a tea Producer.

N. Shaw: the Soga Beau of Manchuria

Notes on Sericulture in Chekiang.

Chinese Jute. by the Maritime Customs.

Medicine. —,—

Thomas F. Logan: Manchuria.

Foreign Trade of China. Chinese Maritime Customs.

支那經濟地理誌

馬場鑑太郎

支那年鑑

滿蒙年鑑

支那重要商品誌

滿蒙の産業研究

支那棉花の改良

北支那藥材攷

中國鑄業紀要

中國鑄產

中國棉產統計

中國紗廠一覽表民國十六年出版

中國年鑑

國定稅則草案說明書

東亞同文會

中日文化協會

馬場鉢太郎

田中末廣

駒井徳三

近藤龍男

地質調查所

黃著勳

華商紗廠聯合會

全上

商務印書館

國定稅則委員會

